# 鵡川町

# 米原 4 遺跡(2)·宮戸 4 遺跡(2)

一日高自動車道厚真門別道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

平成14年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

## 鵡川町

# 米原 4 遺跡(2)·宮戸 4 遺跡(2)

一日高自動車道厚真門別道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一

平成14年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



遺跡と遺跡周辺の空中写真(国土地理院発行のものを複製したものである)1975年9月撮影



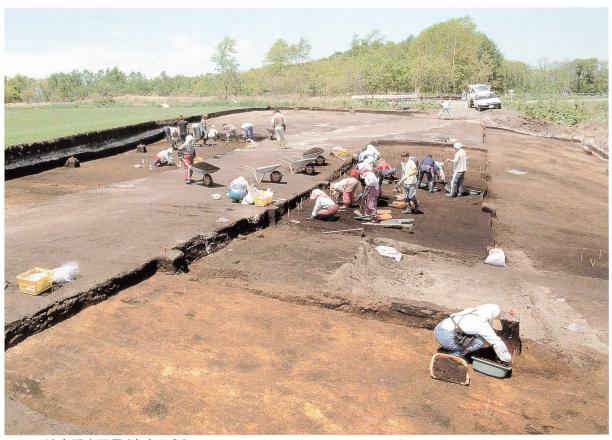
1 米原 4 復元土器集合



2 宮戸4復元土器集合



1 宮戸4 水田部分遠景(南東から)



2 S地点調査風景(南東から)



宮戸4 S地点土器片囲い炉



2 土器片囲い炉復元土器 (図V-1-3-1) 3 土器片囲い炉復元土器 (図V-1-3-2)



#### 例 言

- 1. 本書は国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部が行う日高自動車道厚真門別道路工事に伴い財団 法人北海道埋蔵文化財センターが平成12年度および平成14年度に実施した鵡川 町 米原 4 遺跡、同宮戸 4 遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2. 発掘調査については平成12年度;第1調査部第2調査課、平成14年度;第1調査部第4調査課が 担当し、整理作業は平成14年度に2か年分をまとめて第1調査部第4調査課が行った。
- 3. 本書の執筆は第 I 章;遠藤香澄・芝田直人・山中文雄、第 II 章;笠原 興、第 II 章;鎌田 望・芝田、第 IV 章;山中・鎌田・笠原、第 V 章;芝田・鎌田、第 III 章;山中・芝田が担当し、鎌田が編集を担当した。文責は文末に記してある。
- 4. 遺物の整理は米原4遺跡・宮戸4遺跡の土器を鎌田、米原4遺跡の石器等を山中、宮戸4遺跡の石器等を芝田が担当した。
- 5. 現地調査時の写真撮影は担当職員が各自の責任において撮影し、笠原が一括して写真整理を行った。また、整理作業時の遺物撮影は笠原が行った。
- 6. 炭化物の放射性炭素年代については、㈱地球科学研究所に依頼した。
- 7. 黒曜石の原材産地同定については、京都大学原子炉実験所藁科哲男氏に依頼した。
- 8. Tピット内堆積物の花粉分析および植物珪酸体分析についてはパリノ・サーヴェイ株式会社に依頼した。
- 9. 土器、石器などの実測・トレースは藤内まゆみ、河崎まなみ、木下はるみが行った。
- 10. 調査報告終了後の出土資料および記録類については鵡川町教育委員会が保管する。
- 11. 調査にあたっては下記の諸機関、各位からご協力、ご指導を頂いた(順不同、敬称略)。

北海道教育委員会、鵡川町教育委員会、門別町教育委員会、早来町教育委員会、新冠町教育委員会、ウタリ協会鵡川支部、日高山脈館、門別町図書館郷土資料館 川内谷 修・橋本 晋、厚真町教育委員会 乾 哲也・乾 希、平取町沙流川歴史館 森岡健治・長田佳宏、浦河町教育委員会 川内 基、新冠町郷土資料館 新川剛生、穂別町立博物館 山田 正、苫小牧市立博物館赤石慎三・宮夫靖夫、苫小牧市教育委員会 兵藤千秋・工藤 肇、苫小牧市勇武津資料館 佐藤一夫、帯広百年記念館 山原敏朗、南茅部町教育委員会 阿部千春、鵡川町四季の館まなびランド図書室 高地美穂子、鵡川町議会 片山幹雄、札幌国際大学 深澤百合子、ヌーシャテル大学フィリップ・ダレス

#### 記号等の説明

1. 本文中の遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。

H:住居跡・土器片囲い炉、P:土壙、TP:Tピット、F:焼土、S:集石、

HP:住居内の柱穴、HF:住居内の焼土

- 2. 遺構図の方位は真北を示す。遺構平面図の+はグリッドラインの交点で、傍らの名称記号は右下のグリッドを示している。遺構平面図の・小数字とセクションレベルは標高(単位m)である。
- 3. 遺構図の出土遺物は下記の記号を使用した。

床面 覆土 床面 覆土 床面 覆土 0  $\nabla$ 土 器: 剥片石器: ▲ Δ 礫石器: ▼  $\Diamond$ 剥 片: 礫・礫片: ◆ その他: ★

4. 掲載した実測図の縮尺は原則として以下のとおりである。各図にはスケールを付けている。

遺 構 1:40 遺物出土状況図 1:20 復元土器 1:4 土器拓本 1:3

剥片石器 1:2 礫石器 1:3 石 斧 1:2 台 石 1:4 土製品・石製品 1:2

5. 遺構の規模については以下の要領で示した。なお、一部破壊されているものについては現存長を ( )、不明のものは一で示した。

住居跡・土壙・Tピット

確認面での長軸長×短軸長/床面(底面)での長軸長×短軸長/確認面からの最大深(単位m)

焼 土 確認面での長軸長×短軸長/確認面からの最大厚(単位m)

集 石 確認面での長軸長×短軸長(単位m)

- 6. 土層の表記は、基本土層についてはローマ数字で、遺構の覆土についてはアラビア数字で表した。
- 7. 火山灰については下記の略号を用いた場合が在る。

樽前 a 降下軽石堆積物:Ta-a 樽前 b 降下軽石堆積物:Ta-b

有珠 b 降下軽石堆積物:Us-b 白頭山-苫小牧火山灰:B-Tm

樽前 c 降下軽石堆積物:Ta-c 樽前 d 降下軽石堆積物:Ta-d

8. 土層説明には『新版標準土色帖19版』(小山・竹原1997) と『土壌調査ハンドブック改訂版』(ペ ドロジスト懇談会編1984) を引用した。

堅密度 軟 : はっきりと深い指の跡が容易にできる。

堅 :強く押しても指の跡がわずかしか残らない。

9. 石器・土製品・石製品の大きさは「最大長×最大幅×最大厚」(単位 cm)で示した。なお、破損しているものについては現存最大値を()で示した。なお、実測図中でたたき痕は「V-V」、すり痕は「|-|」で範囲を示した。

## 目 次

口絵カラー 例 言 記号等の説明 目 図目 類目次 目 変版 関次

I	部	査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	1	調査要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2	調査体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	3	調査にいたる経緯	3
	4	調査の経過と概要	5
	5	調査結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	6
	(1	) 米原4遺跡	6
	(2	》 宮戸 4 遺跡······	6
I	谨	遺跡の位置と環境······	10
	1	位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	10
	2	歷史的環境	14
	3	周辺の遺跡	16
Ш	部	閉査の方法、遺物の分類	21
Ш	部 1	<b>調査の方法、遺物の分類</b>	
Ш		調査区の設定と調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21
Ш	1	調査区の設定と調査の方法	21 21
Ш	1 (1	調査区の設定と調査の方法	21 21 21
Ш	1 (1 (2	調査区の設定と調査の方法	21 21 21 23
Ш	1 (1 (2 2	調査区の設定と調査の方法	21 21 21 23 23
Ш	1 (1 (2 2 (1	調査区の設定と調査の方法	21 21 21 23 23 24
Ш	1 (1 (2 2 (1 (2	調査区の設定と調査の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21 21 21 23 23 24 31
Ш	1 (1 (2 2 (1 (2 3	調査区の設定と調査の方法	21 21 21 23 23 24 31
Ш	1 (1 (2 2 (1 (2 3 3 (1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	調査区の設定と調査の方法	21 21 21 23 23 24 31 31

IV		米原	頁4道	跡		33
	1	迠	遺構ま	よ	び遺構出土の遺物	33
		(1)	概	要	•••••	33
		(2)	住居	跡		36
		(3)	土	坑	•••••	38
		(4)	TŁ	゚゚ッ	<b>}</b>	38
		(5)	焼	土	•••••	40
		(6)	集	石	•••••	43
	2	包	2含層	出	土の遺物	46
		(1)	土	器	•••••	46
		(2)	石器	等	•••••	57
		(3)				
V		宮戸	⋾4遣	跡	•••••	67
	1					67
		(1)				67
		(2)		-		69
		(3)				74
		(4)	焼	-		79
		(5)	//-	_		82
	2					89
		(1)				89
		(2)				105
		(3)				120
	3	• •				121
		(1)				121
						121
		(3)				123
		( <b>4</b> )				123
	4					125
		ر (1)				125
						125
						157
						150 パンプ ······151
		<b>√</b> 19	制思ノ	•	当月 3 遠跡田上の上帝に フ	
χπ		白点	유류의 본	5 <b>ሰ</b> ታ	∓注にトスム+に	153
VI						
	1				素年代測定結果	
	2					パリノ・サーヴェイ株式会社157
	3	75	5户4	•	米原4遺跡出土の黒曜石製	
						京都大学原子炉実験所藁科哲男163

1	米原4遺跡、宮戸4遺跡のフローテーション資料	175
VI 5	成果と問題点	176
1	米原4遺跡H-4の調査から	176
2	タプコプ式期の土器片囲い炉について	L78
3	宮戸4遺跡のTピットについて(続)	183
4	米原4遺跡の黒曜石について	185
写真图	図版	
引用	・参考文献	
報告書	書抄録	
<b>寓</b> (計)	ት	

## 挿 図 目 次

I	調査の概要		$\boxtimes \mathbb{N} - 2 - 5$	包含層出土の土器(2)51
	図 I −1−1	鵡川町の位置と遺跡	$2 \sqrt{V} - 2 - 6$	包含層出土の土器(3)53
		位置図 1	⊠ <b>V</b> − 2 − 7	包含層出土石器等
	図 I − 1 − 2	日高自動車道と遺跡		分布図(1)58
		の位置 2	<b>図Ⅳ</b> - 2 - 8	包含層出土石器等
	図 I -4-1	年度別調査範囲4		分布図(2)59
	⊠ I - 5 - 1	米原4遺跡・宮戸3遺跡・	図 <b>IV</b> - 2 - 9	包含層出土石器等
		宮戸4遺跡調査状況図 8		分布図(3)60
1	遺跡の位置と	と環境	図 <b>Ⅳ</b> - 2 - 10	包含層出土の石器(1)62
	図 II - 1 - 1	遺跡位置図11	図 <b>Ⅳ</b> - 2 -11	包含層出土の石器(2)63
	図 <b>I</b> − 1 − 2	50年前の地形図(1)12	図 <b>Ⅳ</b> - 2 - 12	包含層出土の石器(3)65
	図 Ⅱ - 1 - 3	50年前の地形図(2)13	V 宮戸4遺跡	
		5万分の1地形図15	$\boxtimes V-1-1$	S地点遺構位置図68
	図 I - 3 - 1	鵡川町の遺跡分布図19	$\boxtimes V - 1 - 2$	H-2 ·····70
I	[ 調査方法、道	遺物分類	$\boxtimes V - 1 - 3$	H-2出土の遺物(1) ······72
	図 II - 1 - 1	調査区設定図22	$\boxtimes V-1-4$	H-2出土の遺物(2) ······73
	図 II - 2 - 1	土層柱状図24	⊠V - 1 - 5	$TP - 1 \sim 3 \cdots 75$
	<b>図 I I I I I I I I I I</b>	米原4遺跡土層断面25	$\boxtimes V - 1 - 6$	TP-4 · 19 · 22 · · · · · · 76
	<b>図 I I</b> − 2 − 3	宮戸4遺跡土層断面(1)26	$\boxtimes V - 1 - 7$	TP-20 · 23 · 24 ······77
	図 II - 2 - 4	宮戸4遺跡土層断面(2)27	$\boxtimes V - 1 - 8$	TP-21とTピット
	<b>図Ⅲ</b> - 2 - 5	宮戸4遺跡土層断面(3)28		出土の遺物78
	図 Ⅲ - 2 - 6	宮戸4遺跡土層断面(4)29	$\boxtimes V - 1 - 9$	F-27~38 ·····80
	図 II - 2 - 7	宮戸4遺跡土層断面(5)30	$\boxtimes V - 1 - 10$	F-39~43 ······81
IV	米原4遺跡		⊠ V − 1 −11	S-1(1) ·····83
	$\boxtimes \mathbb{N} - 1 - 1$	遺構位置図34	$\boxtimes V - 1 - 12$	S - 1 (2) ·····85
	図 <b>Ⅳ</b> -1-2	H-4とその遺物37	$\boxtimes V - 1 - 13$	S – 1 (3) ······86
	図 <b>IV</b> -1-3	P-5 ⋅ 6 、 TP-8 と	$\boxtimes V - 1 - 14$	S-1出土の遺物87
		その遺物39	$\boxtimes V - 1 - 15$	S-2 · 3 ······88
	図 <b>W</b> - 1 - 4	F-14~21 ······41	$\boxtimes V - 2 - 1$	包含層出土土器分布図(1) …90
	図 <b>IV</b> -1-5	F-15・20の遺物と	$\boxtimes V-2-2$	包含層出土土器分布図(2) …91
		F-22 • 23 ······42	$\boxtimes V - 2 - 3$	包含層出土の土器(1)92
	図 <b>IV</b> -1-6	S-2とその遺物44	2 V - 2 - 4	包含層出土の土器(2)94
		包含層出土土器分布図(1) …47	⊠V - 2 - 5	包含層出土の土器(3)95
	図 <b>W</b> - 2 - 2	包含層出土土器分布図(2) …48	2 V - 2 - 6	包含層出土の土器(4)97
	<b>図 N</b> − 2 − 3	包含層出土土器分布図(3) …49	図 $V - 2 - 7$	包含層出土の土器(5)99
	図 <b>W</b> − 2 − 4	包含層出土の土器(1)50	$\boxtimes V - 2 - 8$	包含層出土石器等

	分布図(1)106		分布図(3)140
$\boxtimes V - 2 - 9$	包含層出土石器等	⊠ V − 4 −11	包含層出土石器等
	分布図(2)107		分布図(4)141
⊠ V − 2 − 10	包含層出土石器等	⊠ V − 4 −12	包含層出土石器等
	分布図(3)108		分布図(5)142
⊠ V − 2 −11	包含層出土の石器(1)110	図 V − 4 −13	包含層出土石器等
⊠ V − 2 − 12	包含層出土の石器(2)111		分布図(6)143
⊠ V − 2 − 13	包含層出土の石器(3)112	⊠ V − 4 − 14	包含層出土の石器(1)145
$\boxtimes V - 2 - 14$	包含層出土の石器(4)114	図 V − 4 −15	包含層出土の石器(2)146
$\boxtimes V - 2 - 15$	包含層出土の石器(5)115	⊠ V  − 4 − 16	包含層出土の石器(3)147
⊠ V − 2 − 16	包含層出土の石器(6)116	⊠ V − 4 − 17	包含層出土の石器(4)148
$\boxtimes V - 2 - 17$	包含層出土の石器(7)117	図 V − 4 −18	包含層出土の土製品・
⊠ V - 2 - 18	包含層出土の石製品120		石製品150
$\boxtimes V - 3 - 1$	水田部分遺構位置図122	⊠ V − 4 − 19	宮戸3遺跡出土の土器151
$\boxtimes V - 3 - 2$	イモッペ川旧河道123	VI 自然科学的手	■法による分析
$\boxtimes V - 3 - 3$	TP-25, F-44, S-4 ···124	$VI-2$ $\boxtimes 1$	花粉化石群集159
$\boxtimes V-4-1$	包含層出土土器分布図(1)…126	図 2	植物珪酸体群集160
$\boxtimes V-4-2$	包含層出土土器分布図(2)…127	図 3	分析試料採取地点161
$\boxtimes V-4-3$	包含層出土土器分布図(3)…128	VI — 3 図 1	原材産地分析試料169
図 V − 4 − 4	包含層出土土器分布図(4)…129	図 2	黒曜石原産地170
$\boxtimes V - 4 - 5$	包含層出土土器分布図(5)…130	Ⅷ 成果と問題点	₹
$\boxtimes V-4-6$	包含層出土の土器(1)132	oxtimes VII - 1 - 1	柏木川式期の
$\boxtimes V-4-7$	包含層出土の土器(2)134		小型の住居跡177
$\boxtimes V-4-8$	包含層出土石器等	$2 \sqrt{1} - 2 - 1$	タプコプ式土器
	分布図(1)138		片囲い炉分布図178
図 V − 4 − 9	包含層出土石器等	$\mathbf{Z}\mathbf{V}\mathbf{I}-2-2$	炉材として使用された
	分布図(2)139		タプコプ式土器181
⊠ V - 4 - 10	包含層出土石器等	$2 \sqrt{1} - 3 - 1$	S地点Tピット位置図184

## 図 版 目 次

1975年9月撮影   「図V-1-5-1)	口絵 1	遺品	<b>亦と遺跡周辺の空中写真</b>	図版 6	1	F-15出土の復元土器
□						
□	口絵 2	1	米原 4 復元土器集合		2	P-6出土の土器
□		2	宮戸4復元土器集合		3	
日	口絵3	1	宮戸4 水田部分遠景(南東から)		4	包含層出土の復元土器
2		2	S地点調査風景(南東から)			(⊠ $V - 2 - 4 - 1$ )
「図V - 1 - 3 - 1	口絵4	1	宮戸4 S地点土器片囲い炉		5	包含層出土の復元土器
日本学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学学		2	土器片囲い炉復元土器			(⊠ <b>N</b> -2-4-2)
図版 8   1   包含層出土の土器(3)   名の版 8   1   包含層出土の土器(4)   図版 9   1   包含層出土の土器(4)   図版 1   1   遺跡遠景(南から)   図版 1   1   包含層出土の石器(1)   包含層出土の石器(1)   2   B地区町道米原11線北東側調査区 (東から)   (宮戸 4 遺跡   S 地点)			( $⊠V - 1 - 3 - 1$ )		6	包含層出土の土器(1)
※原 + 遺跡		3	土器片囲い炉復元土器	図版 7	1	包含層出土の土器(2)
図版1       1       遺跡遠景(南から)       図版10       1       包含層出土の石器(1)         2       B地区町道米原11線北東側調査区 (東から)       図版11       1       包含層出土の石器(2)         図版2       1       B地区周縁部(南から)       図版12       1       平成12年度調査区完掘(南西から)         図版3       1       H-4土層断面(東から)       2       平成12年度調査区完掘(南西から)         2       H-4売掘(東から)       2       TP-1 完掘(南から)         3       H-4遺物出土状況(東から)       3       TP-2 土層断面(南から)         4       P-5 土層断面(北東から)       4       TP-2 完掘(南から)         5       P-6 完掘(南西から)       2       TP-3 完掘(南から)         2       TP-8 土層断面(北東から)       3       S-1 検出(西から)         3       TP-8 完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         4       S-1 検出(東から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         5       F-14検出(北東から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         6       F-19検出(南から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         7       1       H-2 土器片囲い炉(南から)         8       1       H-2 土器片囲い炉(南から)         9       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1       1			( $⊠$ V − 1 − 3 − 2)	図版 8	1	包含層出土の土器(3)
図版 2       B地区町道米原11線北東側調査区 (東から)       図版12 世迷 と 3 地点)         図版 2       1       B地区周縁部(南から)       図版12 1       平成12年度調査風景(南西から)         図版 3       1       H-4土層断面(東から)       図版13 1       TP-1 土層断面(南から)         図版 3       H-4売棚(東から)       図版13 1       TP-1 土層断面(南から)         3       H-4遺物出土状況(東から)       2       TP-2 土層断面(南から)         4       P-5 土層断面(北東から)       図版14 1       TP-3 土層断面(南から)         8       P-6 完掘(南西から)       図版14 1       TP-3 土層断面(南から)         8       P-6 完掘(南西から)       図版15 1       全景(南から)         9       TP-8 土層断面(北東から)       図版15 1       全景(南から)         9       F-1検出(東から)       図版16 1       全景(南東から)         9       F-1検出(東から)       図版16 1       生景(南東から)         9       F-1検出(南から)       図版16 1       生景(南東から)         9       F-1検出(南から)       図版16 1       生景(南東から)         9       F-1検出(東から)       図版16 1       生景(南東から)         9       F-1検出の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表の表	〈米原 4	1 遺足	亦〉	図版 9	1	包含層出土の土器(4)
「東から   で	図版 1	1	遺跡遠景(南から)	図版10	1	包含層出土の石器(1)
図版 2       1       B地区周縁部(南から)       図版12       1       平成12年度調査風景(南西から)         図版 3       1       H-4土層断面(東から)       図版13       1       TP-1 土層断面(南から)         2       H-4完掘(東から)       2       TP-1 完掘(南から)         3       H-4遺物出土状況(東から)       3       TP-2 土層断面(南から)         4       P-5 完掘(南から)       2       TP-3 土層断面(南から)         5       P-6 先層断面(南西から)       2       TP-3 完掘(南から)         2       TP-8 土層断面(北東から)       3       S-1 検出(西から)         3       TP-8 完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         4       S-1 検出(東から)       図版15       1       全景(南東から)         5       F-14検出(東から)       図版16       1       全景(南東から)         6       F-19検出(南から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         6       F-19検出(南から)       2       南西側土層断面(2)(北東から)         7       F-14検出(東から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         8       F-19検出(南から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         9       F-14検出(北東から)       3       中土2土器片囲い炉土層断面(2)(北東から)         1       H-4出土の五器       3       H-2 土界上型計画         2       H-4出土の五器       3       H-2 HP-1 土層断面(北東から)         3       H-2		2	B地区町道米原11線北東側調査区	図版11	1	包含層出土の石器(2)
図版3       1       H-4土層断面(東から)       図版13       1       TP-1 土層断面(南から)         図版3       1       H-4完捆(東から)       2       TP-1 完掘(南から)         3       H-4遺物出土状況(東から)       3       TP-2 土層断面(南から)         4       P-5 土層断面(北東から)       4       TP-2 完掘(南から)         5       P-5 完掘(南から)       図版14       1       TP-3 土層断面(南から)         7       TP-8 土層断面(南から)       3       S-1 検出(西から)         8       TP-8 完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         9       TP-14検出(東から)       2       調査風景(東から)         9       TP-19検出(南から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         9       TP-19検出(南から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         9       TP-19検出(南から)       3       中2土器片囲い炉(南から)         1       H-2土器片囲い炉(南から)       2       中西側土層断面(次東から)         1       H-2土器片囲い炉土層断面(北東から)       3       H-2HP-1土層断面(北東から)         2       H-4出土の土器       4       H-2HP-3土層断面(北東から)         3       TP-4土層断面(北東から)       5       TP-4土層断面(南のら)			(東から)	(宮戸 4	1遺足	亦 S 地点〉
図版3 1 H-4土層断面(東から) 図版13 1 TP-1土層断面(南から)	図版 2	1	B 地区周縁部(南から)	図版12	1	平成12年度調査風景(南西から)
2       H-4完掘(東から)       2       TP-1完掘(南から)         3       H-4遺物出土状況(東から)       3       TP-2土層断面(南から)         4       P-5土層断面(北東から)       4       TP-2完掘(南から)         5       P-5完掘(南から)       2       TP-3 土層断面(南から)         6       P-6土層断面(南西から)       2       TP-3完掘(南から)         7       2       TP-3完掘(南から)         8       2       TP-3完掘(南から)         9       2       TP-3完掘(南から)         2       TP-3完掘(南から)       3         3       S-1検出(西から)       2         3       TP-8 土層断面(北東から)       2         4       S-1検出(西から)       2         3       TP-8 未層断面(北東から)       2         4       S-1検出(西から)       2         9       2       調査風景(東から)         2       南西側土層断面(1)(北東から)         3       南西側土層断面(2)(北東から)         4       H-2土器片囲い炉土層断面(水東から)         4       H-2 HP-1 土層断面(北東から)         4       H-2 HP-3 土層断面(北東から)         5       TP-4 土層断面(北東から)		2	B 地区周縁部(南から)		2	平成12年度調査区完掘(南西から)
3       H-4遺物出土状況(東から)       3       TP-2土層断面(南から)         4       P-5土層断面(北東から)       4       TP-2完掘(南から)         5       P-5完掘(南から)       図版14       1       TP-3土層断面(南から)         6       P-6土層断面(南西から)       2       TP-3完掘(南から)         2       TP-8土層断面(北東から)       3       S-1検出(西から)         2       TP-8 未層断面(北東から)       2       調査風景(東から)         3       TP-8 完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         4       S-1検出(東から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         5       F-19検出(南から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         6       F-19検出(南から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         7       WI-2 土器片囲い炉(南から)       2       H-2 土器片囲い炉土層断面(ホ東から)         8       H-4出土の土器       (南東から)       3       H-2 HP-1 土層断面(北東から)         9       H-2 HP-3 土層断面(北東から)       4       H-2 HP-3 土層断面(北東から)	図版 3	1	H-4土層断面(東から)	図版13	1	TP-1 土層断面(南から)
4       P-5 土層断面(北東から)       4       TP-2 完掘(南から)         5       P-5 完掘(南から)       図版14       1       TP-3 土層断面(南から)         6       P-6 土層断面(南西から)       2       TP-3 完掘(南から)         2       TP-8 土層断面(北東から)       3       S-1 検出(西から)         3       TP-8 完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         4       S-1 検出(東から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         5       F-14検出(北東から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         6       F-19検出(南から)       2       村-2 土器片囲い炉(南から)         図版5       1       H-4出土の復元土器 (図IV-1-2-1)       2       H-2 土器片囲い炉土層断面(北東から)         2       H-4出土の五器       3       H-2 HP-1 土層断面(北東から)         4       S-2出土の土器       4       H-2 HP-3 土層断面(北東から)         5       S-2出土の石器       5       TP-4 土層断面(南西から)		2	H-4完掘(東から)		2	TP-1 完掘(南から)
5       P-5完掘(南から)       図版14       1       TP-3土層断面(南から)         2       TP-3完掘(南から)       2       TP-3完掘(南から)         2       TP-8土層断面(北東から)       3       S-1検出(西から)         3       TP-8完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         4       S-1検出(東から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         5       F-19検出(南から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         2       内田土屋断面(2)(北東から)       3       中田土土屋断面(2)(北東から)         2       H-4出土の復元土器       2       H-2土器片囲い炉(南から)         3       H-2出土の土器       3       H-2HP-1土層断面(北東から)         4       S-2出土の土器       4       H-2HP-3土層断面(北東から)         5       TP-4土層断面(南西から)		3	H-4遺物出土状況(東から)		3	TP-2 土層断面(南から)
図版4       1       P-6 土層断面(南西から)       2       TP-3 完掘(南から)         図版4       1       P-6 完掘(南西から)       3       S-1 検出(西から)         2       TP-8 土層断面(北東から)       2       調査風景(東から)         3       TP-8 完掘(北東から)       2       調査風景(東から)         4       S-1 検出(東から)       2       南西側土層断面(1)(北東から)         5       F-14検出(北東から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         6       F-19検出(南から)       3       南西側土層断面(2)(北東から)         図版5       1       H-4出土の復元土器       図版17       1       H-2土器片囲い炉(南から)         2       H-4出土の土器       (南東から)       3       H-2HP-1 土層断面(北東から)         4       S-2出土の土器       4       H-2HP-3 土層断面(北東から)         5       S-2出土の石器       5       TP-4土層断面(南西から)		4	P-5土層断面(北東から)		4	<b>TP-2</b> 完掘(南から)
図版41P-6完掘(南西から)3S-1検出(西から)2TP-8土層断面(北東から)図版151全景(南から)3TP-8完掘(北東から)2調査風景(東から)4S-1検出(東から)図版161全景(南東から)5F-14検出(北東から)2南西側土層断面(1)(北東から)6F-19検出(南から)3南西側土層断面(2)(北東から)図版51H-4出土の復元土器図版171H-2土器片囲い炉(南から)(図 W-1-2-1)2H-2土器片囲い炉土層断面2H-4出土の土器(南東から)3H-4出土の石器3H-2 HP-1 土層断面(北東から)4S-2出土の土器4H-2 HP-3 土層断面(北東から)5TP-4 土層断面(南西から)		5	P-5完掘(南から)	図版14	1	TP-3 土層断面(南から)
2 TP-8 土層断面(北東から)図版15 1 全景(南から)3 TP-8 完掘(北東から)2 調査風景(東から)4 S-1検出(東から)図版16 1 全景(南東から)5 F-14検出(北東から)2 南西側土層断面(1)(北東から)6 F-19検出(南から)3 南西側土層断面(2)(北東から)図版5 1 H-4出土の復元土器図版17 1 H-2土器片囲い炉(南から)(図IV-1-2-1)2 H-2土器片囲い炉土層断面2 H-4出土の土器(南東から)3 H-4出土の石器3 H-2HP-1土層断面(北東から)4 S-2出土の土器4 H-2HP-3土層断面(北東から)5 S-2出土の石器5 TP-4土層断面(南西から)		6	P-6 土層断面(南西から)		2	TP-3 完掘(南から)
3 TP-8完掘(北東から)2 調査風景(東から)4 S-1検出(東から)図版16 1 全景(南東から)5 F-14検出(北東から)2 南西側土層断面(1)(北東から)6 F-19検出(南から)3 南西側土層断面(2)(北東から)図版5 1 H-4出土の復元土器図版17 1 H-2土器片囲い炉(南から)(図IV-1-2-1)2 H-2土器片囲い炉土層断面2 H-4出土の土器(南東から)3 H-4出土の石器3 H-2HP-1土層断面(北東から)4 S-2出土の土器4 H-2HP-3土層断面(北東から)5 S-2出土の石器5 TP-4土層断面(南西から)	図版4	1	P-6 完掘(南西から)		3	S-1検出(西から)
4S-1検出(東から)図版161全景(南東から)5F-14検出(北東から)2南西側土層断面(1)(北東から)6F-19検出(南から)3南西側土層断面(2)(北東から)図版51H-4出土の復元土器図版171H-2土器片囲い炉(南から)(図IV-1-2-1)2H-2土器片囲い炉土層断面 (南東から)3H-4出土の土器3H-2HP-1土層断面(北東から)4S-2出土の土器4H-2HP-3土層断面(北東から)5S-2出土の石器5TP-4土層断面(南西から)		2	TP-8土層断面(北東から)	図版15	1	全景(南から)
5F-14検出(北東から)2南西側土層断面(1)(北東から)6F-19検出(南から)3南西側土層断面(2)(北東から)図版51H-4出土の復元土器図版171H-2土器片囲い炉(南から)(図Ⅳ-1-2-1)2H-2土器片囲い炉土層断面2H-4出土の土器(南東から)3H-4出土の石器3H-2HP-1土層断面(北東から)4S-2出土の土器4H-2HP-3土層断面(北東から)5S-2出土の石器5TP-4土層断面(南西から)		3	TP-8完掘(北東から)		2	調査風景(東から)
6F-19検出(南から)3南西側土層断面(2)(北東から)図版51H-4出土の復元土器図版171H-2土器片囲い炉(南から)(図Ⅳ-1-2-1)2H-2土器片囲い炉土層断面 (南東から)3H-4出土の土器3H-2HP-1土層断面(北東から)4S-2出土の土器4H-2HP-3土層断面(北東から)5S-2出土の石器5TP-4土層断面(南西から)		4	S-1検出(東から)	図版16	1	全景(南東から)
図版 51H-4出土の復元土器図版171H-2土器片囲い炉(南から)(図 IV-1-2-1)2H-2土器片囲い炉土層断面 (南東から)3H-4出土の石器3H-2HP-1土層断面(北東から)4S-2出土の土器4H-2HP-3土層断面(北東から)5S-2出土の石器5TP-4土層断面(南西から)		5	F-14検出(北東から)		2	南西側土層断面(1)(北東から)
(図N-1-2-1)2 H-2土器片囲い炉土層断面2 H-4出土の土器(南東から)3 H-4出土の石器3 H-2HP-1土層断面(北東から)4 S-2出土の土器4 H-2HP-3土層断面(北東から)5 S-2出土の石器5 TP-4土層断面(南西から)		6	F-19検出(南から)		3	南西側土層断面(2)(北東から)
2 H-4出土の土器(南東から)3 H-4出土の石器3 H-2HP-1土層断面(北東から)4 S-2出土の土器4 H-2HP-3土層断面(北東から)5 S-2出土の石器5 TP-4土層断面(南西から)	図版 5	1	H-4出土の復元土器	図版17	1	H-2土器片囲い炉(南から)
3 H-4出土の石器3 H-2HP-1土層断面(北東から)4 S-2出土の土器4 H-2HP-3土層断面(北東から)5 S-2出土の石器5 TP-4土層断面(南西から)			(図 $V-1-2-1$ )		2	H-2土器片囲い炉土層断面
4 S-2出土の土器4 H-2HP-3土層断面(北東から)5 S-2出土の石器5 TP-4土層断面(南西から)		2	H-4出土の土器			(南東から)
5 S-2出土の石器 5 TP-4土層断面(南西から)		3	H-4出土の石器		3	H-2HP-1土層断面(北東から)
		4	S-2出土の土器		4	H-2HP-3土層断面(北東から)
6 F-20出土の土器 6 TP-4完掘(南から)		5	S-2出土の石器		5	TP-4土層断面(南西から)
		6	F-20出土の土器		6	TP-4完掘(南から)

	分布図(1)106		分布図(3)140
$\boxtimes V - 2 - 9$	包含層出土石器等	⊠V - 4 - 11	包含層出土石器等
	分布図(2)107		分布図(4)141
⊠V - 2 - 10	包含層出土石器等	⊠ V - 4 - 12	包含層出土石器等
	分布図(3)108		分布図(5)142
⊠V - 2 - 11	包含層出土の石器(1)110	⊠V - 4 - 13	包含層出土石器等
⊠ V − 2 − 12	包含層出土の石器(2)111		分布図(6)143
⊠ V − 2 −13	包含層出土の石器(3)112	⊠V - 4 - 14	包含層出土の石器(1)145
⊠V - 2 - 14	包含層出土の石器(4)114	図 $V-4-15$	包含層出土の石器(2)146
図 V − 2 −15	包含層出土の石器(5)115	⊠V - 4 - 16	包含層出土の石器(3)147
⊠V - 2 - 16	包含層出土の石器(6)116	⊠V - 4 - 17	包含層出土の石器(4)148
⊠ V − 2 − 17	包含層出土の石器(7)117	図 V − 4 −18	包含層出土の土製品・
図 V − 2 −18	包含層出土の石製品120		石製品150
⊠V - 3 - 1	水田部分遺構位置図122	$\boxtimes V - 4 - 19$	宮戸3遺跡出土の土器151
$\boxtimes V - 3 - 2$	イモッペ川旧河道123	VI 自然科学的手	≒法による分析
$\boxtimes V - 3 - 3$	TP-25, F-44, S-4 ···124	$VI-2$ $\boxtimes 1$	花粉化石群集159
$\boxtimes V-4-1$	包含層出土土器分布図(1)…126	図 2	植物珪酸体群集160
$\boxtimes V-4-2$	包含層出土土器分布図(2)…127	図 3	分析試料採取地点161
図 V − 4 − 3	包含層出土土器分布図(3)…128	VI — 3 図 1	原材産地分析試料169
図V-4-4	包含層出土土器分布図(4)…129	図 2	黒曜石原産地170
$\boxtimes V - 4 - 5$	包含層出土土器分布図(5)…130	Ⅷ 成果と問題点	Ā
$\boxtimes V-4-6$	包含層出土の土器(1)132	$\mathbf{VI} - 1 - 1$	柏木川式期の
V - 4 - 7	包含層出土の土器(2)134		小型の住居跡177
<b>図</b> V − 4 − 8	包含層出土石器等	$\mathbf{VI} - 2 - 1$	タプコプ式土器
	分布図(1)138		片囲い炉分布図178
$\boxtimes V-4-9$	包含層出土石器等	$\mathbf{VI} - 2 - 2$	炉材として使用された
	分布図(2)139		タプコプ式土器181
図 V − 4 −10	包含層出土石器等	$2 \sqrt{1} - 3 - 1$	S地点Tピット位置図184

## 表 目 次

I	調査の概要		表V-1-8	焼土出土遺物一覧79
	表 I - 5 - 1	検出遺構数一覧 7	表V-1-9	焼土掲載土器一覧79
	表 I - 5 - 2	米原4遺跡出土遺物	表V-1-10	) 集石出土遺物一覧82
		点数一覧 7	表V-1-1	S-1掲載土器一覧 ⋯⋯87
	表 I - 5 - 3	宮戸4遺跡出土遺物	表V-1-12	2 S-1掲載石器一覧87
		点数一覧 7	表 <b>V</b> -2-1	層位別出土土器点数一覧 …89
I	遺跡の位置と	<b>-</b> 環境	表V-2-2	包含層掲載土器一覧(1)100
	表Ⅱ-3-1	鵡川町の遺跡一覧(1)17	表V-2-3	包含層掲載土器一覧(2)101
	表 II - 3 - 2	鵡川町の遺跡一覧(2)17	表V-2-4	包含層掲載土器一覧(3)102
IV	米原4遺跡		表V-2-5	包含層掲載土器一覧(4)103
	表Ⅳ-1-1	検出遺構一覧33	表 V - 2 - 6	包含層掲載土器一覧(5)104
	表Ⅳ-1-2	遺構出土遺物一覧33	表V-2-7	層位別出土石器等
	表Ⅳ-1-3	H-4掲載土器一覧36		点数一覧105
	表11/1-4	H-4掲載石器一覧36	表 V - 2 - 8	包含層掲載石器一覧(1)118
	表Ⅳ-1-5	接合礫一覧(H-4関係) …36	表 V - 2 - 9	包含層掲載石器一覧(2)119
	表Ⅳ-1-6	P-6掲載土器一覧 ······38	表V-2-10	) 石製品一覧120
	表Ⅳ-1-7	TP-8掲載土器一覧 ······38	表V-3-1	水田部分検出遺構一覧121
	表11/1-8	焼土掲載土器一覧40	表 V - 3 - 2	遺構出土遺物一覧121
	表Ⅳ-1-9	S-2掲載土器一覧44	表 V - 3 - 3	Tピット掲載土器一覧121
	表Ⅳ-1-10	S-2掲載石器一覧 ······44	表V-4-1	層位別出土土器点数一覧…125
	表Ⅳ-1-11	接合礫等一覧	表 V - 4 - 2	包含層掲載土器一覧(1)135
		(S-2関係) ·····45	表 V - 4 - 3	包含層掲載土器一覧(2)136
	表 ▼ - 2 - 1	層位別出土土器点数一覧 …46	表 V - 4 - 4	層位別出土石器等
	表Ⅳ-2-2	包含層掲載土器一覧(1)55		点数一覧137
	表Ⅳ-2-3	包含層掲載土器一覧(2)56	表 V - 4 - 5	包含層掲載石器一覧(1)149
	表 ▼ - 2 - 4	層位別出土石器等	表 V - 4 - 6	包含層掲載石器一覧(2)150
		点数一覧57	表 V - 4 - 7	土製品一覧150
	表11/2-5	包含層掲載石器一覧66	表 V - 4 - 8	石製品一覧150
V	宮戸4遺跡		VI 自然科学的	手法による分析
	表V-1-1	S 地点検出遺構一覧67	VI-1 表1	鵡川町米原4遺跡・宮戸
	表 V - 1 - 2	H-2出土遺物一覧 ······71		4遺跡 放射性炭素年代
	表 V - 1 - 3	H-2掲載土器一覧 ······71		測定分析試料一覧154
	表V-1-4	H-2掲載石器一覧 ·······71	VI-2 表1	分析試料157
	表V-1-5	Tピット出土遺物一覧74	表 2	花粉分析結果158
	表V-1-6	Tピット掲載土器一覧78	表3	植物珪酸体分析結果159
	表 V - 1 - 7	Tピット掲載石器一覧78		

VI - 3		表4-2 米原	頁4遺跡出土黒曜石製遺物
表1-1	各黒曜石の原産地における	のテ	C素比分析結果·····172
	原石群の元素比の平均値と	表 5 - 1 鵡川	町宮戸4遺跡出土黒曜石
	標準偏差値(1)170	製造	遺物の原材産地分析結果174
表1-2	各黒曜石の原産地における	表 5 - 2 鵡川	町米原4遺跡出土黒曜石
	原石群の元素比の平均値と	製造	遺物の原材産地分析結果174
	標準偏差値(2)171	V-4 表1	米原4遺跡
表1-3	各黒曜石の原産地における		フロテーション資料一覧…175
	原石群の元素比の平均値と	表 2	宮戸4遺跡
	標準偏差値(3)171		フロテーション資料一覧…175
表1-4	各黒曜石の原産地における		
	原石群の元素比の平均値と	Ⅷ 成果と問題点	Į.
	標準偏差値⑷172	表Ⅶ-1-1	柏木川式期の小型の住居跡
表1-5	黒曜石製遺物群の元素比の		(胆振地方東部・
	平均値と標準偏差値(1)172		日高地方西部)177
表1-6	黒曜石製遺物群の元素比の	表Ⅶ-2-1	タプコプ式土器片
	平均値と標準偏差値(2)172		囲い炉一覧表179
表 2	湧別川河口域の河床から採	表Ⅶ-4-1	黒曜石分類集計
	取した 247 個の黒曜石円礫		(点数)186
	の分類結果172	表 🕅 - 4 - 2	黒曜石分類集計
表3	常呂川(中ノ島〜北見大橋)		(各層中での%)186
	から採取した37個の黒曜石	表Ⅶ-4-3	米原3・宮戸3・米原4
	円礫の分類結果172		遺跡の黒曜石原材産地分
表4-1	宮戸4遺跡出土黒曜石製遺物		析結果(H12年度)186
	の元素比分析結果172		

## Ⅰ 調査の概要

#### 1 調査要項

事業名:日高自動車道厚真門別道路工事用地内埋蔵文化財発掘調査

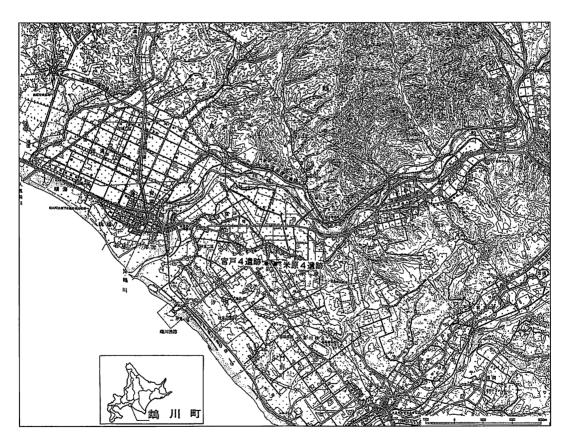
委託者:国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部

受託者:財団法人北海道埋蔵文化財センター

遺跡名	道教委登載 番号	所 在 地	調査面積	調査期間
米原 4 遺跡	J-14-42	953-25〜 は かわちょうきざょわはち 勇払郡鵡川 町 字米原400ー 5 ほか	975m²	平成14年5月7日~7月26日
から 宮戸4遺跡	T 14 40	ゅうふつぐん ti かわちょうあざみや と 勇払郡鵡川 町 字宮戸180-	600m²	平成12年7月31日~9月26日
宮戸4遺跡 	J-14-40	************************************	4, 550m²	平成14年5月7日~8月28日

受託期間:平成12年4月1日~平成13年3月31日、平成14年4月1日~平成15年3月31日

整理期間:平成14年11月1日~平成15年3月31日



この図は国土地理院発行の地形図、1:50,000「富川」(NK-54-9-13、昭和63年3月30日発行)と、鵡川町役場の1:50,000「鵡川町全図」(承認番号 平10,道複 第874号)を合成したものである。

図 I - 1 - 1 鵡川町の位置と遺跡位置図

図 I - 1 - 2 日高自動車道と遺跡の位置

#### 2 調査体制

財団法人北海道埋蔵文化財センター

(平成12年度)		(平成14年度)	(平成14年度)			
理 事 長	大澤 満	理 事 長 大澤	満 (6月31日まで)			
専 務 理 事	宮崎 勝	森重	[ 楯一(7月1日から)			
常務理事	木村 尚俊	専務理事 宮崎	i 勝			
第1調査部長	木村 尚俊 (兼務)	常務理事畑	宏明(6月1日から)			
第2調査課長	佐藤 和雄(宮戸4)	第1調査部長 畑	宏明 (兼務)			
主 任	鎌田 望	第 4 調 査 課 長 遠藤	香澄(宮戸4)			
主 任	袖岡 淳子(宮戸4)	主 査 鎌田	望(米原4)			
文化財保護主事	芝田 直人	主 任 中田	裕香(宮戸4)			
文化財保護主事	大泰司 統	主 任 笠原	〔  興(米原4)			
		主 任 芝田	直人(宮戸4)			
		文化財保護主事 山中	文雄(米原4)			

\* 発掘担当者;()内に該当遺跡名を記載した。

#### 3 調査にいたる経緯

日高自動車道は苫小牧市から浦河町まで、日高地方太平洋岸の町を通る総延長120km の高規格幹線道路である。建設事業は昭和63(1988)年度から着手され、この間平成10(1998)年7月には苫小牧東ICから沼ノ端西ICまでの4kmが、続いて同10月には厚真ICに至る15.7kmが開通し、いずれも暫定供用区間となっている。厚真静内間の55kmが着工準備を含む事業区間で、その先浦河までは計画区間である。現在、厚真門別間20kmの建設工事が進められており、このうち厚真IC〜鵡川IC(8.6km)間は平成15(2003)年夏に供用開始の予定である。

この厚真門別間の道路建設にかかる埋蔵文化財包蔵地に関しては平成5 (1993) 年6月北海道開発局室蘭開発建設部と北海道教育委員会(以下道教委)の間で事前協議がなされ、これを受けた道教委では平成5年8月に所在確認調査を実施、その後平成8 (1996) 年8月以降、平成11 (1999) 年、平成12年および平成13年に順次範囲確認の試掘調査を行っている。このうち米原4遺跡の調査については平成11年11月、宮戸4遺跡については同8月と11月、平成12年9月にそれぞれ実施され、調査を要する範囲が決められている。

範囲確認調査を行った遺跡のうち工事計画の変更が困難で発掘調査を必要とする埋蔵文化財包蔵地 は鵡川町内4か所(宮戸3遺跡、宮戸4遺跡、米原3遺跡、米原4遺跡)、厚真町内1か所(浜厚真 3遺跡)、門別町内2か所(チャシコツパナクシナイ遺跡、コムカラ遺跡)の計7か所である。

平成12 (2000) 年度より、財団法人北海道埋蔵文化財センターが室蘭開発建設部から委託を受け発掘調査を実施している。今年度が第3年次である。これまで平成12年度に鵡川町内の4か所の遺跡を、平成13 (2001) 年度には宮戸4遺跡を調査しそれぞれ報告書が刊行されている(北埋調報153、北埋調報168)。このうち宮戸3遺跡と米原3遺跡の調査はすべて終了している。今年度は鵡川町内の残る2遺跡の継続調査である。

なお、宮戸4遺跡については平成13年度調査中に包蔵地の範囲が拡大することが予想されたため、同年7月および10月に本調査とは別に道教委文化課の指導のもと範囲確認試掘調査を実施している。 この結果、東側(水田部分)および北側(宮戸3遺跡に連続する樹林部分)において新たに発掘を必

図 I - 4 - 1 年度別調査範囲

要とする範囲は工事中の立会調査部分 (2,930m²) を含め11,700m²となった。さらに米原4遺跡についても工事計画が具体的に進む中、同年9月上旬に道教委文化課により試掘調査がなされ、新たに町道米原11線部分とそれに続く北東側の牧草地あわせて1,200m²が調査範囲に組み込まれることとなった。これら試掘調査の経過と結果については昨年度の報告書に詳しく説明してある(北埋調報168)。

また、次節でも述べてあるが、今年度発掘を予定していた宮戸4遺跡において工事計画の変更や河川の付け替え等の周辺整備が整わないことからその一部に調査できない範囲が生じ、その代替えとして厚真町浜厚真3遺跡の調査を実施している。浜厚真3遺跡については7月下旬から表土・火山灰除去を始めとした諸準備に取り掛かり、9月上旬から本格的調査を開始し、10月末までの調査期間中に173基ものTピットが検出されている(北埋調報186)。

このほか門別町内の遺跡については平成14(2002)年9月~11月に門別町教育委員会がチャシコツパナクシナイ遺跡の調査を実施し、早期・中期の遺物とTピット9基が検出されている(発掘担当者;文化財係長川内谷 修氏)。

#### 4 調査の経過と概要

平成14年度は前年度の試掘結果と高速道路建設計画に伴う優先順位をもとに調査範囲を設定した。 米原4遺跡と宮戸4遺跡は鵡川の支流であるイモッペ川を挟む河岸段丘上の緩斜面から平坦部にある 連続した遺跡であり、このことから両遺跡の調査を同時に展開することを前提に計画を立てた。

米原4遺跡については、①イモッペ川に臨む細長い範囲( $400\text{m}^2$ )と②現町道米原11線部分と北東側の牧草地( $1,200\text{m}^2$ )あわせて $1,600\text{m}^2$ である。また、宮戸4遺跡については、①町道米原1号の南側にあたる平成12年度の調査範囲に続く部分(S 地点 $1,200\text{m}^2$ )、②水田部分とそれに連続する旧町道部分( $2,720\text{m}^2$ )、③現町道米原2線部分( $780\text{m}^2$ )および前年度の試掘で明らかになった④樹林部分の一部( $1,300\text{m}^2$ )のあわせて $6,000\text{m}^2$ を調査する計画である。なお、宮戸4遺跡S 地点については平成12年度に一部( $600\text{m}^2$ )調査を終了しており、本書ではこの部分を合わせて報告する(図I-4-1)

調査に先立って4月中旬から、重機を導入し表土客土や前年度の排土、越冬養生のため積み上げた 土嚢等を除去する作業を行った。引き続き厚さ40~50cm ほどで遺物包含層を覆っている火山灰層(樽 前 a 降下軽石層、有珠 b 降下軽石層など)の除去作業を行い、本調査は5月7日より、宮戸4遺跡 の S 地点と米原4遺跡の川に臨む部分から開始した。米原4遺跡については北東側の牧草地部分に 現町道が切り替ることから、この範囲を含め最優先であった。

調査が順調に進む中、6月中旬に現地調査事務所において、室蘭開発建設部苫小牧道路事務所(以下道路事務所)と埋文センターの間で進捗状況の報告・確認と宮戸4遺跡の今後の状況についての打ち合わせが行われた。この際、道路事務所側から宮戸4遺跡の「樹林部分」の発掘調査範囲8,000㎡のうち本線部分の海側寄りの3,200㎡については道路設計の精査の結果「工事未施工範囲」となることが示された。この結果、「樹林部分」において調査を必要とする範囲は4,800㎡となり、さらに当初発掘を予定していた1,300㎡の範囲の線引きも変更する必要が生じることとなった。また、「樹林部分」の調査に関しては、樹木伐採以前にイモッペ川の改修工事および町道米原2線の付け替え工事が完了していることが前提条件として付加されていた。

樹木の伐採については5月の発掘開始当初から、早急に実施して頂きたい旨道路事務所側に要請していたが、対外協議が難航し、7月中の伐採は困難な状況となった。そのため「樹林部分」への調査着手は9月を過ぎることが予想された。しかし、発掘作業の進捗状況を推測すると町道部分を除く米

原4遺跡および宮戸4遺跡の調査は8月中には終了することが見通せた。この時点で道路事務所側から「樹林部分」のうち樹木が少ない範囲を調査する方法の検討が示された。

以上のような現地の実情、打ち合わせの結果を北海道教育委員会文化課へ報告した。これを受けた文化課では道路事務所と今後の発掘調査について協議した。文化課では道路事務所から提示された樹木を伐採しない調査方法では作業効率が低く、また工事着手時期に不確定要素が多いことを指摘したうえで、新たに厚真町浜厚真3遺跡を取り込む内容の検討を道路事務所側に打診している。浜厚真3遺跡は平成15年度の調査が予定されていたものである。宮戸4遺跡の現場においても文化課からこの調整内容についての連絡を受けた。

宮戸4遺跡の「樹林部分」等の取り扱いを含む道教委文化課と道路事務所間での調整は引き続きなされていた。その間、発掘調査は進展し、樹木の少ない部分の調査を進めるため道路事務所との間で範囲の確認、また線引き等の作業を進めていた。

このような中、7月4日苫小牧道路事務所から、「樹林部分」については次年度以降に先送りし、その代替えとして厚真町浜厚真3遺跡を取り込む内容が提示され、7月中旬には協議がなされた。その結果、今年度の宮戸4遺跡の調査対象面積は1,300㎡減の4,700㎡となり、これに代わり浜厚真3遺跡の2,600㎡(当初計画)が新たに組み込まれることとなった。これに伴い、7月下旬からは宮戸4遺跡水田部分の調査と並行し、浜厚真3遺跡の調査準備に取り掛かった。

米原4遺跡は6月下旬に町道米原11線部分を除くすべての調査を完了、また宮戸4遺跡については7月の豪雨、8月の天候不順で、水田部分が何度も冠水するなど調査にやや手間取ったところもあるが、8月下旬には町道米原2線部分を残し終了した。8月末には調査再開に備え一部現地事務所は宮戸4遺跡に残し、調査員、作業員はともに浜厚真3遺跡に移動し、9月上旬には本格的調査に着手した。

10月下旬までの現地調査期間内に2か所の町道およびイモッペ川の切り替え工事は行われなかったことから、両遺跡の町道部分は樹林部分同様次年度以降の調査範囲となっている。今年度の最終的な調査面積は米原4遺跡が975m²、宮戸4遺跡は4,550m²である。現地発掘終了時には宮戸4遺跡の町道路肩に凍上、崩落防止のため土嚢による越冬養生を施した。 (遠藤香澄)

#### 5 調査結果の概要

#### (1) 米原 4 遺跡

米原4遺跡は、現海岸線から約3.5km 内陸のイモッペ川右岸、標高20~30mの段丘上に位置する。 対岸には宮戸4遺跡がある。平成12年度に町道米原1号線の西側(A地区)と東側(B地区)、合計2,311 m²が発掘調査されている(北埋調報153)。今年度はB地区の975m²を発掘調査した。

調査区内の地形は、平成12年度調査区を挟んだ南北で異なる。南側はイモッペ川へと下る斜面で、 上流側では傾斜が幾分緩やかになっている。北側は段丘縁辺の緩斜面にあたる。中央から東側は削平 されていたが、西側ではイモッペ川へ向かう沢地形が検出された。

土層は平成12年度と同様で、 I 層:表土・耕作土、 II 層:樽前 a、樽前 b、有珠 b の各テフラ、 II 層:黒色腐植土、 IV 層:褐色腐植土、 V 層:黒色腐植土、 V 層:褐色土 (漸移層)、 II 層:明黄褐色ローム質土、 III 層:支笏第1テフラ、である。遺物の多くは V 層中~下位の出土である。 IV 層は沢などの窪んだ地形で部分的にみられた。なお、Q55区付近では III 層以下が礫層となっている。その一部を50cm 程掘り下げたが遺物は出土しなかったため、調査は部分的に行った。

今年度検出された遺構は、住居跡 H-4の未調査部分、土坑2基(P-5・6)、Tピット1基(TP

表 I - 5 - 1 検出遺構数一覧

	住居跡	土器片囲い炉	土壙	Tピット	焼土	集石	フレイク・チップ集中
米原4遺跡	5(1)	0	6(2)	8(1)	23 (10)	2(1)	0
宮戸4遺跡	1	1(1)	0	25(11)	44 (18)	4(4)	1

<sup>( )</sup>は平成12~14年度の検出遺構の内、本報告書掲載のもの

表 I - 5 - 2 米原 4 遺跡出土遺物点数一覧

		土		器							石		器				
		76 <del>75</del>		点	数			· 類		点	数		分	類		点	数
	分 類		遺構	包含層	分類		遺構	包含層	7,1		炽		遺構	包含層			
I	群 b	- 1	類	2	252	石			鏃		59	フ	レ	1	ク	6	750
I	群a	- 1	類		55	石	槍·	ナイ	フ			石			斧	1	21
I	群 a	- 2	類	_	670	石			錐		5	た	た	き	石		1
I	群	b	類		1	Ŋ	まみ	付ナイ	フ		10	す		2	石		10
I	群	а	類		3	ス	クレ	ィイバ	_		21	砥			石		17
$\blacksquare$	群 b	- 2	類	41	179	R	フ	レイ	ク		48	加	工痕	りあ	る礫		14
I	群 b	- 3	類	7	565	U	フ	レイ	ク	2	45	礫	•	礫	片	915	2453
$\blacksquare$	群b類	細分不	能	19	458	石			核	1							
IV	群	a	類		300					小	計					925	3480
V	群	С	類		85						土・マ	事	品				
分	類	不	明	12	419		分	類		点	数		分	類		点	数
							7,1	积		遺構	包含層		<i></i>	大只		_遺構_	包含層
						土		製	品		1						
	小	計		81	2987					小	計						1
					合					計						74	74

表 [-5-3 宮戸4遺跡出土遺物点数一覧

土	器	-							石	뭄	等				
/\ \\	点	数		,	分類			点	数		分	米岩		点	数
分類	遺構	包含層	;		<b>頻</b>			遺構	包含層		75	類		遺構	包含層
I 群 b - 1 類	81	1142	石				鏃	6	514	石			斧	2	305
I 群 b - 2 類	3	812	石	槍		ナイ	フ	1	43	た	た	き	石	3	24
I 群 b - 3 類		428	石				錐		102	<	ぼ	み	石		4
I 群 b - 4 類		1304	<u>٦</u>	まみ	卜作	ナナイ	フ		106	す	- 1	)	石	1	55
I群b類細分不能	10	507	ス	ク	レ	イパ	_	1	144	北	海道	式石	冠	1	13
Ⅱ 群 a - 1 類	79	3693	נל	エス	٦٠	ニスキー	ーユ		8	扁	平打	製石	器		1
Ⅱ 群 a - 2 類	40	225	R	フ	l	/ 1	ク	3	526	砥			石	1	33
Ⅱ群a類細分不能	2	848	U	フ	L	1	ク	11	529	台			石	2	6
Ⅱ群b類細分不能		4	両	面	調	整 石	器		11	礫	•	礫	片	5503	8291
Ⅲ 群 a 類		232	石	核	•	原	石	1	43	軽			石		5
Ⅲ 群 b - 2 類		617	フ	L	/	1	ク	5362	4806						
Ⅲ 群 b - 3 類		47						小	計					10898	15569
Ⅲ群b類細分不能		674													
Ⅳ群a類余市式		30							土・る	<b>5 4</b>	製品				
Ⅳ群a類タプコプ式	1497	2184			<del>}</del>	類		点	数		分	類		点	数
Ⅳ 群 c 類		1		2	IJ	炽		遺構	包含層			大尺		遺構	包含層
VII 群		61	土		步	Ų	品		1	石	ţ	製	品		3
分 類 不 明	1	691						小	計						4
小 計	1713	13502						合	計						41686

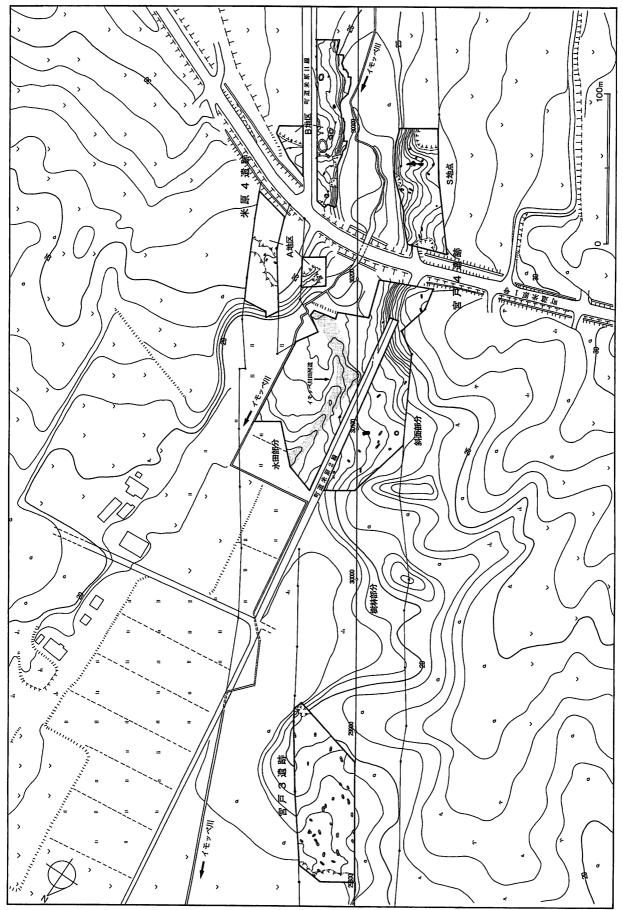


図 I - 5 - 1 米原 4 遺跡・宮戸 3 遺跡・宮戸 4 遺跡調査状況図

-8)、焼土10か所( $F-14\sim23$ )、集石1か所(S-2)である。平成12年度は、竪穴住居跡6 軒、土坑 4 基、T ピット4 基、焼土11か所が検出されており、時期は縄文時代中期後半〜後期初頭とされている。今年度調査した遺構も、検出された層位や遺物の出土状況からみて同時期のものが多いと推測される。なお、平成12年度に一部報告済のH-5 は、今年度南西部分を調査した結果、風倒木痕と判明したので住居跡としての報告を訂正する。

遺物は土器3,068点、石器等4,406点が出土している。土器は縄文時代中期後半のものが比較的多く、以下、同前期前半、早期後半、後期初頭、晩期後葉の順となる。晩期後葉の土器は前回の調査では出土していない。前期後半、中期前半、後期中葉の土器もあるが数点に過ぎない。石器等は石鏃、石槍・ナイフ、つまみ付ナイフ、スクレイパー、石斧、すり石、砥石等がみられる。なお、平成12年度の遺物点数は土器12,908点、石器等23,497点である。 (山中文雄)

#### (2) 宮戸4遺跡

遺跡の立地、基本土層については(1)で述べたので省略する。今年度は、S 地点と水田部分、合わせて4,550m²を調査した。これまでに、遺跡全体で住居跡1軒、土器片囲い炉1か所、Tピット25基、焼土44か所、フレイク・チップ1か所、集石4か所が検出されている。

#### ①S地点

平成12・14年度の2か年にわたり、計1,800m²を調査した。遺構は土器片囲い炉1か所、Tピット10基、焼土17か所、集石3か所を検出した。土器片囲い炉に使用されている土器は、縄文時代後期前葉のタプコプ式に相当する時期のもので、5個体分の破片が浅く掘り窪めた楕円形の穴の壁面に貼り付けるように廻っている。炉の内側は非常に強く焼けており、黒曜石製の石槍1点のほか、多量のフレイク・チップが出土した。Tピットは宮戸3遺跡や斜面部分検出のものと同様に沢地形を意識して作られている。焼土は大部分がV層下位~VI層上面で検出されており、いくつかがまとまって形成されている。集石はいずれも沢地形の内部に形成されたもので、大半の礫・礫片が被熱している。検出層位や周辺の包含層出土の遺物などから、Tピットは縄文時代中期後半~後期初頭、焼土・集石は同前期前半の時期の遺構と考えられる。

遺物は、土器11,677点、石器等21,447点、石製品2点の計33,126点が出土した。土器は縄文時代前期前半の網文式が最も多く、同後期前葉のタプコプ式がこれに次ぐ。他に早期後半の東釧路系、同前期前半の静内中野式、同中期後半の天神山式、柏木川式、北筒式、同後期前葉の余市式、擦文時代のものが出土している。石器等も大部分がこれらの時期の所産と考えられる。

#### ②水田部分

平成13年度調査区と接する部分、計2,750m²を調査した。現在は農業用水路として整備されているイモッペ川の旧河道が確認された。上部の堆積状況などから、縄文時代後〜晩期のころまでの河道と推測される。検出遺構はTピット1基、焼土1か所、集石1か所である。Tピットは台地へと続く斜面上に検出された。焼土・集石は旧河道の氾濫原で検出され、検出層位や周辺の遺物などから同早期の所産と考えられる。

遺物は、土器3,538点、石器等5,020点、土・石製品2点の計8,560点が出土した。土器は縄文時代早期後半の東釧路系が最も多く、同前期前半の綱文式これに次ぐ。他に、同前期前半の静内中野式、同中期後半の柏木川式などが出土している。石器等も大部分が早期後半~前期前葉のものであろう。また、蛇紋岩製と考えられる勾玉1点が出土した。 (芝田直人)

### Ⅱ 遺跡の位置と環境

#### 1 位置と環境

北海道の南西部、苫小牧市から日本海に抜ける地域は、地理学上の呼称として「札幌・苫小牧低地帯」または「道央低地帯」と呼ばれている。この道央低地帯の南東端の太平洋に面する位置に遺跡の所在する鵡川町がある。鵡川町は、道内屈指の一級河川鵡川の下流に位置し、北西は厚真町、北東は穂別町、東は平取町、南東は門別町に接している。

鵡川町は昭和39年に道央新産業都市に指定され、隣接する厚真町とともに胆振地方を代表する穀倉 地帯である。その基幹作物は水稲が殆どを占め、酪農や軽種馬の牧場地帯にもなっている。

河川鵡川は日高山脈北部道央に源を発し、山間部を開折して南下する流路135km、流域面積1,251 km²を有する河川である。川名の鵡川には諸説あるが、アイヌ語の「ムッカ・ペッ」(塞がる川)からきたもので、「鵡川が上潮のために砂で河口が塞がれるからである。」と言う説や、「ムカプ」「Muk -ap」 羊乳草・ある・所)が鵡川となった説等がある(山田 1983)。

鵡川はシシャモが遡上することでも知られており、10月中旬から11月中旬までが漁期である。

この時期には多くの観光客が訪れる。また、河口域には、草原と干潟が発達しており、ここは草原性の鳥や海岸性の鳥が良く見られることから探鳥会の場所として知られている。渡り鳥にとっては重要な中継地の一つである。「北海道野鳥愛護会」が1971年秋から1999年までに行った探鳥会記録(2001年6月)には多くの渡り鳥が報告されている。なかでも春・秋に北上、南下するシギ・チドリの類は多くの種が確認されている。

宮戸4・米原4遺跡はJR鵡川駅の東南東約5km に位置している。鵡川の市街地からは一級河川 鵡川を隔て、その東岸の支流イモッペ川の両河岸にある。標高約20mの段丘上である。

イモッペは鵡川町宮戸の古名で、語義については諸説があるが、永田方正による『北海道蝦夷語地名解』(初版1891年:明治24年)の復刻版(1984年)には次の様に記してある。胆振国勇払郡の項である。 Imokpe イモゥペ 陥(ヲトシ)ノ餌(エバ)ヲ置ク處 井目戸(井モクベ)村

イモッペとは魚を釣る「餌」などのことで、このあたりでは昔よくミミズを掘ったといわれている。 (鵡川町史第二編第三章鵡川周辺のアイヌ文化/更科源蔵)

宮戸4・米原4遺跡は丘陵の末端部に立地しており、緩やかな沢地形が繰り返し入り込む場所である。遺跡よりも上流側と丘陵上は畑や牧草地、あるいは荒地となっている。道路を含んだ土地の区画は直線的で、樹林は土地区画に応じて直線的に延びるものが多い。針葉樹林はカラマツを主にするもので、広葉樹林はカシワを主とするものである。下流側には水田がある。これよりさらに下流域の「川東南幹線用水路」より北側の平坦部にも、一面に水田が広がっている。しかし水田そのものの区画は小さく、微地形の起伏に従ったものである。河川改修以前の自然地形は図 $II-1-2\cdot3$ を参照されたい。調査区内の土性は、一様ではないが、ほぼ全域に17世紀中葉の降下火山灰が認められた。

1663年降下の有珠 b 降下火山灰: Us-b、1667年降下の樽前 b 降下火山灰: Ta-b である。この火山灰の下に縄文時代の遺物包含層である黒色土があり、その下位に褐色のローム質土がある。

基盤となる砂礫層の上面部分は、河川の浸食、あるいは凍上現象の影響を受けた事が考えられ、波打つところがある。また、連続性はないが、黒色土の上位には、10世紀に降灰したと思われる白頭山苫小牧火山灰:B-Tm も一部で確認することができた。 (笠原 興)

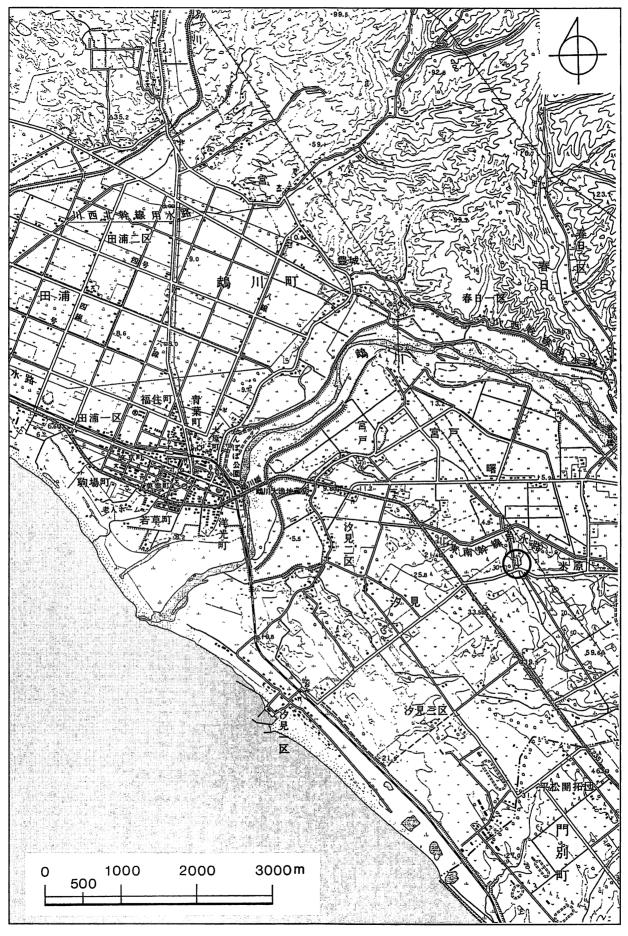


図 II - 1 - 1 遺跡位置図 (この図は1999年、国土地理院発行の「鵡川」を複写したものである)



図 II - 1 - 2 50年前の地形図 (1) (1948・52年撮影の空中写真をもとに2001年12月に作成した地形図に加筆)

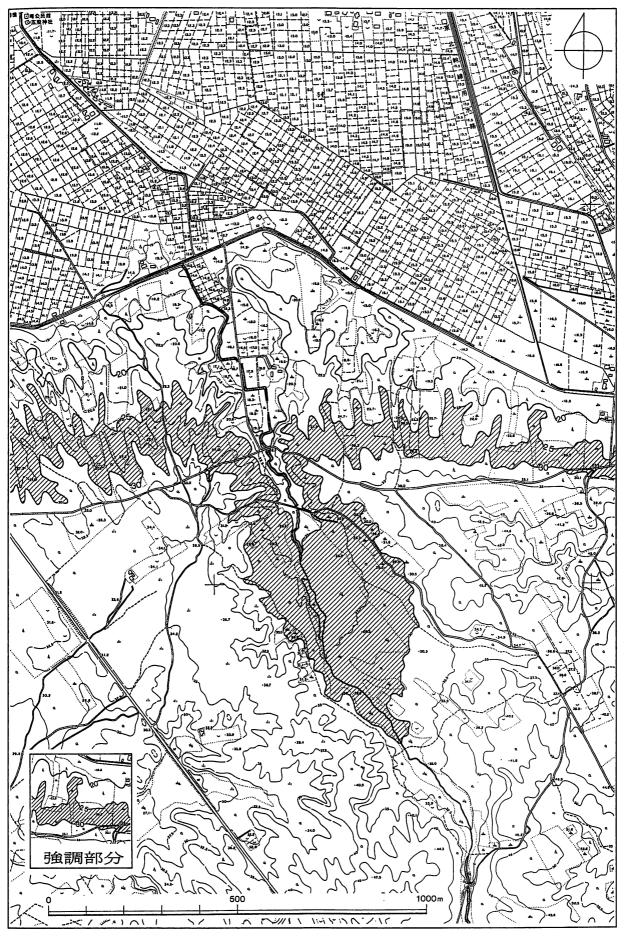


図 II - 1 - 3 50年前の地形図 (2) (1948・52年撮影の空中写真をもとに2001年12月に作成した地形図に加筆)

#### 2 歴史的環境

「道央低地帯」の南東端に位置する鵡川から勇払、苫小牧にいたる広大な海岸低地帯はいつ頃形成されたのであろうか。河野広道『続北方文化論』の中の「苫小牧地方古代史」の項には、千歳市美々の貝塚付近が海岸から湖沼地帯に移った時期を約4千年前以後に想定しており、その頃から隆起し陸化したものとされている。日高国境の段丘地帯ができた洪積世後期頃(約2万年前)には気温の低下により海水面は後退し、日本列島は大陸と地続きとなっていた。ところが沖積世(約1万年前)の初め頃気候が温暖化し、海水面が上昇、北海道は2つに分かれ、苫小牧から石狩が海峡となって太平洋と日本海はひと続きの海となっていた。その後も大小の温度変化による海水面の低下や、火山活動等による変動がつづいた。この頃、活発な火山の噴出等によって支笏湖や、洞爺湖等が誕生した。現在の千歳市から苫小牧に向かう一帯は樽前山等の噴出物によっておおわれ、徐々に苫小牧から石狩は現在の陸地に変わっていった。これらの変動によって、鵡川を含む勇払原野一帯が海面下から誕生した(鵡川町史第一編第二章地史・地質など)。

「ムカワ」は近世の頃、東蝦夷地の要地であった。苫小牧から勇払を経て海岸沿いに日高路へ抜け、十勝や釧路、または遠く根室へ通じる幹線陸路の主要経路であった。川・鵡川は舟で渡るのである。この鵡川の東側約5kmにほぼ平行して南西へ流れる沙流川がある。沙流川と鵡川は、古来よりめおと(夫婦)川としてアイヌ伝承がつたえられている。山田秀三は『アイヌ語地名の研究2』の中で次のように注記している(山田 1983)。

(中略) {鵡川のアイヌ系古老から聞いた話} 並んで流れている沙流川は男で、鵡川は女であった。 沙流川の古名がシシリ・ムカなのに対し、鵡川は女なのでモ・ムカ(小さい・ムカ)と呼ばれ、それから鵡川の音が生まれた。《註、この二つの並んだ有名な川が、共に muka の音を持っていた。そこにこれら川名の謎がありそうである。》

鵡川アイヌの人々の間では、この鵡川を秋に遡上するシシャモは重要な食料資源であった。昼夜を問わずに捕り、乾燥して一年中の食料として保存していた。シシャモは神の魚とされており、その漁のある頃には河口に人々が近づく事、特に妊婦が近づく事を禁じていた。明治以前は、シシャモの漁業権だけには取り決めがあり、ユクペツ(旭岡)、キリカチ(花岡)、モイベツ(春日)、カーナイ(春日)、ケナシロ(豊城)、イモッペ(宮戸)、チン(汐見)の各部落の人々のみが捕る権利を有していた。このため、他の部落の人々はドキ(坏)かエコロ(宝物)を持って行き、シシャモをわけてもらうほかなかった。豊漁の時は川を歩くときに足が川底につかず、踏みつけるほどであったという(鵡川町史第二編第三章)。

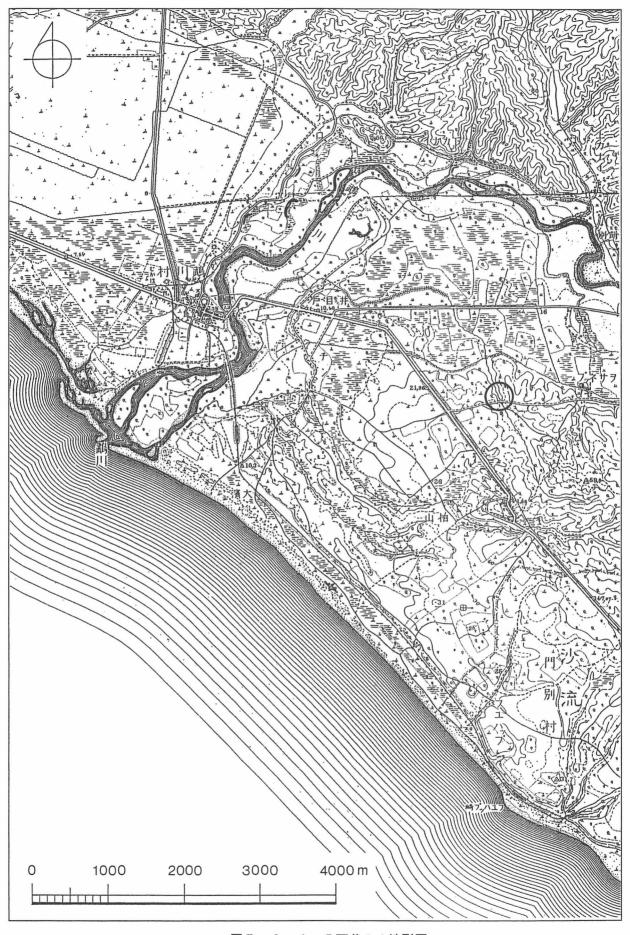
遺跡のある宮戸地区は鵡川の市街地の東側一帯、日高国境の低い丘につながる地域である。

昭和の字名改正までは「イモッペ」とよばれ、「井目戸」と表記されていた。明治の初期には柏山 (汐見3区) の地域にかけて広葉樹の密林であり、鵡川の河口につづくチンコタン (汐見2区) とともに、アイヌの人々が群居する大きなコタンがあった。

会津常蔵『胆振管内概要』によれば、「コシャマインの反乱により各方面より旧土人が鵡川へ集結し、そのまま住して今に至れり。」とある。それは現在の宮戸、汐見の両地区を示すものである。

また明治時代の鵡川はエゾシカ猟が盛んで、特に宮戸地区には猟師や仲買人が集まり、当時の『勇 払郡役所日記』には、「明治7、8年頃は、胆振・日高一の賑わいを呈せり。」と記されている。

米原地区は宮戸の西側にある。昭和18年の字名改正まではオサネップと呼ばれていた。アイヌ語で「熊が流れ出る程いる」または「魔物のいるところ」などという意味がある。開拓当初、このあたりはカツラやヤチダモなどの巨木が昼でも暗いほど生い繁っており、現在の春日あたりから犬の吠える声を聞いて、向う岸にも部落があるらしいと想像する有様であったという。 (笠原)



図Ⅱ-2-1 5万分の1地形図

(この図は1921年、大日本帝国陸地測量部発行の「鵡川」を複写したものである)

#### 3 周辺の遺跡

北海道教育委員会作成の埋蔵文化財包蔵地カードによると、鵡川町には43か所の遺跡が登録されている。そのほとんどが鵡川本流とその支流の河岸段丘に分布している。これまで昭和30年代に花岡・汐見・春日・二宮の所在確認調査、鵡川盛土墳墓群および花岡1遺跡の調査、昭和50年代の町内遺跡の所在確認調査、鵡川盛土墳墓群の範囲確認調査が行なわれている。そして、平成12・13年には日高自動車道建設に伴う宮戸3遺跡・宮戸4遺跡・米原3遺跡・米原4遺跡の発掘調査と米原5遺跡の工事立会調査が行なわれた。

縄文時代の遺跡は38か所で、縄文時代早期18か所、前期21か所、中期21か所、後期3か所、晩期8か所である。続縄文時代の遺跡は8か所、擦文時代の遺跡は6か所、アイヌ文化期の遺跡が6か所である。そのほとんどの遺跡において時期が重複する。(表 $\mathbb{I}-3-1$ )。

縄文時代早期の遺跡には花岡1遺跡、二宮遺跡、春日遺跡、花岡3遺跡、トンニカ遺跡、宮戸遺跡、 花岡2遺跡、パンケニウキナイ1遺跡、パンケニウキナイ2遺跡、ニクトンナイ1遺跡、ニクトンナイ2遺跡、ピタルシナイ2遺跡、豊城4遺跡、米原3遺跡、宮戸3遺跡、宮戸4遺跡、米原4遺跡、 米原5遺跡がある。このうち、早期前半の二宮遺跡からは多数の石斧と共に暁式土器が出土している。 平成12年度に当センターで調査した宮戸3遺跡からは条痕文土器等が出土した。(北埋調報153)。

縄文時代前期の遺跡には、花岡1遺跡、春日遺跡、柏山遺跡、花岡3遺跡、チン川左岸2遺跡、豊城2遺跡、パンケヤラ遺跡、モイベツ遺跡、トンニカ遺跡、宮戸遺跡、花岡2遺跡、パンケニウキナイ1遺跡、ペンケニウキナイ遺跡、オブスケ遺跡、チン川左岸3遺跡、豊城4遺跡、二宮2遺跡、米原3遺跡、宮戸3遺跡、宮戸4遺跡、米原4遺跡がある。このうちの柏山遺跡は、ライパチン川の右岸段丘緩斜面の標高10~20mに位置している。1976(昭和51)年の苫東開発の団地造成に伴う範囲確認調査により、静内中野式や、植苗式系の土器等が出土している。また、モイベツ遺跡、パンヤケラ遺跡等からも静内中野式土器が出土している。

縄文時代中期の遺跡には、花岡1遺跡、春日遺跡、花岡3遺跡、チン川左岸1遺跡、豊城2遺跡、トンニカ遺跡、サッペサ遺跡、オルイカチャシ跡、花岡2遺跡、パンケニウキナイ1遺跡、ペンケニウキナイ遺跡、ピタルシナイ1遺跡、オブスケ遺跡、米原第一遺跡、米原第二遺跡、米原3遺跡、宮戸4遺跡、米原4遺跡がある。平成12年度の米原3遺跡の調査では中期末葉の竪穴住居跡2軒と土壙を検出し、円筒土器上層式、萩ヶ岡1式、柏木川式、北筒式土器等が出土している。(北埋調報153)。縄文時代後期の遺跡は少なく、花岡1遺跡、パンケニウキナイ1遺跡、米原3遺跡、宮戸4遺跡がある。今年度の宮戸4遺跡の調査では、タプコプ式に相当する土器片囲い炉が1か所検出されている(第Ⅳ章-2参照)。

縄文時代晩期の遺跡では、花岡1遺跡、二宮遺跡、豊城2遺跡、豊城3遺跡、藤高沼遺跡、トンニカ遺跡、パンケニウキナイ2遺跡がある。花岡1遺跡は鵡川の左岸河岸段丘の標高約25mに位置している。1963(昭和38)年4月に鵡川町教育委員会によって調査が行なわれ、縄文時代晩期から続縄文時代初頭の土壙墓20基が検出されている(大場・扇谷1964)。

続縄文時代の遺跡には、鵡川盛土墳墓群、花岡1遺跡、春日遺跡、トンニトイ遺跡、豊城3遺跡、藤高沼遺跡、パンケニウキナイ1遺跡、米原3遺跡がある。鵡川盛土墳墓群はチン川とライパチン川の合流地点の東、標高20mほどの河岸段丘上に位置している。周溝をもつ墳墓内から6基の土壙墓が検出された。昭和41年に北海道指定史跡に登録されている。擦文時代とアイヌ文化期が主である汐見2遺跡は多数の竪穴住居跡があることが想定され、ムカワプトコタンの跡地である可能性が示唆されている(扇谷1977)。

表 II - 3 - 1 鵡川町の遺跡一覧(1)

番号	名 称	種別	所在地	立 地
1	鵡川盛土墳墓群	墳 墓	汐見189-1・6	鵡川左岸、チン川・ライパチン川合流点東位段丘
2	花岡1(旧花岡)遺跡	墳 墓	花岡10	鵡川左岸段丘
3	豊城1(旧豊城)遺跡	遺物包含地	春日70-1	鵡川右岸、ケナシロ川左岸の舌状台地
4	二宮遺跡	遺物包含地	二宮117-2ほか	ニタチナイ川右岸台地の南向き傾斜地
5	春日遺跡	遺物包含地	春日245-1ほか	鵡川右岸台地先端~河川敷
6	トンニトイ(旧汐見1区)遺跡	遺物包含地	汐見94-1・2	鵡川左岸、海岸段丘の西端
7	柏山(旧汐見団地)遺跡	遺物包含地	汐見243-1ほか	ライパチン川右岸段丘緩斜面
8	花岡3遺跡	遺物包含地	花岡236-17	鵡川左岸、ポンハルオマナイ左岸段丘
9	チン川左岸1遺跡	遺物包含地	汐見301-1	チン川左岸段丘舌状台地
10	チン川左岸2遺跡	遺物包含地	汐見230-1	チン川左岸段丘舌状台地
11	豊城2遺跡	遺物包含地	豊城347	鵡川右岸、オコツ山南斜面
12	豊城3遺跡	遺物包含地	豊城347	鵡川右岸、オコツ山南斜面
13	パンケヤラ遺跡	遺物包含地	春日308-128	鵡川右岸、モイベツ川左岸山裾
14	モイベツ遺跡	遺物包含地	春日176	鵡川右岸、モイベツ川・鵡川合流点南東舌状台地
15	藤高沼遺跡	遺物包含地	豊城176	鵡川右岸、藤高沼(鵡川旧河床)西岸
16	汐見2遺跡	遺物包含地	汐見197・198	ライパチン川左岸段丘
17	汐見3遺跡	遺物包含地	汐見204-2	ライパチン川右岸段丘
18	トンニカ遺跡	遺物包含地	汐見316ほか	チン川右岸、人口池の北側台地
19	サッペサ遺跡	遺物包含地	宮戸157-2~5	鵡川左岸沖積地の舌状台地
20	宮戸遺跡	遺物包含地		鵡川左岸沖積地の舌状台地先端
21	ケナシノシケオマナイ遺跡	遺物包含地	米原490-1・2	鵡川左岸段丘
22	オルイカチャシ跡	チャシ跡	花岡285-8	鵡川左岸。オルイカ川右岸台地舌状先端部
23	ルベシナイ遺跡	遺物包含地		鵡川左岸。ルベシナイ水源地東位
24	花岡2遺跡		花岡288-1ほか	鵡川左岸段丘
25	パンケニウキナイ1 遺跡	遺物包含地	生田240-22	鵡川左岸段丘
26	パンケニウキナイ2遺跡	遺物包含地	生田241-1~3	鵡川左岸段丘、ニクトンナイ川岸
27	ニクトンナイ1 遺跡	遺物包含地		鵡川左岸。ニクトンナイ川北東
28	ニクトンナイ2遺跡	遺物包含地	生田244-13	鵡川左岸。ニクトンナイ川北東
29	ペンケニウキナイ遺跡	遺物包含地	生田167	鵡川左岸。ペンケニウキナイ川西の台地下
30	ピタルシナイ1 遺跡	遺物包含地		鵡川左岸。オブスケ川とアリアケ川の間
31	ピタルシナイ2遺跡	遺物包含地		鵡川左岸。アリアケ川右岸
32	オブスケ遺跡	遺物包含地		鵡川左岸。オブスケ川南岸の台地
33	チン川左岸3遺跡	遺物包含地		チン川左岸段丘
34	豊城4遺跡	遺物包含地		鵡川右岸台地上
35	二宮2遺跡		二宮435-3	入鹿別川支流、イリシカベツ川右岸台地
36	米原第1遺跡	遺物包含地		チン川源流部の丘陵、南北に伸びる舌状台地
37	米原第2遺跡	遺物包含地		オサネップ川源流部の丘陵
38	米原 3 遺跡	遺物包含地		イモッペ川上流右岸の台地
39	宮戸3遺跡	遺物包含地	宮戸183-1	イモッペ川中流左岸の台地
40	宮戸4遺跡	遺物包含地		イモッペ川中流左岸の台地
41	二宮3遺跡	遺物包含地		入鹿別川左岸の台地
42	米原4遺跡	遺物包含地		イモッペ川中流右岸の台地上
43	米原 5 遺跡	遺物包含地	米原704ほか	チン川上流右岸の台地

#### 文献

 1, 大場利夫・扇谷昌康
 1964「勇払郡鵡川遺跡」『北方文化研究報告』第19輯

 2, 鵡川町史編纂委員会
 1968 『鵡川町史』 鵡川町

3, 扇谷昌康 1977『鵡川町遺跡分布調査報告書』鵡川町教育委員会

4,赤石慎三 1983「鵡川町パンケニウキナイ遺跡出土資料について」『北海道考古学』第19輯

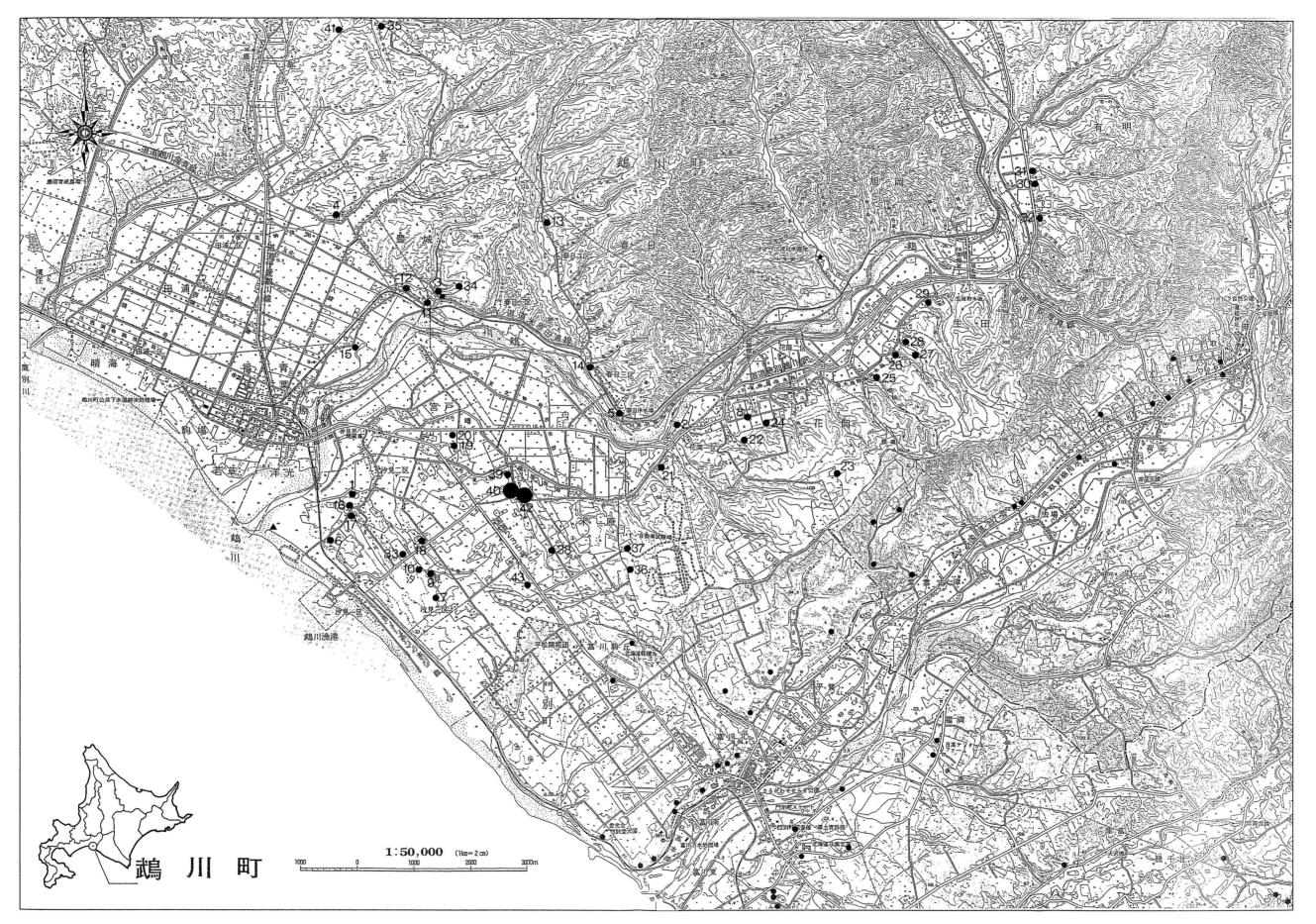
5, 財団法人北海道埋蔵文化財センター 2001 『鵡川町米原3遺跡・宮戸3遺跡・米原4遺跡』(北埋調報第153集)

6, 兵藤千秋 2001 『北海道勇払郡鵡川町 米原3遺跡』鵡川町教育委員会 7, 田才雅彦・宗像公司・今村繁吉 2002 『米原5遺跡』鵡川町教育委員会

8, 財団法人北海道埋蔵文化財センター 2002『鵡川町 宮戸4遺跡』(北埋調報第168集)

表 II - 3 - 2 鵡川町の遺跡一覧(2)

	時 期									
番号								アイヌ	特 徴・その他	文献
	早期		中期		晩期	続縄文	擦文	文化期		
1					0	0			昭和38年、大場・扇谷ほかの調査により盛土墳墓(統縄文初頭)確認。 1号墳墓で墓壙6基検出。昭和41年、道指定。標柱あり。	1.2.3
2	0	0	0	0	0	0	0	0	昭和38年、大場・扇谷ほかの調査により墓壙(縄文晩期)20基検出。 昭和43年造田工事で包含層は破壊され畦に若干残存。 遺構は現存。	1.3
3				時	期っ	下明			豊城2遺跡と沢ひとつ隔てた北東岸舌状台地。	
4	0				0				暁式土器。中央部は土取りにより消滅。 高田氏宅裏手から二宮公民館に至る範囲で遺物採取。	3
5	0	0	0			0	0	0	川西幹線用水路が中央を貫通。	3
6						0	0		遺跡北側70×50mが土砂採取のため消失。これにより包蔵地消失。	3
7		0							苫東開発に伴う住宅団地3予定地。標柱あり。	3
8	0	0	0						ほとんどの部分が削平され造田されているが、一部現地形を残す。	3
9			0						農道カット面に遺構。標柱あり。	
10		0							削平され腐植土露出。標柱あり。	
11		0	0		0					3
12					0	0				3
13		0								3
14		0							中央部を道路貫通。	3
15					0	0				3
16							0	0	相当数の竪穴を有する住居跡群。ムカワプト・コタン跡地の可能性大。 八王子千人同心の開拓用水路が付近にある。	3
17				時	期っ	下明		•	造田工事により土砂採掘された崖面から黒曜石細片多数出土。	3
18	0	0	0		0			0	トンニカ・コタンの跡地。	3
19			0					0	サッペサ・コタン跡地。	3
20	0	0							白樺を植林し保護しているので保存状態良好。	3
21							0		東方にアイヌ墓地、土葬墓現存。「米原遺跡」は墓地付近一帯と推定。	3
22			0					0	弧状の溝が東西各一本残存。	3
23				時	期っ	下明				3
24	0	0	0						昭和40年の農地改善事業でほとんど破壊され丘陵の一部に残存。	3
25	0	0	0	0		0			近年の農地改良で撹乱を受けている。	3•4
26	0				0					3
27	0									3
28	0									3
29		0	0						土取りによりほとんど壊滅。背後にアイヌ墓地あり。	3
30			0							3
31	0					<u> </u>			アリアケ川を挟み、ピタルシナイ1 遺跡と対峙。背後にアイヌ墓地あり。	3
32		0	0						周囲を沢が囲む。	3
33		0							長年の心土破砕により、撹乱されている。破壊に近い状況。	1
34	0	0							保存状態良好。	
35		0						ļ	保存状態良好。	1
36			0						南端部~南東側緩斜面で土器・石斧片出土。台地中央部にTピット。	<u> </u>
37			0						丘陵の頂部付近でTピット確認。	1
38	0	0	0	0		0			縄文時代早期後半の焼土、中期末の竪穴住居跡。平成12・13年調査。	5.6
39	0	0							縄文時代のTピット、焼土。平成12年発掘調査。	5
40	0	0	0	0			0		縄文時代早期の石器制作址。縄文時代のTピット。平成12・13・14年調査。	8
41				時	期~	下明			隣接地の農地造成事業に伴う表面路査により石槍片採集。	
42	0	0	0						縄文時代中期後半の竪穴住居跡。平成12・14年発掘調査。	5
43	0								縄文時代のTピット。早期の遺物。平成13年発掘調査。	7



図Ⅱ-3-1 鵡川町の遺跡分布図

# Ⅲ 調査の方法、遺物の分類

### 1 調査区の設定と調査の方法

(1) 調査区(グリッドの設定)

### 基本図

基本図には国土交通省北海道開発局室蘭開発建設部の「日高自動車道鵡川町田浦米原間用地測量業務現況平面図1,000分の1図」を使用した。

# 調査区(グリッド)設定

### 座標値

世界測地系の TKY2JGD による座標変換(ver. 1. 3. 79、par JGD2000 - TokyoDatum Ver. 2. 1. 1) は以下の通りである。

#### (2) 調査の方法

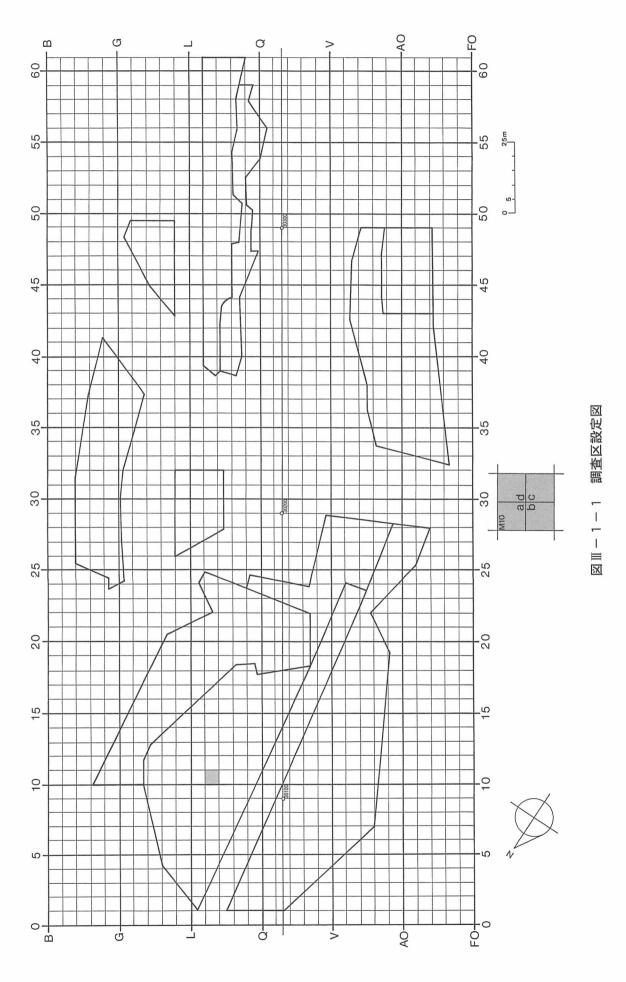
今年度の調査範囲は、鵡川支流のイモッペ川と町道米原1号と交わる付近である。町道米原1号南側の右岸が「米原4遺跡」、左岸が「宮戸4遺跡S地点」、北側の左岸斜面から河川敷が「宮戸4遺跡水田部分」である。工事の工程上、米原4遺跡と宮戸4遺跡S地点の調査を先行した。

# 包含層調査

厚さ40~60cmの表土(米原4遺跡と宮戸4遺跡S地点・水田部分の斜面)および水田客土・耕作土(宮戸4遺跡水田部分)、17世紀中葉の降下火山灰層である樽前 b 降下軽石層(Ta-b)、有珠 b 降下軽石層(Us-b)を重機で除去し、その下の黒色土層(Ⅲ層)から人力調査を始めた。まず、表土除去・杭打ち後にⅢ層上面に残った厚さ1~5cm程の火山灰をジョレンで除去した。Ⅲ~Ⅵ層の各層は、調査区ごとに遺物の多寡、土層の変化を見極めながら移植ゴテと三角ホーにより2cmずつ掘り下げ、遺構・遺物が確認されなかった部分については、スコップにより深さ2~5cmの細かい刻み目を入れた後、ジョレンにより土を除去するという方法を繰り返して掘り下げて調査した。本来的な遺物包含層であるⅤ層については、上位・中位・下位の3段階に分けて調査した。

# 遺構調査

包含層調査の際に遺物がやや集中して出土した部分については、土層観察用のベルト(土手)を十文字に残して薄く平面的に掘り下げた。落ち込みが確認されたTピットについては、その短軸で半截して土層観察用の面を残して掘り下げた。いくつかのTピットは長軸で半截してある程度掘り下げ、遺構の確認面を実測後に土層観察用の面側を残してその手前を掘削する、いわゆる「縦割り調査」を行なった。焼土は、その周囲の同じ面の遺物との関係、焼土同士の関係の把握に努めた。集石は層位ごとに各グリッドで1m方眼を設定して取り上げた。



# 遺物の取り上げ

包含層の遺物は位置や層位を記録し、小発掘区ごとに取り上げ番号を付け取り上げた。微細な遺物の密集部分や焼土は土壌ごと取り上げて水洗により遺物を採集した。遺構の遺物は実測図により位置、層位、標高を記録して取り上げた。出土状況に応じて写真や出土状況図など詳細な記録化に努めた。

# 遺物整理の方法

出土した遺物は、野外作業と並行して現地で水洗作業、大まかな遺物の分類、カード作成、遺物収集帳作成、注記を行なった。秋からは遺物を江別の埋文センターに搬送し、分類、カード・遺物収集帳・注記の点検や補正、土器の接合、石器の実測を進めた。冬期の室内作業では、土器の個体識別、接合・復元、石器や黒曜石剥片・礫片の接合、土器・石器の実測・製図、集計、写真撮影、記録類の整理を行なった。土器の接合・復元作業においては、同一個体ごとにまとめて遺構間、遺構と包含層間や層での破片の接合状況を明らかにすることに努めた。

# 注記作業の実際

10円玉大以上の土器片、注記が実測を妨げない石器等、有意の礫・礫片を対象とし、遺跡略号(ヨネ4、ミヤ4)、調査区・小発掘区または遺構名、遺物番号、層位の順に、白のポスターカラーにより記入し、その上にラッカーを塗布した。例えば、米原4遺跡のH-4の覆土2から出土した遺物番号204の遺物は「ヨネ4.H-4.204.フク2」、宮戸4遺跡S地点のY36グリッドb小発掘区のV層下位から出土した遺物番号17番の遺物は「ミヤ4.Y-36-b.17.V下」と記入される。

(鎌田 望)

# 2 土層の区分

### (1) 基本土層

米原4・宮戸4遺跡の土層は、以下に示した区分を用いた。米原4遺跡のイモッペ川に面した急斜面は、水流により土砂が大きく抉られて崩落しており、層序の不整な堆積を示す。宮戸4遺跡S地点のイモッペ川へ向う沢の内部と小高い尾根上では、特にV層より下部の土層に違いが見られた。すなわち、沢内部では低位のW層に含まれる礫が $V \sim W$ 層まで自然営力で上がってきている。これに対して尾根上ではW・W層が見られず、V 層の直下にW 層の火山灰が分厚く堆積している。また、水田部分は、 $V \sim W$  層中にイモッペ川の旧河道を挟み込んでおり、広範囲に水成層の堆積が見られた。これらの局地的な特徴は各遺跡の土層断面中に説明を付した。

- I層 現地表面直下の土層。近現代の土地利用の有無により2つに区分した。
  - I a 層 耕作土・盛土 人為的撹乱層。層厚約40~60cm。調査区の大部分を覆う。
  - I b 層 表土 黒色 (7.5YR1.7/1) 腐植土 II a 層が土壌化したもの。層厚約 5 ~15cm。標高の高い部分では耕作によりほとんど残存していない。
- II 層 縄文~擦文時代の遺物包含層の上部に堆積する火山灰を一括して II 層とした。火山灰の降下年代とその種類により4つに区分する。
  - II a 層 浅黄橙色 (10YR8/3) 火山灰 樽前 a 降下軽石(A. D. 1739年) 主体 層厚10cm前後。粒径 0.5mm以下。耕作が及ばない地形の低いところにみられる。
  - II b層 黄灰色 (2.5Y6/1) 火山灰 樽前 b 降下軽石(A.D.1667年) 層厚15cm前後。粒径1.0~1.5 mmと、粒子は粗めである。
  - II c 層 褐灰色 (10YR4/1) 火山灰 有珠 b 降下軽石(A. D. 1663年) 主体 層厚  $1\sim 2$  cm程度と 非常に薄い。有珠  $b-1\sim 6$  のいずれかに属する。粒子が細かく、一部は腐植化している。

- II d層 灰白色 (10YR8/1) 火山灰 有珠 b 降下軽石(A. D. 1663年)。 層厚15cm前後。粒径1.0 ~3.0mm。この軽石層の直下にフォール・ユニットを異にする粒子の細かい褐灰色 (10YR5/1) 火山灰が見られる。
- Ⅲ層 黒色 (10YR2/1) 腐植土 層厚 3 ~ 5 cm。水分を含むとやや粘性を帯びる。縄文時代晩期~擦文時代の遺物を包含する。Ⅳ 層が見られない部分では V 層との層界は不明瞭である。
- №層 火山灰と腐植土からなる、風成と腐植化が成因の層。以下の2つに区分される。
  - IV a 層 にぶい黄橙色 (10YR6/4) 白頭山-苫小牧降下火山灰(A. D. 10世紀中頃) 主体 層厚 2 ~5 cm程度。斜面や低地部分にのみ見られる。
  - IV b 層 褐色 (7.5YR4/4) 樽前 c 降下軽石(B.C.300年頃) を一部に含む腐植土 層厚 5 cm前後。 比較的広範囲に見られるが、標高の高い部分で厚くなる傾向がある。
- V層 黒色 (10YR1.7/1) 腐植土 層厚約20~40cm。Ⅲ層よりも粒子がきめ細かく、よくしまる。縄 文時代早~晩期の遺物を包含する。上位・中位・下位に分層して調査した。
- Ⅵ層 褐色 (10YR4/4) ~にぶい黄褐色土 (10YR5/3) 漸移層 層厚40~50cm。上面には縄文早期の遺物を包含する。
- ™層 支笏第1降下軽石の風化層 水分を含むと粘性に富む。以下の3つに区分される。局地的に様相が異なっており、標高の高い部分以外ではWa・Wb層のどちらかは見られない。
  - ▼ a 層 にぶい褐色 (10YR4/3) ローム質粘土 層厚20~30cm。上部に粒径の小さい軽石のブロックが見られる。 ▼ 層との層界は明瞭ではない。

▼II b 層 明黄褐色(10YR6/8) 未風化の軽石が主体 層厚15~30cm。部分的にロームがラミナ状 に入る。▼II a 層との層界は明瞭ではない。

WIc層 褐色 (10YR4/4) ~暗褐色 (10YR3/4) シルト質粘土 層厚 約30~60cm。細砂が幅1~2cmでラミナ状に入る。WIb層との層 界は明瞭である。

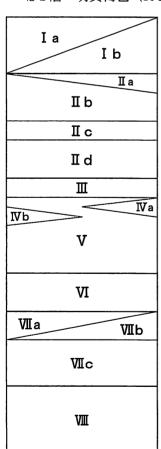
™層 明黄褐色 (10YR6/8) 火山灰 支笏第1降下軽石 層厚2m以上。 沢地形の内部では円礫もしくは亜円礫がぎっしり充填する礫層となる。

### (2) 遺構の土層説明

米原4・宮戸4遺跡の調査では、基本的に各遺構の調査担当者による土 層の観察方法をそのまま用いて表記している。

米原4遺跡の遺構内覆土の土層注記については、土色と堅密度(『土壌調査ハンドブック』ペドロジスト懇談会1984)を用いて示した。ただし、一部の焼土については『新版標準土色帖』(小山・小笠原1997)によって土色を判断したものである。

宮戸4遺跡の遺構の土層説明は、基本的に平成13年度『鵡川町 宮戸4遺跡』(北埋調報168)での表記方法に準じている。土色は、現場での調査段階では『新版標準土色帖』により観察したが、土層の一様でない色調の内、代表的なもののみを記した。土質は、明確に由来が判断されたものには基本土層の層序を、それ以外には客観的に肉眼で観察される腐植土・ローム・パミスなどの表記を用いた。1種類の土壌が80%以上の割合を占める土層については「主体」、複数の土壌が混じり合う土層については、割合の多いものから順に「混合」として表した。他に必要に応じて、土のしまり・粘性・含有物などの特徴を記した。



図Ⅲ-2-1 土層柱状図

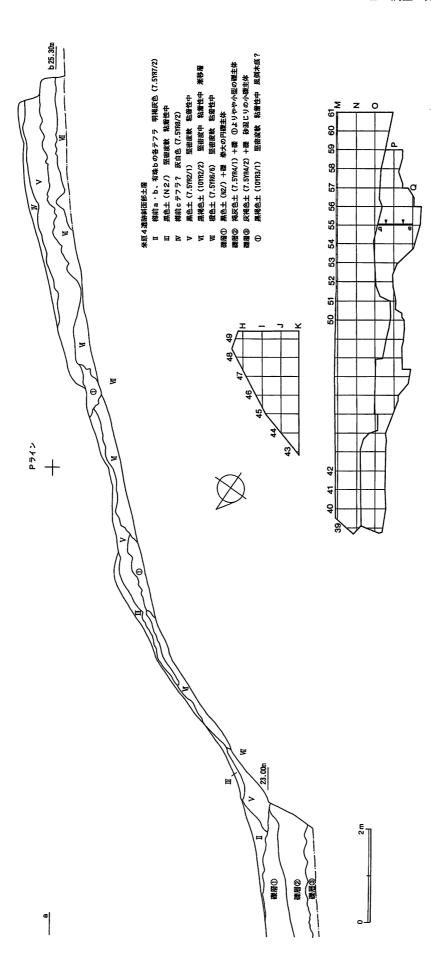
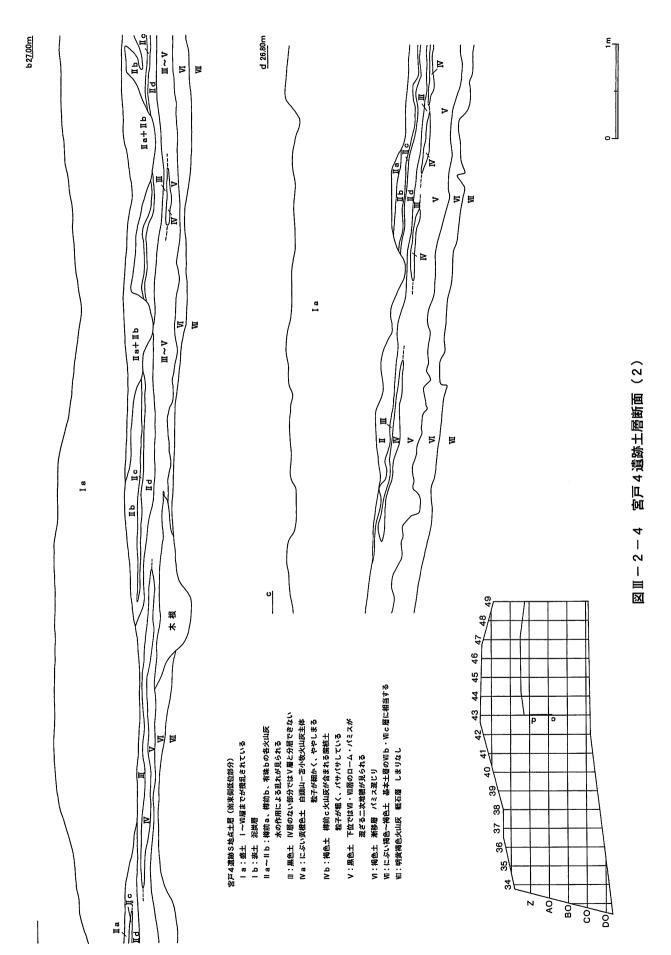


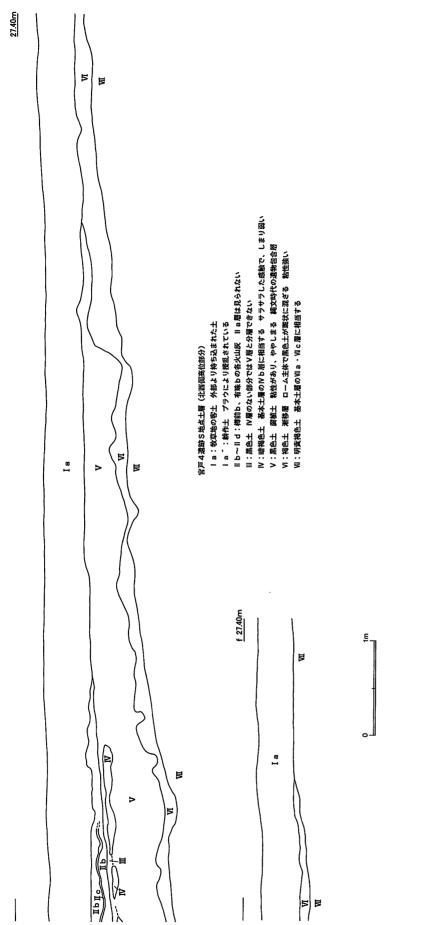
図11-2-2 米原4遺跡土層断面

26



27

図11-2-5 宮戸4遺跡土層断面(3)



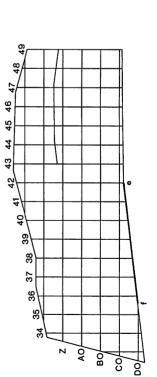


図11-2-6 宮戸4遺跡土層断面(4)

図111-2-7 宮戸4遺跡土層断面(5)

### 3 遺物の分類

# (1) 土 器

分類にあたっては、石狩低地帯、噴火湾~太平洋沿岸での調査結果を基にした分類を踏襲した。出土した土器には縄文時代早期から晩期のもの、続縄文時代のものがある。縄文時代早期の資料をⅠ群とし、以下順次前期、中期、後期、晩期をⅡ群、Ⅲ群、Ⅳ群、Ⅴ群とした。続縄文時代のものはⅥ群、擦文期のものはⅥ群とした。

### I 群 縄文時代早期に属するもの。

a類:貝殻腹縁圧痕文、条痕文のある土器群。

b 類:縄文、撚糸文、絡条体圧痕文、組紐圧痕文、貼付文などのある土器群。

b-1類:東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅲ式に相当するもの。

b-2類:コッタロ式に相当するもの。

b-3類:中茶路式に相当するもの。

b-4類:東釧路IV式に相当するもの。

# Ⅱ群 縄文時代前期に属するもの。

a類:縄文の施された丸底・尖底の土器群。

a-1類:網文式に相当するもの。

a-2類:春日町式、静内中野式に相当するもの。

b類:円筒土器下層式、植苗式、大麻V式に相当するもの。

### Ⅲ群 縄文時代中期に属するもの。

a類:円筒土器上層式、萩ヶ岡1式に相当するもの。

b類:円筒土器に後続する土器群。

b-1類:天神山式、萩ヶ岡2式、・萩ヶ岡3式に相当するもの。

b-2類:柏木川式、萩ヶ岡4式に相当するもの。

b-3類:北筒式、トコロ6類、煉瓦台式あるいは静狩式に相当するもの。

# Ⅳ**群** 縄文時代後期に属するもの。

a類:余市式、タプコプ式、手稲砂山式、入江式、大津式に相当するもの。

b類:ウサクマイC式、船泊上層式、手稲式、鉱澗式に相当するもの。

c類:堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの。

# V群 縄文時代晩期に属するもの。

a類:大洞B式、上ノ国式に相当するもの。

b類:大洞C1式、大洞C2式に相当するもの。

c類:大洞A式、大洞A'式、タンネトウL式に相当するもの。

# VI群 続縄文時代に属するもの。

a類:大狩部式、トニカ式、東歌別式に相当するもの。

b類:恵山式に相当するもの。

c類:後北式に相当するもの。

₩群 擦文時代に属するもの。

(鎌田)

### (2) 石器等

平成12年度に調査した米原3・宮戸3・米原4遺跡での袖岡による石器分類(北埋調報153)を基本的に踏襲したが、3か年の調査結果を踏まえて新たな要素を加味し、若干の修正を行った。石器の特性や機能に直接言及するため、記号は用いていない。それぞれの未製品や破損品、破片、剥片などは本来の分類に含めた。

### 1)剥片石器

石鏃スクレイパー両面調整石器石槍・ナイフピエス・エスキーユ石核・原石

石錐 Rフレイクつまみ付ナイフ Uフレイク

2)剥片

フレイク・チップ(「フレイク」で統一した)

3)磨製石器

磨製石斧 ・石斧石材・擦切残片(すべて「石斧」に含めた)

4) 礫石器

たたき石 北海道式石冠 石鋸(今年度は出土していない)

 くぼみ石
 扁平打製石器
 砥石

 すり石
 石錘(今年度は出土していない)
 台石

5) 磔・磔片

加工痕のある礫

礫・礫片 (人為的な打ち割り・被熱の可能性があるもの)

軽石(砥石の一部の可能性があるもの)

(3) 土製品・石製品

1) 土製品

円盤状土製品 板状土偶(今年度は出土していない)

焼成粘土塊 三角形土製品(今年度は出土していない)

2) 石製品

勾玉 異形石器 石のみ型石製品 (芝田)

# (4) 黒曜石

米原4遺跡から出土した黒曜石製遺物828点(微細遺物回収用の土壌から検出された分を除く)について、肉眼観察により以下の7つに分類した $(A \sim D, G, I, Z)$ 。(A)挟雑物がみられず色みのないもの、(B)赤みが混じるもの、(C)梨肌のもの、(D)粒状の球顆が混じるもの、(G)暗い灰色が不定形に混じるもの、(I)暗い灰色地に黒色の流紋がみられるもの、(Z)被熱により観察できないもの。さらに、原石面があるものについてはその形状を区別するため、(a)円礫、(b)角礫、に分け、どちらか判断し難いものは(c)有、とした。また、原石面のないものには(d)無、という記号を付し、上記7つの分類と組み合わせた。(例)赤みが混じり原石面がないもの $\rightarrow Bd$ 。

(A)~(D)以外は、整理の過程で特徴的な黒曜石が見つかるごとにアルファベットの記号をつけ増やしていった。FやHがないのは、分類の見直しを行い2つの分類を1つにしたことによる。なお、同じ黒曜石であっても、部分的な違いのために2つ以上の分類になってしまうことがある。 (山中)

# Ⅳ 米原4遺跡

## 1 遺構および遺構出土の遺物

# (1) 概 要

今年度の米原4遺跡 B 地区では、住居跡 1 軒(H-4の未調査部分)、土坑 2 基(P-5・6)、 Tピット 1 基(TP-8)、焼土 9 か所(F-14~23)、集石 1 か所(S-2) が検出された。

住居跡(H-4) はイモッペ川への斜面肩部分に位置する。平成12年度に南西壁部分を除く大半を 調査済である。時期は床面出土等の土器から、縄文時代中期後半と推測される。

土坑は H-4の東側で1基(P-5)、北側調査区の沢への肩付近でもう1基(P-6) 検出された。 平面形態はどちらも楕円形で規模も類似する。覆土と周囲の遺物出土状況等から、P-5・6とも縄 文時代中期後半の可能性がある。

Tピット(TP-8) は北側調査区で検出された。北側調査区の中央から東側は削平されていたが、 周囲の地形からみて緩斜面に構築されたものであろう。底面は溝状を呈し、杭跡等はみられない。形 態の類例から、縄文時代中期後半~後期初頭の時期と推測される。

焼土は2つのまとまりがみられる。1つは北側調査区にある沢への肩付近で8か所( $F-14\sim21$ )、もう1つは南側調査区のイモッペ川への肩部分で2か所( $F-22\cdot23$ )である。北側の焼土は検出された層位と周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期初頭のものであろう。F-15出土の炭化材について、放射性炭素年代測定(AMS 法)を依頼したところ、 $3,520\pm40$ (yBP)という測定結果が得られた。南側の焼土は、周囲の遺物出土状況等から縄文時代中期後半の可能性がある。

集石(S-2) は南側調査区のイモッペ川への肩部分で検出された。被熱したと考えられる礫・礫片851点が2.5×2.0m程の範囲にまとまっていた。層位と周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期後半の可能性が高い。

なお概要でも触れたが、平成12年度に一部報告済の H-5は、南西部分を調査した結果、風倒木 痕と判明したので住居跡としての報告を訂正する。 (山中)

2011	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	- <del>1</del>				
遺構名	遺構種類	発掘区	検出層位	規 模 (m)	長軸方向	時 期
H-4	竪穴式住居跡	M39b、N40a·b	W層上面	2, 55×2, 10/2, 24×1, 94/0, 26	N-60°-E	縄文時代中期後半
P-5	土坑	N40d	VI層	1. 22×0. 65/1. 10×0. 42/0. 30	N-37°-E	縄文時代中期後半
P-6	土坑	I46a∙d	VI層	$(1.25) \times (0.76) / 0.92 \times 0.56 / 0.12$	N-24°-E	"
TP-8	Tピット	I47a∙d	WI層	1. 71×1. 08/1. 75×0. 32/1. 26	N-17°-W	縄文時代中期後半~後期初頭
F-14	焼土	I45c	V層下位	0. 57×0. 41/0. 08	-	縄文時代後期初頭
F-15	焼土	H45c、I45d	V層下位	0. 50×0. 32/0. 07	_	"
F-16	焼土	I45d、I46a	V層下位	0. 59×0. 32/0. 03	_	"
F-17	焼土	I45d	V層下位	0. 26×0. 16/0. 03	-	"
F-18	焼土	I46a	V層下位	0. 57×0. 33/0. 08		"
F-19	焼土	H46b	V層下位	1, 51×0, 88/0, 04	_	"
F-20	焼土	I45c	V層下位	0. 54×0. 49/0. 12	_	"
F-21	焼土	I45d	V層下位	0. 19×0. 13/0. 02	_	"
F-22	焼土	O55a	VI層	0.87×(0.50)/0.15	_	縄文時代中期後半

 $0.45 \times 0.32 / 0.07$ 

 $(2.5) \times (2.0)$ 

表Ⅳ-1-1 検出遺構一覧

O55c

O51d、O52a

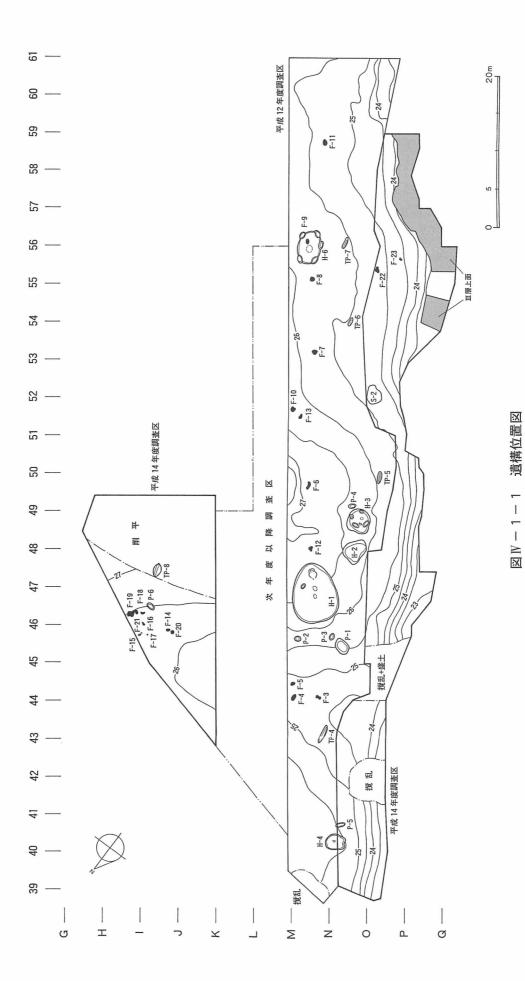
VI層

V層中位

F-23

焼土 集石

縄文時代中期後半



表Ⅳ-1-2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位	遺物名	分 類	点数
			I b	
		土器	I b - 1	
			<b>I</b> I b	
			<b>I</b> I b − 2	
			Rフレイク	
	覆 土		Uフレイク	
		石 器	石核	
			フレイク	
			石斧. 石材	
			台石	
H— 4		礫・礫片	礫・礫片	
	計			1
		土器	<b>II</b> b	
			<b>II</b> b − 2	
			スクレイパー	
	床 面	石器	Rフレイク	
		14 10	たたき石	
			フレイク	
		礫・礫片	礫・礫片	
	計			
	合 計			2
			III b	
P-5	覆 土	土器	不明	
	合 計			
			Шb	
		土 器	<b>I</b> I b − 3	
	覆土		不明	
P 6			Uフレイク	
		石 器	フレイク	
		礫・礫片	礫・礫片	
	合 計	5/K 5/K/ I	1 5/1 5/1	
· · ·		土器	II b	
TP — 8	覆 土	礫・礫片	礫・礫片	
11 0	合 計	197K (4K/)	9 <del>7</del> 1	
		土 器	不明	
F — 14	焼土中	石 器	フレイク	
1 17	合 計	चम भ	7017	
		土 器	不明	
F — 15	焼土中	石器	フレイク	
F — 15	合 計	口砬	7019	
			7.00	
	,lote _L +H+	土器	不明	
F — 18	焼土中	石器	フレイク	
	Δ ⇒ι.	礫・礫片	礫・礫片	<del></del>
	合 計		77-1 / 5	
	Lab. 1L.	石 器	Uフレイク	
F — 19	焼土中		フレイク	
• <del>-</del>	A 71	礫・礫片	礫・礫片	
	合 計			
		土器	<b>II</b> b	
F-20	焼土中	石 器	フレイク	
. 20		礫・礫片	礫・礫片	
	合 計			
F-22	焼土中	土 器	<b>II</b> b	
1 - 44	合 計			
			I b−1	
		土 器	<b>II</b> b	
	V ++ ++		<b>I</b> I b − 3	
S-2	V中位	7 m	たたき石	
		石 器	すり石	
		礫・礫片	礫・礫片	8
	合 計			8

※H-4は平成12年度分と合わせた点数。

### (2) 住居跡

H-4 (図 $\mathbb{N}-1-2$ /表 $\mathbb{N}-1-1\sim5$ /図版 $3-1\sim3$ 、 $5-1\sim3$ )

位 置: M39b、N40a・b イモッペ川への斜面肩部分 規 模: 2.55×2.10/2.24×1.94/0.26m 床面積3.44m<sup>2</sup> 地床炉規模: 0.32×0.20/0.04m

特 徴:平成12年度に南西壁付近を除く大半を調査済であり、地床炉が検出されている。調査区境界の壁面で遺構の断面を確認したが、平面形が不鮮明であったため周囲とともに VI 層まで掘り下げ、半円状の輪郭を確認してから調査した。覆土は 2 層に分けられ、 1 層は黒色で V 層が主体、 2 層は暗褐色で下位には VI 層が多く混じる。床面は概ね平坦で、壁の立ち上がりは明瞭である。南西壁の中央部分は内側へ入り込む。平成12年度の平面図と合わせると、平面形は不整な隅丸方形を呈する。竪穴の規模は小さいが、地床炉が検出されており住居跡と判断される。柱穴は検出されなかった。

遺 物:床面から礫片 2 点、覆土から土器47点(I 群 b-1 類 1 点、II 群 b-2 類41点、II 群 b 類 5 点)、石器 4 点、礫・礫片58点が出土している。多くは覆土中からの散発的な出土であるが、南西壁の中央部分から床面にかけて II 群 b-2 類土器のまとまりが確認された。床面と土器の間には土壌の堆積が 3 cm程みられたことから、住居が埋没し始めた頃に遺構内に落ち込んだ、或いは捨てられたものと推測される。平成12年度に東側の床面から出土した III 群 b-2 類土器と接合し、底部を除く大半が復原された。他に特徴的なこととして、覆土中での礫・礫片が58点と多い。調査区の東側には集石(S-2) も検出されており、住居埋没過程での関連を窺わせる。S-2 や包含層出土の礫片と接合を試みたが、周囲のものと接合するにとどまった。

1・2はⅢ群 b-2類土器である。1は過年度出土分と合わせ床・覆土・周辺から83点出土し70点が接合した。口径29.2cm、残存器高35.5cmを計る。口縁・頸部の貼付帯を縦の貼付帯で繋ぐ際、口縁に6か所の小突起をつくりだす。口縁貼付帯には縄端刺突文、それ以外は縄で刻まれる。凹凸が残る内面はなで調整、胎土に黄白色火山灰・細礫・砂粒を含む。2は覆土・周辺から出土した。口縁が内傾気味、無文地に幅1㎜以下の沈線文をもつ。器面となで調整された内面に凹凸が残る。胎土に砂粒が多い。3は覆土2層から出土した黒曜石製の石核(残核)である。角礫の原石面がみられる。

表IV-1-3 H-4掲載土器一覧

掲載	遺構名	遺物	層位	- 1	破片		分類	
番号	退佣石	番号	担	点数	掲載	総数	刀規	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
								(掲載) H-4-25床(4),同26同,同40同,同41同,同45覆土,同204覆土(4),
1	ц_ /	13	床	31	70	83	II b − 2	同212覆土 3 (28),N39d 3 V中,N40b 2 Ⅲ.
	11-4	10	<i>\(\omega\)</i>	31	10	03	1110-2	(非掲載) H-4-11覆土2, 同13床, 同25同(2), 同39同, 同43同(2), 同212覆土3(3),
								M39b29 V下,N39d 3 V中,O53a26 V下.
2	N40b	10	VI	1	1	19	II b − 2	(掲載) N40b10 Ⅵ, 同d1 Ⅲ.
	11400	10	71	1	4	19	1110-2	(非掲載) H-4-204覆土1,同206同,同216覆土2(2),O37d7V中,同47c11V下.

# 表 IV - 1 - 4 H - 4 掲載石器一覧

掲載 番号	遺構名	遺物番号	層位	分 類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
3	H-4	202	覆土1層	石核 (残核)	$2.42 \times 3.59 \times 1.18$	9. 3	黒曜石 Db	

# 表 IV - 1 - 5 接合礫一覧(H-4関係)

接合 番号	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破片 点数	接合関係	接合· 残存状態	石質	備考
66	亜円礫	8.8	5. 0	1. 1	52. 5	2	覆土1, 1+覆土2, 1	破片	砂岩	
67	亜角礫	15. 0	9. 7	4. 4	530. 1	3	覆土1, 3	破損	砂岩	
68	亜角礫	11.5	6. 7	6.4	448.8	3	覆土1, 3	破損	泥岩	
69	亜角礫	7. 9	4. 3	3. 5	166. 0	2	覆土2, 2	破損	泥岩	煤付着
112	亜角礫	13. 2	5. 8	2.8	229. 1	3	覆土1,1+N40a,1.N40b,1	破損	砂岩	

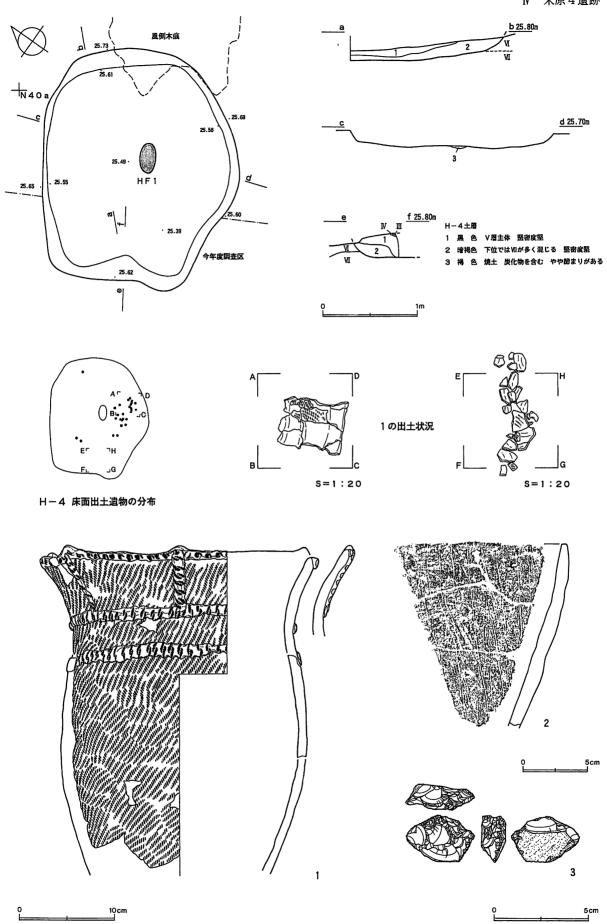


図 IV - 1 - 2 H-4とその遺物

# (3) 土 坑

P-5 (図V-1-3/表 $V-1-1\cdot 2/$ 図版 $3-4\cdot 5$ )

位 置:N40d イモッペ川への斜面肩部分 規 模:1.22×0.65/1.10×0.42/0.30m

特 徴:調査区境界の壁面で、WI層との層界が明瞭な黒色の落ち込みがみられた。平面形を確認するため周囲とともにWI層まで掘り下げたところ、半円状の輪郭が現れた。北側半分(平成12年度調査区)は既に掘り下げられていたが、僅かに残る落ち込みの痕跡から全体として楕円形を呈することを確認し、明瞭な層界と整った輪郭から土坑と判断した。底面は平坦であるが南西側へ緩く傾く。壁の立ち上がりは明瞭である。覆土は埋め戻しか自然堆積か判然としなかった。

**遺 物**:覆土からⅢ群b類土器1点、分類不明土器2点が出土している。散発的な出土である。

時 期:掘り込み面がV層中~下位であること、覆土と周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期後半の可能性がある。

P-6 (図V-1-3/表 $V-1-1\cdot 2\cdot 6$ /図版3-6、4-1、6-2)

位 置:I46a・d 沢への肩部分 規 模:(1.25)×(0.76)/0.92×0.56/0.12m

特 徴: ™層上面で楕円形をした黒色土の輪郭を確認した。南西側半分の土壌を ™層が出るまで除いたところ、 ™層との層界が明瞭な皿状の断面が観察され、整った輪郭とあわせて土坑と判断した。底面は西側へ傾き、立ち上がりは緩やかである。 覆土は V 層が主体とみられる。 埋め戻しか自然堆積かは判然としなかった。

時 期:覆土と周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期後半の可能性がある。

(山中)

(4) Tピット

TP-8 (図  $\mathbb{N}-1-3$  /表  $\mathbb{N}-1-1\cdot 2$  / 図版  $4-2\cdot 3$  、 6-3 )

位 置:I47a·b·c·d 規 模:1.71×1.08/1.75×0.32/1.26m

特 徴: M層で黒色土と軽石が混じった楕円形の輪郭を確認した。北側半分の土壌をM・M層が出るまで除き、埋没状況、断面形態を観察した結果、Tピットと判断した。覆土は黒色土の堆積や壁面の崩落が繰り返されており、自然堆積と考えられる。底面は溝状を呈し平坦であり、杭跡等はない。短軸断面の東壁は中位まで垂直に近く、本来の形状に近いと推測される。西壁は崩落により確認面まで段のない開いた形となっている。縦断面は底面の両端付近がオーバーハングする。上部は削平により失われているが、周囲の地形から西側の沢へ下る緩斜面に構築されたものであろう。

遺 物:覆土からⅢ群 b 類土器 1 点、礫・礫片 4 点が散発的に出土している。いずれも本遺構に伴 うとは考え難い。 1 は底部が張り出し、器面にLRの縄文が認められる。胎土に砂を含む。

時期:形態の類例から、縄文時代中期後半~後期初頭と推測される。

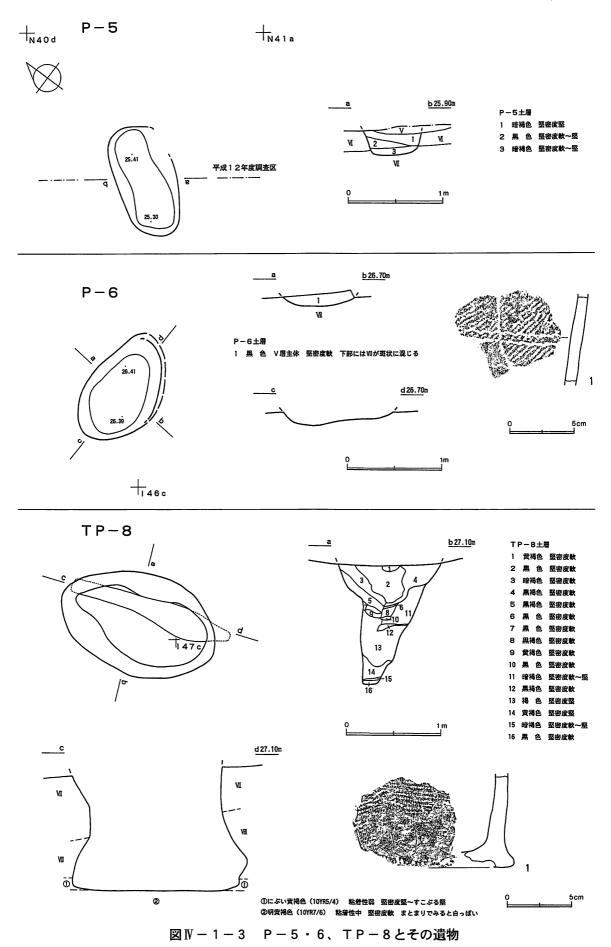
(山中)

# 表IV-1-6 P-6掲載土器一覧

掲載	遺構名	遺物	層位	₹	破片		分類	   同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号	退得有	番号		点数	掲載	総数	ンな	
1	P-6	1	覆土1	1	3	4	<b>I</b> I b − 3	(掲載) H45c7 V下, I45c2 V中. (非掲載) I46b15 V中.

# 表 IV - 1 - 7 TP - 8 掲載土器一覧

掲載	1 100 800 25-1		層位	破片			分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号	退佣石	番号	眉亚	点数	掲載	総数	刀块	同一個学級力の目的 光域区、層型、点数(一点の場合は自略/前に向り即がは向とした)
1	TP-8	1	覆土	1	1	5	Шb	(特徵) O51d2 V上4.



### (5) 焼 土

 $F-14\sim21$  (図 $V-1-4\cdot5/$ 表 $V-1-1\cdot2\cdot8/$ 図版 $4-5\cdot6$ 、6-1)

遺 物:1はF-15の傍でまとまって出土したⅣ群 a 類(タプコプ式)土器である。推定口径19.9cm、器高28cm、底径7.5cmを計る。器面・口唇・口縁内面に LR 斜行縄文縄文が施され、頸部に2条対の縄線文が認められる。胎土に黄白色火山灰・細礫・砂粒を多く含む。2はF-20から出土したⅢ群 b-2類土器で、LR 斜行縄文縄文が施された器面に丸棒による沈線文が認められる。

時期:周囲の遺物出土状況から、縄文時代後期初頭と推測される。F-15から出土した炭化材について放射性炭素年代測定(AMS 法)を依頼したところ、3,520±40(yBP)という測定結果が得られた。

F — 14	位	置:I45c	規	模:0.57×0.41/0.08m	
F - 15	位	置:H45c•I45d	規	模:0.50×0.32/0.07m	
F — 16	位	置:I45d•I46a	規	模:0.59×0.32/0.03m	
F — 17	位	置:I45d	規	模:0.26×0.16/0.03m	
F — 18	位	置:I46a	規	模:0.57×0.33/0.08m	
F — 19	位	置:H46b	規	模:1.51×0.88/0.04m	
F -20	位	置:I45c	規	模:0.54×0.49/0.12m	
F -21	位	置:I45d	規	模:0.19×0.13/0.02m	(山中)

F-22 (図V-1-5/表V-1-1)

位 置: O55a 規模: 0.87× (0.50) / 0.15m

特 徴:平成12年度調査区との境、緩斜面のⅥ層上面で赤褐色土の広がりを検出した。半截の結果、

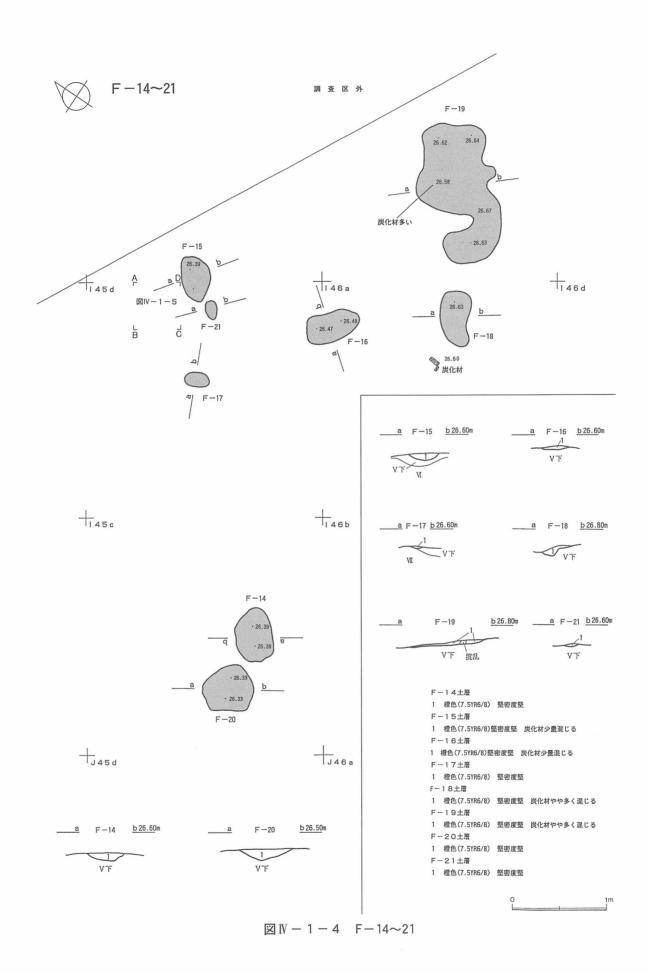
良く焼けて発達した焼土であることから、この場で形成されたものと考えられる。

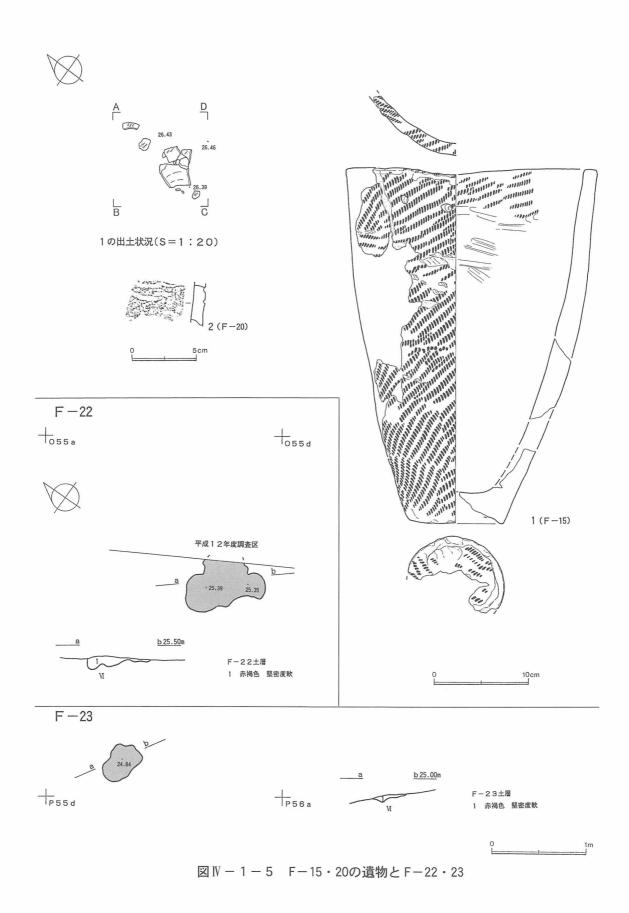
遺 物:遺物は出土していない。

時期:平成12年度に検出した周辺の遺構や周辺の出土遺物等から縄文時代中期後半頃が考えられる。

表IV-1-8 焼土掲載土器一覧

掲載	発掘区	遺物	層位	1	破片	ī	分類	日 伊大時よの標和 発展区 屋位 上数/1上の組入は少数/並に同じ如八は日 1 も
番号	遺構名	番号	眉江	点数	掲載	総数	刀類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
1	H45c	7	V下	1	15	35	IV a	(掲載) H45c8 V下,同d1同,I45d15同,同16同,同18同2,同19同,同26同,同27同6. (非掲載)H45c11 V下,H45c14 V下,I44b6 同2,同45d15同,同18同3,同19同9,同26同,同27同,同46a27同.
2	F-20	1	1層	1	1	1	<b>I</b> I b − 2	





F-23 (図 IV-1-5/表 IV-1-1)

位 置: O55c 規 模: 0.45×0.32/0.07m

特 徴:F-22の南側緩斜面のⅥ層上面で検出した。半截の結果、赤褐色を呈することから、焼土と 判断した。

遺物:遺物は出土していない。

時期:F-22とほぼ隣接する事や周辺の出土遺物等から縄文時代中期後半頃が考えられる。

# (6) 集 石

S-2 (図V-1-6/表 $V-1-1\cdot 2\cdot 9\sim 11$ /図版4-4、 $5-4\cdot 5$ )

位 置:O51d·52a 規 模: (2.50) × (2.00) m

特 徴:平成12年度調査区との境、緩斜面のV層中から検出した。礫は拳大のものから小礫破片までの大きさのもので構成される礫集中で、そのほとんどに被熱の痕跡が認められた。北側では礫と礫が重なり合うように密集しているが、南側ではやや分散している。焼土粒等は検出していない。

**礫・礫片の観察から**:集石の構成礫・礫片は851点、重量にして27.56kg なる。石質は泥岩、砂岩が多く、チャート、片麻岩等もみられる。完形 5 点の他は全て破片である。破片から推定される本来の形状は亜円礫、亜角礫であることから、付近の川原石を採取してきたものであろう。南側調査区の斜面下一帯にはイモッペ川により運搬・堆積された礫層が存在する(図Ⅲ-2-2)。

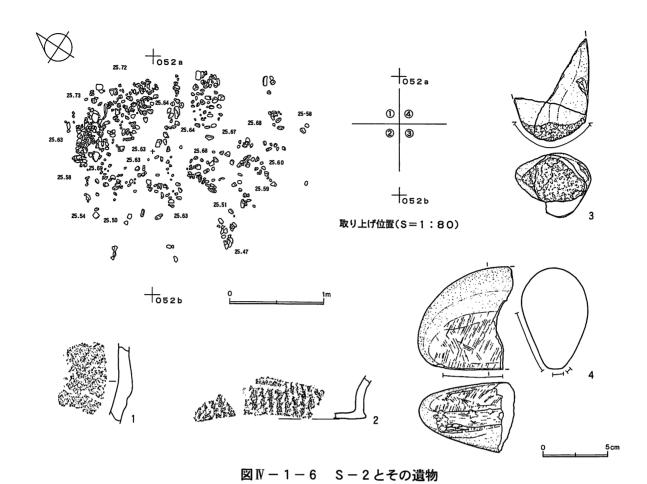
S-2の礫片と包含層等の礫片について接合を試みたが、付近で接合するだけにとどまり、他の遺構や離れた場所との接合はなかった。接合したものも、本来の大きさが想像される程度にまでなったものは少ない。完形の礫がその場で自然に破片化したなら、接合・復原率の高いことが予想される。 焼土等が検出されず、なおかつ密集した検出状況であることを合わせて考えると、S-2は他の場所で破片化した礫を集め置いた場所と考えられる。

自然な状態にある礫が破片化する原因については、物理的風化と化学的風化がある。しかし、S-2の場合は上述したように、他の場所で破片化した礫を人が集め置いたとみられ、人為による破片化を考えなければならず、打ち割りや被熱による破片化が想定される。礫片に打ち割りを示唆する打点等の痕跡はみられないが、表面が赤みを帯びているものは比較的多いことから、被熱に関係していると考えるのが妥当であろう。

破片化の原因を被熱に求めると、礫片に何らかの被熱痕が残されている可能性はあるが、石囲い炉等のように出土状況によらなければ判断の難しいことが多い。一般に被熱による礫の変化(形態的変化以外)については、表面の赤色化、炭化物や煤の付着が想定されている。S-2の礫・礫片も、比較的赤みを帯びているものは多いが、被熱していると即断できるものではなく、他の様々な状況から推し量った上で初めて被熱とみることができる。赤色化は被熱のみならず酸化によることも考えられ、出土地点の環境も含めて判断する必要がある。炭化物や煤とみられる黒色物質は数点の原石面にみられたが、割れ面への付着例は見当たらなかった。また、赤みをおびた割れ面もみられなかったことから、破片化したものは再び熱を受けていないと推測される。

以上のことをまとめると、S-2は被熱によって破片化、或いは脆くなったため、再利用することのないものを集め置いた場所と考えられる。但し、被熱は破片化の原因とみられるが、直接的か間接的かということは判然としていない。

遺 物: S-2からは、土器16点、たたき石1点、すり石1点が出土している。1は $\blacksquare$ 群b-3類で、器面に綾絡文がある。2は $\blacksquare$ 群b-1類で張り出した底部に短縄文が施されている。3のたたき石は



一端にたたき痕が集中している。表面が赤みを帯びた破片 3 点の接合であることから、使用されなくなった後、S-2 の礫と同様に扱われ破片化したと推測される。石質は砂岩製。 4 のすり石は破損の状態が S-2 の礫片と異質で、もともとこの位置にあった可能性が高い。横断面が三角形の礫の 1 稜が擦られている。石質は砂岩製。

時期:検出した層位、周囲の遺物出土状況から、縄文時代中期後半の可能性が高い。 (笠原) \*表Ⅳ-1-5(H-4接合礫一覧)、表Ⅳ-1-11(S-2接合礫等一覧)中における礫の「形状」、および「接合・残存状態」の区分は、『土壌調査ハンドブック』(ペドロジスト懇談会1984)の「石礫の形状」(円磨度による)、『清水上遺跡』(新潟県埋蔵文化財調査報告書第55集)の「遺存状態」からそれぞれ判断した。

表Ⅳ-1-9 S-2掲載土器一覧

掲載	海嬨夕	遺構名 遺物 層位 破片			分類	日. 用作动作の修护、整根区 居住 上数/1 上の担人は少型(***) ***   日   ***		
番号	退佣石	番号	唐山	点数	掲載	総数	刀類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
1	S-2	9	覆土4	1	1	5	<b>I</b> I b − 3	(非掲載) S-2-9 覆土4(5).
2	S-2	4	覆土3	1	1	2	I b – 1	(掲載) O52a 3 V下.

表IV-1-10 S-2掲載石器-覧

掲載 番号	遺構名	遺物番号	層位	分 類	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
3	S-2	10	V中	たたき石	$(8, 0) \times (5, 95) \times (5, 05)$	(134, 5)	砂岩	①2点、④1点が接 合、被熱、破損品
4	S-2	8	V中	すり石	$(8.0) \times (7.56) \times (5.50)$	(360)	砂岩	破損品

表 IV - 1 - 11 接合礫等一覧(S - 2 関係)

	- 1 - 11			,	- 2   製 1		<del>r</del> -			<del>- 1</del>
接合番号	形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	破片 点数	接合関係	接合・ 残存状態	石質	備考
1	亜円礫	7. 0	6. 3	4. 3	260. 9	2	①2	完形	泥岩	
2	亜角礫	8. 0	5. 1	3. 1	151. 5	4	①3+②1	完形	不明	
3	亜角礫	9. 5	7.0	3, 3	269.6	2	①2	略完形	砂岩	
4	亜角礫	6. 7	4.4	2. 7	91.6	2	②1+O51d, 1	略完形	砂岩	
5	亜角礫	6.4	5.4	4.6	17. 9	6 2	04 + 21 + 051d, 1 02	破損 破片	泥岩 不明	
7	亜角礫	7. 3 8. 9	5. 5 3. 3	3. 1	115. 3 83. 4	$\frac{2}{2}$	①2	破片	泥岩	
9	<u>亜角礫</u> 亜円礫	6. 1	4.8	3. 3	109. 9	3	①3	破片	泥岩	
10	亜角礫	9. 4	5.6	5. 8	299. 0	3	①2+O51d, 1	破損	砂岩	
11	亜角礫	8. 1	4. 2	3. 2	125. 3	4	①3+②1	破損	チャート	
12	亜円礫	4.7	2.7	1.8	21.6	2	①2	破片	不明	
13	亜円礫	10. 2	10.0	4.6	517. 0	2	①2	破片	砂岩	煤付着
14	亜円礫	7.4	3. 6	1. 5	47. 4	2	①2	破片	砂岩	
15	亜円礫	6. 9	4, 6	3. 0	82. 4	2	①2	破片	不明	
17	亜角礫	4.8	3. 8	1.7	27. 1	3	1 2 + 2 1	破片	泥岩	
18	亜円礫	4. 5	5. 5	3. 4	81. 3	3_	$ \begin{array}{c} \boxed{1}2 + \boxed{3}1 \\ \boxed{1}2 \end{array} $	破損	不明 砂岩	<b>州 小 辛</b>
19 20	亜角礫	7. 7	6.3	3. 5	135. 3	2	$\bigcirc 2$	破損		煤付着
21	亜円礫 亜角礫	7. 3	5. 7 12. 0	3. 2 9. 9	161. 9 710. 0	9	$\bigcirc 2$ $\bigcirc 5 + \bigcirc 2 + O51d, 2$	破損 破片	不明 片麻岩	煤付着
22	<u> </u>	3. 5	3.8	14. 2	19. 4	3	103+22+0314, 2 12+21	破片	泥岩	
23	亜角礫	8. 1	5. 2	2.7	113. 5	4	12 + 31 + 41	破片	不明	
24	亜円礫	11. 2	6.0	5. 9	478. 9	4	①4	破損	砂岩	
25	亜角礫	6. 5	5. 6	3. 7	105. 7	2	① 2	破片	砂岩	
26	亜角礫	10.6	6, 2	5. 5	356. 9	4	①3+④1	破損	泥岩	
27	亜角礫	11.8	6.3	6.5	567. 5	7	12+23+31+41	破損	砂岩	
28	亜円礫	9. 3	7.8	2. 7	193. 8	5	1 + 21 + 051d, 3	破片	不明	
29	亜円礫	11. 2	5. 1	3. 7	193. 0	2	1 + 2 1	破損	砂岩	
30	<b>亜円礫</b>	6.3	3.6	1.5	39.6	2	22	破片	片麻岩	
31	亜角礫 亜円礫	8.3	5. 1 6. 5	4. 0 4. 7	171. 2 190. 1	<u>3</u>	①1+②2 ②2	破損 破片	泥岩 砂岩	
34	<u> </u>	8. 4 8. 5	5. 1	5. 2	274. 5	2	②1 +O51d, 1	破片	泥岩	
35	<u> </u>	11. 1	8. 0	5. 9	404. 6	3	②3	破損	砂岩	赤色化
36	亜円礫	7. 5	6.3	4.8	223. 8	4	②3+③1	破損	泥岩	からに
37	亜円礫	10. 2	5, 8	3. 1	166. 0	2	②3+③1 ②2	破片	砂岩	
38	亜角礫	9. 4	4.8	4.6	203. 9	2	2 2	破片	泥岩	,
39	亜円礫	11. 3	6.6	6, 2	317. 3	6	②3+③1+O51d, 2	破片	不明	
46	亜円礫	4.8	4. 5	3. 5	101. 0	3	33	破片	不明	
47	亜角礫	5. 3	6.0	2, 6	51. 5	2	<u>4</u> 2	破片	不明	
48	亜角礫	6.6	3, 5	2.8	95. 5	2	<b>4</b> 2	破片	砂岩	
49 50	亜角礫	6.6	5. 3	1.8	55. 1	2	<ul><li>4) 2</li><li>4) 2</li></ul>	破片	砂岩 砂岩	
51	亜円礫 角 礫	7. 0	5, 0 4, 5	2. 3 3. 4	61. 2 136. 4	3	<u>4</u> 3	破片 破片	<u> </u>	
52	<u></u>	5. 7	3. 2	3. 1	62. 8	$\frac{3}{2}$	(4) 2	破片	<u> </u>	
53	亜角礫	7.6	5. 2	2.6	107. 7	4	<u>3</u> 1+ <u>4</u> 3	破片	チャート	
54	亜円礫	6. 9	7. 2	2. 3	86. 3	5	31+44	破片	不明	
56	亜円礫	7.8	7.7	4.7	277. 8	2	<b>4</b> 2	破片	不明	
57	亜円礫	8. 5	5. 6	4. 5	309. 9	2	<b>4</b> 2	破片	不明	
58	亜角礫	5. 7	7.4	3, 5	108. 2	2	①2	破片	不明	
59	亜円礫	7.4	3. 5	2. 5	77. 3	4	104	破片	不明	
60	亜円礫	8. 0	6.3	3.6	159. 4	2	22	破片	泥岩	
61 62	亜角礫	7.8	4.3	3. 1	87. 1	2	②1+O51d, 1	破片	不明 砂岩	
63	亜角礫 _ 亜円礫	6. 2 5. 7	4. 6 3. 1	2. 2	61. 2 24. 3	3 2	②1 +O51d, 2 ②1 +③1	<u>破片</u> 破片	<u> </u>	
64	 一亜角礫	5, 8	3, 6	2. 5	52. 3	3	②1+③1 ②3		砂岩	
65	<u> </u>	7. 0	4. 5	4.6	188. 8	2	位置不明2	破損	不明	
239	亜円礫	8.8	7. 0	3. 7	204. 1	3	12+41	破片	泥岩	
240	亜角礫	7. 7	5. 7	4. 4	84. 0	3	①3	破損	チャート	
241	亜円礫	8. 6	6. 1	1.6	61.6	2	①2	破片	砂岩	
242	亜円礫	7. 1	6.0	3. 4	103. 3	2	1)2	破片	不明	
243	亜円礫	10. 3	5. 7	4. 5	386. 4	1		略完形	泥岩	煤付着
244	亜角礫	8.6	3. 0	2. 7	81.6	1		完形	砂岩	+ 5.14
245	亜角礫	9.4	7.4	4, 2	377. 8	1		完形	砂岩	赤色化
246 247	 亜角礫	6. 8 5. 5	3. 7 3. 2	2. 7	97. 4 53. 8	1		完形 完形	<u>泥岩</u> 不明	
248		8.5	3. 6	2. 9	100.0	1			<u> </u>	赤色化・炭化物付着
249	<u> </u>	8.0	5. 7	2. 3	126, 6	1		破片	泥岩	赤色化・炭化物付着
250	亜角礫	5. 6	3. 1	2. 0	46. 8	1		破片	泥岩	煤付着
251	亜円礫	9. 4	4. 9	4, 2	194. 2	1		破損	砂岩	赤色化・煤付着
×243~	-251は接合	していた	-645	※※接合	関係の①	2)(3)(4)V	は図Ⅳ-1-6中の位置を			

## 2 包含層出土の遺物

### (1) 土 器

### 概要

平成14年度、米原 4 遺跡では遺物包含層より2,987点の土器が出土している。すべて縄文時代のものである。各時期別の出土点数および包含層出土土器全体に占める割合を多い順に記すと、縄文時代中期後半の土器が1,202点と40.2%を占めている。次いで、前期前半のものが725点で24.3%となっている。以下、後期初頭のものが300点で10.2%、早期後半のものが252点で8.4%、後期後葉のものが85点で2.81%、中期前半のものが3点で0.1%、前期後半のものが1点で0.03%となっている(表 $\mathbb{N}$  – 2 – 1)。

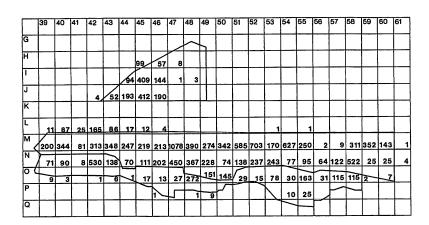
各時期の出土層位別出土点数と時期別出土点数に占める割合は、縄文時代早期後半の土器はV層下位で172点(68.3%)、VI層で37点(14.7%)、前期前半のものはV層下位で52点(94.5%)、前期後半はV層中位で1点(100%)、中期前半のものはV層上・中・下位で各1点ずつ(各33.3%)、中期後半のものはV層下位で677点(56.3%)、V層中位で354点(29.5%)、後期初頭のものはV層下位で228点(76%)、VI層で70点(23.3%)、後期後葉がV層中位で49点(57.6%)、V層下位で23点(27.1%)となっている。

図 $V-2-1\sim3$ では各時期の土器の分布図を示した。遺跡全体を概観するために、平成12年度の分布図と合わせて示した。平成12年度の調査範囲と平成14年度の調査範囲にまたがるグリッドからの出土点数については、両者を合計した数字を掲載した。また、表 $V-2-2\cdot3$ の包含層掲載土器一覧で「破片」の欄で「点数」とあるのは見出しとなった破片の点数、「掲載」とあるのは実測図・拓本で掲載した破片の数、「総数」は当該個体の破片総数である。「同一個体破片の情報」の部分では見出しに記した破片以外の掲載破片と非掲載破片の情報を、発掘区(グリッド・小グリッド)・遺物番号・層位(V層上位はV上、V 層中位はV中、V 層下位はV下と略した)・点数の順に記載した。発掘区と層位の部分については前に記載したものと同じ場合には「同」として省略した。層位の次の数字は点数であり、1点の場合は1を省略した。

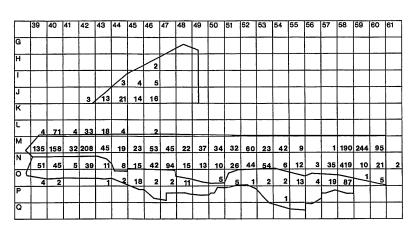
表 IV - 2 - 1 層位別出土土器点数一覧

分類	I 層	Ⅲ層	IV層	上位	V 層中位	下位	VI層	風倒 撹乱	表採 排土	計	
Ⅰ群 b-1類		7		5	25	172	37	4	2	252	
縄文時代前期											
<b>II</b> 群 a−1類						52	3			55	
<b>I</b> I群 a−2類			1	23	170	442	31	3		670	
Ⅱ群b類					1					11	
縄文時代中期											
Ⅲ群a類				1	1	1				3	
<b>Ⅲ</b> 群 b-2類	1	3		19	53	92	4	7		179	
<b>Ⅲ</b> 群 b-3類	1	3		28	185	316	28	4		565	
Ⅲ群 b 類細分不能	2	8	3_	33	116	269	23	4		458	
縄文時代後期											
──W群a類				1		228	70	1		300	
縄文時代晩期											
V群c類_			1	9	49	23	3			85	
			r	<b>-</b>					_		
分類不明				9	55	328	21	6		419	
								-			
合 計	4	21	5	128	655	1923	220	29	2	2987	

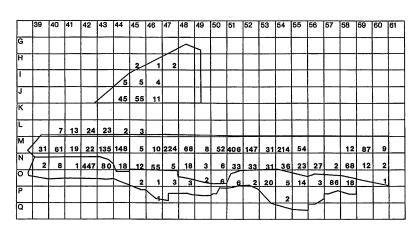
# 全体の土器分布



縄文時代早期 の土器分布 ( I 群 b - 1 類)



縄文時代前期 の土器分布



II 群a類土器の分布

上段: || 群a − 1 類 下段: || 群a − 2 類

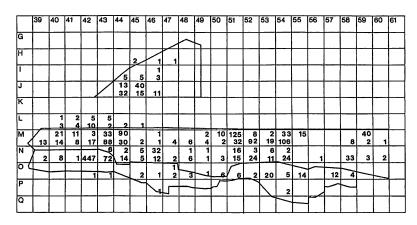
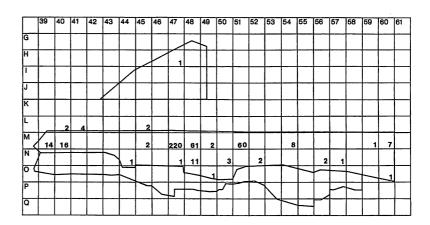
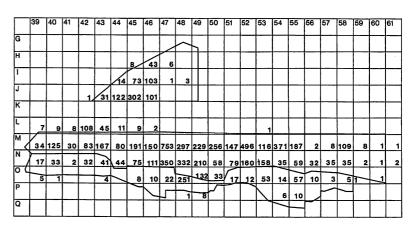


図 Ⅳ - 2 - 1 包含層出土土器分布図(1)

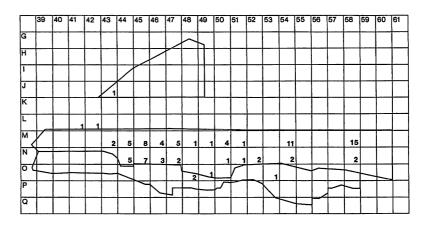
# II 群 b 類土器の分布



# 縄文時代中期 の土器分布



# Ⅲ群a類土器の分布



# Ⅲ群b類土器の分布

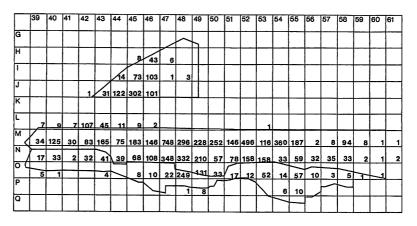
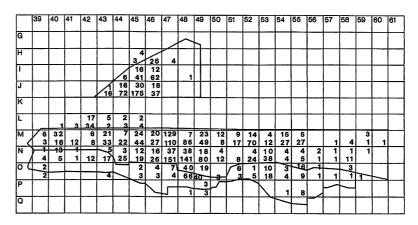


図 Ⅳ - 2 - 2 包含層出土土器分布図 (2)

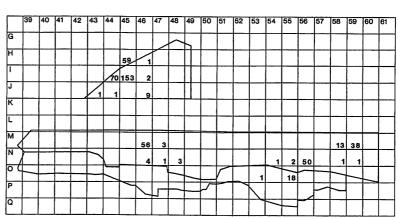
Ⅲ群b類土器の分布

上段: Ⅲ群b-2類

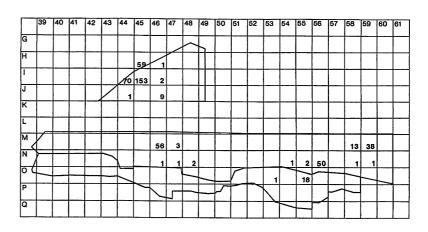
下段: Ⅲ群b-3類



# 縄文時代後期の土器分布



IV群a類土器の分布



縄文時代晩期の土器分布

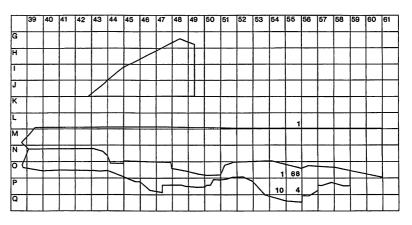


図 Ⅳ - 2 - 3 包含層出土土器分布図 (3)

### 縄文時代早期の土器

### Ⅰ 群 b - 1 類 (3~14)

### 東釧路 II 式に相当するもの (3~5)

3は RL の縄による2本単位の斜位の圧痕が横走気味に施されている。口唇は尖り気味で、わずかに外反する。内面はなで調整され、指頭痕が顕著である。4は LR の縄による横位の圧痕と LR 縄文が施文方向を変えて施文されている。内面には条痕がある。5 は底部に縦方向で面取りしたような段がある。いずれも胎土に微量の黄褐色火山灰を含む。3 には細礫、4・6 には黒色鉱物を含む。

# 東釧路Ⅲ式に相当するもの (6~14)

# a 組紐圧痕文をもつもの (6~8)

 $6 \sim 8$  は幅  $4 \sim 5$  mmの組紐圧痕文をもつ。 6 は縦位・斜位の組紐圧痕文により文様が構成される。  $7 \cdot 8$  は横位の組紐圧痕文と短縄文が組み合わせて施文されている。  $6 \cdot 8$  は口唇が縄により刻まれ、胎土に黄白色火山灰・砂・黒色鉱物を含む。7 は砂を含む。いずれも内面はなで調整されている。

### b 縄の圧痕をもつもの (9~12)

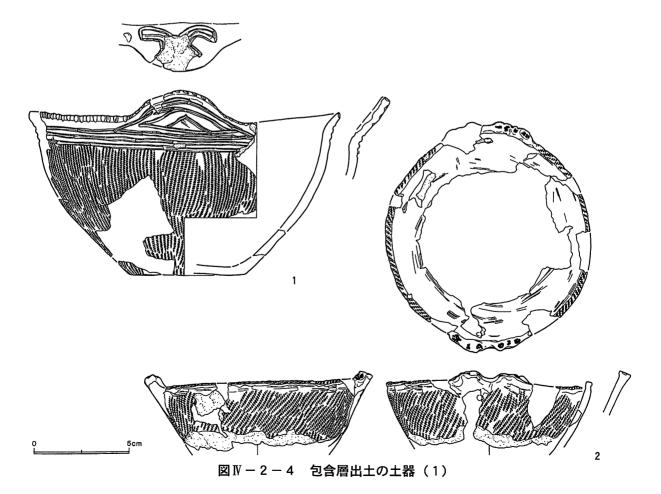
9~12は縄線文をもつ。10はループ状圧痕文、12は短縄文と組み合わせて文様が構成される。いずれも内面はなで調整され、胎土に黄褐色火山灰・砂を含む。11・12は黒色鉱物を含む。

### c 縄文もつもの(13)

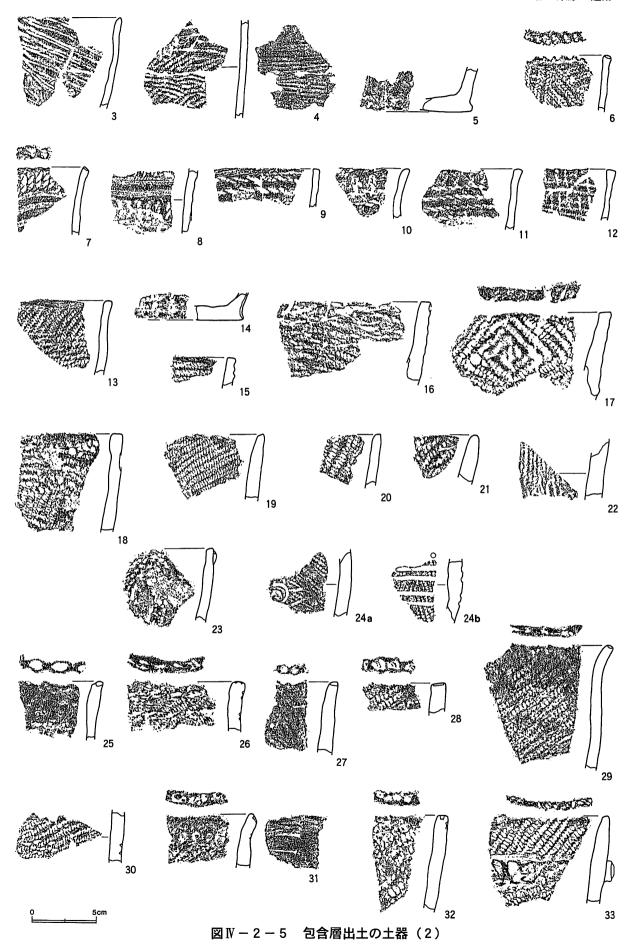
13は LR の縄文が方向を変えて施される。内面はなで調整され、胎土に黄白色火山灰・砂を含む。

### d 底 部 (14)

14は張り出した底部に短縄文が施されている。胎土には砂・黒色鉱物を含む。



50



### 縄文時代前期の土器

### Ⅱ群a-1類(15~18)

 $15\sim18$ は器面に RL の縄文をもつ。 $15\cdot16$ は幅  $4\sim5$  mmの横走気味の縄文、17は幅 6 mm、18は幅 5 mmの縄文が方向を変えて羽状に施されている。 $16\cdot17$ は縄文施文後に器面がなでられている。いずれも内面はなで調整され、18には指頭痕が残る。胎土には繊維・黄白色火山灰・細礫を含む。17は黒色鉱物を含む。

#### **II 群 a − 2 類** (19~21)

19~21は LR 斜行縄文をもち、内面はなで調整されている。胎土に繊維・黄白色火山灰を含む。20・21は黒色鉱物を含む。

#### Ⅱ群b類(22)

1点のみ出土した。縦走気味の Rl の縄文をもつ。内面は縦になで調整される。胎土に繊維・砂・ 黄白色火山灰を含む。

### 縄文時代中期の土器

### Ⅲ群a類 (23·24)

23はサイベ沢 MI式に相当する。口縁に山形突起、無文地の器面に幅 6 mmの貼付文をもつ。貼付には棒状工具による刺突が施される。口唇・内面は磨かれており、胎土に黒色鉱物を含む。24は大木 8 a 式に相当する。RL の縄文地に渦巻文・沈線文が施されている。内面は磨かれており、胎土に黄白色火山灰・黒色鉱物を含む。

#### **Ⅲ群 b-2類**(25~33)

施文の特徴により  $a\sim d$  に分けた。なで調整された器面に指頭痕の残るものが多い。胎土には砂・ 黒色鉱物を含む。

### a 指頭による刺突文をもつもの(25)

25は口唇に指頭による刺突文をもつ。器面は無文地である。

# b 半截竹管状工具による刺突文をもつもの(26~30)

26は口唇と LR の縄文が施された口縁に半截竹管による刺突文をもつ。27~29は口唇に半截竹管状工具による刺突文をもつ。27の器面には RL、28・29には LR 斜行縄文が施されている。

### c 竹管状工具による刺突文をもつもの (31・32)

31・32は口唇と LR 斜行縄文の施された口縁に竹管による刺突文をもつ。31は口縁が外反する。

# d 貼付帯をもつもの (33)

33は LR 斜行縄文の施された口縁に巡らされた幅 $16\sim17$ 、厚さ  $9\sim19$ mmの貼付帯が指頭により刻まれている。器面の縄文は先細りの口唇におよぶ。

### Ⅲ群 b-3類 (96~99)

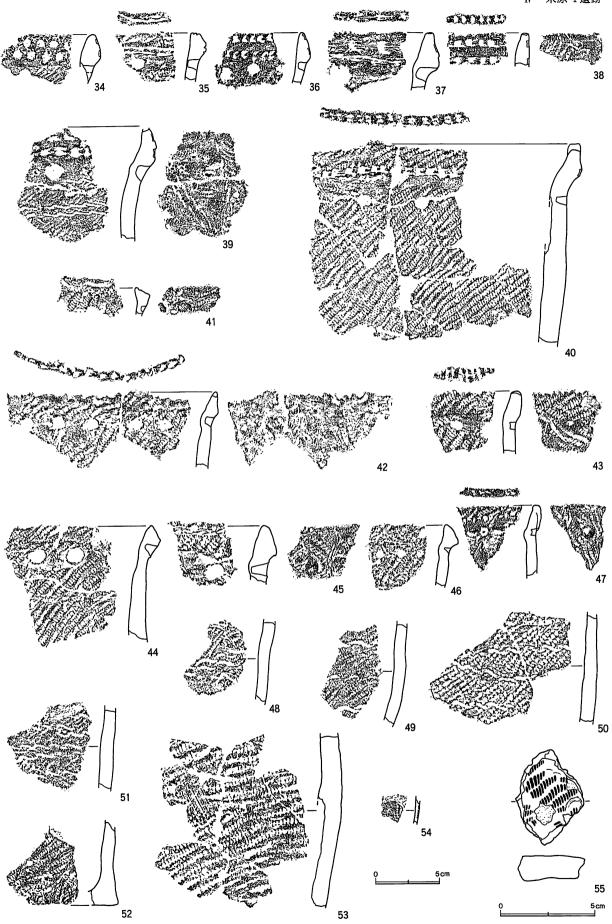
施文の特徴により a~g に分けた。a~f の口縁には円形刺突文が巡る。いずれも内面はなで調整され、胎土には砂・細礫を含む。

# a 口縁に刺突文をもつもの(34)

34は肥厚した口縁に竹管状工具による2列の刺突文をもつ。器面にはLrの縄文が認められる。胎土に砂・細礫を多く含む。

### b 口縁に沈線文をもつもの(35)

35は器面に LR の縄文がほどこされ、肥厚した口縁には半截竹管状工具による沈線文をもつ。胎土には黒色鉱物を含む。



図Ⅳ-2-6 包含層出土の土器(3)

# c 口縁に連続刺突文をもつもの(36)

36は口縁に半截竹管状工具による2列の右方向からの連続刺突文をもつ。胎土には砂が多く、黄白 色火山灰を含む。

# d 口縁に押引文をもつもの (37~40)

37~40は口縁に押引文をもつ。施文具は37が幅10㎜の箆状工具と幅4㎜の半截竹管状工具、38は6㎜の箆状工具、39・40は5~6㎜の半截竹管状工具である。39・40は口縁に小突起をもつ。37・38・40は口唇にも同様の工具による施文がある。39は器面に綾絡文、40はLR 斜行縄文が施されている。39は内面にも縄文が認められ、胎土には小礫が多く豆餅状を呈す。

### e 口縁に綾絡文をもつもの(41)

41は肥厚した口縁に綾絡文をもち、口縁内面にも縄文が認められる。

### f 口縁が縄文地のみのもの(42~47)

42~47は縄文地の口縁に円形刺突文のみが施されたものである。42~44・46・47は LR 斜行縄文、 45は LRL である。42・43・45・47は口縁内面にも縄文が認められる。

### g 胴 部 (48~51)

48~51は綾絡文の施された胴部である。48は胎土に黄白色火山灰、51は黄白色火山灰・黒色鉱物を含む。

### Ⅲ群b類(52)

52は底部がわずかに張り出し、器面に LR 斜行縄文が施されている。胎土には黄白色火山灰を含む。 縄文時代後期の土器

### **IV群a類**(53)

53はタプコプ式に相当するものである。器面には LR 斜行縄文が施され、縄文施文後に器面がなでられている。内面は横になで調整されている。胎土には黄白色火山灰・砂・細礫を含む。

### 縄文時代晩期の土器

# V群c類(1·2)

1 は推定口径24.5cm、器高14.6cm、底径9.3cmをはかる鉢形土器である。器面には縦走気味のRLの縄文が施されている。外反する口縁には山形突起をもち、口縁と突起に半截竹管状工具の凸部よる幅3mmの沈線文をもつ。口唇は同様の工具の凸部により刻まれ、突起縁辺には凸部と凹部による刺突文が施され、突起内面にも沈線文をもつ。内面は丹念な横なでにより調整されている。胎土には黒色鉱物を多く含む。胴部および胴部・底部に補修孔がある。

2は長軸口径18.1cm、短軸口径16.2cm、現存器高6.5cmを計る浅鉢形土器である。底部を欠く。口縁に2対1組の突起、突起縁辺には棒状工具による刺突文をもつ。器面・口唇にLR斜行縄文が施さる。内面は磨かれており黒色を呈す。胎土に黒色鉱物を含む。両側の突起下に補修孔がある。

### ミニチュア土器・土製品

# ミニチュア土器

54は器壁厚3㎜のミニチュア土器で、径1㎜以下の刺突文をもつ。内面はなで調整され、胎土に黄白色火山灰を含む。

# 土製品

55はⅢ群 a 類の胴部破片を利用した再生土製円盤である。二次焼成を受けている。磨耗した器面には羽状縄文が認められる。内面は粗雑に磨かれている。胎土に黄白色火山灰・細礫・黒色鉱物を含む。

(鎌田)

表 № - 2 - 2 包含層掲載土器一覧 (1)

22.11				1/首/均拟工品 - 見			ин 50			
掲載	発掘区	遺物	層位	破片			分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした		
番号		番号		点数	掲載	総数				
1	O55b	9	V中	2	44	62	Vс	(掲載)O54c 7 Ⅳ,O55a10 V 上,同 b 1 同,同10同25,同24 V 下 4,同36同,同 d14 V 中, P54a 3 V 上 3,同 d 2 V 下 2,同 5 Ⅵ,同55d 3 V 上,同 4 Ⅵ. (非掲載)O55b 6 V 下 2,同10 V 中 5,同24 V 下 4,同56b 4 同,P54a 7 V 中,同10 V 下,同 d 2 同 3.		
2	O55b	31	V下	1	13	14	Vс	(掲載)O55b1 V上,同6 V下2,同10V中9.(非掲載)O55b6 V下.		
3	J46b	13	V中	4	5	12	I b-1	(掲載)J46b37 Ⅵ. (非掲載) J46b13 V中,同29 V下,同37 Ⅵ 2,同 c 6 V下,同21同 2.		
4	J44b	14	V下	2	2	8	I b – 1	(非掲載)I45c19 Ⅵ,J43b 1 V中,同 c 6 Ⅵ,同44b12 V下,同18 Ⅵ,同45c20 V下.		
5	J43b	1	V中	1	1	1	I b – 1	(特徵)		
6	J44b	6	V下	1	1	1	I b-1	(特徵)		
7	N40b	1	Ш	1	1	14	I b – 1	(非掲載)N39a5 V中,同10 Ⅵ,同 c 1 Ⅲ,同40b6 V下 2,同7同 2,同11同 1,O39d 1 Ⅲ,同6 V中,同9 V下 2,同40a 1 V上.		
8	N42a	8	V下	1	1	6	I b-1	(非掲載) I44c17 V下,J45同 2,同 d29 Ⅵ,N41a 3 V中.		
9	N39c	5	V上	1	1	2	I b – 1	(掲載) N39d 7 VI.		
10	N42d	12	V下	1	1	1	I b-1			
11	N42d	12	V下	2	2	3	I b-1	(非掲載) N40b14V下.		
12	J44a	18	VI	1	2	15	I b – 1	(掲載)J44b12V下. (非掲載)J41a 1 V下 2,同44同13同,同 b12同,同14同,同45c22 W 3,同46b31 V下,N43c11同 2,排土 3 (2).		
13	J46b	41	撹乱	1	1	1	I b-1			
14	N39d	5	V下	1	1	1	I b – 1			
15	O47c	10	V下	1	1	1	II a - 1			
16	J45c	7	V下	4	4	36	II a − 1	(非掲載) J44c24V下9, 同33同, 同35同3, 同45同7同19		
17	N42d	13	٧Ŧ	3	3	327	II a − 1	(非掲載) J45a25V下, 同 b13同, 同 c 7 同 2, 同 d15同 2, 同46a16 V 上, N42b 1 V 中, 同 c 4 同 4, 同10同66, 同12 V 下123, 同16同26, 同25 W 5, 同 d 3 V 中 5, 同13 V 下57, 同22同 7, 同43a19同, 同28 W 2, 同 b26同, 同 c21 V 下, 同 d 2 同 4, 同 3 同, 同46d1 V 上 9, O42d 2 V 中, 同53a25 V 下, 同33 撹乱, P46同 1 V 上.		
18	N43b	13	V下	1	1	12	II a – 1	(非掲載) N42c4 V中,同10同,同12V下,同25 VI 2,同43b13 V下,同14同,同 c5同 2,同 d 2 同 2.		
19	O53a	13	V下	1	1	1	II a – 2			
20	I44c	19	V下	1	1	1	I a - 2			
21	I45c	21	VI	1	1	1	II a - 2			
22	H47a	1	V中	1	1	1	Ιb			
23	O48c	19	V下	1	1	1	Πa			
24	O53a	4	V上	1	1	1	· II a			
	J43a	1	V中	1	1	1				
25	N40b	16	V下	1	1	1	<b>I</b> I b − 2			
26	I46b	10	V上	1	1	1	<b>II</b> b − 2			
27	O39d	2	Ш	1	1	1	<b>II</b> b − 2			
28	O53d	6	V中	1	1	1	<b>I</b> I b − 2			
29	O48c	8	V上	1	1	3	<b>II</b> b − 2	(非掲載) O48a 6 V中,同49b 1 V下.		
30	O55c	9	V下	1	2	3	<b>II</b> b − 2			
31	O48c	2	V上	1	1	8	<b>I</b> I b − 2	(非掲載)O47c11V下,同49b1同2,同9同2,同55c8V下,P49a3V中.		

表 № - 2 - 3 包含層掲載土器一覧 (2)

掲載	発掘区	遺物番号	層位	破片		_			
海戦番号				点数			分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした	
32	O51c	1	V中	1	1			(非掲載)J45a14V下, O56a 2 V上.	
33	I46b	8	V下	1	1		II b − 2	W. 1910-1-1-1	
34	I45c	5	V中	1	1			(非掲載)I45c 1 V中,同 d 3 同.	
35	J43b	8	V下	1	1		II b − 3		
36	J45a	12	V下	1	1	3	II b − 3	(非掲載) J45a12 V 下, 同 c 8 同.	
37	O48c	12	V下	1	1	1	II b − 3		
38	H46b	3	V中	1	1	1	<b>I</b> b − 3		
39	I45d	4	V中	1	2	31	II b − 3	(掲載) I45a 4 V中. (非掲載) H46b 2 V中 2,同14V下,同16同,同 c 8 同,同13V中,同17V下, I45同 2 V中 2,同 d 同 1,同 4 同,同10同 2,同46a 4 同 2,同 9 V上 3,同16 V中 2,同27V下 4,同52同,同 b 1 V上,同 d 9 同,同12V下 2.	
40	J45b	16	٧Ŧ	6	15	148	II b−3	(掲載) J45a 7 V中 2,同12 V下 3,同13同 3,同 b 8 V中. (非掲載) I44c10 V下, J43b16 VI 3,同 c 5 同 3,同 d 6 V下,同 7 同,同44a 5 V中 2,同 b19 V下,同 c25 V,同 1 V中 2,同15 V下 2,同16同15,同25同,同 d 2 V中,同 7 同,同14 V下 12,同45a 1 V中 3,同 7 同10,同 8 同,同12 V下 17,同13同20,同 b 1 V中 2,同 8 同 6,同14 V下 5,同15同 8,同16同 9,同 c8 同 2,同 d14 同,同46b16 V中,同 a21同,P49d 1 V上.	
41	O52d	1	V上	1	1	1	<b>I</b> I b − 3		
42	J46a	21	V中	1	2	12	<b>I</b> I b−3	(掲載)J46b17V中. (非掲載)I45b8V下,同c2V中,同d同,J44a同V下,同45同13同,同c4V中,同8V下,同b5V中,同15同,N40d6VI.	
43	J43b	3	Vψ	1	1	5	II b − 3	(非掲載) I44c10 V 中, 同45b 3 同, 同46同15同, 同16同.	
44	J45b	27	V下	1	3	5	<b>II</b> b−3	(掲載)J45d16V下,同46b17V中.(非掲載)I45c2V中,J同 b27V下.	
45	O46a	11	風倒	1	1	7	<b>I</b> I b−3	(非掲載)O48b6 V下,同11同2,同13同2,同53a24同.	
46	O45a	22	風倒	1	1	1	<b>I</b> I b−3		
47	I45c	24	V下	1	1	4	<b>I</b> I b−3	(非掲載)I45c24V下,J同1V中,同d14V下.	
48	P49a	3	V中	1	1	18	II b − 3	(非掲載)H46c8 V下,同25V中,I44同10同,同46a16同,同c3 V下,同7 V中,同d9 V上2,同12 W 2,J43b2 V中,同44c1 V中,同15 V下,同45b1 V中,同d8同,同46同3同,O53同5同.	
49	O48d	1	V上	1	1	8	<b>I</b> I b−3	(非掲載)O47c5 V下2,同48a6 V中2,同 b2 V上,同11V下,同12同.	
50	O48a	6	V中	1	2	6	<b>II</b> b−3	(掲載) O48c 8 V上, (非掲載) J46a19 V中, O48b13 V下, 同53d 5 V中, P48a 1 V中.	
51	J46a	19	V中	1	1	12	<b>II</b> b − 3	(非掲載)I46a27 V 下, J44同 2 同 2, 同 d23同, 同45a12同 3, 同 d16同 2, 同46a19 V 中 2.	
52	I45b	2	V 中	1	1	25	Шb	(非掲載)H46c8 V下,I45a10 V中,同 b 2 V中 2,同 c 2 同,同46a16同,同 c12 V下,J45b15同 2,同 d16同 2,同46a12同 2,同16 V上,同 b12同,O53a21 V中 2,同24 V下,同26同,同54c 3 同 2,同55b35同,P49a 3 V中 2.	
53	I45d	27	٧Ŧ	1	9	123	Na	(掲載) H45c 9 V下, I44b 6 W, 同45d18 V下 4, 同26同, 同27同, 同46a30同. (非掲載) H45a 2 V下, 同 c 4 同, 同 9 同 6, 同11同 3, 同12同, 同17同, 同 d 2 同 3, I44b 6 W13, 同 7 W23, 同45d13 V下 7, 同16同, 同18同19, 同19同26, 同26同 4, 同27同 2, 同46a30同 1, J 同 a32同, 同 b34同.	
54	P54a	6	V中	1	1	1	_	(非掲載)P54a 5 V 中 2, 同 6 同 2. ミニチュア土器	
55	O45 O46	7	風倒	1	1	1	土製品	再生土製円盤	

## (2) 石器等

## 概要

包含層からは、石器等が3,480点出土した(表Ⅳ-2-4)。 V層の下位と中位から出土したものが多く、それぞれ1,848点(53.1%)、886点(25.5%)と全体の80%近くを占める。定形的な石器では、石鏃59点、石槍・ナイフ26点、スクレイパー21点、すり石11点、つまみ付ナイフ10点、の順になり、石錐は4点、たたき石は1点と少ない。平成12年度と比べた場合の特徴として、たたき石が少なく、北海道式石冠が出土していないことが挙げられる。本遺跡では縄文時代早期~晩期の土器がみられるが、石器との確実な伴出例はない。石器の形態から時期を類推できるものもあるが、Ⅲ群 b-2・3 類土器が比較的多いことからすると、それに伴う石器の割合も高い可能性がある。平成12年度出土分と合わせると、石槍・ナイフが比較的多く、中期後半における石器組成の一端を反映しているとみられる。

分布については、住居跡(H-1~3)等のある段丘縁辺や、その北西側の沢から出土したものが多く、調査区の東端、西端では次第に減少する傾向にある(図 V-2-7~9)。なお、礫・礫片の分布図で O51区の点数が突出して多いが、集石(S-2) の851点を加えたことによる(N40区では H-4の覆土出土礫58点も加えた)。他にも礫・礫片の点数が多い調査区はあるが、出土状況から集石とは判断されていない。

剥片石器に使用される石材は黒曜石が殆どで、頁岩やチャートは僅かである。黒曜石については、 肉眼で観察される特徴から分類を行った(「Ⅲ遺物の分類」、「Ⅶ成果と問題点」参照)。石斧では緑み を帯びた泥岩、礫石器では安山岩、泥岩、砂岩、片麻岩等が用いられている。なお、実測図は主とし て完形品から作成した。

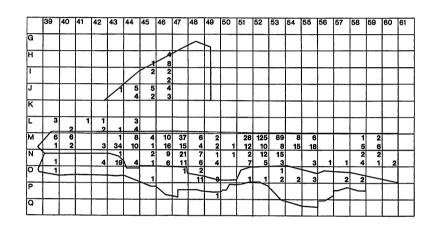
<b>車</b> ₩_	2 _ 1	屋位别出土石器等占数—	些
<b>₹ 17</b> —	/ — 4		Total Control

	/\ # <del>T</del>	W 55		V層		V E	vi e	204	計
	分 類	Ⅲ層	上位	中位	下位	V層	VI層	その他	āT
	石 鏃	1	8	11	34		2	3	59
	石槍・ナイフ	1	2	10	12		1		26
	石 錐				4			1	5
剥片石器	つまみ付ナイフ	1		2	5		1	1	10
	スクレイパー		2	10	7		1	1	21
	Rフレイク	1	3	15	26		2	1	48
	<b>Uフレイク</b>	3	2	17	22			1	45
剥片	フレイク	9	57	231	386		38	29	750
磨製石器	石 斧		1	12	_ 5		2	1	21
	たたき石		1						1
礫石器	すり石	1		3	6				10
	砥 石			2	14		1		17
礫・礫片	加工痕のある礫			4	10				14
「床・「床力	礫 · 礫 片	33	189	569	1317	5	229	111	2453
合	計	50	265	886	1848	5	277	149	3480

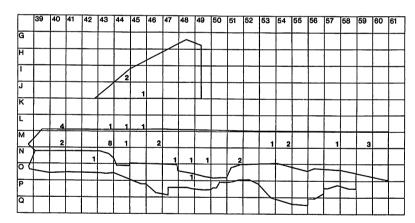
## 石器等全体

上段:石槍・ナイフ

下段:石鏃



## 石 錐



上段:スクレイパー 下段:つまみ付ナイフ

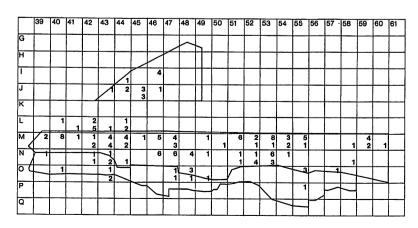
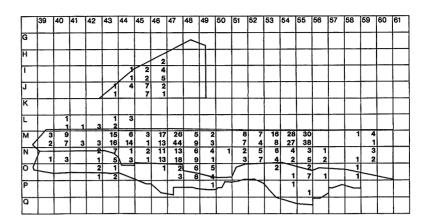
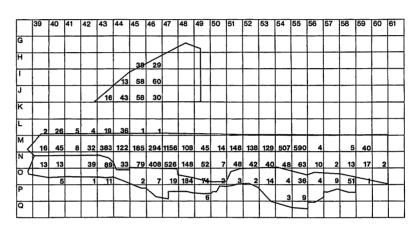


図 Ⅳ - 2 - 7 包含層出土石器等分布図 (1)

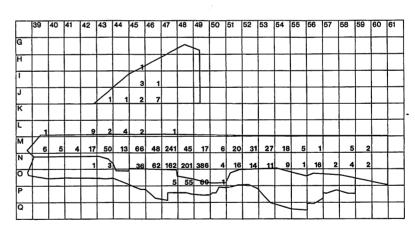
上段: Rフレイク 下段: Uフレイク



フレイク



石 斧



たたき石

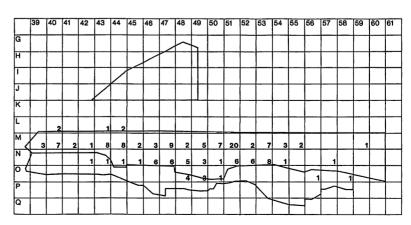
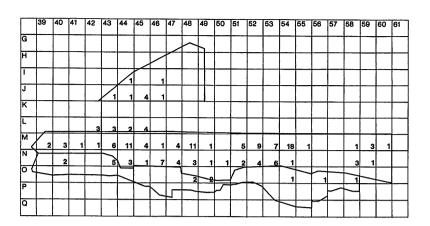
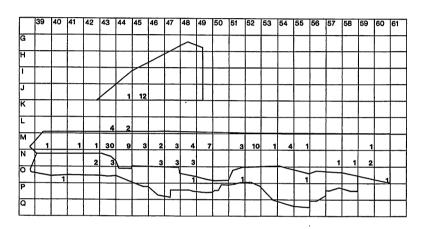


図 Ⅳ - 2 - 8 包含層出土石器等分布図 (2)

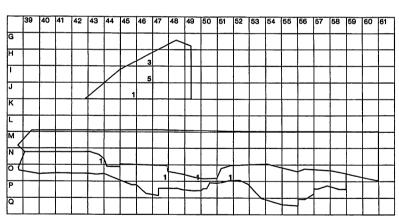
す り 石



砥 石



加工痕のある礫



礫・礫片

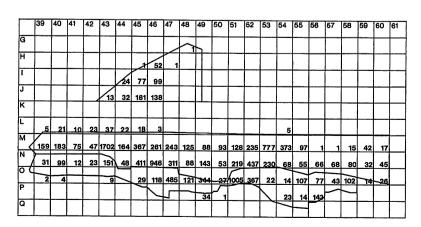


図 Ⅳ - 2 - 9 包含層出土石器等分布図 (3)

#### (1) 剥片石器

## 石 鏃 (図 Ⅳ - 2 - 10 - 1 ~ 8 / 表 Ⅳ - 2 - 5 / 図版10)

59点出土している。無茎鏃16点、有茎鏃18点、小破片のため形態が不明なもの25点である。無茎鏃では凹基7点、平基8点、柳葉形1点、有茎鏃では平基7点、凸基11点となる。1は無茎凹基。尖端部を破損する。 $2\sim8$ は有茎。2は平基で小型。 $3\sim8$ は有茎凸基。 $3\cdot4$ の尖端部縁辺は直線的であるが、5は内側に湾曲している。 $6\sim8$ は茎部が幅広である。 $6\cdot7$ は調整が粗く、石槍・ナイフの再加工品かもしれない。掲載品の石質は3がチャート製、他は全て黒曜石製。

## 石槍・ナイフ (図 Ⅳ - 2 - 10 - 9 ~ 19 / 表 Ⅳ - 2 - 5 / 図版10)

26点出土している。茎が明瞭なもの16点、明瞭でないもの(木葉形や菱形)4点、小破片のため形態が不明なもの2点である。9~13は茎が明瞭なもので、基部は全て凸基。9は全体的に曇りがかっている。双眼実体顕微鏡(10倍)で観察したところ細かい無数のひびが確認され、被熱によるものと考えられる。展開図の裏面では、被熱後に尖端部が作り出されている。11・12の尖端部は破損している。13は尖端部と茎部が破損している。14はかえしが一方の縁辺にだけみられる。15~19は茎が明瞭でないもの。15・16は菱形で最大幅がほぼ中央にある。16の最大幅は尖端部寄りにある。尖端部は破損している。19は一部破損しているが、最大幅は中央付近にある。尖端部以外は曇りがかる。双眼実体顕微鏡(10倍)でその部分を観察したところ線状の傷が多数ついており、風化による曇りと考えられる。このことから廃棄されていた石槍・ナイフを再加工したものと推測される。掲載品の石質は全て黒曜石製。

#### 石 錐 (図Ⅳ-2-10-20~22/表Ⅳ-2-5/図版10)

5点出土している。素材の一端に尖端部を作り出すもの2点、棒状のもの2点、小破片のため形態が不明なもの1点である。20は原石面のある剥片の一端に尖端部を作り出している。尖端部は僅かに破損している。21・22は棒状のもの。21の尖端部には潰れがみられる。22は両端に尖端部が作り出されており、下端は磨耗のため光沢が失われている。両縁辺は潰れが顕著である。掲載品の石質は全て黒曜石製。

## つまみ付ナイフ (図 N - 2 - 11 - 23~26/表 N - 2 - 5/図版10)

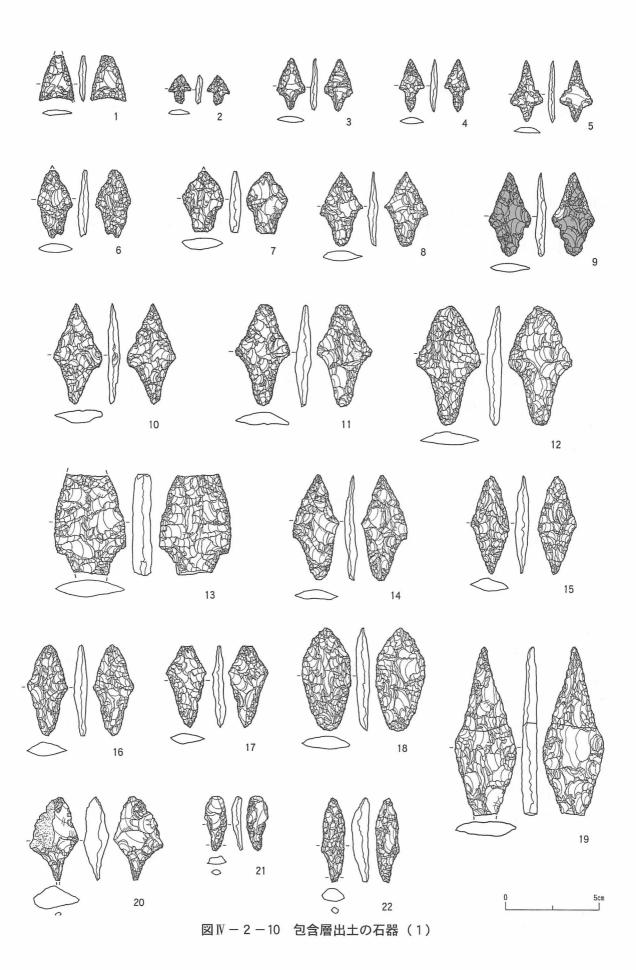
10点出土している。縦型8点、横型1点、小破片のため形態が不明なもの1点である。23・24・26 は縦型。23は片面全面加工で裏面の一部も加工されている。両刃部に潰れがみられる。24・26は両面 全面加工。24は破損品。26の刃部は側面からみると凸凹が顕著である。25は横型で、主に腹面側の周 縁に刃部が作り出されている。掲載品の石質は26が頁岩製、他は黒全て曜石製。

## スクレイパー (図 $\mathbb{N}-2-11-27\sim31/$ 表 $\mathbb{N}-2-5/$ 図版10)

21点出土している。縦長剥片を素材としたもの15点、横長剥片を素材としたもの2点、小破片のため形態が不明なもの2点である。27~29は縦長。27は剥片の下端に急角度の刃部が作り出されている。刃部には潰れがみられる。28の刃部は内側に湾曲ぎみである。30・31は横長。30の打点付近には被熱したような曇りがみられる。双眼実体顕微鏡(10倍)で観察したが、細かいひびは確認されなかった。31には円礫の原石面がみられる。掲載品の石質は29・31が頁岩製、他は全て黒曜石製。

## Rフレイク・Uフレイク・フレイク

これらは図示していない。Rフレイクは46点、Uフレイクも46点出土している。Rフレイクは二次加工のある剥片で、定形的な石器の破片とみられるものが殆どである。Uフレイクは剥片の縁辺に微細な剥落痕が連続するものである。フレイクは黒曜石製652点、頁岩製10点、チャート製17点、泥岩製78点、片岩製1点である。石器と使用石材の関係からみて、黒曜石、頁岩、チャートは、前述した



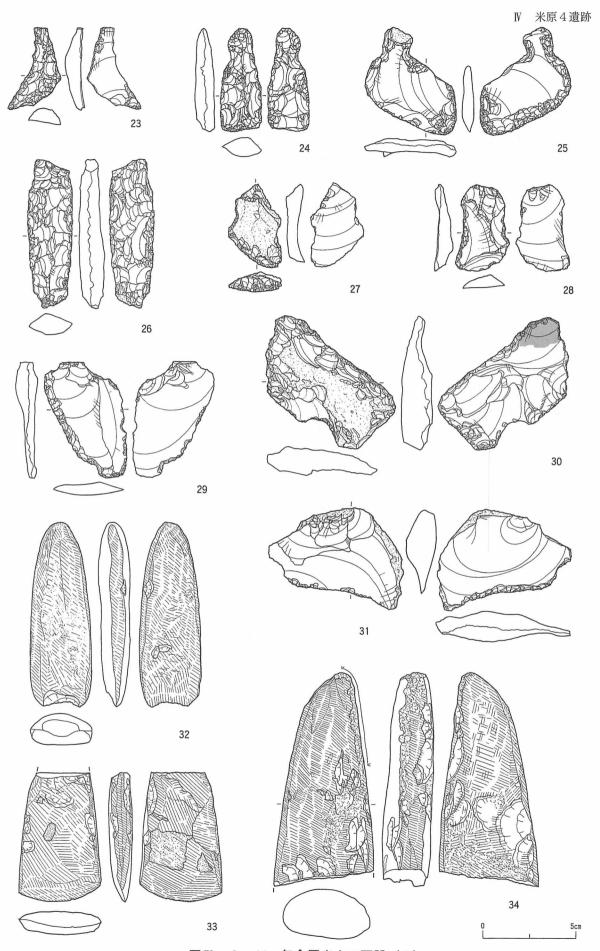


図 Ⅳ - 2 - 11 包含層出土の石器 (2)

剥片石器製作に関わるもの、泥岩は後述する石斧の製作時に生じたものと考えられる。

## (2) 磨製石器

#### 石 斧 (図Ⅳ - 2 -11 - 32~34/表Ⅳ - 2 - 5/図版11)

21点出土している。打ち欠き成形後に敲打痕がみられるもの1点、全面磨製のもの2点、小破片のため製作の方法が不明なもの11点、石斧の原材と推測される緑みを帯びた泥岩製の礫・礫片8点である。側縁に擦切痕のみられるものはない。この他、石斧の製作時に生じたと考えられる泥岩製のフレイクが78点出土している。32・33は全面が研磨されている。32は刃縁の一部を破損するが、円刃とみられる。33も円刃である。側面からみると扁平で刃部は片刃ぎみである。基部を破損する。34は打ち欠き成形後、敲打・研磨により整形されている。展開図裏面の一部が煤けている。刃部を破損する。掲載品の石質は、全て緑みを帯びた泥岩製。

#### (3) 礫石器

## たたき石 (図 IV - 2 - 12 - 35/表 IV - 2 - 5/図版11)

1点のみの出土である。平成12年度は151点出土しており、点数に大きな開きがある。35は扁平な精円礫の両面、両側縁にたたき痕がみられる。展開図の表面・裏面にはたたき痕のまとまりが2か所ずつみられるが、表面のものがより明瞭である。表面左下部側縁には、両面から連続した打ち欠きがなされ、その間にたたき痕がみられる。掲載品の石質は砂岩製。

## **すり石**(図 N - 2 - 12 - 36 ~ 38 / 表 N - 2 - 5 / 図版11)

10点出土している。全て横断面が三角形の礫の1稜を擦ったものである。北海道式石冠は平成12年度に148点出土しているが、今年度はみられない。36・37とも1稜のみ使用しており、縁辺には打ち欠きがみられる。37は破損部分に打ち欠きがなされている。38は1稜を両側から打ち欠いているが、擦痕もみられず、滑らかでもない。未使用品と推測される。掲載品の石質は36が花崗岩製、37が泥岩製、38が砂岩製。

#### 砥 石 (図Ⅳ-2-12-39/表Ⅳ-2-5/図版11)

17点出土している。板状のものが1点、他は破片である。40は1面が滑らかで中央部分が擦り窪んでいる。同一個体の破片が13点ある。掲載品の石質は砂岩製。

## 加工痕のある礫(図Ⅳ-2-12-40・41/表Ⅳ-2-5/図版11)

14点出土している。40は礫の側縁を両面から打ち欠いて機能部を作り出している。機能部には幾分 潰れがみられる。41は扁平楕円礫の対向する側縁が打ち欠かれている。その部分と周囲の稜が潰れて いることからたたき痕とみられるが、ザラザラした石質のため明瞭ではない。類例は平成12年度米原 4遺跡(北埋調報153の164頁11番)、平成13年度宮戸4遺跡(北埋調報168の229頁281番)にみられ、 いずれも片麻岩製のたたき石として掲載されている。今回の報告では、対向する抉りが特徴的である ことから、たたき石としなかった。掲載品の石質は40が砂岩製、41が片麻岩製。

#### 礫・礫片

図示していない。2,453点出土している。遺構出土の礫片と接合を試した結果、S-2やH-4との接合例が数件あったが、いずれも周囲のものが付くにとどまった(表Ⅳ-1-5・11参照)。包含層どうしも同様で、遠距離の接合例はなかった。 (山中)

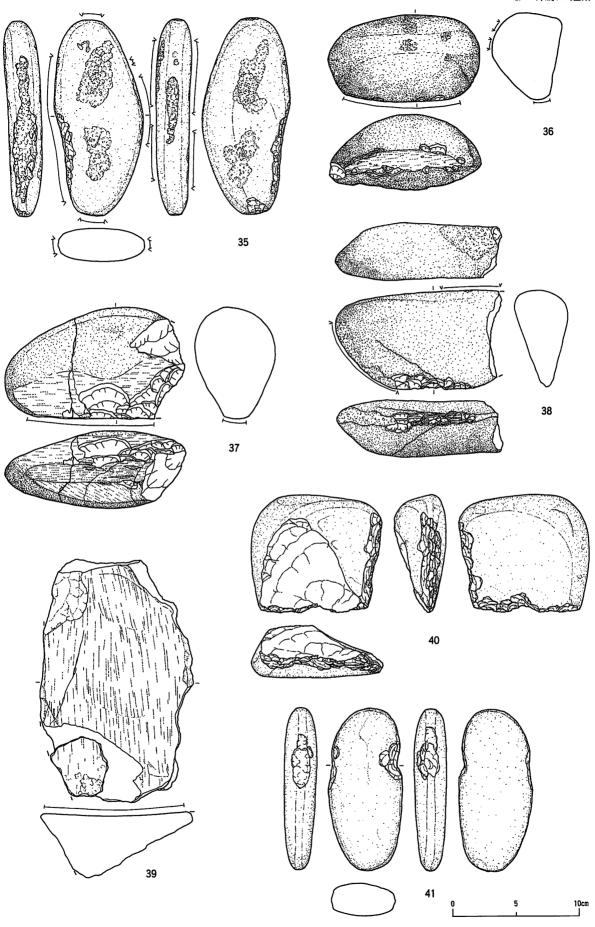


図 Ⅳ - 2 - 12 包含層出土の石器 (3)

表Ⅳ-2-5 包含層掲載石器一覧

図番	分 類	調査区·番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	———— 石 質	備考
1	石 鏃	J44c • 27	V層下	$(2.4) \times 1.84 \times 0.33$	(1, 2)	黒曜石 Dd	破損品
2	石 鏃	O48d · 2	V層上	1. 58×1. 19×0. 28	0.4	黒曜石 Dd	
3	石 鏃	O55b • 42	V層中	2. 21×1. 50×0. 33	1. 1	チャート	
4	石 鏃	P49a • 10	V層中	2.80×1.31×0.34	0.8	黒曜石 Dd	
5	石 鏃	O53d · 3	V層上	3. 28×1. 75×0. 30	0.9	黒曜石 Ad	
6	石 鏃	J46d · 1	V層下	3. 59×1. 88×0. 53	2.4	黒曜石 Dd	
7	石 鏃	I46a • 11	V層上	3. 22×2. 17×0. 51	3. 4	黒曜石 Dd	
8	石 鏃	J46b · 1	I層	3. 91×2. 20×0. 50	2. 6	黒曜石 Dd	
9	石槍・ナイフ	J44d • 16	V層下	$4.40 \times 2.21 \times 0.43$	3. 3	黒曜石 Dd	被熱
10	石槍・ナイフ	J45b • 42	VI層	5. 30×2. 58×0. 58	5. 4	黒曜石 Dd	
11	石槍・ナイフ	H46b • 17	V層下	5. 33×2. 89×0. 76	6.4	黒曜石 Dc	
12	石槍・ナイフ	O53a · 1	V層上	6. 29×3. 40×0. 79	10.8	黒曜石 Dd	
13	石槍・ナイフ	J46c • 12	V層中	$(5.36) \times 3.80 \times 0.91$	(21. 0)	黒曜石 Dd	破損品
14	石槍・ナイフ	H46c • 15	V層中	$5.56 \times 3.60 \times 0.54$	5, 3	黒曜石 Dd	
15	石槍・ナイフ	J44b · 2	V層中	5, 20×2, 00×0, 66	4.6	黒曜石 Dd	
16	石槍・ナイフ	I46b · 2	V層上	4. 80×2. 10×0. 68	4.7	黒曜石 Dd	
17	石槍・ナイフ	J44c • 3	V層中	$(4.31) \times 2.12 \times 0.55$	(3. 4)	黒曜石 Dd	破損品
18	石槍・ナイフ	I45c • 6	V層中	$5.40 \times 2.60 \times 0.68$	9. 0	黒曜石 Ad	
19	石 槍・ナ イフ	J45b · 30	V層下	$(8.89) \times 3.29 \times 0.77$	(20, 0)	黒曜石 Id	   破損品
L	10 1/6 / 1/	J45c • 12	7/8 1	(0, 00) / (0, 20 / (0, 11	(20. 0)		MAJAHH
20	石 錐	不明	排土	4. 42×2. 59×1. 12	7. 9	黒曜石 Aa	
21	石 錐	I44c • 22	V層下	$2.90 \times 1.20 \times 0.46$	1.6	黒曜石 Dd	
22	石 錐	I44c • 16	V層下	4. 49×1. 23×0. 81	4. 3	黒曜石 Ad	
23	つまみ付ナイフ	O46a • 12	風倒木痕	$4.31 \times 2.81 \times 0.74$	5. 9	黒曜石 Ad	
24	つまみ付ナイフ	J45c • 2	V層中	5. 41×2. 20×1. 01	11.6	黒曜石 Dd	
25	つまみ付ナイフ	N43d • 6	V層下	5. 68×4. 85×0. 66	14. 3	黒曜石 Ab	
26	つまみ付ナイフ	J45a • 16	V層下	7. 84×2. 42×1. 31	25. 8	頁 岩	
27	スクレイパー	J44b • 15	V層下	4. 40×2. 29×0. 89	8. 2	黒曜石 Bb	
28	スクレイパー		V層下	4. 52×2. 84×0. 70	7.8		
29	スクレイパー	O40c · 2	V層中	6. 10×4. 31×0. 95	16. 9	頁 岩	
30	スクレイパー	I46b · 4	V層中	7. 00×6. 91×1. 47	46. 7	黒曜石 Db	被熱
31	スクレイパー	O55a · 3	VI層	5. 40×7. 18×1. 55	42.6	頁 岩	
32	石 斧	I45c • 15	V層下	$(9.75) \times 3.21 \times 1.61$	(90. 5)	泥岩	破損品
33	石 斧	J46a · 6	V層中	6. 88×4. 37×1. 14	57. 1	泥岩	
34	石 斧	J45b • 24	V層中	$(11.38) \times 5.31 \times 2.68$	(226. 8)	泥岩	破損品
35	たたき石	O48c · 3	V 層上	15. 43×6. 98×2. 71	416. 2	砂岩	
36	すり石	J45b • 23	V層下	6. 81×12. 00×5. 39	582. 7	花崗岩	
37	すり石	J44c • 29 J45b • 37	V層下	8. 70×(14, 20)×6. 24	1080. 0	泥岩	破損品
38	すり石	J45b • 38	V層下	$7.68 \times (13.20) \times 4.39$	560. 5	砂岩	破損品
39	砥 石	J45b • 39	V層下	$(19.1) \times (12.02) \times 6.57$	(1182)	砂岩	破損品
40	加工痕のある礫	J45c • 18	V層下	9. 30×10. 35×4. 10	455. 6	泥岩	
41	加工痕のある礫	O51d • 9	V層下	5. 86×12. 90×2. 60	321. 7	片麻岩	

# Ⅴ 宮戸4遺跡

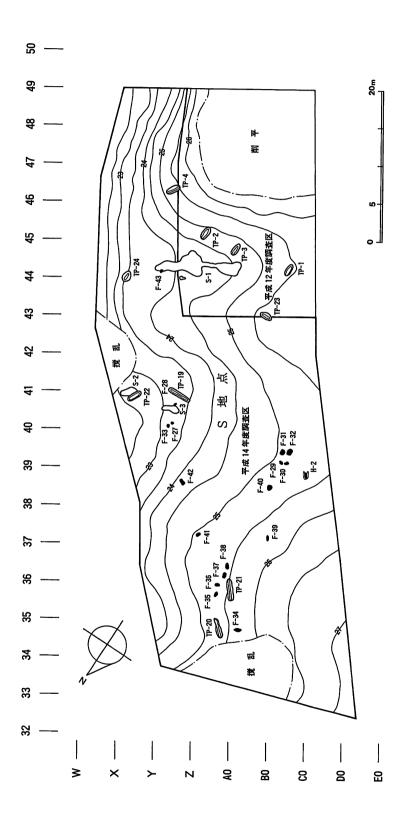
## 1 S地点の遺構と遺構出土遺物

## (1) 概要

平成12・14年度の2か年で、土器片囲い炉1か所、Tピット10基、焼土17か所、集石3か所を検出した。 $TP-1\sim4$ 、S-1は平成12年度、H-2、 $TP-19\sim24$ 、 $F-27\sim43$ 、S-2・3は平成14年度に検出された。TP-4、S-1は2か年にわたって調査されている。

表 V-1-1 S地点 検出遺構一覧

<b>₹</b> ₹ V —	. 1 — 1	3 地点 快山退備一	見		_	
遺構名	遺構種類	発掘 区	検出層位	規 模(m)	長軸方向	時 期
H – 2	土器片囲い炉	B038c,C038d	VI層上面	0.90×0.66(炉)	N-28°-W	縄文時代後期前葉(タプコプ式期)
TP-1	Tピット	B044a·b	VI層上面	1. 95×0. 82/1. 93×0. 19/1. 11	N-21°-W	縄文時代中期後半~後期初頭
TP-2	Tピット	Z45a	V層下位	1. 86×0. 95/1. 97×0. 33/1. 70	N-8°-W	縄文時代中期後半~後期初頭
TP-3	Tピット	Z44c,A044d	VI層上面	1. 71×0. 72/1. 99×0. 23/1. 72	N-2°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
TP-4	Tピット	X40a·b	VI層上面	1. 73×0. 85/1. 80×0. 14/1. 60	N-19°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
T P - 19	Tピット	Y40c∙d	VI層上面	3. 00×0. 66/-×-/0, 92	N-84°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
T P -20	Tピット	Z24c	VI層上面	2. 33×0. 72/2. 05×(0. 18)/1. 32	N-57°-W	縄文時代中期後半~後期初頭
T P -21	Tピット	Z35c, Z36b A035a•d,A036a	VI層上面	3. 27×0. 90/3. 38×(0. 22)/1. 12	N-46°-W	縄文時代中期後半~後期初頭
T P -22	Tピット	X40c·d	V層下位	(1. 80) × 0. 70/1. 47× 0. 35/0. 79	N-21°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
T P -23	Tピット	A042c,A043b B042d,B043a	Ⅷ層上位	1. 40×0. 65/1. 09×0. 19/0. 68	N-88°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
T P -24	Tピット	X43d · X44a	Ⅵ層上面	1. 25×0. 98/0. 73×0. 24/1. 06	N-14°-W	縄文時代中期後半~後期初頭
F -27	焼土	Y40a	V層中位	0. 50×0. 43/0. 03	N-80°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
F -28	焼土	Y40c	V層中位	0. 57×0. 33/0. 09	N-29°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
F -29	焼土	B039a	V層下位	0.69×0.50/0.11	N-87°-E	縄文時代前期前半
F -30	焼土	B039a•b	V層下位	0. 42×0. 59/0. 08	N-61°-E	縄文時代前期前半
F -31	焼土	B039a•d	V層下位	0. 78×0. 73/0. 10	N-17°-W	縄文時代前期前半
F -32	焼土	B039b	V層下位	0.69×0.54/0.07	N-14°-W	縄文時代前期前半
F -33	焼土	Y40b	V層下位	0.61×0.60/0.12	N-61°-E	縄文時代前期前半
F -34	焼土	A034d	V層下位	0. 79×0. 59/0. 07	N-56°-E	縄文時代前期前半
F -35	焼土	Z35c	V層下位	0.64×0.42/0.06	N-19°-E	縄文時代前期前半
F -36	焼土	Z35c	V層下位	0.64×0.41/0.09	N-69°-E	縄文時代前期前半
F -37	焼土	Z36b	V層下位	0. 72×0. 63/0. 08	N-3°-W	縄文時代前期前半
F -38	焼土	Z36b	V層下位	0. 75×0. 53/0. 15	N-24°-W	縄文時代前期前半
F -39	焼土	A037b, B037a	V層下位	0. 64×0. 43/0. 12	N-22°-W	縄文時代前期前半
F -40	焼土	B038a•d	V層下位	0. 62×0. 59/0. 16	N-69°-W	縄文時代前期前半
F -41	焼土	Z37a	VI層上面	0. 46×0. 39/0. 12	N-15°-E	縄文時代前期前半
F -42	焼土	Y38c	V層下位	0.70×0.42/0.10	N-7°-W	縄文時代前期前半
F -43	焼土	Y44a	V層下位	0. 48×0. 41/0. 08	N-23°-E	縄文時代前期前半
S — 1	集石	Y44a∼d, Z44a∙b∙d,A044a	V層下位	11, 68×3, 76	N-52°-E	縄文時代後期前葉
S – 2	集石	X40d, X41a	V層下位	2. 40×1. 78	N-41°-E	縄文時代前期前葉
S – 3	集石	Y40a∼d	V層下位	2. 96×1. 54	N-62°-E	縄文時代前期前半



土器片囲い炉は、タプコプ式土器 5 個体分の破片を使用したものである。鵡川町内では初めての検出であり、分布でも厚真町厚真 7 遺跡と門別町エサンヌップ 2 遺跡との中間に位置するものとして注目される。焼土中より採取した炭化物を用いて、放射性炭素年代測定(AMS法)を行ったところ、補正 C14年代で3660±40(yBP)という数値が得られた。詳細は第 Ⅵ 章第 1 節を参照されたい。時期は、使用されている土器から、縄文時代後期前葉である。

Tピットは、宮戸 3 遺跡や昨年度調査の斜面部分と同様に、イモッペ川へ向う沢地形を利用して設けられている。 $TP-19\sim22$ の底部より採取した土壌を用いて花粉分析と植物珪酸体分析を行い、周辺の古植生を復元した。斜面上( $TP-20\cdot21$ )と斜面下方( $TP-19\cdot22$ )では周辺の植生がやや異なるが、いずれも草本類で地面を覆われた、存在のわかりにくい場所を選んで構築された可能性がある、との結果が得られた。詳細は第V1章第2節を参照されたい。構築時期は縄文時代中期後半~後期初頭と考えられる。

焼土は上部の灰層が流失しているため、土器・石器等あるいは骨片・種子・炭化物などの微細遺物を伴うものが少なく、性格・時期などが不明なものが多い。ただし、集石を構成する礫・礫片の大部分が被熱しており、包含層より出土したフレイクや礫石器、礫・礫片に被熱しているものが多く見られることから、これらと関連する可能性が高い。出土遺物や検出層位などから、形成時期は大半が縄文時代前期前半と考えられる。

集石は沢内部の窪みに礫・礫片を主体とする遺物が大量に溜まったものである。これらは上位の台地上から廃棄されたものと考えられ、規則的な配列や下部の掘り込みなどは認められない。遺物の大部分が焼けていることから、調理などで使用されたものと推測される。形成時期は、検出層位や周辺の出土遺物などから、いずれも縄文時代前期前半と考えられる。

## (2) 土器片囲い炉

H-2 (図 $V-1-2\sim4$ /表 $V-1-1\sim4$ /図版 $17\cdot22\cdot23$ )

特 徴:調査区東側の、調査区外との境界に近接する部分で検出された。イモッペ川へ向う沢筋の内部に位置する。比較的緩やかな斜面上に立地しており、ほとんど地形に高低差は感じられない。

V層下位の包含層調査中、土器片がまとまった状態で出土した。当初は沢地形のくぼみに落ち込んだ遺物で、遺構との関連は想定しなかった。ただし、同一個体と考えられる口縁部および胴部が集中していることから、早急に取り上げず、周囲を少しずつ掘り下げていった。すると、Ⅵ層上面で掘り込みが確認され、土器片が弧状に埋まっていることが判明した。また、内部に焼土と炭化物が検出されたことから、これを土器片囲い炉と認定した。この段階では竪穴住居の内部に設けられた屋内炉を想定していたため、トレンチ調査により住居のプランを検出することに努めた。しかしながら、Ⅵ層中には床面と壁面の立ち上がりを検出することができなかった。そこで調査範囲の南西側境界のセクション面で掘り込みの断面を確認しようとしたが、自然堆積のままでV層中に人為的な撹乱は見られなかった。このことから、本来住居としての掘り込みはなかった可能性が高いという結論に達した。

炉の構造は、V層上位に相当する地面を皿状に掘り窪めて、その壁面に土器片を貼り付けるようにして巡らしている。土器片はすべて表面を炉の内側へ向けている。土器片はほぼ全周するが、南側に欠ける部分が見られる。これと相対する部分は口縁部が外側、胴部が内側に二重に据え付けられ(別個体)、特に強固になっている。炉に用いられている土器は接合の結果や施文・胎土の違いなどから、全部で5個体あったと考えられる。

炉の内側は非常に強く焼けており、火焼面は固くしまっていた。焼土は分厚く、 Ⅵ層の下位までが 明赤褐色に変色している。その上位からは炭化物や黒曜石のフレイク・チップが多量に出土した。こ



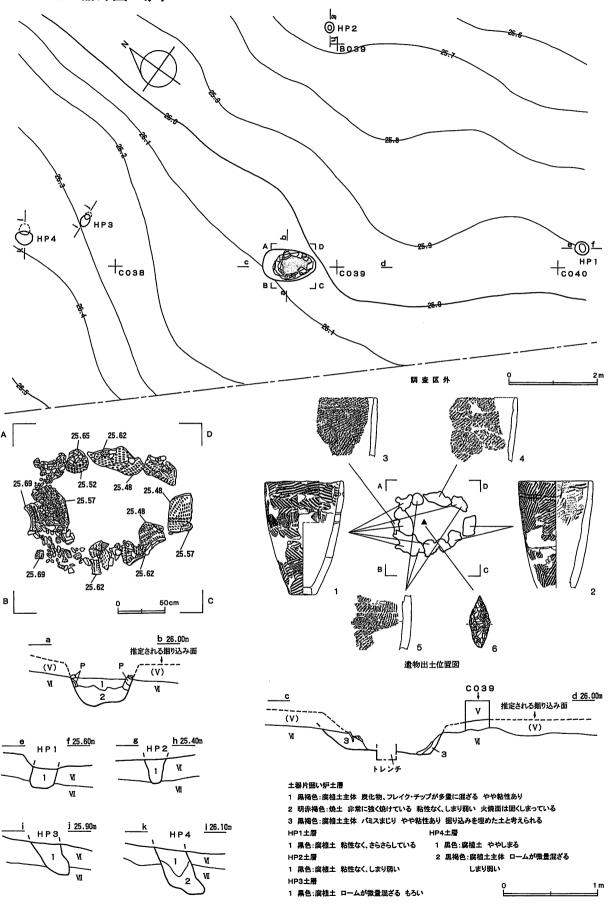


図 V - 1 - 2 H - 2

れらのことから、この土器片囲い炉は比較的長い期間使用されたと考えられ、煮炊き以外に石器製作などの作業も行われたようである。タプコプ式期の土器片囲い炉については第**™**章第2節で考察する。

炉の周辺より、柱穴と考えられる小ピットが4基検出された(HP-1~4)。いずれも人為的な掘り方は明瞭であるが、HP-1・2は垂直に、HP-3・4は東〜北東側へ傾斜して打ち込まれており、中心の炉へ向かって内傾していない。住居としての構造を把握することはできなかったが、位置的に土器片囲い炉と関連する可能性があると考え、付属遺構として扱った。沢地形の内部という立地から、自然のくぼみを利用した掘建て住居などが考えられるが、確証に乏しい。

遺 物:土器片囲い炉を構成していた土器は、IV群 a 類 (タプコプ式) 1,497点である。また、焼土中より、黒曜石製の石槍・ナイフ1点、微細なフレイク・チップ5,307点が出土している。フレイク・チップの大部分は、水洗選別により得られたものである。他に I 群 b 類、 II 群 a 類に属する土器片、石鏃、R フレイクなどが焼土中より出土しているが、遺構には伴わないと考えられる。

 $1\sim5$  は炉に用いられていた土器である。器面に条の幅  $4\sim5$  mmの LR 縄文が施され、施文後に器面がなでられている。いずれも内面は粗雑になで調整され、 $1\sim4$  は口唇・口縁内面に器面と同様の縄文をもつ。胎土には黄白色火山灰・細礫を多く含む。 1 は器高 35.9 cm、口径 24.3 cm、底径 8.3 cmを計る深鉢である。口縁〜底部の 2/3 ほどが復元できた。器面には方向を変えた羽状風の縄文をもつ。胴上部の幅 5 cmほどの間には、撚糸風の縦位の LR 縄文が施されている。この条の幅は  $1\sim2$  mmである。 2 は現存器高 33.5 cm、推定口径 22.8 cmを計る深鉢である。口縁〜胴下部の 1/3 が復元できた。底部を欠く。  $2\sim5$  は器面に斜行縄文が施されている。  $1\sim3$  は口縁部に幅  $4\sim5$  mmの縄線文を 2 条もつ。 6 は炉内部の焼土より出土した石槍・ナイフ。茎が明瞭に見られないもので、形状は菱形に似る。両面の調整は比較的丁寧である。被熱の程度が小さいことから、炉の使用後に投じられたものであろう。焼土中より出土した多量のフレイク・チップは、この製作に関連する可能性が高い。

**時 期:**炉に用いられている土器から、縄文時代後期前葉のタプコプ式期の遺構である。 (芝田)

_ •																						
遺構名	層位	遺物名	分 類	点 数	層位	遺物名	分類	点 数														
		土器	<b>I</b> 群a-1類	1		土 器	I群b類	1														
	土 器 	₩群a類	1497		到上て明	石 鏃	1															
H — 2	焼土1層	剥片石器	石槍・ナイフ	1	焼土2層	剥片石器	Rフレイク	1														
																剥片	フレイク	4420	1	剥片	フレイク	887
		計		5919		計		890														
		合			計	_		6809														

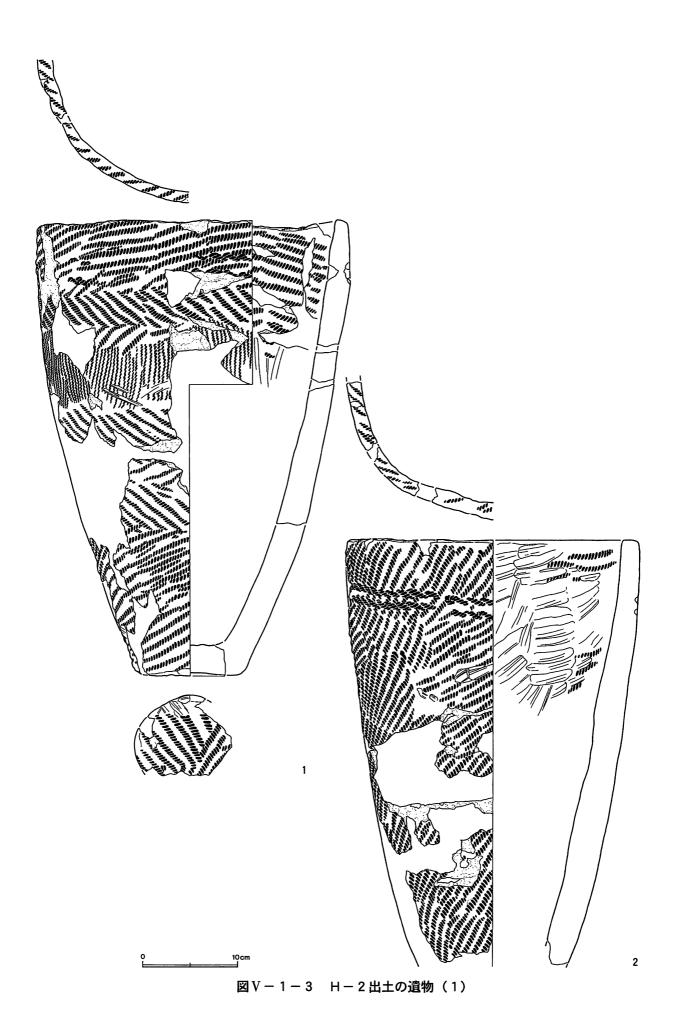
表 V-1-2 H-2出土遺物一覧

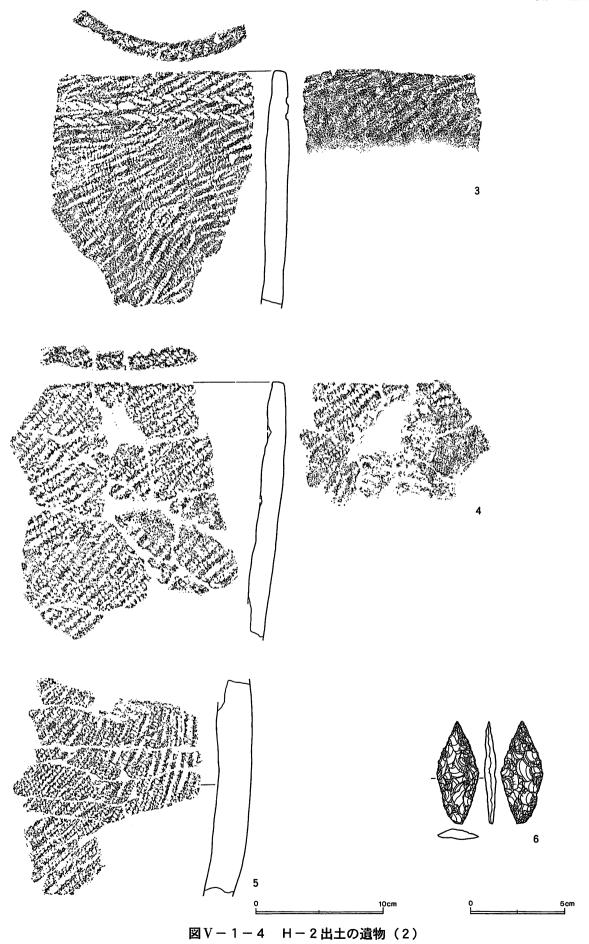
表 V - 1 - 3 H - 2 掲載土器一覧

掲載	遺構名	遺物	層位	1	破片	ī	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号	退佣石	番号	層也	点数	掲載	総数	刀粮	
1	H-2	22	焼土中	1	80	206	<b>I</b> V a	(掲載)H-2-28焼土中,同28同7,同31同19,同32同38,同35同3,同38同10,B038c16V下2. (非掲載)H-2-22焼土中5,同28同2,同31同2,同32同76,同35同28,同38同13.
2	H-2	39	焼土中	13	17	24	IV a	(掲載) H-2-43焼土中4. (非掲載) H-2-39焼土中7.
3	H-2	33	焼土中	1	1	1	IV a	
$\overline{4}$	H-2	29	焼土中	18	18	131	N/a	(非掲載) H-2-29焼土中113.
5	H-2	28	焼土中	1	12	133	IV a	(掲載) H-2-30焼土中10,同35同1.(非掲載) H-2-27焼土中2,同30同110,同35同9.

表 V-1-4 H-2掲載石器一覧

	番号	遺構名	分 類	遺物番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石 質	備考
l	6	H-2	石槍・ナイフ	26	焼土中	5. 40×2. 21×0. 57	5. 1	黒曜石	





## (3) Tピット

 $TP-1\sim4$ 、19~24(図 $V-1-5\sim8$ /表 $V-1-1\cdot5\sim7$ /図版 $13\cdot14\cdot17\sim20$ )

特 徴:10基が検出された。立地は、沢筋の斜面上( $TP-1\sim4$ )、沢の内部( $TP-19\cdot22$ )、尾根上 ( $TP-20\cdot21\cdot23$ ) 、段丘のへり (TP-24) に分かれる。このうち  $TP-1\sim4$  および  $TP-20\cdot21$  は、それぞれほぼ同じ長軸方向で斜面の下位へ向かって並列している。

形態は平面が楕円形のもの( $TP-1\sim 4\cdot 22\cdot 23$ )が多く、長楕円形のもの( $TP-19\sim 21$ )、円形に近いもの(TP-24)も見られる。この違いは底部の長さによるもので、いずれも本来の形状は 溝状であったと推測される。 $TP-1\sim 4$  は底面が傾斜している。地形の傾きに沿うもの( $TP-2\cdot 4$ )と逆らうもの( $TP-1\cdot 3$ )に分かれるが、いずれも沢地形の低い部分へ向かってオーバーハングする。TP-22 は底部が比較的幅広いが、礫を多量に含む層を掘り込んでいるため、狭隘にすることが困難であったのかもしれない。

覆土は上位が落ち込みに堆積したV層土、中位が壁面(V~Ⅲ層)よりの崩落土、下位が腐植土と 崩落土の互層というものが多い。沢の低位部分に掘り込まれたものは、覆土中に礫が混入する。

Tピット同士の切り合い関係はなく、構築の新旧や同時性は不明である。他の遺構との新旧関係では、TP-22がS-2(縄文時代前期前葉)を切っている。宮戸4遺跡のTピットについては、昨年度に引き続き、考察を第 $\P$ 章第3節で行っている。

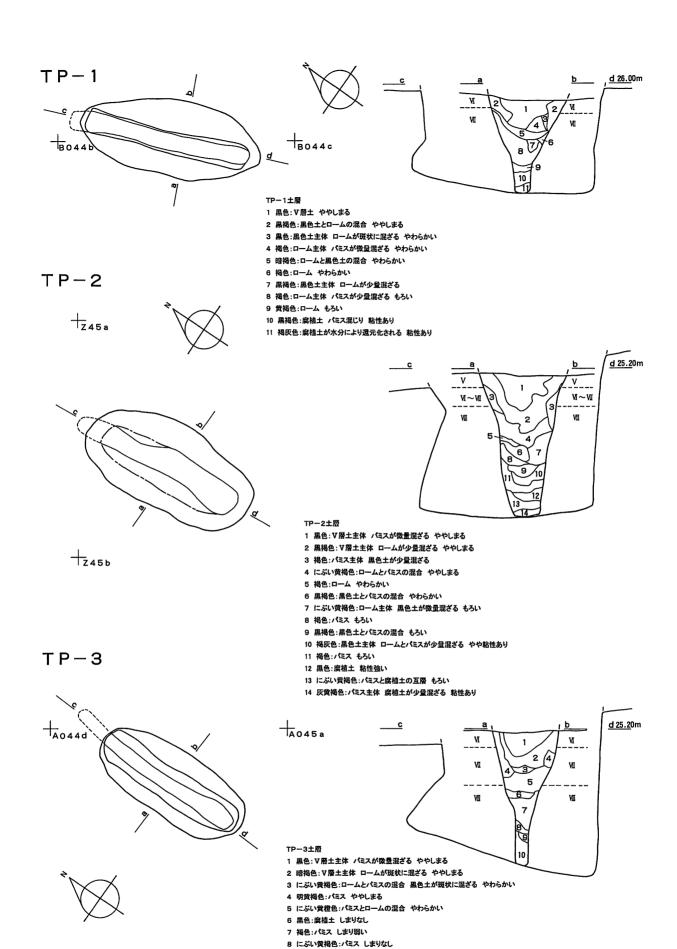
遺 物:覆土の上位~中位より縄文時代早期後半~前期前半の土器片、剥片石器類、礫・礫片などが 出土した。これらは古い時期の遺物が流れ込んだもので、Tピットに伴わないと考えられる。

1は TP-19の覆土 1 層出土の II 群 a-2 類土器で、器面に条の幅 3 mmの RL 縄文をもつ。胎土に繊維・黄白色火山灰・黒色鉱物を含む。 2 は TP-20の覆土 1 層出土、 3 は TP-21の覆土 5 層出土の II 群 a-1 類土器である。 2 は条の幅  $7\sim8$  mm、 3 は 5 mmの横走気味の RL 縄文をもち、施文後になでられている。胎土には繊維を含む。 4 は TP-21の覆土 1 の覆土 1 群 b-1 類土器で、器面に幅  $3\sim4$  mmの組紐圧痕文が施されている。内面はなで調整され、胎土に黄白色火山灰を含む。  $5\cdot6$  は TP-21出土のもの。 5 は三角形の石鏃。平基で裏面に主剥離面を残す。 6 はサイド・スクレイパー。 刃部は直線状で、下半部を欠損している。いずれも黒曜石製である。

時期:縄文時代中期後半~後期初頭と考えられる。 (芝田)

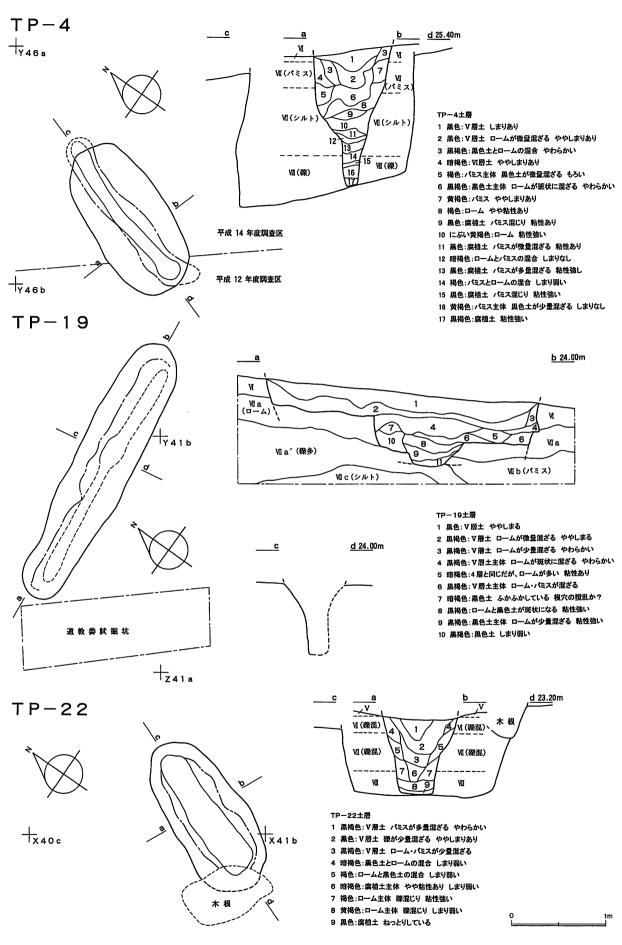
丰工	<i>_</i>	1 _	5	Т	<b>ار، ها</b>	Ь	щ.	十.墙	4///	_暋

遺構名	層位	遺物名	分 類	点数	遺構名	層位	遺物名	分 類	点数
TP-1	覆土中	礫・礫片	礫	20				石 鏃	2
	É	ì	+	20	]		剥片石器	スクレイパー	1
TP-2	覆土中	礫・礫片	礫	2	1	覆土1層		<b>Uフレイク</b>	5
17-2	4	<u> </u>	+	2			剥片	フレイク	7
TP-3	覆土中	礫・礫片	礫	7			Ī	H	15
	合		計	7	TP-21	覆土2層	土器	I群b−1類	1
TP-4	覆土中	礫・礫片	礫	1	]		土器	Ⅱ群 a-1類	2
1 1 7 - 4	合		計	1		覆土5層	剥片石器	Uフレイク	1
	覆土1層	土器	I群b類	1			剥片	フレイク	1
TP-19	復上」眉	上茄	II群a-2類	1			Ē	H	4
	合		計	2		覆土10層	土 器	I群b類	1
	覆土1層 礫石器 石斧剥片			2		É		計 	21
TP-20	覆土中 土 器 II群 a-		Ⅱ群a-1類	2		総	計		57
	É	<u> </u>	<b>†</b>	4		<b>春心</b>	āT		01

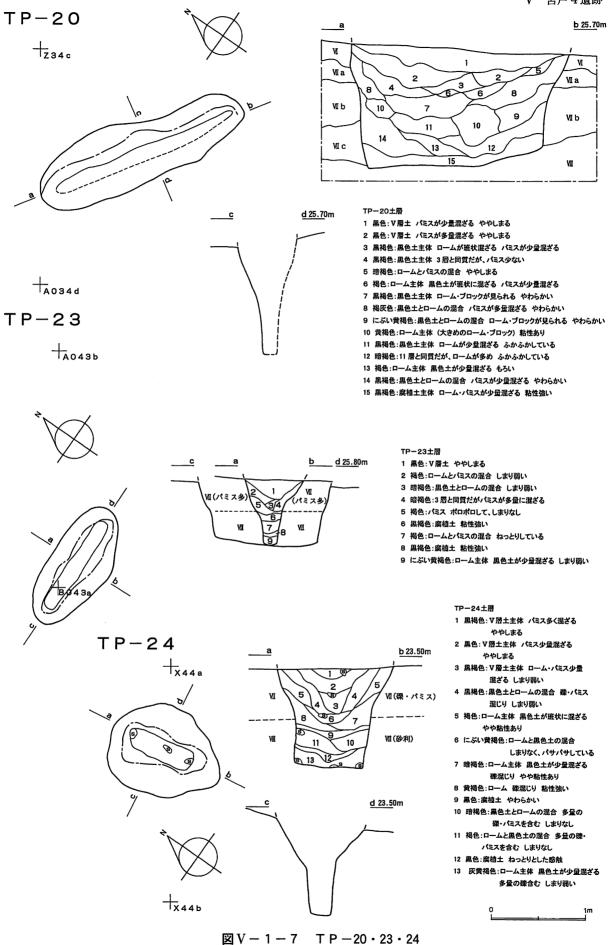


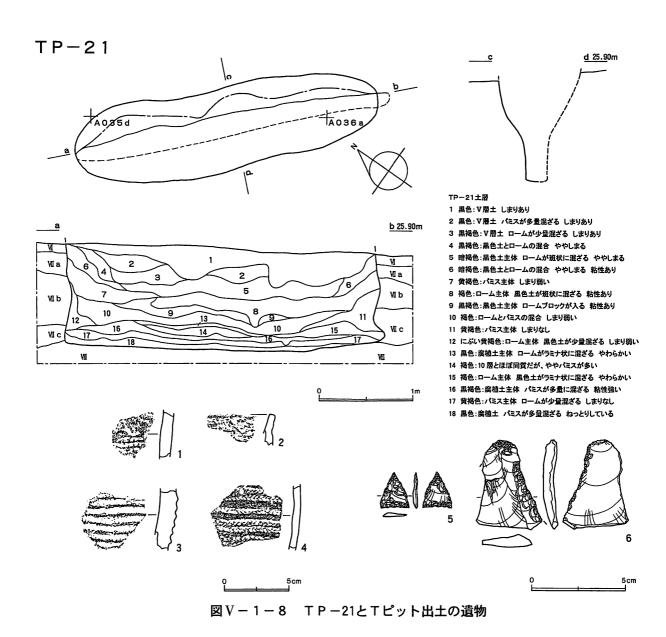
# 図V-1-5 TP-1~3

9 黒色:腐植土 しまり弱い 粘性強い10 明黄褐色:パミス しまりなし



 $\boxtimes V - 1 - 6$  TP - 4 • 19 • 22





表V-1-6 Tピット掲載土器一覧

掲載	遺構名	遺物	層位	1	破片	-	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号	退佣石	番号	眉亚	点数	掲載	総数	刀類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
1	TP-19	1	覆土1	1	1	1	II a − 2	
2	TP-20	1	覆土1	1	1	1	II a − 1	
3	TP-21	1	覆土5	1	1	2	II a − 1	(非掲載) TP-21覆土5(1).
4	TP-21	12	覆土10	1	1	1	I b-1	

## 表5-1-7 Tピット掲載石器一覧

番号	遺構名	分 類	遺物番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石 質	備考
5	TP-21	石 鏃	2	覆土1	1.85×1.50×0.19	0.4	黒曜石	
6	TP-21	スクレイパー	4	覆土1	4. 70×3, 47×0, 53	7.8	黒曜石	

## (4) 焼 土

 $F-27\sim44$  (図 $V-1-9\cdot10$ /表 $V-1-1\cdot8\cdot9$ /図版21·24)

特 徴:16か所が検出された。すべて平成14年度調査区内からの検出である。 $F-1 \sim 26$ は平成13年度に調査された(北埋調報168)。 $F-27 \cdot 28$ がV層中位、それ以外はV層下位で確認されている。

立地は沢の内部  $(F-27\sim33\cdot40)$ 、尾根上  $(F-34\sim39\cdot41)$ 、斜面上 (F-42)、段丘のへり (F-43) に分かれている。このうち  $F-29\sim32$ は焼土が 2 つずつ並んで、 $F-35\sim38$ は 4 つの焼土がほぼ直線状に並んで検出された。これらの焼土群は同一面で検出されており、同時期に形成されたものと推測される。F-42は古い時期の風倒木のくぼみを利用して形成されている。

形状は不整な円形または楕円形を呈する。規模は長径50~70cm、層厚15cm以下のものが多い。長径が最も大きいものは F-34の79cm、焼土層が最も厚いのは F-40の16cmである。断面はレンズ状または浅い皿状である。いずれも中央部分が最も厚く焼けている。

沢地形という立地のためか灰層は流失している。このため形成面よりやや下位で確認されたものが 多いが、焼土層の断面観察などから検出面との差異は小さいと考えている。焼けの程度が強いものと 弱いがあり、使用期間の長さや頻度、あるいは使用目的の違いによるものなのかは不明である。

焼土同士が切り合っている例は見られなかった。F-27とF-33は隣接して検出されたが、形成面は前者がより上位であった。F-28はS-3と接するが、やはり上位で検出されている。

これらの焼土の大部分は屋外炉として用いられたと考えられる。同じくV 層下位で形成された集石  $S-1\sim3$  を構成する礫・礫片の大半が被熱しており、包含層出土の礫石器、礫・礫片も被熱したものが多く見られ、これらが焼土と密接に関連している可能性は高い。

遺 物:7か所の焼土中より II 群 a 類に属する土器片や、石鏃・R フレイク・Uフレイク・フレイク などの剥片石器類、礫・礫片などが出土している。特に F-37は II 群 a-1 類の土器片73点、フレイク10点など、遺物の出土点数が多い。1は F-39焼土中から出土した II 群 a-1 類土器である。器面に条の幅 5 mmの横走する RL 縄文をもつ。内面は剥落している。胎土に繊維・黄白色火山灰を含む。

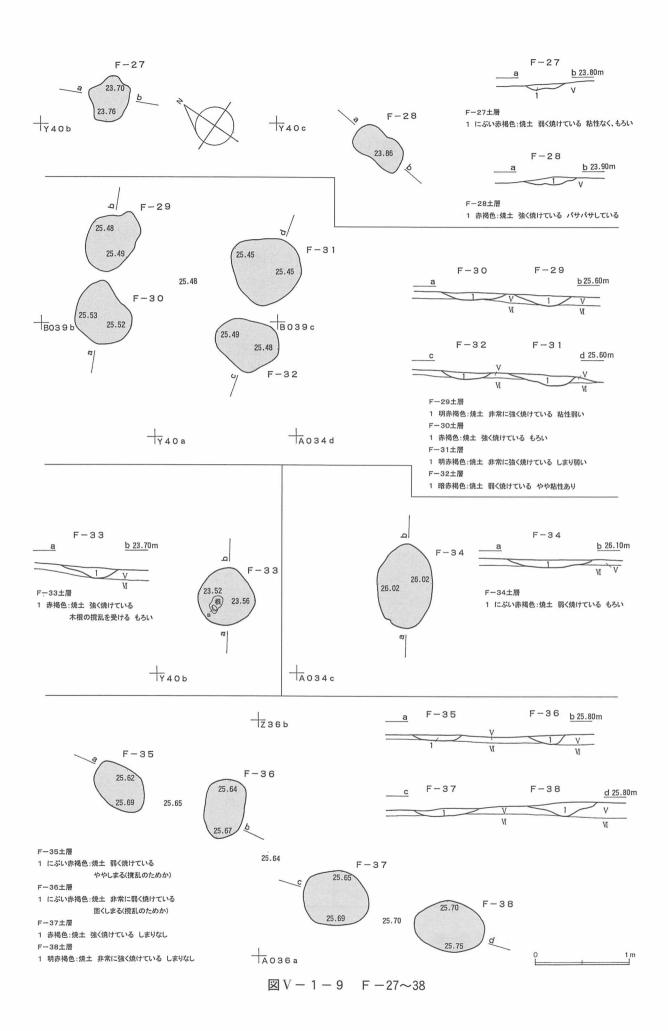
時期:検出層位や焼土中より出土した遺物、周囲の包含層出土の遺物などから、F-27・28が縄文 時代後期前葉、F-29~43が前期前半に形成されたと考えられる。 (芝田)

<b>₹</b> v − 1 −		山土退物一	見						
遺構名	層位	遺物名	分 類	点 数	遺構名	層位	遺物名	分 類	点 数
F -33	焼土中	礫・礫片	礫	4		焼土中	剥片	フレイク	3
F -33	É	i ć	<b>†</b>	4	F - 38		礫・礫片	礫	1
	梅土曲	土 器	Ⅱ群a類	1		合	8		
F -35	焼土中 剥 片		フレイク	1			土 器	<b>I</b> 群 a−1類	73
	台	計		2	F -39	焼土中	剥片石器	<b>Uフレイク</b>	2
		到比プ明	石鏃	1	7 - 39		剥片	フレイク	10
F 27	焼土中	剥片石器	<b>Uフレイク</b>	1	7	合	計	•	85
F -37		剥片	フレイク	1	F -43	焼土中	礫・礫片	礫	5
	合	計		3	] ' "	合	計	•	5
F 20				2		総	計		107
F - 38		剥片石器	<b>Uフレイク</b>	2	1	नव्ह	Ħ I		107

表 V-1-8 焼土出土遺物一覧

表 V-1-9 焼土掲載土器一覧

掲載	161 FG 26.	遺物	1 1991\/	破片			分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした			
番号	A51#11	番号		点数	掲載	総数	/) <del>   </del>	1			
1	F-39	1	焼土中	1	1	73	II a − 1	(非掲載) F-39-1 焼土中72.			



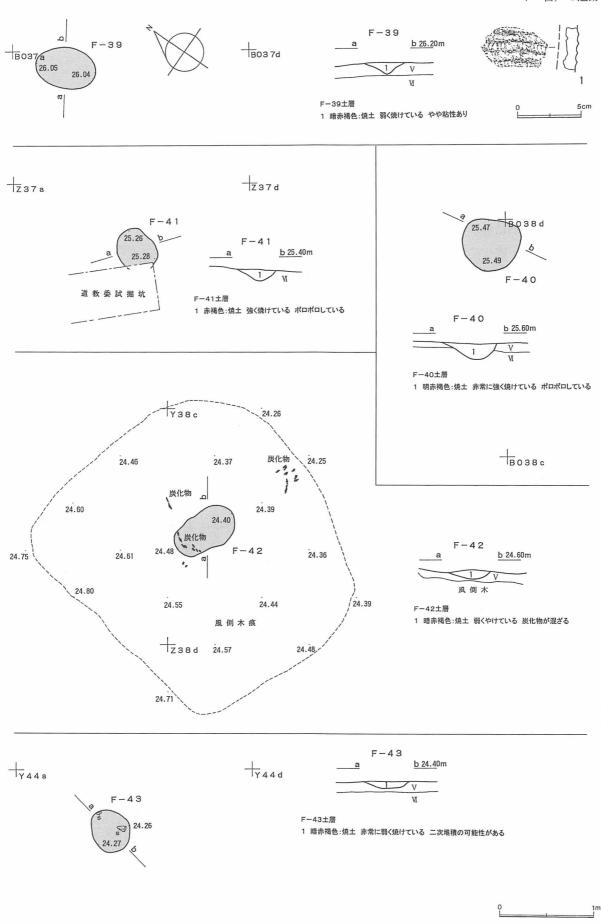


図 V − 1 − 10 F − 39~43

## (5) 集 石

 $S-1\sim3$  (図 $V-1-11\sim15/$ 表 $V-1-1\cdot10\sim12/$ 図版 $21\cdot24$ )

特 徴:3か所がV層中位~下位で検出された。断面観察によりいずれも形成面はV層下位と考えら れる。S-1は調査区南東側の沢筋、標高23.8~24.6mの緩い斜面上に立地する。一方、S-2・3 は調査区東側の沢内、標高22.5~23.3mの斜面上に立地する。

S-1は今回検出した中では、最も大規模な集石である。礫・礫片4.821点、その他土器・石器等137 点の合計4.958点の遺物から構成されている。また、礫片の中には周囲の包含層出土のものと接合し たものがあり、外部へ流出したものも併せれば遺物は5,000点以上であったと推測される。

規模は、沢筋に沿って長さ11.68m、幅3.76mの範囲にわたり、遺物の堆積が最も厚い部分は0.16 mを計る。礫・礫片の総重量は169,284.4gである。集積した礫密度の濃淡により、大きく4か所の まとまり(A~D群)に分かれる。それぞれの内部には著しく礫・礫片が密集している部分が見られ、 各群の中核となっている(図V-1-12)。最も密度の高いD群は、S-1全体の礫・礫片の半数以 上が含まれており、重量でも群を抜いている。これに対してB・C群はやや散漫な分布を示し、密集 部分も小さい。このような分布から、本来はより狭い範囲で集中していた礫・礫片が、自然営力によ り次第に外縁へ広がっていったものと推測される。各群の礫には原位置を保っていないものがあり、 そのまま形成時に集積された単位と見なすことはできない。

図V-1-13はS-1より出土した礫・礫片のうち、割れていないもの、比較的接合して原形を復 元することができたものの長幅と重量のグラフである。これによると長幅が5~12cm、重量は100 ~400gと、片手で持てるほどの大きさが主体である。この規格性は礫の本来の用途に関係するもの と推測される。何かの目的をもって、規格に合致する礫を集めたのではなかろうか。

S-2 は総点数119点、総重量6,915.8g、S-3 は総点数256点、総重量9,822.1gと規模が比較的 小さい。S-1と同様の集積状況を示すが、やや散漫で集中域が見られない。これは同じような沢の 内部といっても、S-2・3はより低い位置で傾斜が急であるため、礫が流出する割合が高かったた めと考えられる。接合した礫・礫片の長幅、重量のグラフは、どちらも同じような分布を示している。 主体は長幅が $5\sim10$ cm、重量は $100\sim200$ gとS-1よりもやや小さめである。S-2はTP-22に切

表 V - 1 - 10 集石出土遺物一覧										
遺構名	層位	遺物名	分類	点 数	遺構名	層位	遺物名	分 類	点 数	
			I群b-1類	15			剥片石器	石 鏃	1	
		土 器	Ⅱ群a類	1			剥片	フレイク	1	
			<b>I</b> I群a-2類	28		   V層下	礫石器	たたき石	1	
		剥片石器	石 鏃	1	S – 1			台 石	1	
		料月 14 66	原石	1	3 – I		礫・礫片	礫	2100	
	V層中		たたき石	2			Į į	2186		
		礫石器	すり石	1		不 明	礫・礫片	礫	1	
S – 1		19宋1日66	北海道式石冠	1		合		計	4958	
3 - 1			台 石	1	S – 2	V層下	礫・礫片	礫	119	
		礫・礫片	礫	2720	3 – 2	合		計	119	
		Ī		2771			土器	I群b類	2	
			I群b類	2		V層下	剥片	フレイク	2	
			I群b−1類	65	S – 3		礫石器	砥 石	1	
	V層下	土 器	I群b-2類	3			礫・礫片	<b>礫</b>	256	
			Ⅱ群a類	11		合		計	261	
			不明	1		総	計		5338	

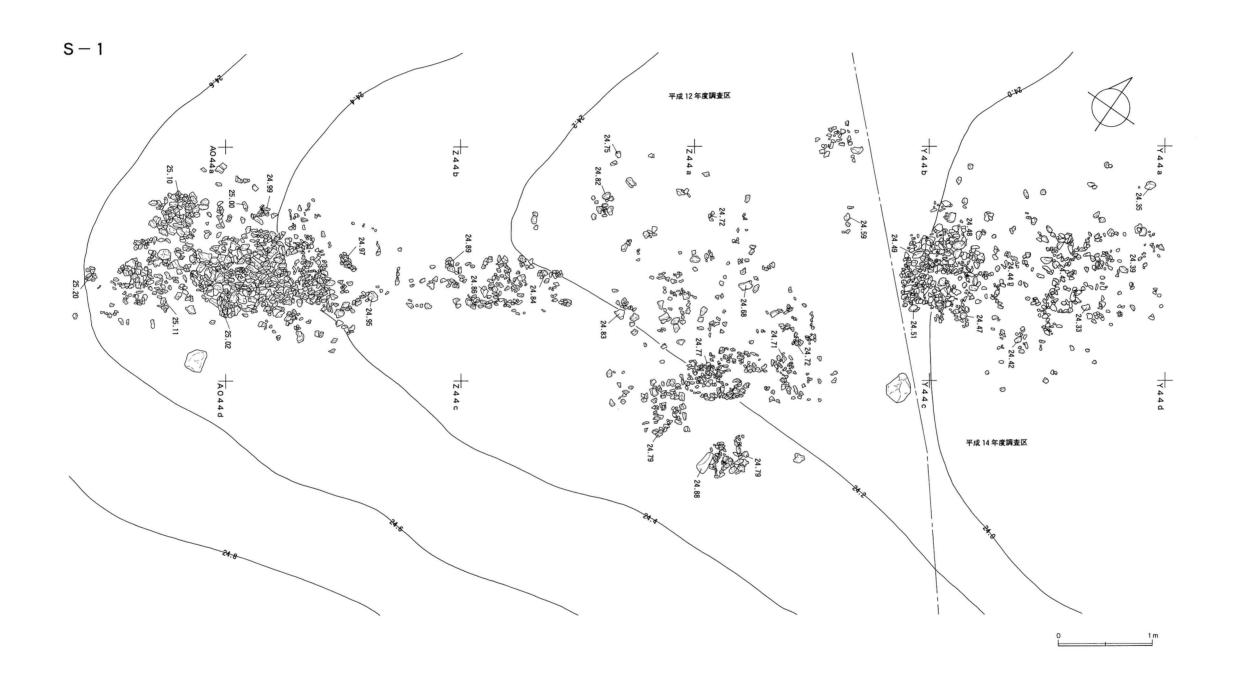
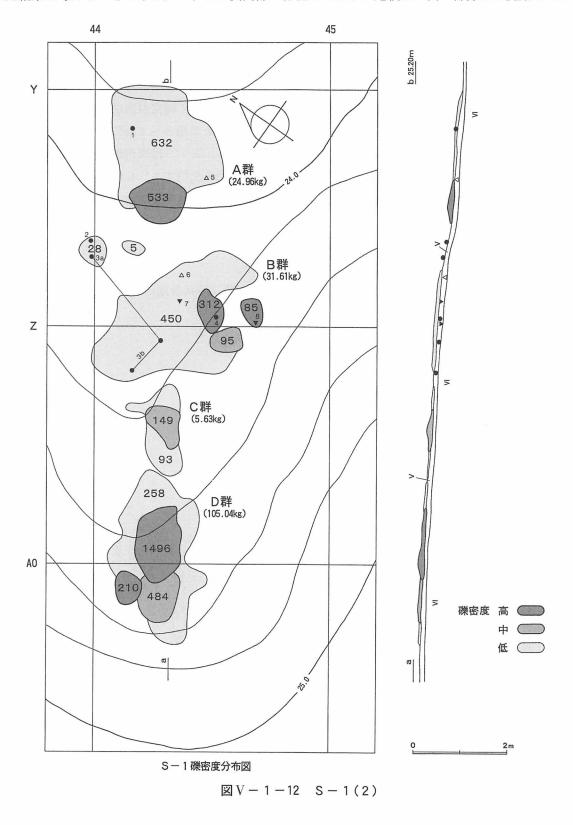


図 V − 1 −11 S − 1(1)

られており、その覆土の上位に周囲から礫・礫片が流れ込んでいる。 $S-2 \cdot 3$ は同じ沢内で近接しており、1つの遺構と見なしてもよいかもしれない。

これらの集石は、意図的な配列が確認できず、下部に掘り込みなども見られないことから、配石遺構や墓壙に伴うものではない。よって、これらの形成は日常の生業に起因しており、継続的に廃棄された結果と考えるべきである。いずれも沢内部に存在しており、尾根上の高い部分より廃棄されたも

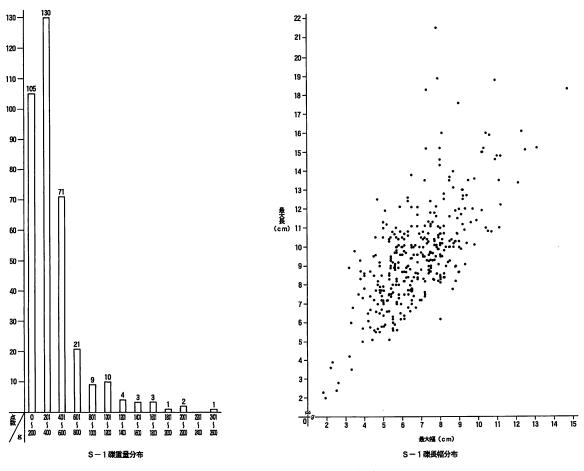


のが沢筋の比較的平坦な部分に溜まったものであろう。礫の大部分が被熱により割れていることから、 調理などの際の熱処理に関係するものと推測している。

遺 物:いずれも主体となるのは使用痕・加工痕の見られない礫・礫片である。石材は珪岩、片麻岩、 花崗岩、チャートなどがある。接合礫などから推測すると、原型はほとんどが円礫・亜円礫であろう。 これらの礫はすぐ近くのイモッペ川で産出するもので、本来は遺跡の地盤である礫層(M層)に由来 する。破砕面の観察により、被熱の後に割れたものが多いと考えられる。S-1・3では、ほかに少 数ではあるが、土器片や剥片石器、礫石器、フレイクなども混在している。

 $1 \sim 8$  は S-1 出土の遺物。 1 は I 群 b-2 類、  $2 \cdot 3$  は I 群 b-1 類、 4 は I 群 a-2 類土器である。  $1 \sim 3$  は V 層下位、 4 は V 層中位から出土した。 1 は無文地の器面に角軸による幅 3 mmの絡条体圧痕文と縄端刺突文が施されている。 2 は器面に反撚り 2 段の RR 縄文が施されている。 3 は条の幅 1 mm以下の RL 縄文と幅 3 mmの短縄文が施されている。 4 は条の幅  $3 \sim 4$  mmの LR 縄文が施されている。 いずれも内面はなで調整され、 1 は胎土に白色粒・細礫、  $2 \cdot 3$  は黒色鉱物・砂、 4 は繊維・細礫を含む。  $5 \cdot 6$  は石鏃。 5 は三角形で凹基のもの。先端部を欠損する。 6 は凸基の有茎鏃。 茎部を欠く。 7 は北海道式石冠。扁平礫を打ち割った面を擦り面として使用している。また、両端を打ち欠いて把握部を作り出している。 腹面にも擦り痕が見られる。 被熱している。 8 は台石。 断面が台形となる比較的大型の礫の上面が敲かれ、 側面が擦られている。 また、端部には敲打痕が見られることから、たたき石としての機能が複合していたと考えられる。

時期: 礫・礫片が主に堆積した V 層下位の出土遺物から、縄文時代前期前半と推測される。 (芝田)



図V-1-13 S-1(3)

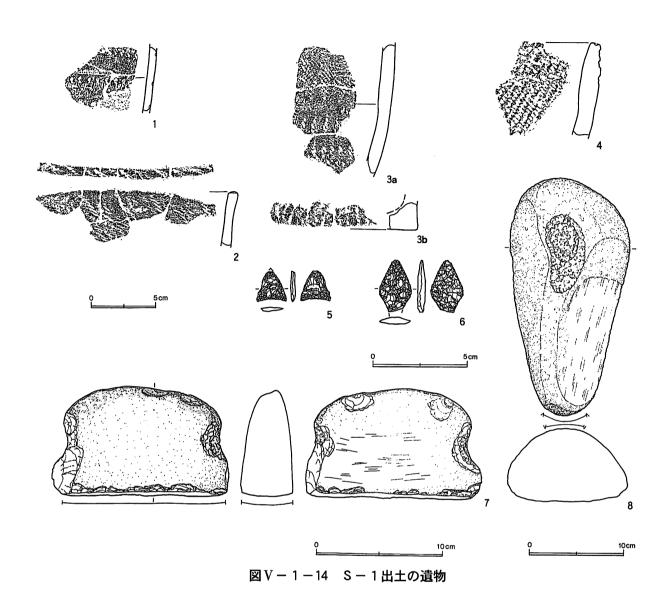
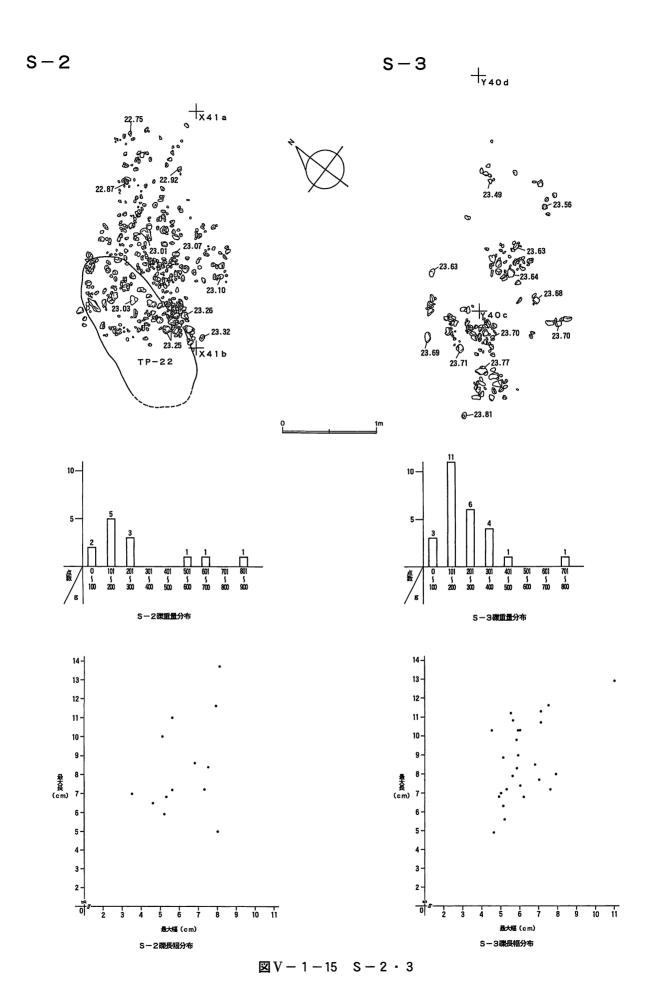


表 V - 1 - 11 S - 1 掲載土器一覧

掲載	1981/18824.	遺物 番号	層位	1	破片	-	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした		
番号				点数	掲載	総数	刀類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同と		
1	S-1	1	V層下	3	3	3	I b – 2			
2	S-1	60	V層下	6	6	15	I b-1	(非掲載) S-1-60V下8, Y41d29同1.		
3	S-1	60	V層下	5	5	32	I b – 1	(非掲載) S-1-5 V中4,同60 V下17,同78同5,Y43b38同1.		
4	S-1	44	V層中	1	1	1	II a − 2			

表 V - 1 - 12 S - 1 掲載石器一覧

番号	遺構名	分 類	遺物番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
5	S – 1	石 鏃	1	V層下	1. 55×1. 59×0. 17	0. 5	黒曜石	
6	S – 1	石 鏃	30	V層中	2. 70×1. 70×3. 70	1. 5	黒曜石	
7	S – 1	北海道式石冠	35	V層中	8. 60×14. 0×4. 10	700.0	砂岩	被熱
8	S – 1	台 石	71	V層中	24. 95×12. 70×8. 10	3630. 0	片麻岩	



## 2 S地点の包含層出土の遺物

## (1) 土 器

#### 概要

S地点の包含層からは平成12・14年度合わせて9,966点の土器が出土している。このうち、縄文時代のものが9,905点で99.4%を占める。擦文時代のものは61点で0.6%である。時期別の点数と包含層出土土器全体に占める割合を多い順に記すと、縄文時代前期前半の土器が4,212点と42.3%を占める。次いで、後期初頭が2,206点で22.1%、早期後半が1,655点で16.6%、中期後半が1,114点で11.2%、中期前半が232点で2.3%、前期後半が4点で0.04%、後期後葉が1点で0.01%となっている(表Vー2−1)。各時期の層位別出土点数と時期別出土点数に占める割合は、縄文時代早期後半はV層下位で1,093点(66.2%)、V層中位で371点(22.4%)、Ⅵ層で86点(5.2%)、前期前半はV層下位で2,429点(57.7%)、V層中位で1,324点(31.4%)、前期後半はV層中位で3点(75%)、中期前半はV層下位で172点(74.1%)、V層中位で54点(23.3%)、中期後半はV層下位で489点(43.9%)、V層中位で417点(37.4%)、後期初頭はV層中位で1,882点(85.3%)、V層下位で246点(11.2%)、後期後葉がV層中位で1点(100%)となっている。また、擦文時代のものはⅢ層で52点(85.2%)出土した。図V-2-1・2に各時期の土器の分布図を示した。また、表V-2-2~6の包含層掲載土器一覧で点数とあるのは見出しとなった破片の点数、掲載とあるのは実測図・拓本で掲載した破片の数、総数は当該個体の破片総数である。同一個体破片の情報の部分で、発掘区・層位について前に同じ部分は「同」とした。層位の次の数字は点数であり、1点の場合は1を省略した。

表 V - 2 - 1 層位別出土土器点数一覧

/\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \\ \	I層	Ⅲ層	TV 5=7		V	層		VI層	B調	風倒 撹乱	表採 排土	計
分 類			IV層	上位	中位	下位	不明					
縄文時代早期												
I群b−1類				5	126	513	4	21		21	2	692
I群b-2類	28	7		24	191	381	4	52		2		689
I群b-3類				1	1	4						6
Ⅰ群b-4類					8	44						52
I群b類細分不能	2			3	45	151	1	13		1		216
縄文時代前期												
Ⅱ群a-1類	24	48		157	961	2049	10	73		15	2	3339
II群a-2類	1	15		4	86	48		6			2	162
Ⅱ群a類細分不能	40	24		33	277	332		5				711
Ⅱ群b類細分不能					3			1				4
縄文時代中期												
Ⅲ群a類				4	54	172	2					232
Ⅲ群b-2類	2	17		22	267	211	6	12	-	1	2	540
Ⅲ群b-3類		12			12	20						44
Ⅲ群b類細分不能	18	47		59	138	258	2	6		2		530
縄文時代後期												
Ⅳ群 a 類余市式		7			13	10						30
Ⅳ群a類タプコプ式	12_	29		20	1869	236	3	5		1	1	2176
₩群c類					1							1
擦文時代												
WI群		52		4	4						1	61
分類不明	9	7		28	146	275	3	12		1		481
合 計	136	265		364	4202	4704	35	206		44	10	9966

(上段:|| 膵ョー1類,下段:|| 膵ョー2類) 57 189 207 227 79 144 152 122 114 484 18 112 3 18 162 708 1 2 32 152 5 192 32 33 縄文時代前期の土器分布 || 群a類土器の分布 ð ဗ္ပ 

ඉ

ဓ္ဌ

縄文時代早期の土器分布

| 群b類土器の分布(1)

(上段: 1群b-1類, 下段: 1群b-2類)

6 2 26 68 4 87

<u>4</u> 6

2 6 8

5 2 2 2 2 2

2 2 2 3 2

9 1

<u>ති ඩ 4 ය</u>

47 17 17 88 89 89

ð

ဝ္ပ 

3

6

 18 59 6

3 10 10 60 60

8,

22 16

က

41 186

ð

20 186

37 75

56 225 142

위

23 16

φ φ

97 123 121

包含層出土土器分布図(1) ī  $\mathbf{Z} \mathbf{V} - \mathbf{2}$ 

40 41

全体の土器分布

362 290 70

225 1003

Ş 

R

122 336 108

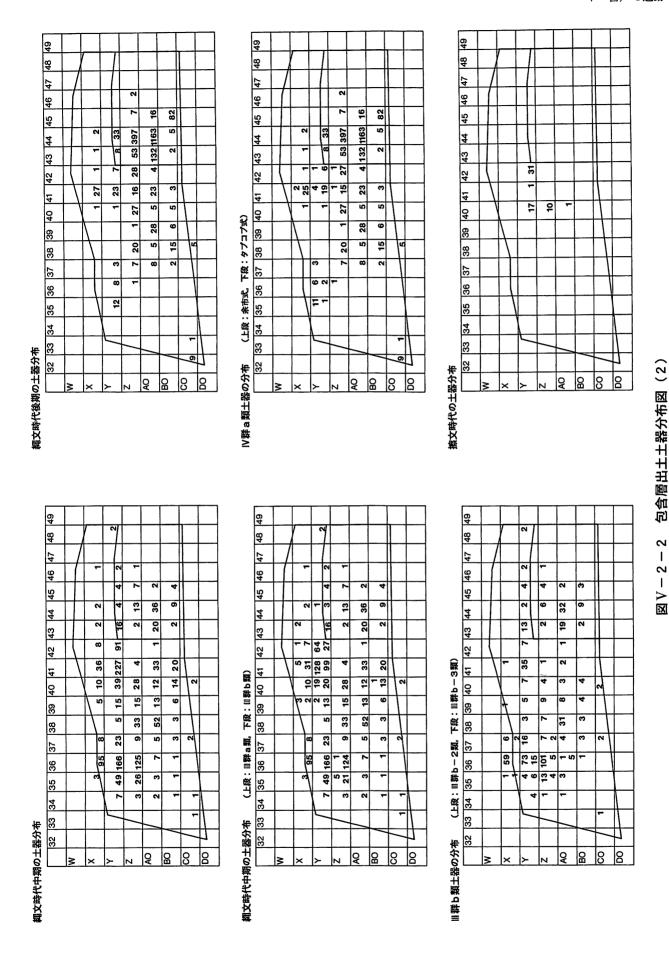
Ŋ

15 77

100 10

(上段: 1群b-3類, 下段: 1群b-4類)

| 群b類土器の分布(2)



91

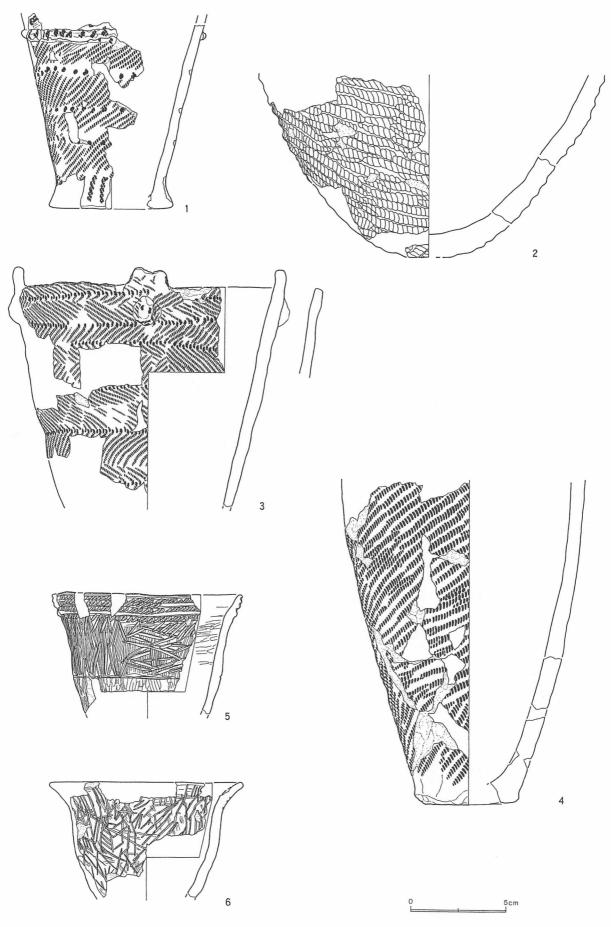


図 V-2-3 包含層出土の土器 (1)

#### 縄文時代早期の土器

#### I群b−1類(1・7~22)

74.1%が V 層下位から出土した。平面分布では Y41、  $Z39 \cdot 40$ 、 A039、 B040で62.6%を占め、 1  $m^2$  当  $92.88 \sim 4.2$  点の出土となる。 I 群 b-2 類と比較すると中央の沢の下流寄りに分布の濃い部分がある。胎土には黄白色火山灰・細礫を含む。

#### a 組紐圧痕文をもつもの $(7 \sim 9)$

7~9は幅3~4mmの組紐圧痕文と短縄文が組み合わせて施文される。7は胎土が緻密で砂を含む。

## b 縄の側縁圧痕をもつもの (10~13)

 $10\sim13$ には幅  $2\sim3$  mmの縄の圧痕が施文されている。10は縄端の圧痕、 $11\cdot13$ は短縄文と縄線文、12は短縄文である。12は短縄文を施した器面に幅  $6\sim7$  mmの断面半円形の貼付文を巡らせ縄で刻んでいる。胎土は緻密である。いずれも口唇が縄で刻まれる。13は胎土に黒色鉱物を含む。

#### c 縄文をもつもの(1・14~16)

1・14・15には LR、16には無節の縄文が施されている。1は現存器高15.2cm、底径9.7cmを計る深鉢で、口縁~胴部上半を欠き。胴下部~底部が復元できた。縄文地に縄端刺突列、断面三角形の貼付文を巡らせ、貼付を縄により刻んでいる。貼付の直上器面には縄の圧痕が認められ、張り出した底部には短縄文が施される。14・15の口縁は丸みを帯びる。16は底部に幅3mmの短縄文をもつ。14には黒色鉱物、15には砂を含む。16は胎土が緻密である。

#### d 底 部 (17~22)

張り出した底部には短縄文が施される。短縄文の幅は $17\sim20$ が  $3\sim4$  mm、 $21\cdot22$ が 2 mmである。19 は器面に LR の縄文が施されている。いずれも胎土に砂を含む。

## I群b-2類 (23~38)

55.3%がV層下位から出土した。平面分布ではY43、 $Z39 \cdot 43$ 、 $B040 \cdot 41$ で60.7%を占め、 $1 \text{ m}^2$  当 92.72~4.08点の出土となる。 I 群 b-1 類と比較すると中央の沢の上流寄りに分布の濃い部分がある。 I 群 b-1 類より地文・施文が細かく、胎土に黄白色火山灰・細礫を含むが緻密である。

## a 縄文地のもの (23~25・35・37)

 $23\sim25$ は条の幅  $1\sim3$  mmの縄文地と貼付文が組み合わせて施文される。23は横位、24は縦・横・斜位、25は横位に貼付文が施される。貼付文は幅  $3\sim5$  mmで、25は断面形が半円形、 $24\cdot25$ は三角形で縄により刻まれている。35には幅 2 mm、37には幅 1 mm以下の細かい LR の縄文が施されている。口唇断面形は35が角張り、37は尖り気味である。

#### b 組紐圧痕文をもつもの (26・27・29)

26は幅15~16mmの扁平な縦位貼付文と縦・横・斜位の斜位の組紐圧痕文が組み合わされている。口唇は縄で刻まれ、内面は横なでにより丁寧に調整されている。27・28は斜位の組紐圧痕文と縄端刺突文が組み合わされており、29には短縄文が認められる。いずれも組紐圧痕文の幅は3mmである。

## c 絡条体圧痕文をもつもの (28・30~32・36)

28・30~32は角軸の絡条体圧痕文と縄端刺突文が組み合わせて施文される。28は口唇外縁に幅4~5 mmの断面三角形の横環する貼付帯と、口縁から垂下する幅16~19mmの扁平な貼付をもち、いずれも縄により刻まれている。口唇には縄の圧痕が施されている。30は斜位の絡条体圧痕文とそれに沿った縄端刺突文、横環する幅5 mm断面形三角形の貼付帯、短縄文の組み合わせで、器面の短縄文が貼付帯にも及ぶ。31・32は横位の絡条体圧痕文とそれに沿った縄端刺突文の組み合わせである。31の口唇には斜位の縄圧痕がある。

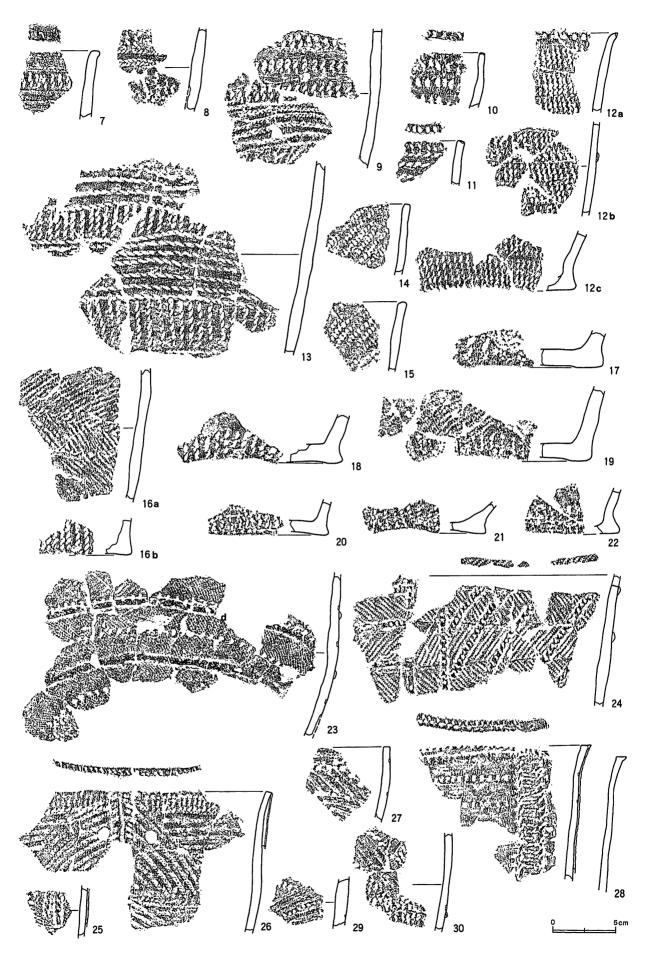


図 V - 2 - 4 包含層出土の土器(2)

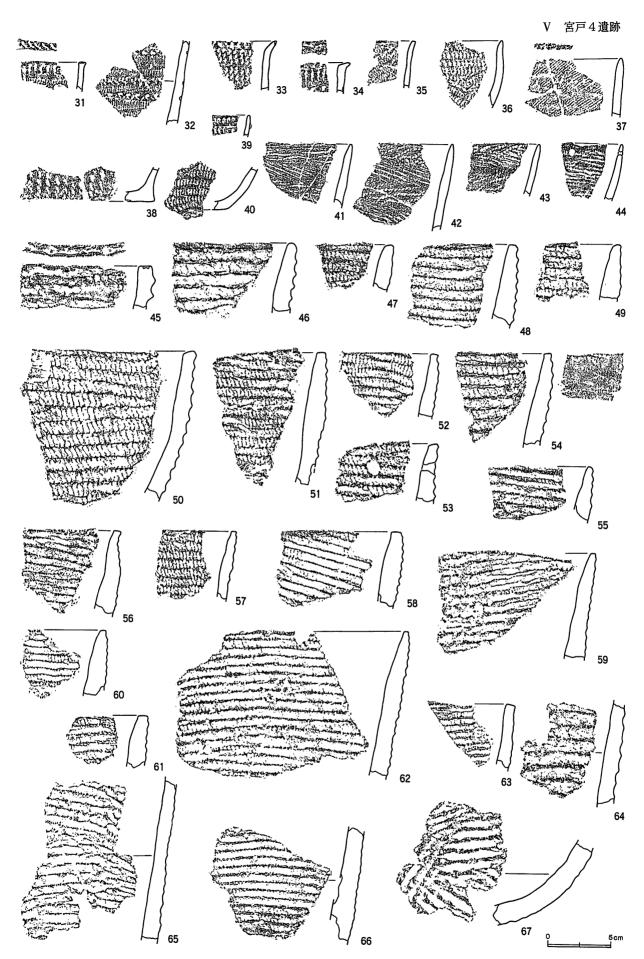


図 V-2-5 包含層出土の土器 (3)

### d 縄の側縁圧痕をもつもの (33・34)

33・34は口唇外縁に幅3~5㎜、断面形三角形の貼付帯をつけ口唇を外に張り出させている。いずれも短縄文が施されており、34には縄端刺突文が認められる。33は口唇外縁が縄で刻まれる。34は口唇に横位の縄圧痕がある。

# I群b-3類(39⋅40)

6点出土した。39は幅 $2\sim3$ mmの貼付帯と幅 $1\sim2$ mmの短縄文、縄端刺突文をもつ。 $36\cdot40$ は同一個体で丸軸に LR の縄を巻きつけた絡条体の横・斜位圧痕がある。口唇断面形は尖り気味。底部は緩やかに立ち上がる。いずれも胎土に黒色鉱物を含み、 $36\cdot40$ には石英も含まれる。

# Ⅰ 群 b - 4 類 (41~44)

84.6%がV層下位から出土した。平面分布では67.3%が $Y \cdot Z \cdot A 0 39、B 0 40$ からで、 $1 \text{ m}^2$ 当  $90.12\sim0.92$ 点となる。中央の沢を中心に分布している。いずれも自縄自巻の縄文が施されており、口唇断面は尖り気味である。

### 縄文時代前期の土器

# Ⅱ群 a-1類 (2・45~67)

61.4%が V 層下位から出土した。平面分布では Z 35・36、A 0 36・37、B 0 39で50.7%を占め、1  $m^2$  当 96.45 点以上の出土となる。特に Z 36からは 21.2%、1  $m^2$  当 928.3 点が出土した。横走気味の RL 縄文が施され、条の幅が  $10\sim13$  mm( $45\cdot64$ )、 $7\sim9$  mm( $2\cdot46\sim51$ )、 $5\sim6$  mm( $52\sim63\sim67$ )のものがある。胎土には繊維・黄白色火山灰・細礫を含む。 $45\sim47\cdot52\cdot57\sim59\cdot65\cdot66$  は黒色鉱物を含む。

45~63は口縁で、口唇が角形のもの(45・47・50~54・56~58・61・63)、先細りのもの(46・48・49・55・59・60・62)があり、いずれも面取りされている。45は口唇に竹管状工具による刺突が施されている。64~66は胴部、67は底部である。縄文施文後に器面がなで調整されたものが多く、54は口縁内面 RL 縄文が調整の際になで消されて痕跡が残る。2は現存器高14.3cmを計る深鉢である。口縁~胴部の大半を欠き、胴下部~丸底の底部が復元できた。

# Ⅱ群a-2類 (68~75)

53.1%がV層中位から出土した。平面分布ではY36、Z41、 $A040 \cdot 44$ で38.9%を占め、 $1 \text{ m}^2$ 当  $90.4\sim 0.72$ 点の出土となっている。条の幅が $6 \text{ mm} (69 \cdot 70 \cdot 71 \cdot 74)$ 、 $4 \text{ mm} (72 \cdot 73 \cdot 75)$ 、3 mm (68) のものがある。胎土に繊維・黄白色火山灰を含む。

68・69・73は口縁である。68は先細りで口唇が外傾する。69は条の通った明瞭な縄文を施し、口唇を面取りして角形に仕上げている。胎土に黒色鉱物を含む。73は口唇が丸みを帯びる。68・73の施文は磨耗して不明瞭である。70・71・74・75は胴部、72は底部である。69~71・74・75にはLRの縄文が施されている。68・72・73は不明瞭である。

### 縄文時代中期の土器

# Ⅲ群a類 (3·76~78)

74. 1%がV層下位から出土した。平面分布ではY40~42で90. 9%占め、 $1 \text{ m}^2$ 当り0. 76点以上の出土となる。特にY41からは55%、 $1 \text{ m}^2$ 当り5. 12点が出土した。

76は肥厚した口縁に山形突起をもち、突起と口縁肥厚部分直下に絡条体圧痕文が施されている。内面は磨かれている。胎土には黄褐色火山灰・砂を含む。3・77・78は口縁に山形突起、突起下に貼付をもつ。3は推定口径21.2cm、残存器高18.6cmを計る深鉢である。口縁~胴部の1/2が復元できた。3・78は器面に結束羽状縄文が施されている。77にはRLの縄文が認められる。いずれも内面は粗雑

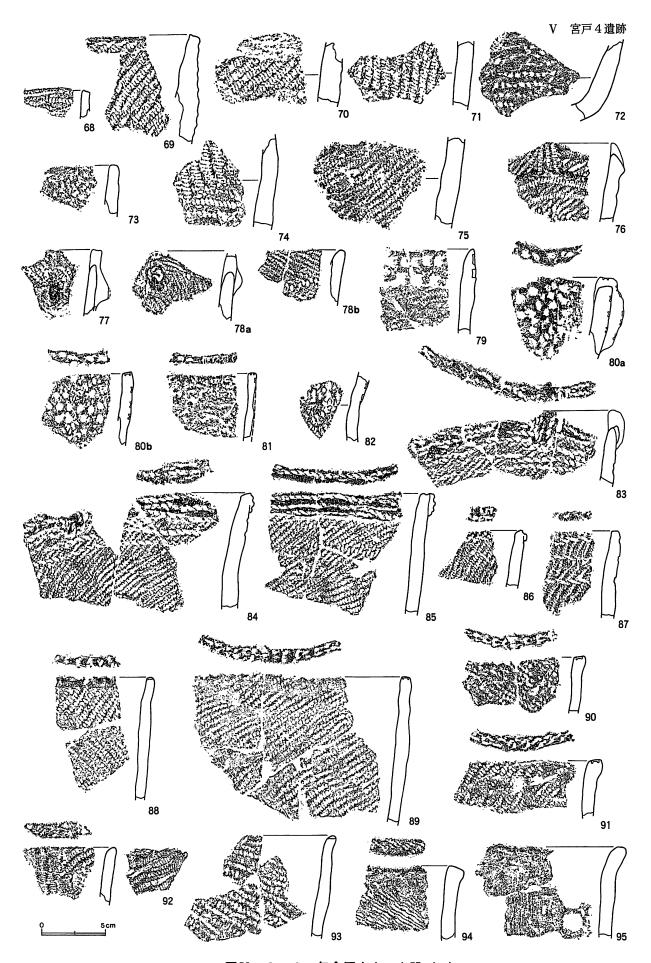


図 V-2-6 包含層出土の土器 (4)

に磨かれ、胎土に黄褐色火山灰・砂を含む。3は細礫、78は黒色鉱物を含む。

### Ⅲ群 b-2類 (79~95)

49.4%が V 層中位から出土した。平面分布では  $X \sim Z$  36、 Y 35、 A 0 38・44で61.3%を占め、 1  $m^2$  当 0 1.24~4.04点の出土となる。内面はなで調整され、胎土には砂・細礫を含む。

### a 口縁に刺突文をもつもの (79~82)

79は箆状もしくはつぶれた半截竹管状工具による右方向からの連続刺突文、80・81は竹管状工具、82は竹管状工具と扁平な棒状工具による刺突文をもつ。80・81は口唇にも刺突文が施される。79にはLR、82にはLRLの縄文が認められる。

# b 口縁に縄線文をもつもの (83~87)

83~86は口縁に縄線文の施された貼付帯をもつ。器面に LR 斜行縄文を施し、口縁貼付帯・口唇に縄線文をもつ。83は小突起と器面、84は器面、86は口縁貼付帯直下に縄線文が施される。86は口唇が縄で刻まれる。83~85は胎土に黒色鉱物を含む。87は LR 斜行縄文の施された器面に縄線文をもち、口唇に縄の圧痕が認められる。

# c 口縁が縄文地のみのもの(88~94)

88・89・91・92には LR、90には RLR、93には RLの縄文が施されている。92は方向を変えて施され、口縁内面にも LR の縄文がある。いずれも口唇に施文があり、88は縄刻み、89・90は半截竹管状工具による右方向からの連続刺突、91は同様の工具による左右からの連続刺突文、92は地文と同じ縄文、93は指頭による刻みである。94は肥厚した口唇と器面に条の幅 2 mmの RL 縄文が施される。

### d 無文地のもの (95)

95は口縁がわずかに外反し、無文地の器面に箆状工具による縦方向の擦痕が認められる。

### Ⅲ群 b-3類 (96~99)

45.5%がV層下位から出土した。平面分布ではY34~36、Z35・36、A036で88.6%を占め、 $1 \text{ m}^2$ 当り0.16点以上の出土とる。特にY36からは34.1%、 $1 \text{ m}^2$ 当り0.6点が出土した。

# a 口縁に刻みをもつもの (96・97)

96は口唇外縁に、97は口縁に箆状工具による刻みをもつ。内面はなで調整され、97には指頭痕が残る。胎土に黄白色火山灰・砂・細礫を含み、96は黄白色火山灰・細礫が目立つ。

# b 口縁に押引文をもつもの (98・99)

98は口縁に2列、99は口縁に1列と口唇に半截竹管状工具による押引文がある。内面はなで調整され99には指頭痕が残る。胎土に黒色鉱物・砂・黄白色火山灰を含み、98には黒色鉱物・砂が多い。

### Ⅲ群b類 (100~102)

縄文地のもの(100・101)と無文のもの(102)があり、底部がわずかに張り出す。100・101は器面に LR の縄文が施されている。いずれも胎土に砂・黄白色火山灰を含む。102には砂・黄白色火山灰を多く含む

# 縄文時代後期の土器

### Ⅳ群a類(103~113)

余市式に相当するものとタプコプ式に相当するものがある。余市式に相当するものは43.3%がV層中位から出土した。平面分布ではY35~37、X・Y41で86.7%を占め、1 m2当り0.08~0.44点の出土となる。タプコプ式に相当するものは85.9%がV層中位から出土した。平面分布ではZ43・44、A043・44で80.2%を占め、1 m2当り2.12点の出土となる。特にA044からは53.4%、1 m2当り46.52点が出土した。

# a 余市式に相当するもの (103~109)

 $103\sim109$ は条がよく通り、節が深く印される縄文をもつ。103は口縁に竹管状工具による左方向からの刺突文をもつ。 $104\sim106\cdot108$ は貼付帯をもち、貼付帯の部分で施文方向が変わる。 $103\sim108$ には LR、109には RL の縄文が施される。胎土は緻密で砂・黄白色火山灰・細礫を含む。

# b タプコプ式に相当するもの (4·110~113)

4・110~113は LR の縄文施文後に器面がなでられている。胎土に砂・黄白色火山灰・細礫を多く含み、割れ口は層状をなす。 4 は残存器高25.3cm、底径8.2cmを計る深鉢である。口縁~胴部上半を欠く。110は口唇・口縁に縄線文をもつ。112の器面には施文方向の異なる縄文が施され、口縁内面にLR の縄文が認められる。

# Ⅳ群c類(114)

1点のみV層中位から出土した。器面に LR の縄文が施され、内面は磨かれている。胎土に細礫を含む。

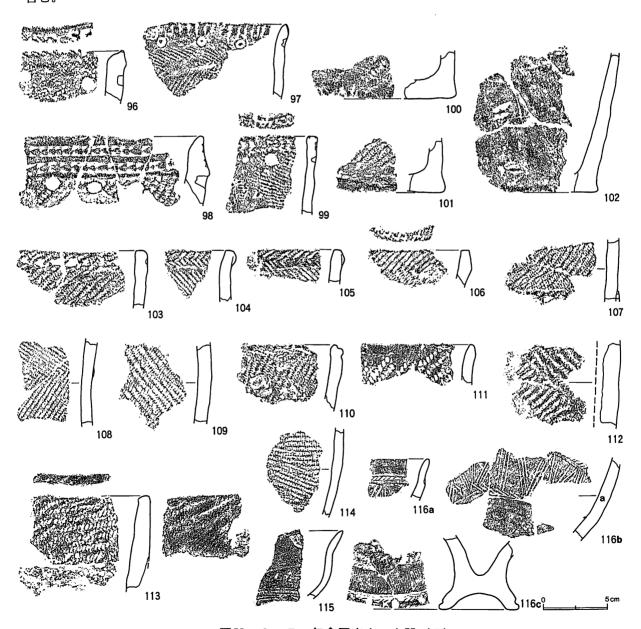


図 V-2-7 包含層出土の土器 (5)

# 擦文時代の土器

Ⅷ群 (5・6・115・116)

すべてⅢ層から出土した。平面分布ではY・Z40、Y42で95.1%を占め、1 m²当り0.4~1.24点の出土となる。特にY42からは50.8%、1 m²当り1.24点が出土した。

5は推定口径14.9cm、現存器高9.6cmを計る小型の深鉢である。外・内面はヘラミガキされ、楔形列点文、綾杉状刻線文をもつ。6は推定口径15.2cm、現存器高9.1cmを計る小型の深鉢である。外・内面ともヨコナデされ、綾杉状刻線文をもつ。115は坏で、外面はヨコハケメ、内面はヘラミガキされ、内面は黒色処理されている。口唇は尖り気味である。116は高坏で外・内面ともヘラミガキされ、内面は黒色処理される。施文は楔形列点文、鋸歯状刻線文である。脚部には横走沈線と鋸歯状刻線文が施されている。4・115・116の内面は黒色処理されている。 (鎌田)

表 V - 2 - 2 包含層掲載土器一覧(1)

掲載		遺物		<b>4</b>	波片	<del>†</del>				
番号	発掘区	番号	層位	点数	掲載	総数	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした		
1	B041a	11	V下	22	22	36	I b – 1	(非掲載) B040d43V下2,同41a10同,同11同11.		
2	B039d	52	V下	14	17	25	I a−1	(掲載) B039d22V下,同40a20同2. (非掲載) A039c13V中,B039d21V下,同51同,同52同5.		
3	Y41d	21	٧Ŧ	5	20	71	Ша	(掲載) X41c2V下,同8同,同 a7V中,同10V下,同 d5V中2,同12V下7,同19同2. (非掲載) Y40c2V下,同 d31V下,同32V中,同44V下,同45同,同41a7V中,同10 W2,同22V下,同34 W7,同33V下2,同55 W2,同56同,同60V下,同 b24,同 d5 V中2,同8 W14,同12V下9,同13同,同15同2.		
4	A040d	17	V中	1	23	28	N/a	(掲載)A039a12V中8,同 b4V上2,同14V中,同15同,同31V下,同46同5,同 c57 №2,同40a8V中2.(非掲載)A038b17V中,同39b31V下,同 c15V中,同40V下,同59撹乱.		
5	Y42d	3	II	8	19	28	VII	(掲載)Y42d1Ⅲ, 同2同8, 同4同2. (非掲載)Y42d2Ⅲ7, 同3同, 同4同.		
6	Y40d	1	Ш	8	8	9	VII	(非掲載) Y40d1Ⅲ.		
7	A039a	28	V下	1	1	3	I b – 1	(非掲載) Z39c1V上, A039a28V下.		
8	A045d	6	V下	2	3	3	I b-1	-1 (掲載) B045a10 V下.		
9	A034c	22	V下	7	7	7	I b – 2			
10	Z37b	30	V下	1	1	6	I b-1	(非掲載) Z37b7V下2,同39b48V下,同40a32同,A038d41同.		
11	B039a	71	V下	1	1	1	I b-1			
12	Z39c	32	Vф	1	12	163	I b−1	(掲載) (a) Z39c53 V下, A041d12 V中, (b) Y37b14 V中, Z37a6 V下, 同 c22同, 同39b26 V中, 同 c53 V下, (c) Z39c32 V中2, 同39 V下, A039a28同. (非掲載) Z35b12 V下2, 同36d10 V中2, 同37c22 V下, 同39b26 V中2, 同27同2, 同36 V下6, 同49同,同 c1 V 上2,同31 V中7,同32同36,同39 V下17,同50 V,同51同2,同53同 V下4,同 d24 V中2, A038a28 V下,同39a28同32,同 b12 V中,同 c9同,同36 V下,同 d3 V中,同24 V下10,同35 VI,同41c2 V中,同 d12同8, B038a28 V下,同 c29 VI,同39b15 V下,同40b51同,同65同, C038a10 V下,同39d13同.		
13	Z40d	56	٧Ŧ	1	12	78	I b-1	(掲載) Z40d57V下2. Y40c42V下. Z40d57V下8. (非掲載) Z40d44V下2, 同56同2, 同57同55, A034c22V下7.		
14	В040с	17	V下	1	1	3	I b – 1	(非掲載) B040c17V下2.		
15	B040d	44	V下	1	1	36	I b-1	b-1 (非掲載) B040a45 V 下3, 同 b54同, 同74撹乱14, 同 c22 V 下, 同 d31 VI, 同39 V 下, 同42同, 同44同9, 同49同3, 同50同.		

表 5 - 2 - 3 包含層掲載土器一覧(2)

				7/8				
掲載	発掘区	遺物	層位		波片	_	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号		番号		点数	掲載	総数		
16	Y41 b	7	٧Ŧ	2	8	54	I b – 1	(掲載) (a) Y41c5 V 下2, 同8同, 同42b6同, 排土35. (b) Y41a48 V 下. (非掲載) X41b16 V 下3, Y40a25 V 下1, 同 d63同, 同41a27同9, 同28同2, 同45同3, 同47同, 同48同3, 同49同, 同50同2, 同 b15同3, 同16同, 同 c10同, 同 d24同13, 同42b6同.
17	B040 b	74	撹乱	1	1	7	I b – 1	(非掲載) B040a33V下,同44同2,同 d32同,同44同2.
18	В037 а	33	V下	1	1	6	I b-1	(非掲載) B037a33 V 下, 同40同, 同38c27 Ⅵ, 同 d35同2.
19	A037 d	8	٧F	2	6	28	I b-1	(掲載) A037d9V下4.(非掲載) Z38b70V下,同 c52同3,同40d57同2,A037d9同6,同40c28同2,B040b33V下,同74撹乱2,同 d44V下3.同50同,C040a2同.
20	Y 35 a	5	V下	1	1	15	I b – 1	(非掲載) Y35a5V下2,同6同8,同 b10同2,同19同2.
21	A039b	40	V下	1	1	4	I b – 1	(非掲載) Z37a32 Ⅵ, A036b4 V 下, 同39a28同。
22	Z 39 c	32	V中	2	2	2	I b – 1	
23	Y43 c	26	Vψ	1	20	44	I b – 2	(掲載) Y43c28 V 中, Z43a15 V 下, 同24 Ⅵ 2, 同25 V 中2, 同28 Ⅵ 13. (非掲載) Z43a15 V 下8, 同19 V 中2, 同24 Ⅵ 6, 同28同8.
24	Y43 c	23	V中	4	12	44	I b – 2	(掲載) Y43b31 V中4, 同35同, 同 c17同, 同27同, 同40 V下. (非掲載) Y43b13 V中, 同28同11, 同30同3, 同31同2, 同35同2, 同 c16同2, 同27同4, 同36 V下, Z43a7 V上, 同17 V下, 同19 V中, 同28 W, 同33同, 同 d20同.
25	Y41 a	49	V下	1	1	2	I b – 2	(非掲載) Y41c7V下.
26	Z 40 b	24	V下	1	8	33	I b – 2	(掲載) Z40b41 V 下2, 同 c51同, A040a23 V 下, 同 d23同, 同34同, 排土38. (非掲載)Y42a36 V 下, Z37c39 VI, 同 d2 V 下, 同39b27 V 中, 同 c1 V 上2, 同53 V 下, Z40a14 V 中, 同 b41 V 下2, 同 c33 V 中, 同51 V 下, 同52同2, A039a28 V 下4, 同 b40同2, 同40a23同2, 同 b22 V 中, 同 d23 V 下, B040b53同.
27	B040 a	44	V下	1	1	1	I b – 2	
28	Z41 c	10	V中	1	5	47	I b – 2	(掲載) B040b65 V 下4. (非掲載) Z39b47 V 下,同41c1 V 中,同42c1 V 下,同 d2同2,A039b40 V 下,同 c9 V 中,同41d1同,同42a3 V 下2,B040b32同3,同33同2,同51同3,同53同2,同65同7,同66同5,同 c16同3,同 d30同,同41d1 I 2,C040a3 V 下,同16同,同17同2
29	X 42 d	10	V下	1	1	5	I b – 2	(非掲載) X42d3 V 中2, 同10 V 下, 同43a2 Ⅵ.
30	B041 d	1	I	4	4	15	I b – 2	(非掲載) A041a20 V 下3, 同 b10同, 同19同, 同 c2 V 中, B041d1 I 5.
31	Z 39 b	47	V下	1	2	19	I b – 2	(掲載) Z39b48 V下. (非掲載) Z38b1 V中2,同 c53 V下,同39a32 V下,同 b1 V上,同26 V中2,同36 V下2,同47同3,同 c31 V中,A039d3 V中3,同24 V下.
32	Z 43 b	23	VI	1	2	2	I b – 2	(掲載) Z43d14 W.
33	A035 d	10	V下	1	1	9	I b – 2	(非掲載) Y36d8Ⅲ4, 同16 V 中3, A034d26 V 下.
34	C040 a	3	V下	1	1	1	I b – 2	
35	Z 39 d	34	V下	2	2	2	I b - 2	
37	Y42 d	9	V下	3	3	24	I b – 2	(非掲載) Y42d9V下7,同15同13,同43c16V中.
38	Z 40 b	50	V下	2	2	2	I b - 2	
39	Y42b	13	V下	1	1	1	I b – 3	
36	Z 38 c	51	,,_	1		_		(北州建) 1000-1441-14 10040-101-17 日22日
40	Z 38 a	17	V下	1	2	5	I b – 3	(非掲載)A039d44V中, B040b33V下, 同77同. 
41	B調K	2	V下	2	2	2	I b – 4	

表 V - 2 - 4 包含層掲載土器一覧 (3)

48 84		· Jan al.a						(3)
掲載	発掘区	遺物	層位		波片	i	分類	  同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号		番号		点数	掲載	総数		
42	A043a	15	V中	2	2	2	I b – 4	
43	A039a	30	V下	1	1	37	I b−4	(非掲載) Y40c23 V下, Z39a26同,同 c36 V中,同 d25同,同34 V下,同41c11 V中,同42d6 V下,A037c23 V中,同38d48 V下,同39a30 V下7,同58同5,同 b42同4,同40c6 V中,同 d13同,B037b30 V下2,同39c27同,同 d62同,同40a38同,同 c24同,C039d3同,排土19,排土47.
44	Z40d	34	V下	1	1	1	I b-4	
45	B036d	8	V下	1	1	1	II a − 1	
46	Z37b	20	V下	1	1	1	II a − 1	
47	B038a	32	V下	1	1	1	I a - 1	
48	B039a	83	V下	1	1	44	I a - 1	(非掲載) B039a83 V下41,同 d19同, C037d1 V.
49	B038a	1	V上	1	1	1	I a - 1	(特徴)条の幅7~8mm の RL 縄文。器・内面ナデ、胎土に繊維・海綿骨針・白色火山灰。
50	Y40a	3	V中	1	1	18	II a - 1	(非掲載)Y38b4V上,同40a6V中6,同17V下,同 d42同,Z35b6V中,同38c32同,同54V下風倒,B037a57V下,同 b23同2,C037c1同,同38a11同.
51	A037a	4	Vф	2	2	15	II a − 1	(非掲載)Z34c1V中, 同37a10V下2, 同37c38同, A037a4V中3, 同8同, A037a13V下, 同 d11同2, B037a35, 同57同.
52	B038d	45	V下	1	1	2	I a - 1	(非掲載) B038d43 V 下.
53	C039d	4	V下	1	1	1	II a – 1	
54	В039с	53	V下	1	1	1	I a − 1	
55	A044b	35	V中	1	1	2	I a − 1	(非掲載) A044c6 V 中.
56	Z36a	53	V下	1	1	26	II a - 1	(非掲載) Z35c12V中3,同21V下,同49同2,同 d2V中,同36a9同,同45同2,同53V下11,同 b47同,A036d2V中,同3V下,C038b1V上.
57	Y36b	9	V中	1	1	37	I a – 1	(非掲載) Y35b12V下,同20同,同36b9V中13,同14V下4,同21同3,同 c17同,同39c13同,同41a52同,Z36a1V中,同53V下7,同 d4V中,同37a10V下,A038a21V中.
58	B036d	7	٧Ŧ	2	2	34	II a − 1	(非掲載) Y35b24V下, Z36b14同, 同37b19同, 同 c17V中, A033c1I, 同36b9V下2, 同 c5同, 同13V中2, 同20V下, 同23V, 同 d13V下, 同37a4V中2, 同 b12V下, 同15V中, 同27V下, 同 c4同, 同 d11同, 同38a21V中, B034c1I2, 同36d7V下2, 同8同, 同10同, 同37a35同, 同36同, 同 c15同, 同39c12同2.
59	A038a	21	V中	1	1	11	II a – 1	(非掲載)Y36d9Ⅲ, Z35c4V中, 同38a2V, A037b35V下, 同38a21V中, 同 c15同, 同49Ⅵ, B037a36V下2, 同 c26V中.
60	Z40d	33	V下	1	1	1	I a − 1	
61	A038b	31	V下	1	1	1	I a - 1	
62	A040b	3	V中	1	2	38	II a − 1	(掲載) A040b29 V下. (非掲載) Z35a6 V下,同 c17 V中,同36a10 V中2,同36 V下,同45 V中2,同 b12 V下2,同44同,同60同8,同 c8同,同 d4 V中3,同12 V下,同24 V中2,同39b31 V中,同32同,同42c3同,A036a6 V下,同20同,同37b27 V下2,同40a1 V上,同 b1 V中,同 d15 V中,C039d14 V中.
63	B040a	36	V下	1	1	1	II a - 1	
64	A035d	11	V下	2	2	23	II a - 1	(非掲載) Z37a10 V 下3, 同 b20同,同 d3 V 中, A034a2 V 下3,同 d21同4,同25同,同35a14同,同 b14同,同17 V,同36d7 V 下,同41a13 V 中,B033c10 I,同34a2 I,同39d63 Ⅵ.
65	Z40a	24	٧F	1	4	24	II a - 1	(掲載) Z40a37V下2,同 c10V中.(非掲載) Y39b9V下,Z37a10同,同 c33同,同38a12同,同39a39Ⅵ,同 c3V上,同40a24V下2,同40b36V中,同 c10同,同 d30V中,同41b7V下4,同9V中,A040a1V上,同 d15V中.

表 V - 2 - 5 包含層掲載土器一覧(4)

Adh ELL		100.44			_			2 (4)
掲載	発掘区	遺物	層位		皮片	_	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号		番号		点数	掲載	総数		
66	B040c	11	V下	1	1	55	II a − 1	(非掲載) Y39c10 V 中, Z37c17 V 中, A035a11 V 下, 同37a4 V 中6, 同8同4, 同 b5同, 同15同2 同27 V 下3, 同 c4同, 同15同, B036d2 V 下, 同8同, 同37a35同, 同13同, 同 b2 V 中, 同 d11 V 下6 同38d32同, 同39c44同, 同 b42同, 同 d20 V 下2, 同22同4, 同24同, 同51同, 同69 V 3, 同40c13 V 下, 同18同3, 同 d34同, 同46同, C037d24同, 同40a8同.
67	Y36b	21	V下	1	2	8	I a - 1	(掲載) Z36a53 V下. (非掲載) Y39c21 V下, Z37c38 W, 同39a39同3, A041b10 V中.
68	Y36c	8	II	1	1	1	I a - 2	
69	A041a	6	Vψ	1	2	9	I a − 2	(掲載)不明10排土. (非掲載)Y40d18V中,同41b4V下,Z41b9V中,同25V下,A040b1V中,同41a6同,同13同
70	Z41b	15	V中	1	1	4	I a - 2	(非掲載) Z41b12V下,同15V中2.
71	A041a	22	V下	1	1	1	II a - 2	
72	Z40c	36	Vψ	1	1	6	I a - 2	(非掲載) Z39b40 V下, 同41b15 V中, A040d29同, B037a56 V下, 同39a72同.
73	B038d	41	V下	1	1	6	I a - 2	(非掲載) Y41a20V下, Z40c16V上, 同32V中, B038c13V下, C040a25V中.
74	A040c	24	V中	1	1	3	I a - 2	(非掲載) Z41b15V中, A041d14同.
75	A045b	17	V下	1	1	16	I a – 2	(非掲載) Y43c2V中, 同44b17同, 同21同, Z44b13同, 同41同, 同 d4同, 同6 V上, 同13 V中, 同14同, Z45b1同, A044a30同, 同 d12同, , 同45a8 V中, 同15 V下, 同 b19 V中.
76	Y41d	4	Vψ	1	1	31	Ша	(非掲載) Y41d1V上,同4V中5,同5同,Y42a3同4,同5同6,同30V下4,同31同5,同 b8同3,同44b2V上.
77	Y40c	16	V下	1	1	46	Па	X39c1 V下3, 同42b5 V中, Y39a2 V上, 同40c16 V下3, 同43同, 同 d57同, 同41a7 V中7, 同10 V下7, 同22同8, 同33同2, 同34同, 同55同, 同 d4 V中, 同8 V下, 同42a5 V中, 同22 V下, 同30同3, 同 b8同, 同 d14同.
78	Y42a	22	V下	1	3	26	Ша	(掲載)b:Y41d8V下,同12同.(非掲載)X41b9V中,同 c7V下,Y41a34同,同 d12同3,同21同,同42a22同,同23同3,同26同5,同37同2,同 b8同3,同 d7V下2.
79	X37d	1	V下	6	6	12	<b>I</b> I b−2	(非掲載) Y36a9V下,同 d19同,同22同2,同37b22同,同28同.
80	A038d	29	V中	1	2	9	II b − 2	(掲載) b:A038d30V中.(非掲載) Z37c9V上2,A035d26V下,同38b3V上,同39a34V下, B036a3 VI,同37a54V下.
81	A038b	16	V中	1	1	9	<b>I</b> b − 2	(非掲載) Z39b35 V 中, A038d14 V 中, 同46 V 下2, 同47同3, 同40d42撹乱.
82	Z34d	1	Vψ	1	1	2	<b>I</b> I b − 2	(非掲載) Y39d4V上.
83	Y43a	6	V下	1	4	4	<b>I</b> b − 2	(掲載) A044a46 V 中, 同 c25同, 同 d31同.
84	Y43b	7	V中	1	3	8	<b>I</b> b − 2	(掲載)Y43b29V中, Z44a24同. (非掲載)Y43b8V中, Z43d12同, 同44b42同, A044c17同, 同45b3V.
85	Y43b	26	V中	1	5	8	<b>I</b> I b − 2	(掲載)Z44b4V中, A044c22同, B044a4V下, 同 d13Ⅵ上. (非掲載)Z44b23V中, 同45d11V木根, A043c4V中.
86	Y45c	10	Vф	1	1	1		
87	Y46b	5	V上	1	1	1	<b>I</b> I b − 2	
88	Y41b	25	V下	1	2	2	<b>I</b> b − 2	(掲載) Z38d25V下.
89	Z35d	4	V中	2	5	13	<b>II</b> b−2	(掲載) Z35d27V中2,同36a39V下.(非掲載) Y35d1V中2,同36a6同2,同9V下. Z35d27V中,同36a39V下2.
90	Z36a	47	V中	1	2	47	<b>I</b> b − 2	(掲載) Z36c11V下. (非掲載) Z36a47V中19, 同 b18同7, 同27V下5, 同43同2, 同 c11同5, 同18V中3, 同 d16V下4.
91	A036a	16	V下	1	1	2	<b>I</b> I b − 2	(非掲載) X35d2V上.

表 V-2-6 包含層掲載土器一覧 (5)

4da 60+		*##			# # 14		ян <i>э</i> -	
掲載	発掘区	遺物	層位		皮片		分類	  同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号		番号		-	掲載		ļ	
92	Y44b	1	V上	1	1	1	II b − 2	
93	Y41a	35	V下	1	3	39	<b>I</b> b − 2	(掲載) Y41a36 V下,同 d32同.(非掲載) Y38c10 V下,同40c20同3,同24同,同36同,同44同,同41a12同,同41b25同3,同26同,同27同,同28同13,同 d30同3,同31同2,A041b3Ⅲ,B040a29 V下,同46同2,同 b56同.
94	Z35d	5	V中	1	1	22	II b − 2	(非掲載)Y36al Ⅲ,同39c14V下,同41d31同,Z35a10V中,同 b11同2,同38b18V下,同78同,同 c35V中,同39d31同3,同36V下2,同40b38同,同 c53同,同42c10V中,A038d3V上同42d2V中,B037b28V下,同38d52同.
95	Y36a	9	V下	1	3	118	<b>II</b> b − 2	(掲載)Y36a17V下2.(非掲載)X36a3V中14,同4同36,同5同2,同 c4同,同5同6, Y36a9V下3,同17同52,同37c21同.
96	Y36b	17	V下	1	1	1	<b>I</b> I b − 3	
97	Y36a	5	V中	1	2	3	IV a	(掲載) Y36a10V下. (非掲載) Z37a16V下.
98	X44d	5	V中	1	1	7	IV a	(非掲載) Q42c10V中, Y35b15V下, 同41b2同, 同6同, A038d3V上, B039d27V下.
99	Y41d	7	V中	1	1	13	IV a	(非掲載)Z36c21 V 下, 同38a15 V, A041a2 V 上, 同 b3 Ⅲ4, 同11 V 中2, B041d4 I 3.
100	Y35a	1	V中	1	4	10	N/ a	(掲載) Y35b4V下,同7V中,同14V下. (非掲載) X44d6撹乱,Y35a12V下4,同43a5同.
101	Y36c	14	V中	1	4	1	IV a	(掲載) Z36c20V下,同 d28V中,A036a21V下.(非掲載) Z36d28V中.
102	Y36a	10	V下	2	2	19	IV a	(非掲載)Y34c2V下3,同7同,同35a9同,同 d3同,同36d10Ⅲ2,同11同2,Z35d26V中,同30V下,同36a14V中2,A036a15V下3.
103	Y36a	10	V下	1	2	2	IV a	(掲載) Y36c32V下.
104	Y35b	5	V中	1	1	1	IV a	
105	Y35a	3	V中	1	1	1	IV a	
106	Y35a	10	V下	1	1	1	IV a	
107	Y37b	16	V中	2	2	18	IV a	(非掲載) X37b1Ⅲ, Y35c27V中, 同36c15同, 同 d10Ⅲ4, 同19V下, 同37c12V中, 同41c12V下2, 同 d30同, 同42b9同, Z36c21同, 同41d2同, 同42c10V中.
108	Y35b	3	Ш	1	2	4	IV a	(掲載) Y35c24V下. (非掲載) Y35b7V中,同 d1同.
109	Y35d	1	Vф	1	1	3	IV a	(非掲載) Y35b7V中,同 d1同.
110	X44c	2	V上	1	1	1	IV a	
111	Z42d	7	Vψ	1	2	2	IV a	(掲載) Z43c7V中.
110	4044-	23	V中	2	2	32	Wa	(非掲載) A044a18 V 中, 同36同5, 同38同2, 同 b9同3, 同14同, 同16同3, 同17同2, 同21同,
112	A044c	23	VH		۷	32	Na	同24同5, 同32同, 同 c9同, 同23同4, 同 d32同.
113	X44d	4	Vψ	1	2	113	IV a	(掲載) A043d20 V中. (非掲載) Y44c16 V中4, 同17同3, Z43c19同, 同45d5同3, 同43c14同, 同15同3, 同25同, A042c1 V上, 同43a13 V中, 同 b5 V下2, 同 c1 V中, 同3同, 同6 V上2, 同7 V中4, 同11同2, 同12同4, 同14同, 同18同3, 同19同2, 同20 V下2, 同21同4, 同22同, 同23同2, 同27同, 同 d3 V中5、同5同3, 同10同9, 同19同, 同20同12, 同24同2, 同25同13, 同26同3, 同27 V下, 同31 V中, 同34 V下3, 同44a16 V中2, 同18同2, 同24同, 同 b32同, B043d2同, 不明17, 排土.
114	不明	3	排土	1	1	1	VII	(掲載) A044b33V中.
115	不明	3	排土	1	1	1	VI	(掲載)不明3, 排土1.
116	Y40c	4	Ш	6	11	17	VII	(掲載) Z40c3 V上,同17 V中,同18同3. (非掲載) Y40c1Ⅲ2,Z40c18 V中,同19Ⅲ2,A040d7 V上.

# (2) 石器等

# 概要

平成12・14年度、宮戸4遺跡S地点では遺物包含層より合計10,845点の石器等が出土した。大分類では、礫・礫片が6,587点と過半数を占め、フレイクが2,536点でこれに次ぐ。剥片石器は各種類比較的まとまった量が出土しているが、礫石器はすり石を除いて個体数が少ない。

剥片石器類では、石鏃が348点と最も多い。他に石錐、つまみ付ナイフ、スクレイパーなどが70~100点とほぼ同量出土している。定型的な石器ではないが、Rフレイク、Uフレイクもそれぞれ342点、345点と比較的多い。石材は黒曜石が大部分で、頁岩・チャート・メノウなどは非常に少ない。

磨製石器類は磨製石斧とそれに関連すると思われるものである。大部分が石斧剥片と石斧未製品であり、刃部を残す製品はごく少数である。石材は泥岩が多い。

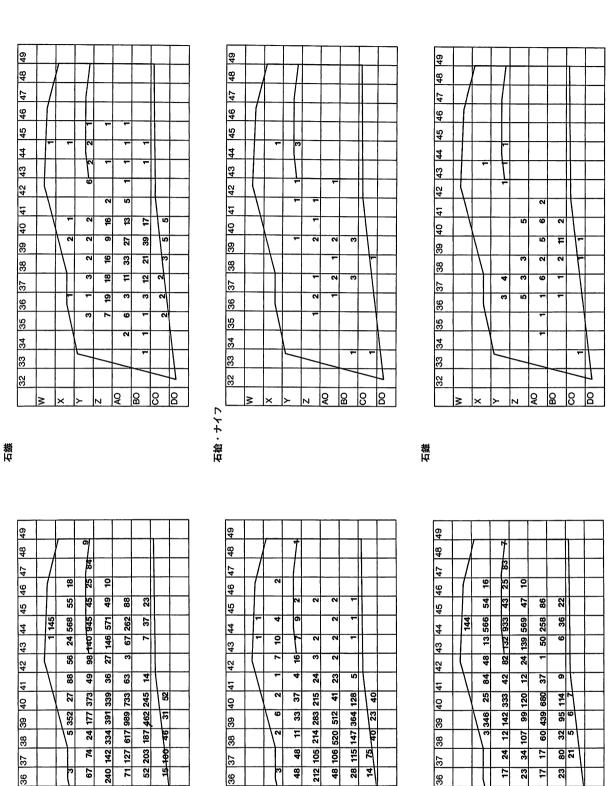
礫石器類は、断面三角形の礫を素材とするもの、北海道式石冠などのすり石類が多く出土した。砥石、台石は大半が破片で出土しており、ほとんど接合しなかった。石材は砂岩が最も多く、他に片麻岩・凝灰岩などが目に付く。付近のイモッペ川で得られる石材を使用している。また、礫石器や礫・礫片には被熱しているものが多く見られる。

石器等全体の出土傾向を見ると、主体となる遺物包含層はV層である。礫・礫片を除くと、V層の上・中・下位からほぼ 1:3:4 の比率で出土している。V層中位からは縄文時代後期初頭のタプコプ式、下位からは同前期前半の網文式に相当する土器が出土している。石器もこれらと同様の時期に製作されたものが多いと推測される。出土分布では、 $X\sim Z-43\cdot 44$ グリッド付近、 $A\ 0\cdot B\ 0-39\cdot 40$ グリッド付近に集中が見られる。いずれも浅い沢地形の内部で遺物が溜まりやすい立地であることから、大部分の遺物が流動していると考えられる。

表 V-2-7 層位別出土石器等点数一覧

		**	T ==	E	WE		V	層		vi Re	撹乱	表採	7-00	ē.L
	分	<b>類</b>	I層	Ⅲ層	IV層	上位	中位	下位	不明	VI層	風倒木	排土	不明	計
	石	鏃	7	12	2	26	111	152	4	21	3	9	1	348
	石 槍 ·		3			3	10	15				1		32
	石	錐	1	2	,	4	29	32		2	1	1		72
	つまみ	付ナイフ	2	3		7	22	34	2	6		3		79
剥片石器	スクレ	イパー	1	9	1	12	30	30	1	11	1	2		98
371 THE	ピエス・	エスキーニ	-	1		1		2		1				5
	R フ	レイク	4	11		34	92	164	4	23	2	8		342
	ひ フ	レイク	10	16		31	86	161	6	22	5	8		345
	両 面 調	整石器	}				1	4		1				6
	石 核	· 原 石	1			1	2	2		1	1	1		9
剥片	フレ	イク	17	62		322	769	1126	56	99	14	1	70	2536
磨製石器	石	斧	15	5		38	109	86	5	11	2	3	2	276
1	たた	き Z		1			10	5				2	1	19
	くぼ	み そ					2		1	1				4
礫 石 器		りて	î	1		3	21	21		1			1	48
	北 海 道	式 石 冠	Ē	4			7	2						13
1	砥	石					7	9					1	17
	台	石				1	3	1			1			6
礫・礫片	<b>礫</b> ·	礫片	72	195	2	494	3569	1990	88	38	27	111	1	6587
	軽	石					1	1	1					3
合		<u> </u>	133	322	5	977	4881	3837	168	238	57	150	77	10845

# 図V-2-8 包含層出土石器等分布図(1)



ဗ္ဗ

剥片石器類

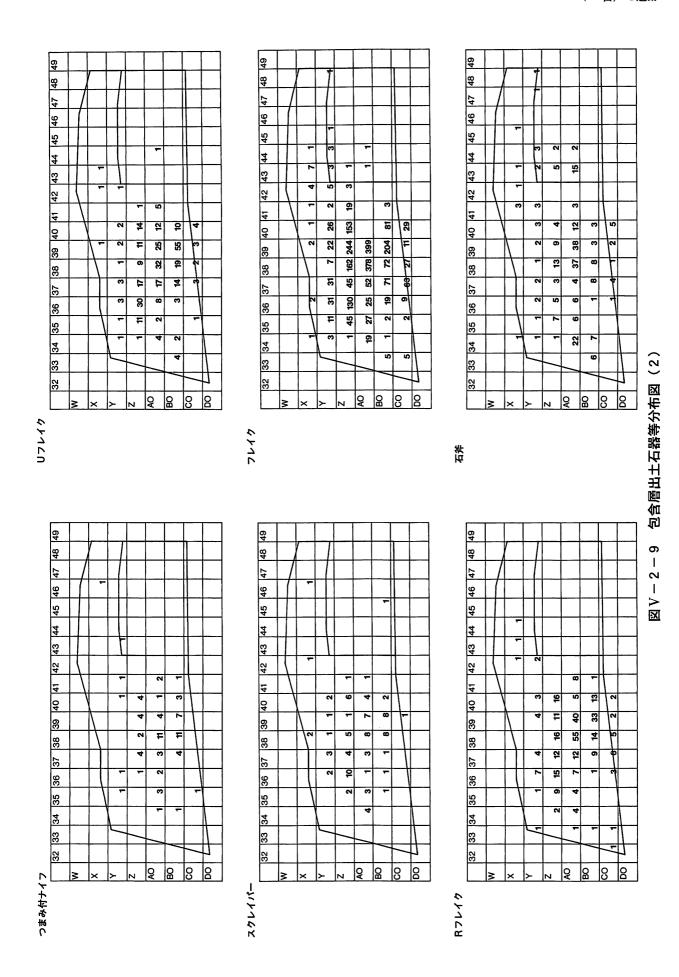
Ş

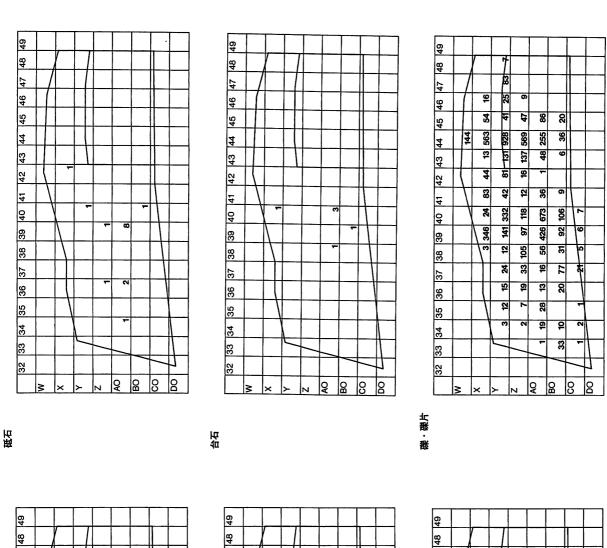
礫石器類

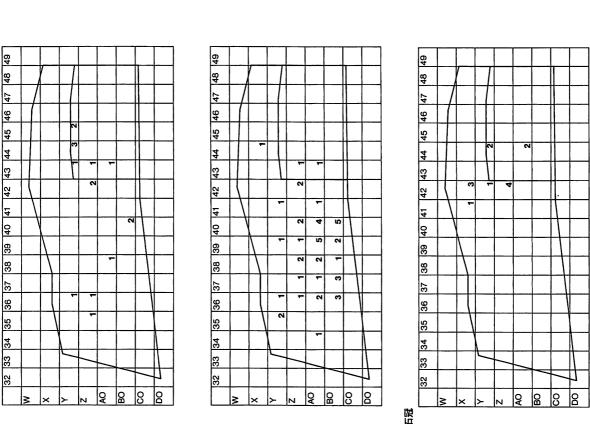
ဗ္ဗ

石器等全体

8 8 8









包含層出土石器等分布図(3)

\_ 1

<u>⊠</u> V − 2









# 石 鏃 (図V-2-11-1~34/表V-2-8/図版33)

348点出土している。調査区全体より出土するが特にA0・B0-38・39グリッド付近の、浅い沢地形の内部で多い。出土層位はV層下位が152点と最も多く、V層中位が111点で次ぐ。石材は、すべて黒曜石である。形態別では、柳葉形9点、木葉形2点、五角形1点、三角形192点、有茎20点、茎が明瞭に見られないもの6点、未製品49点、形態不明な破片69点となっている。破片・未製品を除くと、三角形のものが過半数を占め、他の形態のものは非常に少ない。平成13年度調査区の斜面部分と比較すると、柳葉形の石鏃が極端に少ない点が目に付く。出土土器の傾向から縄文時代早期後半の遺物が少ないということに関連すると考えられる。

ここでは34点図示した。 $1 \sim 5$  は薄身のもの。 $1 \sim 3$  は柳葉形。折損した破片が大半であるが、残 存部から推定すると、長身のものは出土していないようである。1・2は短身で、幅が狭いもの。い ずれも基部の下端は直線状である。3は両面の調整が非常に丁寧であるが、両端を欠損する。4は木 葉形。幅広で、先端部が全体の約1/3ほどである。5は五角形。側縁が直線的に仕上げられている。 素材の形状のため断面が湾曲しており、裏面に主剥離面を残す。6~27は三角形の石鏃。形状から基 部が直線的なもの(平基)と基部が内湾するもの(凹基)に分けた。出土点数は前者が107点、後者 が85点と、平基の方がやや多い。いずれも縦長の二等辺三角形を呈するものは少なく、やや小さめの 正三角形に近いものが多い。6~17は平基。6は小型のものだが、調整は細かい。16は非常に薄い剥 片を素材としており、周縁部を除くと調整はやや粗雑である。17は比較的縦長のもので、基部に装着 痕と推測される階段状の剥離が見られる。18~27は凹基。19~21は裏面に主剥離面を残す。22は先端 部を欠損する。27は基部の抉りが特に深いが、右の脚部を欠損する。28~32は有茎の石鏃。29のみ平 基で、ほかは凸基である。基部が縦長のものが多く、平成13年度調査区(斜面部分)で見られたよう な基部が茎部よりも短い有茎鏃は出土していない。28は小型のもので、両面の調整は粗い。31は側縁 が若干内湾しており、茎部の下端が鋭く尖っている。また、先端部を欠損する。32は細身で縦長のも ので、両面が細かに調整されている。33・34は茎が明瞭に見られないもの。33は先端部が短く、基部 と比較して厚さが薄いことから、再加工された可能性がある。34は左側縁の一部を欠損する。

# 石槍・ナイフ (図 $V-2-11-35\sim40/$ 表V-2-8/図版33)

32点出土している。このうち未製品が8点、形態が不明瞭な破片が11点である。石材はすべて黒曜石である。6点図示した。35~39は茎をもつもの。すべて凸基である。35は素材の形状のためか断面がやや湾曲する。37は被熱している。38は表面に自然面、裏面に主剥離面を残す。39はやや厚みのある剥片を素材としており、両面に粗い加工が施される。40は茎が明瞭に見られないもの。左右の側縁が非対照になっており、使用による潰れが著しい。下端を折損する。

# 石 錐 (図 V - 2 - 11 - 41~47、12 - 48/表 V - 2 - 8/図版33・34)

72点出土している。このうち未製品が2点、形態が不明瞭な破片が2点である。石材はすべて黒曜石である。出土層位はV層下位が32点と最も多く、V層中位が29点で次ぐ。出土分布はB039グリッドで11点と最も多く出土する。8点図示した。41・42は棒状のもの。42は両端に刺突部が見られる。43・44は周縁のみを加工したもの。44は三角形の剥片の頂点に2か所の刺突部が設けられている。42・43は断面が若干湾曲する。45~47は細身の刺突部を顕著に作り出したもの。45・46は側縁に使用による潰れがほとんど見られず、刺突部の先端も折れていないことから、使用頻度が低かったと推測される。46は基部の上面に自然面を残す。47は比較的大きめの基部を有するが、刺突部の先端を欠損する。48はつまみ付ナイフを転用したもの。刃部を再加工して刺突部を作り出している。もとは斜位形のつまみ付ナイフだったと考えられ、つまみ部と刺突部の軸は一致しない。

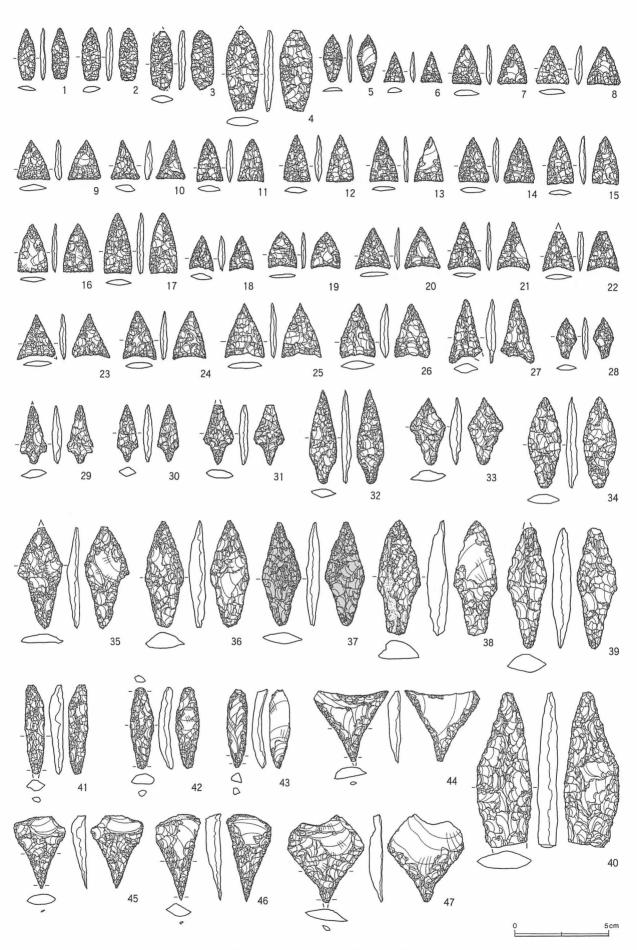


図 V-2-11 包含層出土の石器(1)

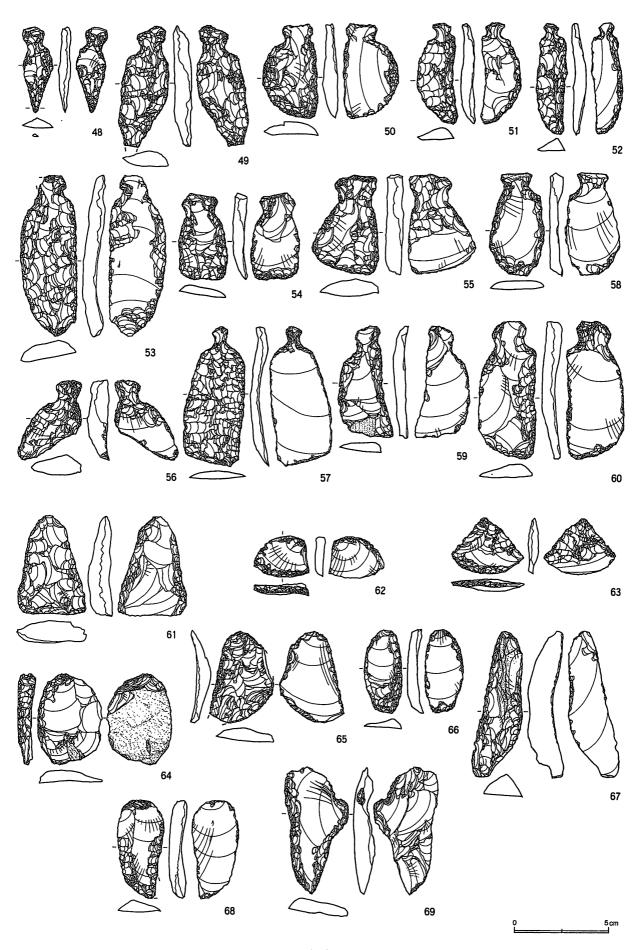


図 V-2-12 包含層出土の石器 (2)

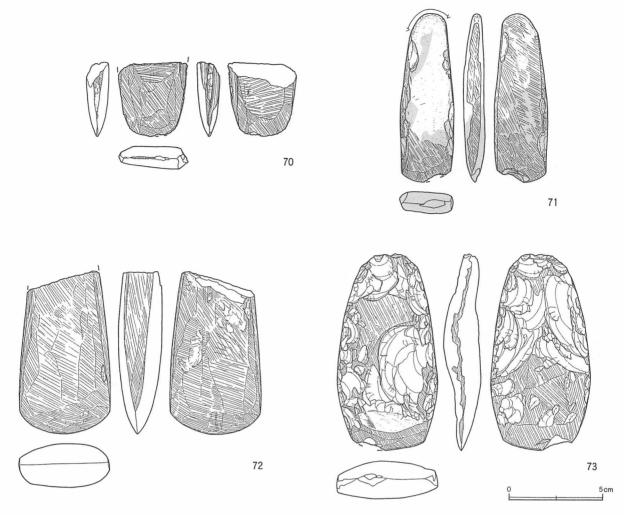


図 V-2-13 包含層出土の石器 (3)

# つまみ付ナイフ (図 $V-2-12-49\sim60/$ 表 $V-2-8\cdot9/$ 図版34)

79点出土している。このうち破片が16点、未製品が4点である。石材別では、黒曜石76点、頁岩3点である。形態別ではすべて縦型であり、横型は出土していない。12点図示した。49は両面加工のもの。両面の調整はやや粗雑である。刃部の先端を欠損する。50~54は片面全面加工で、裏面の一側縁が調整されているもの。50~53は半円形または三日月形の刃部を有し、外湾する側の側縁が両面より調整される。54は刃部が楕円形を呈し、下端に直線状の刃縁が見られる。側縁が使用により擦り潰れている。55~57は片面全面加工で、裏面に刃部をもたないもの。55は刃部が三角形であるが、裏面に折損した痕跡が残ることから、再加工品の可能性がある。56はつまみ部と刃部の軸が斜交する。57は表面の調整が細かい。58~60は周縁部のみ加工されているもの。58は刃部の加工が全周する。59は自然面を残す。60は加工されていない左側縁にも使用痕が見られる。

# スクレイパー (図 $V-2-12-61\sim69$ /表V-2-9/図版34)

98点出土している。このうち21点が破片である。石材別では、黒曜石94点、頁岩3点、メノウ1点である。形態別では、破片を除くとサイド・スクレイパーが2/3以上を占めている。9点図示した。61は石べらと称されるもの。三角形の剥片を素材とし、両側縁以外に下端に急角度の刃部を設けている。62・63はエンド・スクレイパー。いずれも素材の剥片の形状を大きく変えてはおらず、主に下縁

に外湾する刃部が作り出される。64~69はサイド・スクレイパー。64は刃部が張り出すもの。刃部の角度は急である。裏面に自然面を残す。65~67は刃部が直線的なもの。65は表面が粗く全面加工されており、裏面の周縁にも刃部が設けられている。ちょうどつまみ付ナイフのつまみ部がないような形状である。67は素材の形状のため、断面が著しく湾曲している。68・69は刃部が尖頭状のもの。69の刃部は両側縁ともに内湾している。

# 石 斧 (図V-2-13-70~73/表V-2-9/図版35)

276点出土している。このうち刃部または基部を残すものは18点で、その他破片15点、剥片203点、未製品35点、石材5点となっている。出土分布はA0-34、 $38 \cdot 39$ グリッドで多い。出土層位はV層中位が109点と最も多いが、破片や微細な剥片が主体である。むしろV層下位より刃部・基部が残存するものや未製品が多く出土している。石材は緑色泥岩または黒色泥岩が多い。4点図示した。70は擦切手法によって製作されたもので、刃部の破片。ほぼ全面が研磨されているが、右側縁の両面に擦り切り痕が残る。また、刃部が基部よりも狭くなっている。 $71\sim73$ は打ち欠きによる整形が見られるもの。いずれも部分的に研磨されている。71は特に鎬の周辺を強く研磨しているが、基部に自然面を残す。強く被熱しており、黒く煤けている。72は全体的に強く研磨されており、側面との間に稜が作り出されている。基部の上半を折損する。73は打ち欠きの痕跡が顕著に残るが、刃部は非常に強く研磨されている。 $71\cdot73$ は刃縁の一部を欠損する。

# たたき石 (図 V - 2 - 13 - 74~78/表 V - 2 - 9/図版35)

19点出土した。半数以上がV層中位より出土している。石材は砂岩が9点で最も多く、他に泥岩、流紋岩、凝灰岩、結晶片岩、礫岩などがある。5点図示した。74~76は楕円礫の端部に敲打痕が見られるもの。74は側縁も弱く敲かれている。被熱により煤けている。75は両端を強く敲いており、潰れによる白濁が著しい。76は側縁が擦られており、すり石としての機能も認められる。77は円礫を打ち欠いて扁平な面を作り出し、周縁を敲いたもの。石材や加工などから石斧未製品を転用した可能性がある。78扁平礫の腹背面に敲打痕が見られるもの。

### **くぼみ石**(図V-2-13-79・80/表V-2-9/図版35)

4点出土している。石材は砂岩が3点、礫岩が1点である。2点図示した。79は角柱状の礫の腹背面に敲打による凹みが見られるもの。下面を敲いており、たたき石と複合している。80は三角形を呈する扁平礫の腹面に浅い凹みを有するもの。側縁の頂部には敲打痕が見られる。背面は強く擦られており、砥石として使用された可能性がある。被熱により赤化している。

# **すり石**(図V-2-13-81・82、14-83~89/表V-2-9/図版36)

48点出土している。このうち29点が破片である。出土分布はA 0・B 0 - 38~40グリッド付近に集中している。出土層位はV層中位、下位がそれぞれ21点である。9点図示した。81~85は断面が隅丸三角形の礫の稜を擦ったもの。いずれも断面が鋭角をなす一辺を使用している。81は断面が歪んだ菱形に近く、背面が凹んで持ちやすい。82は擦り面の幅が3.9cmと今年度出土のものの中では最も広く、よく使い込まれている。83は背腹両面に弱い擦り痕が見られる。84は上弦にも狭い擦り面が設けられている。85は腹面を擦って、下弦との間に稜を作り出している。86は3つの弦に擦り面を有し、下弦の両側の腹面も強く擦られて平滑になっている。87は下弦が使用される前に打ち欠きにより整形された痕跡が見られる。84・85・87は被熱している。88は扁平礫の側縁を擦ったものだが、あまり使用されていない。むしろ腹面が広く擦られている。89は扁平礫の腹背面を擦ったもの。表面が非常に滑らかになっており、土器内面を整形するための「磨き石」として使用された可能性もある。素材別では、断面三角形の礫が24点で最も多く、以下扁平礫が8点、円礫・楕円礫が3点、不明13点である。

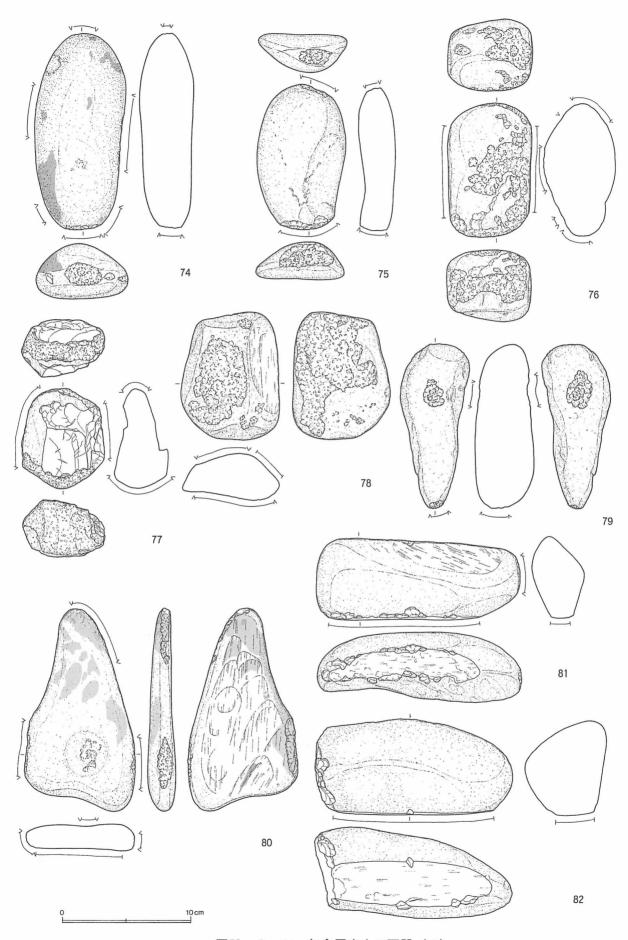


図 V - 2 - 14 包含層出土の石器 (4)

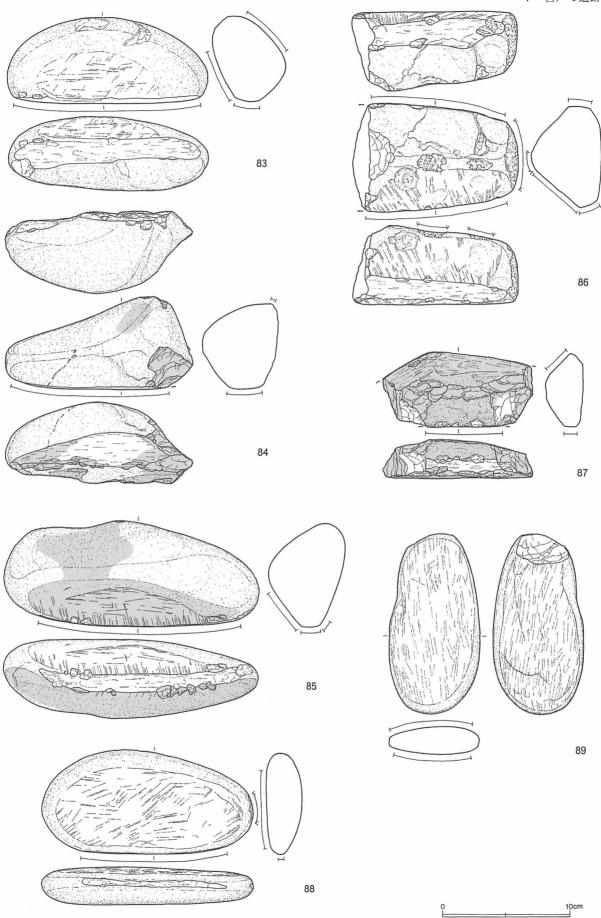


図 V-2-15 包含層出土の石器 (5)

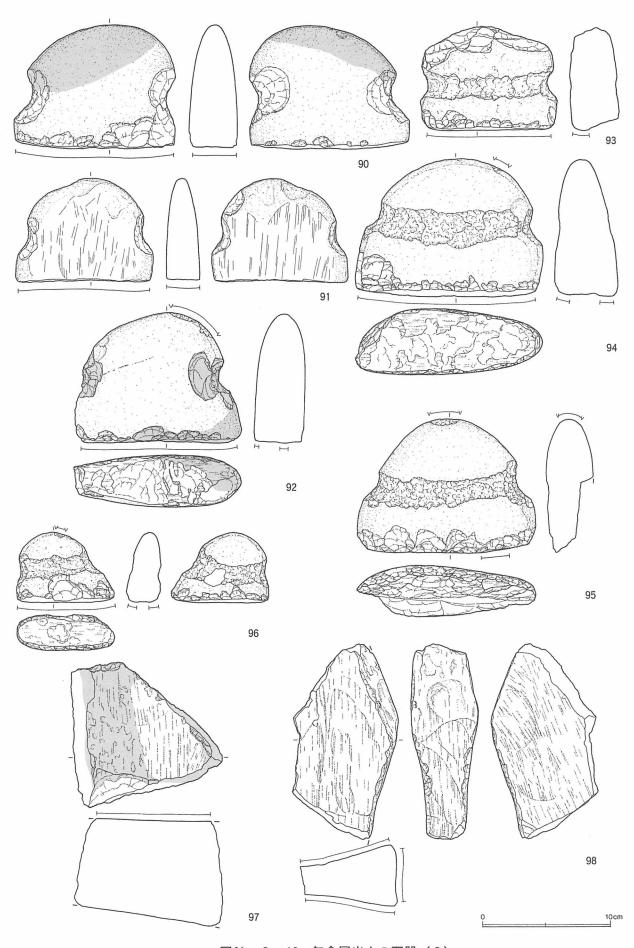


図 V-2-16 包含層出土の石器(6)

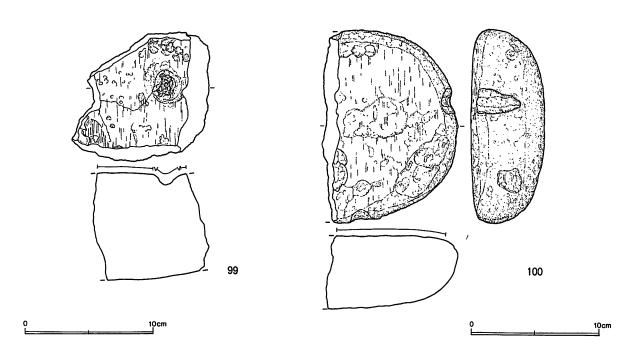


図 V-2-17 包含層出土の石器 (7)

# 北海道式石冠 (図V-2-16-90~96/表V-2-9/図版37)

13点出土している。このうち破片が4点、未製品が2点である。石材は砂岩8点、片麻岩2点、安山岩2点、凝灰岩1点である。7点図示した。いずれも扁平礫を素材としている。96を除くと、すり面がほとんど使用されていないものが多い。90~92は両端を打ち欠いて把握部を作り出すもの。90は特に両端の抉りが深い。91は表裏面に擦痕が見られる。92は左端の加工が不明瞭である。90・92は被熱により赤化した部分が見られる。このような両端を打ち欠く加工法で製作された北海道式石冠は、縄文時代中期に勇払原野から日高地方で顕著に見られるという(小島 1999)。苫小牧東部工業地帯の遺跡群や門別町のエサンヌップ2・3遺跡などでも同型の出土例がある。主体となるのは同前半の円筒上層式を伴う時期とされており、S地点でも当該期の土器が出土している。93~96は横位の打ち欠きが鉢巻状に全周するもの。93は上端も打ち欠かれている。94は比較的幅広なすり面を有する。95は裏面が大きく剥落している。下縁のすり面は非常に狭い。96はミニチュアの製品。非常に小型ではあるが、加工が丁寧で、下面の擦り痕も著しいことから、実際に使用されたものと推測される。

# 砥 石 (図V-2-16-97・98/表V-2-9/図版38)

17点出土している。砥面が薄く剥落した破片が多い。石材は大部分が砂岩または凝灰質砂岩である。2点図示した。97・98は破片である。97は厚さや割れ面などから、比較的大型のものと推測される。上面が砥面として使用されている。上面に被熱により赤化した部分が見られる。98は板状礫の表裏および側面を砥面として使用したもの。中央部が特に強く砥がれており、薄くなっている。

# 台 石 (図V-2-17-99·100/表V-2-9/図版38)

6点出土している。1点を除きすべて破片である。石材は凝灰岩4点、安山岩1点、泥岩1点である。2点図示した。99は破片。礫の上面が弱く擦られており、その上に敲打痕と考えられる凹みが見られる。100はほぼ半分を欠損する。比較的大型の扁平礫の上面が強く擦られて平滑になっている。また、側縁に縦方向の抉りが見られる。台石を棒あるいは紐状のもので固定するための加工であろうか。

(芝田)

表 V - 2 - 8 包含層掲載石器一覧 (1)

番号	4		山土州上,安只	見し		#F F / \			ara.		-4
1	分	類	出土地点・番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)			質	備	考
	五	鏃	Z39a · 33	V層下	2. 70×0. 90×0. 26	0.6	黒	曜	石		
2	石	鏃	Z36d · 9	V層中	2. 78×1. 00×0. 33	0. 9	黒	曜	石	欠損品	
3	石	鏃	Z41b · 24	V層中	3. 09×1. 20×0. 36	1.4	黒	曜	石_		
4	石	鏃	Z37b • 10	V層下	4. 29×1. 71×0. 44	3. 3	黒	曜	石_		
5	石	鏃	Z38d · 14	V層下	$2.50 \times 1.01 \times 0.21$	0. 5	黒	曜	石		
6	石	鏃	Y44c · 7	V層中	1. 59×1. 10×0. 23	0. 3	黒	曜	石		
7	石	鏃	B040d · 3	V層下	$2.10 \times 1.51 \times 0.27$	0.8	黒	曜	石		
8	石	鏃	A040b · 6	V層中	$2.00 \times 1.71 \times 0.33$	1. 0	黒	曜	石		
9	石	鏃	Z39c · 25	V層中	$2.04 \times 1.77 \times 0.32$	0. 9	黒	曜	石		
10	石	鏃	Z40a · 1	V層上	2. 00×1. 60×0. 37	0. 7	黒	曜	石		
11	石	鏃	Z37c · 32	V層下	2. 20×1. 39×0. 30	0.7	黒	曜	石_		
12	石	鏃	Z36b · 8	V層下	$2.41 \times 1.47 \times 0.33$	0.8	黒	曜	石		
13	石	鏃	A038a • 65	V層下	$2.31 \times 1.50 \times 0.20$	0.6	黒	曜	石		
14	石	鏃	B040b · 38	V層下	$2.31 \times 1.60 \times 0.30$	1.0	黒	曜	石		
15	石	鏃	Z36b • 9	V層中	$2.50 \times 1.40 \times 0.33$	1.0	黒	曜	石		
16	石	鏃	Z38c · 5	V層中	$2.50 \times 1.55 \times 0.22$	0.8	黒	曜	石		
17	石	鏃	Z37b • 15	V層下	3. 10×1. 48×0. 33	1.4	黒	曜	石_		
18	石	鏃	A038d • 72	V層中	1. 81×1. 26×0. 32	0. 5	黒	曜	石_		
19	石	鏃	A040c • 12	V層中	1. $87 \times 1$ . $50 \times 0$ . 22	0.6	黒	曜	石		
20	石	鏃	A041a · 37	V層下	2. 18×1. 89×0. 24	0. 7	黒	曜	石		
21	石	鏃	A037b · 1	Ⅲ層	$2.50 \times 1.71 \times 0.23$	0. 7	黒	曜	石_		
22	石	鏃	B039c • 25	V層下	$2.05 \times 1.69 \times 0.29$	0.8	黒	曜	石	欠損品	
23	石	鏃	A038a • 64	V層中	2. 20×2. 01×0. 30	0. 9	黒	曜	石		
24	石	鏃	Y42d • 6	V層中	$2.50 \times 1.79 \times 0.29$	1.0	黒	曜	石		
25	石	鏃	B044a · 8	Ⅵ層上	2. 84×2. 11×0. 31	1.4	黒	曜	石		
26	石	鏃	B039b • 18	V層下	2. 80×1. 90×0. 41	1.8	黒	曜	石		
27	石	鏃	B039a · 23	V層下	3. 38×1. 77×0. 51	1. 7	黒	曜	石	欠損品	
28	石	鏃	B039b · 8	V層中	2, 19×1, 10×0, 28	0.5	黒	曜	石		
29	石	鏃	Y37b · 7	Ⅲ層	$3.01 \times 1.40 \times 0.47$	1. 2	黒	曜	石		
30	石	鏃	BO40b · 36	V層下	$3.00 \times 1.10 \times 0.44$	1.0	黒	曜	石		
31	石	鏃	Y43a · 2	V層中	3, 11×1, 59×0, 38	1.4	黒	曜	石	欠損品	
32	石	鏃	Y39a · 4	V層上	4, 90×1, 42×0, 45	2, 3	黒	曜	石		
33	石	鏃	Z36a · 33	V層中	$3,50\times1,85\times0,55$	2. 2	黒	曜	石		
34	石	鏃	A043a • 11	V層中	4, 78×1, 79×0, 53	3, 5	黒	曜	石	欠損品	
35	石槍・	ナイフ	X44c · 3	V層上	5, 29×2, 35×0, 57	4.8	黒	曜	石		
36	石槍・	ナイフ	Y44c · 2	I層	$5,60\times 2,04\times 0,77$	6. 9	黒	曜	石		
37	石槍・		A036a · 7	V層下	5. 49×2. 05×0. 65	5. 3	黒	曜	石	被熱	
38	石槍・	ナイフ	Y44c • 10	V層中	6. 02×2. 29×1. 04	10. 4	黒	曜	石		
39	石槍・		Y44b • 11	V層中	6. 37×2. 15×0. 97	9. 5	黒	曜	石		
40	石槍・	ナイフ	Z36b • 61	V層下	8. 18×2. 90×0. 91	22. 7	黒	曜	石	欠損品	
41	石	錐	Y37a · 7	V層中	4.69×1.01×0.68	3. 2	黒	曜	石		
42	石	錐	B039a • 104	VI層	$4.29 \times 1.20 \times 0.53$	3. 1	黒	曜	石		
43	石	錐	Y37d · 6	V層中	$4.10 \times 1.10 \times 0.42$	2. 3	黒	曜	石		
44	石	錐	Z36c • 14	V層下	$3.70 \times 3.91 \times 0.51$	5. 2	黒	曜	石		
45	石	錐	B039c • 14	V層下	$3.80 \times 2.70 \times 0.67$	4. 4	黒	曜	石		
46	石	錐	B039a • 80	V層下	$4.59 \times 2.35 \times 0.73$	5. 5	黒	曜	石		
47	石	錐	B039d • 1	V層上	4. 68×4. 04×0. 57	7. 8	黒	曜	石		
48	石	錐	B038d • 24	V層下	4. 50×1. 59×0. 60	3, 1	黒	曜	石		
49	つまみ付	ナイフ	B039a • 25	V層下	$6.50 \times 2.49 \times 0.77$	12. 4	黒	曜	石	欠損品	
50	つまみ付	ナイフ	A038b • 41	VI層	$5.00 \times 2.90 \times 0.71$	10.0	黒	曜	石		

表 V - 2 - 9 包含層掲載石器一覧(2)

2X V			見 (2				
番号	分 類	出土地点・番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
51	つまみ付ナイフ	Y43b • 11	V層下	5. 31×1. 91×0. 59	6.6	頁 岩	
52	つまみ付ナイフ	Z39c · 27	V層中	5. 81×1. 65×0. 58	5. 3	頁 岩	
53	つまみ付ナイフ	A038a • 27	V層中	8. 50×2. 99×0. 81	22. 8	黒 曜 石	
54	つまみ付ナイフ	Z37c • 18	V層下	4, 51×2, 60×0, 63	7. 7	黒 曜 石	
55	つまみ付ナイフ	B037a · 31	V層下	5. 11×3. 58×0. 88	16. 5	黒 曜 石	欠損品
56	つまみ付ナイフ	B038a · 53	V層下	$4.17 \times 3.30 \times 0.99$	9. 4	黒 曜 石	
57	つまみ付ナイフ	B038a • 54	V層下	7. $31 \times 3$ . $20 \times 0$ . 49	13. 0	頁 岩	
58	つまみ付ナイフ	A039d • 38	VI層	5. 38×2. 90×0. 62	9. 0	黒 曜 石	
59	つまみ付ナイフ	A036c • 14	V層中	5, 80×2, 90×0, 56	7.8	黒 曜 石	
60	つまみ付ナイフ	A035d • 21	V層下	7. 20×3. 05×0. 72	16. 9	黒 曜 石	
61	スクレイパー	A040a · 28	V層下	5. 20×3. 59×1. 01	17. 2	頁 岩	
62	スクレイパー	A038d · 33	V層中	2. 11×2. 89×0. 56	3. 7	黒 曜 石	
63	スクレイパー	A034d • 12	V層下	2. 92×3. 81×0. 56	4. 3	黒 曜 石	
64	スクレイパー	B038a · 46	V層下	4. 76×3. 31×0. 80	12. 3	メノウ	
65	スクレイパー	A041b · 4	V層下	4. 80×3. 40×0. 68	9. 1	黒 曜 石	
66	スクレイパー	A039d • 11	V層中	4. 35×2. 00×0. 50	4. 8	黒曜石	
67	スクレイパー	A036a · 22	V層下	7, 78×2, 29×1, 45	24, 0	頁 岩	
68	スクレイパー	Z36c · 24	V層中	5, 20×2, 45×0, 69	8. 5	黒曜石	
69	スクレイパー	B039a · 105	VI層	$6,70\times3,39\times0,92$	14. 6	黒曜石	
70	石 斧	X42d · 7	V層下		(22. 3)	蛇紋岩	擦り切り痕あり、破片
71	石 斧	Z38b · 85	V層下	8. 95×2. 84×1. 05	(46. 9)	緑色泥岩	被熱、欠損品
72		Y44b • 11	V層上	$(8, 60) \times 4, 80 \times 2, 23$	(154. 8)	緑色泥岩	1次然、入1貝吅
73		Z38b · 86		10, 40×5, 33×1, 82			₩## U
		_	V層下		(122, 1)	緑色泥岩	欠損品
74 75	たたき石	不明・1	排土	15. 50×7. 00×4. 40	620. 0	砂岩	被熱
	たたき石	A043c · 2	V層中	11. 50×7. 00×3. 00	330. 0	砂岩	
76	たたき石	B040b · 28	V層下	10. 60×6. 70×5. 70	527. 3	礫岩	
77	たたき石	A038c • 18	V層中	7. 83×6. 48×4. 50	286. 6	緑色泥岩	
78	たたき石	Y43b · 5	V層中	10. 10×7. 70×3. 50	390. 0	砂岩	
79	くぼみ石	B045a · 12	VI層	13. 0×5. 00×4. 70	368. 0	礫岩	
80	くぼみ石	Z36d • 31	V層中	$15.90 \times 8.70 \times 2.20$	345. 9	砂岩	被熱
81	すり石	B040a · 3	V層上	$6.40 \times 16.10 \times 5.30$	813. 0	砂岩	
82	すり石	B040a · 15	V層中	$7.53 \times (15.64) \times 6.60$	(1261. 0)	片 麻 岩	
83	すり石	Z37b · 32	V層下	$6.72 \times 15.80 \times 5.80$	878. 0	片 麻 岩	
84	すり石	不明・7		7. 34×14. 76×6. 40	715. 0	砂岩	被熱
85	す り 石	Z40d • 58	V層下	8. 30×20. 10×6. 16	1237. 0	砂岩	被熱
86	すり石	A036a • 23	V層下	$8.60 \times (13.00) \times 6.20$	(963. 0)	凝 灰 岩	欠損品
87	すり石	Z43a • 14	V層下	5. 90×(11. 80)×3. 00	(270. 0)	礫 岩	被熱
88	す り 石	Y39c • 19	V層中	8. 26×16. 68×2. 95	579. 6	砂岩	
89	す り 石	A043d • 12	V層中	14. 30×7. 20×2. 20	382. 0	片 麻 岩	
90	北海道式石冠	A044a • 10	V層中	9. 70×12. 70×3. 90	650. 0	砂岩	被熱
91	北海道式石冠	Y44a • 10	V層中	8. 20×10. 80×2. 70	358. 0	片 麻 岩	
92	北海道式石冠	X41b · 10	V層中	10. 23×13. 20×3. 92	774. 0	砂岩	被熱
93	北海道式石冠	Z42c · 7	Ⅲ層	8. 15×11. 83×3. 92	536. 0	凝灰岩	
94	北海道式石冠	X42d · 1	Ⅲ層	10. 80×14. 87×5. 19	1120. 0	砂岩	
95	北海道式石冠	Y42c · 1	V層中	$10.50 \times 14.20 \times (4.00)$	(623. 0)	砂岩	
96	北海道式石冠	Z42a · 1	V層下	5. 50×7. 71×2. 82	148. 3	安山岩	ミニチュア
97	砥 石	不明・6	_	$(11.40) \times (11.90) \times (8.37)$	(1310. 0)	凝灰質砂岩	被熱、破片
98	<u> </u>	X42c · 16	V層下	$(15, 32) \times (8, 33) \times 5, 34$	(570. 7)	砂岩	破片
99	台 石	A038b • 34		$(10.17) \times (10.80) \times (8.76)$	(1255. 0)	凝灰岩	破片
100	台 石	B039d • 63	V層上	$\frac{20.30 \times (14.40) \times 7.88}{20.30 \times (14.40) \times 7.88}$	(3070. 0)	安山岩	欠損品
100	н 11	טייים טייים	▼/周上	20.007 (14.40) 1.00	(3010.0)	女 山 石	八児叩

### (3) 石製品

# **異形石器**(図 V - 2 - 18 - 1 /表 V - 2 - 10 / 図版38)

1点出土した。上半を欠損する。欠損部分は素材となる剥片の大きさから推定すると、それほど長くはないようである。下半には左右にちょうど石鏃の脚部のような突起を有する。下縁と両側縁は内湾している。各側縁には使用による潰れが見られる。これが突起部分を刺突部として使用したものなのか、側縁を刃部として使用したものなのかは不明である。裏面には主剥離面を残す。

以上の点から特殊な形態のスクレイパーあるいは石錐の可能性もあるが、欠損品のため全体を復元することができなかったため、「異形石器」とした。類例としては、平成12年度に米原4遺跡B地区で出土したスクレイパーがある(北埋調報136・図IV-8-20-94)。

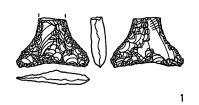
# 石のみ形石製品 (図 V - 2 - 18 - 2 /表 V - 2 - 10 / 図版38)

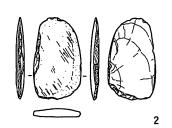
1点出土した。平成13年度に続いての出土例となる。石斧剥片を再利用している。両側縁を研磨して整形しており、ミニチュアの石斧のような形状となっている。昨年度出土のものとは異なり、裏面(剥離面)が研磨されておらず、下端に刃部が作り出されていない。よって、楔としての機能が欠けるという点では、別の種類の石製品となる。しかし、素材や大きさ・形状が類似し、ほかの出土例がないことから、これが未製品の可能性があると考え、「石のみ形石製品」に分類した。

昨年度も述べたように、現在までのところ千歳市キウス5遺跡B地区(北埋調報126)以外の類例 は見られないようである。同遺跡では縄文時代前期前半の綱文式土器を伴う時期の集落が検出されて いる。本遺跡でも周囲の包含層出土の遺物から同時期のものである可能性が高い。 (芝田)

表 V - 2 - 10 石製品一覧

番号		分	類		調査区	遺物 番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石質	備考
1	異	形	石	器	A034d	19	V層中	$2.57 \times 3.81 \times 0.68$	5. 1	黒曜石	
2	石の	み飛	<b>泛石</b> 集	品	C037d	36	V層下	$4.30 \times 2.48 \times 0.45$	7. 4	緑色泥岩	石斧片を再加工





0 5cm

図 V - 2 - 18 包含層出土の石製品

# 3 水田部分の遺構と遺構出土遺物

# (1) 概要

水田部分は平成13年度に引き続いての調査である。昨年度調査区から遺構は検出されなかったが、 隣接する斜面部分からは住居跡1軒、Tピット14基、焼土26か所、フレイク・チップ集中1か所が調査されている(北埋調報168)。平成14年度は、Tピット1基、焼土1か所、集石1か所が検出された。 また、現在は農業用水として利用されているイモッペ川の旧河道が検出されている。遺構はいずれも 調査区内の東縁に位置しており、地区は分かれているが斜面部分で検出された遺構と同じまとまりと 見なされる。旧河道の右岸では遺構は見られなかった。

イモッペ川の旧河道はⅢ層上面で、調査区の南北方向に細長い窪みが走っている状況で検出された。当初は地震などによる地割れの痕跡などが予想された。ところが、昨年度調査区との境界で土層断面を観察したところ、落ち込みの内部に層位の断絶はなく、大小の円礫や砂層などの水成堆積が認められた。このため、これを古い時期のイモッペ川の河道であると判断した。下部の礫層(Ⅲ層)を削って流れており、土層は礫が多量に混じる腐植土が大部分である。北側の低位部分は湧水が著しく、一部は泥炭化している。ヨシ、アシ、ススキといった湿地に繁茂する草本類が含有されるが、木製品、流木などの自然遺物は出土していない。現在は水田の区画整理に伴う河川改修で直線化されているイモッペ川が、当時は台地や沢といった地形に沿って蛇行していた様子が窺える。旧河道の内部からは、縄文時代早期後半~前期前半、中期後半の土器が出土している。また、上部にⅣ a 層(B-tm)・Ⅳ b 層(Ta-c)の堆積が部分的に見られる。このことから、旧河道の時期は縄文時代後~晩期ごろまでで、斜面部分・水田部分の遺構が営まれたころに流れていたと推測される。

### (2) Tピット

TP-25 (図 V-3-2 /表  $V-3-1\sim3$  /図版23·41)

特 徴:調査区南側の急斜面上に立地する。W層上位で風倒木痕の調査中、黒みの強い腐植土が落ち込んでいるのを検出した。平面形は楕円形で、断面はU字形である。ほぼ垂直に掘り込まれており、底面は幅広い。覆土の断面観察より、壁面の崩落は小さかったと考えられる。

表 V - 3 - 1 検出遺構一覧

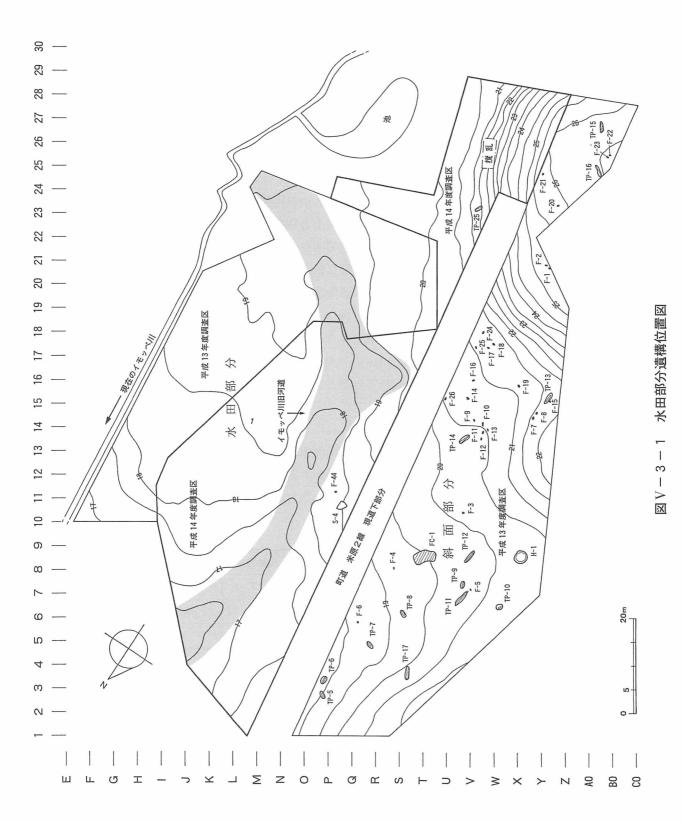
遺構名	遺構種類	発掘区	検出層位	規 模(m)	長軸方向	時 期
TP-25	Tピット	V 23 a	VI層上位	1.80×0.60/1.66×0.51/0.99	N-7°-E	縄文時代中期後半~後期初頭
F-44	焼土	P11 a	V層下位	0. 58×0. 47/0. 10	N-10° -W	縄文時代早期後半
S-4	集石	P10b∼d	VI層	1. 76×1. 08	N-1°-W	縄文時代早期

表 V - 3 - 2 遺構出土遺物一覧

遺構名	層位	遺物名	分 類	点 数	遺構名	層位	遺物名	分 類	点 数
		土器	I群b類	3	F-44	焼土中	剥片	フレイク	27
TP-25	覆土中	土 器	<b>I</b> 群 a−1類	1	F — 44	4	27		
IF - 25		剥片	フレイク	2	S- 4	VI層	礫・礫片	礫	267
	合	ì	計	6	5-4	É	ì	計	267
			総		計				300

表V-3-3 Tピット掲載土器一覧

掲載	遺構名	遺物	層位	1	破片		分類	同一個体破片の情報	発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした
番号	退佣石	番号	周亚	点数	掲載	総数	刀採	同一個神板力の情報	発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした   
1	TP-25	2	覆土	1	1	1	<b>I</b> a−1		



遺 物:覆土中より I 群 b 類・II 群 a 類に属する土器片、黒曜石のフレイクが出土している。いずれも流れ込みによるもので遺構には伴わない。 1 は II 群 a-1 類土器である。器面に条の幅  $4\sim5$  mの横走する RL 縄文が施されている。内面はなで調整され、胎土に繊維・黄白色火山灰・白色粒を含む。

時期:縄文時代中期後半~後期初頭と考えられる。

# (3) 焼 土

F-44 (図V-3-2/表 $V-3-1\cdot 2/$ 図版41)

特 徴:調査区西側のイモッペ川旧河道にほど近い平坦面に立地する。おそらく当時の川原に形成されたものと推測される。 V 層下位で検出された。平面形は円形で、断面はレンズ状である。強く焼けており、 VI 層中まで被熱が及んでいる。

遺物:焼土中より黒曜石のフレイク27点が出土した。

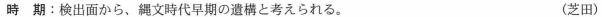
時期:周辺の包含層出土の遺物から、縄文時代早期後半と考えられる。

# (4) 集 石

S-4 (図V-3-2/表 $V-3-1\cdot 2/$ 図版41)

特 徴:F-44同様、調査区西側のイモッペ川旧河道にほど近い平坦面に立地する。W層上位で検出された。1.76×1.08mの範囲に礫・礫片が集中する。当初はインボリューションなどの自然営力により下部の礫層(MI層)が上昇したものかと思われたが、断面観察の結果、礫の持ち上がりなどは確認されなかった。また、川の氾濫によって堆積した自然礫の可能性も考えられたが、礫層よりも上位で確認され、周囲に同様の礫・礫片が見られなかったことから、人為的な集石と判断した。S地点のものと同様に、下部に掘り込みなどは見られない。

遺 物:礫・礫片267点が出土した。総重量は9822.1gである。S地点の $S-1\sim3$ とは異なり、割れていない礫が大半を占める。礫または接合礫の大きさは、長さ・幅が $5\sim10\,\mathrm{cm}$ 、重量が300g以下のもが多い。チャート、珪岩などの赤っぽい円礫・亜円礫が多く見られる。大部分が鉄分の付着により赤化したものであるが、被熱により割れたと考えられる砂岩の破片も少量含まれる。ただし、焼土や炭化物は見られなかった。他に土器や石器等は出土していない。



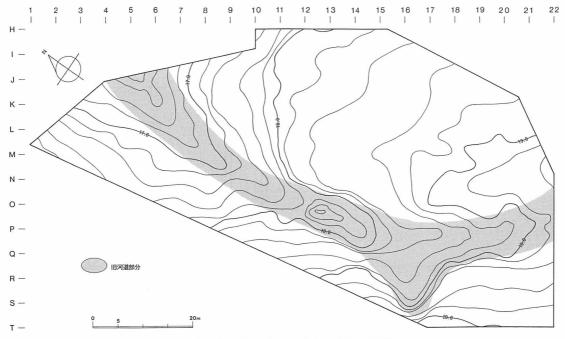
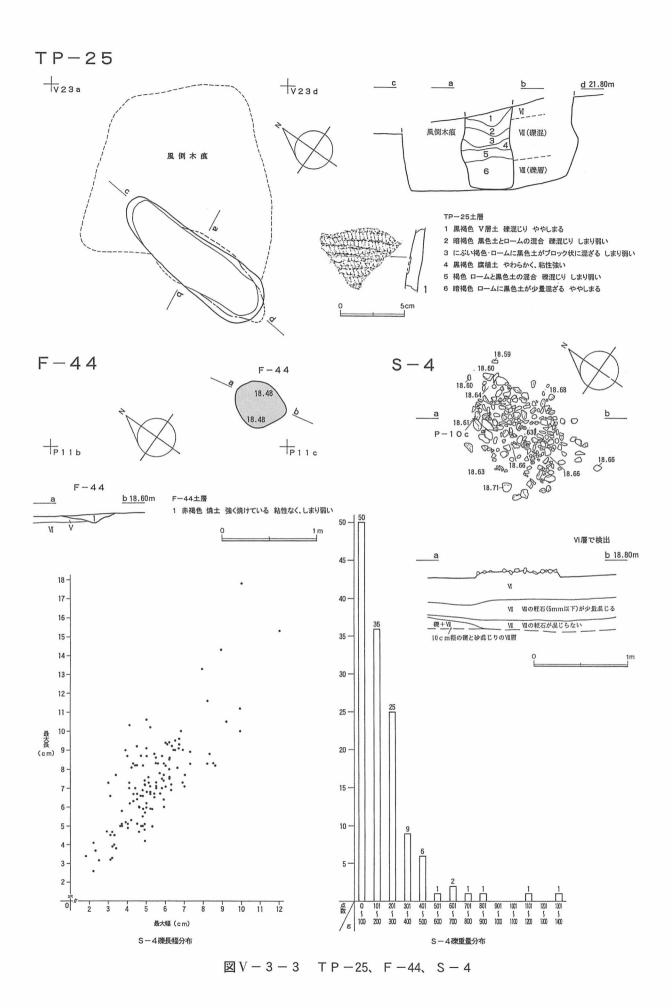


図 V-3-2 イモッペ川旧河道



### 4 水田部分の包含層の遺物

# (1) 土 器

### 概要

水田部分の包含層からは3,534点の土器が出土している。すべて縄文時代のものである。各時期別の出土点数および包含層出土土器全体に占める割合を多い順に記すと、縄文時代早期後半の土器が2,538点と71.8%を占めている。次いで、前期前半のものが554点で15.7%となっている。以下、中期後半のものが224点で6.3%、後期初頭のものが8点で0.2%となっている(表V-4-1)。

各時期の層位別出土点数と時期別出土点数に占める割合は、縄文時代早期後半の土器はV層下位で1,722点(67.8%)、V層上位で505点(19.9%)、Ⅵ層で187点(7.4%)となっている。縄文時代前期前半のものはV層下位で440点(79.4%)、V層中位で62点(11.2%)、Ⅵ層では31点(5.6%)である。中期後半のものはV層下位で146点(65.2%)、V層中位で50点(22.3%)、Ⅵ層で17点(7.6%)、後期初頭は8点すべてがV層下位から出土した。

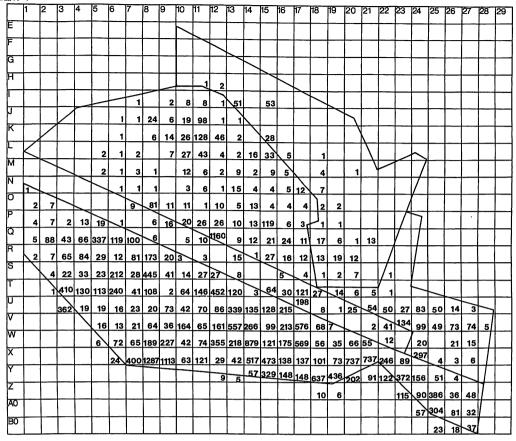
図 $V-4-1\sim5$ では各時期の土器の分布図を示した。遺跡全体を概観するために、平成13年度の分布図と合わせて示してある。平成12年度の調査範囲と平成14年度の調査範囲にまたがるグリッドからの出土点数については、両者を合計した数字を掲載した。

また、表 $V-4-2\cdot3$ の包含層掲載土器一覧において、「破片」の欄で点数とあるのは見出しとなった破片の点数、「掲載」とあるのは実測図・拓本で掲載した破片の数、「総数」は当該個体の破片総数である。「同一個体破片の情報」の部分では、見出しに記した破片以外の掲載破片を(掲載)として、非掲載破片の情報を(非掲載)として、それぞれ、発掘区(グリッド・小グリッド)・遺物番号・層位(V層上位はV上、V 層中位はV中、V 層下位はV下と略した)・点数の順に記載した。発掘区と層位の部分については、前に記載したものと同じ場合には「同」として省略した。層位の次の数字は点数であり、1点の場合は1を省略してある。

表 V-4-1 層位別出土土器点数一覧

分類	I層	Ⅲ層	IV層	V層				VI 層	B調	風倒	層位	計
				上位	中位	_下位	不明	VI /百	DM	撹乱	不明	Ħ!
縄文時代早期												
Ⅰ群b-1類			1	2	31	367	3	44		2		450
_ I 群 b − 2 類				3	14	94	5	7				123
I群b−3類		2		1	20	318	1	80				422
Ⅰ群b-4類				494	2	747		8		1		1252
I 群 b 類細分不能		1		5	38	196		48	3			291
縄文時代前期												
Ⅱ群a-1類				7	44	279		20		1	3	354
<b>II</b> 群a-2類					5	49	4	5				63
Ⅱ 群 a 類細分不能					13	112	3	6	1	1	1	137
縄文時代中期												
Ⅲ群b-2類	1	1		1	17	52		4		1	_	77
Ⅲ群b-3類			1			2						3
Ⅲ群b類細分不能		2		4	33	92		13				144
縄文時代後期											,	
IV 群 a 類細分不能						8						8
分類不明				8	26	121	43	12				210
合 計	1	6	2	525	243	2437	59	247	4	6	4	3534

### 全体の土器分布



# 縄文時代早期の土器分布

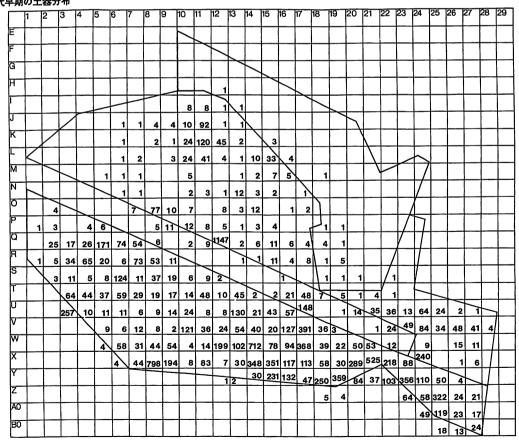
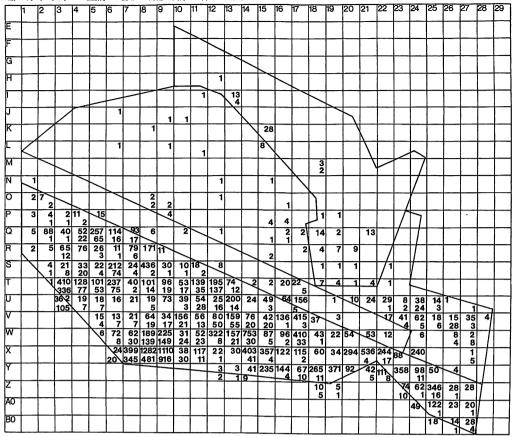


図 V - 4 - 1 包含層出土土器分布図(1)

| 群b類土器の分布(1) (上段: | 群b-1類, 下段: | 群b-2類)



| 群b類土器の分布(2) (上段:|群b-3類, 下段:|群b-4類)

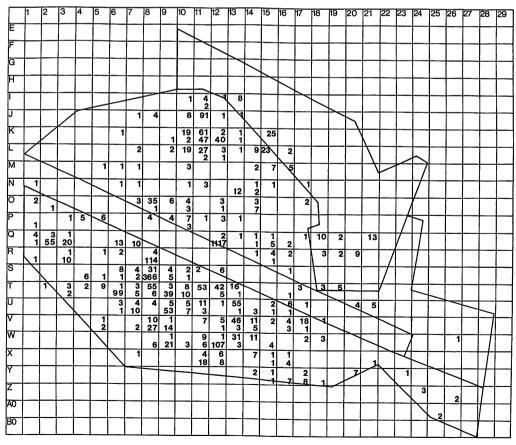
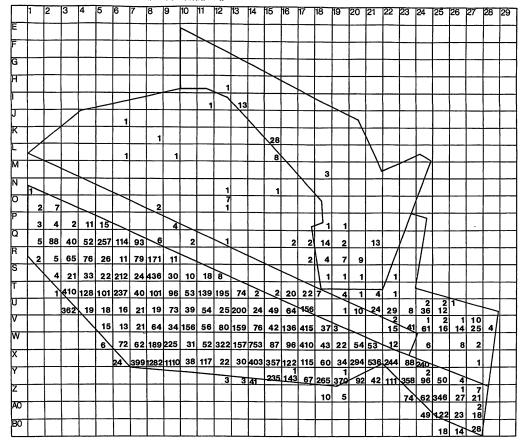


図 V-4-2 包含層出土土器分布図(2)

I 群 b − 1 類土器の分布 (上段:東釧路 || 式,下段:東釧路 || 式)



# 縄文時代前期の土器分布

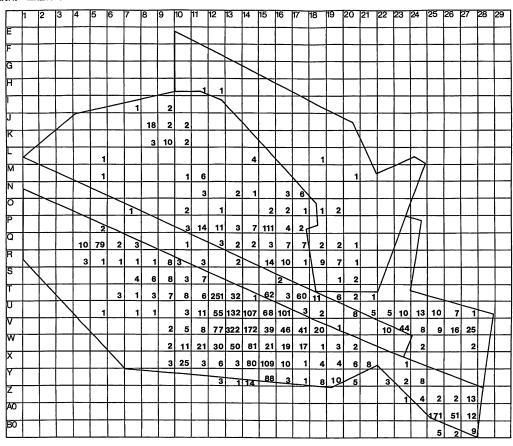
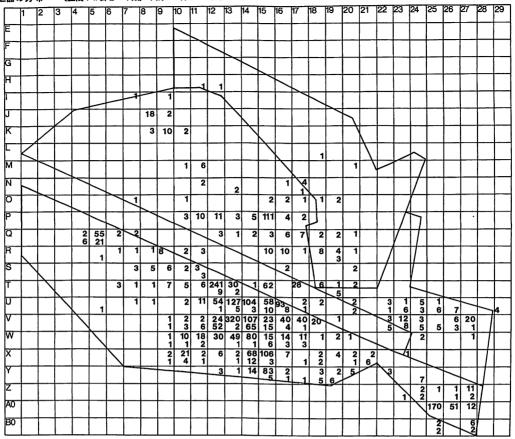


図 V-4-3 包含層出土土器分布図(3)

|| 群a類土器の分布 (上段:|| 群a-1類, 下段:|| 群a-2類)



# 縄文時代中期の土器分布

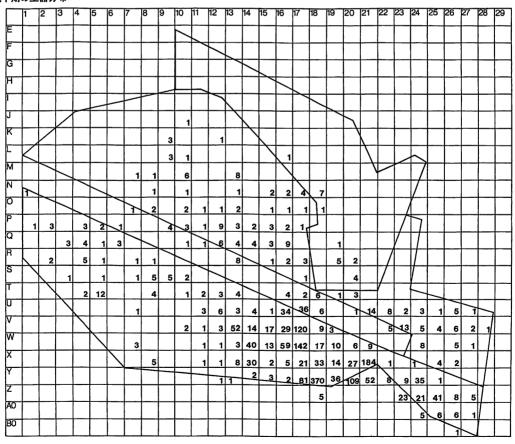
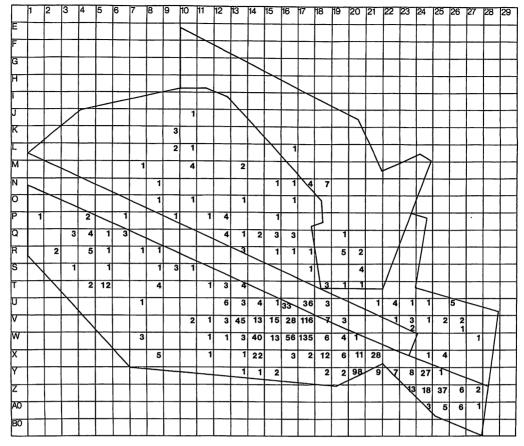


図 V - 4 - 4 包含層出土土器分布図(4)

||| 群b類土器の分布 (上段:||| 群b-2類, 下段:||| 群b-3類)



IV群 a 類土器の分布 (上段:余市式,下段:タブコブ式)

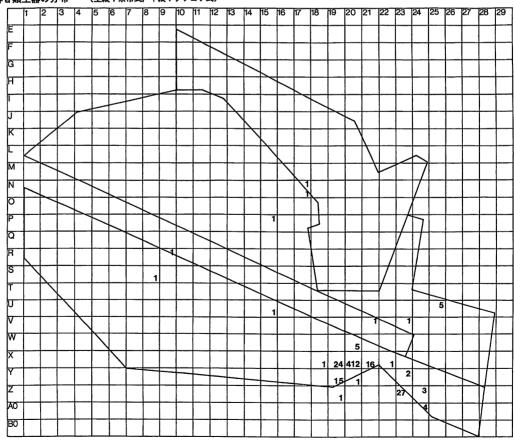


図 V - 4 - 5 包含層出土土器分布図(5)

#### 縄文時代早期の土器

#### I 群 b − 1 類 (1 ~12)

81.6%がV層下位から出土した。平面分布では、U22・24、V23・24・27で45.6%を占め、1 m<sup>2</sup> 当り1.16~2.48点の出土となる。東釧路Ⅱ式に相当するものと東釧路Ⅲ式に相当するものがある。

#### 東釧路 II 式に相当するもの (1 · 2)

1・2はLRの縄を2本とRLの縄を2本の計4本を束ねた原体による回転施文が施されている。 1は角形の口唇に縄の圧痕がある。2の内面には器面と同様の縄文が認められる。いずれも内面はな で調整され、胎土に黒色鉱物・黄白色火山灰・繊維を含む。

#### 東釧路Ⅲ式に相当するもの (3~12)

いずれも内面はなで調整される。胎土に黄白色火山灰・黒色鉱物・砂・細礫などを含む。施文の特徴により  $a \sim d$  に分けた。

## a 縄の側縁圧痕をもつもの $(3 \sim 7)$

 $3\sim5$  は短縄文、 $6\cdot7$  は縄線文と短縄文をもつ。短縄文の幅は $3\cdot4$  が $4\sim5$  mm、5 が  $2\sim3$  mm、6 の縄線文と短縄文の幅は $5\sim6$  mm、7 は $2\sim3$  mmである。 $3\cdot4$  の口唇はなで調整され、 $5\cdot7$  の口唇には縄の圧痕がある。4 の器面にはR 1 の縄文が認められる。3 は胎土に白色火山灰・黒色鉱物、 $4\cdot7$  は黄白色火山灰を含み、4 は細礫、7 は砂・黒色鉱物も含む。 $5\cdot6$  は黒色鉱物・細礫を含み、6 は砂も含む。

#### b 貼付文をもつもの(8)

8は LR と RL の羽状縄文の施された器面に、幅  $2 \sim 3$  mmの短縄文、指頭による刺突文、断面三角形の幅  $7 \sim 8$  mmの貼付文が組み合わせて施文されている。貼付には縄端刺突文が認められる。内面は丹念になで調整され、胎土には黄白色火山灰が目立ち、黒色鉱物・細礫を含む。

#### c 刺突文をもつもの(9)

9は RL と LR の縄文の施された器面に、縄端刺突文と短縄文が組み合わせて施文されている。口唇は縄により刻まれている。胎土に黄白色火山灰・白色粒・黒色鉱物を含む。

#### d 絡条体圧痕文をもつもの(10)

10は無文地に角軸による絡条体圧痕文をもつ。胎土に黄白色火山灰・黒色鉱物・細礫を含む。

#### e 底部(11·12)

11は張り出した底部に縄端刺突文、12はわずかに張り出した底部に幅2㎜の短縄文をもつ。いずれも胎土に白色粒・黒色鉱物を含み、12は砂も含む。

#### I群b−2類(13~16)

76.4%が V 層下位から出土した。平面分布では、U24、V26で42.3%を占め、1  $m^2$  当り0.96~1.12 点の出土となる。 I 群 b-1 類よりも施文が細かく整っており、内面はなで調整される。胎土も緻密で、黄白色火山灰・黒色鉱物を含む。

13は丸軸による幅  $2 \sim 3$  mmの絡条体圧痕文、同じ幅の組紐圧痕文、幅  $3 \sim 4$  mmの断面三角形の貼付文、幅 2 mmの短縄文が組み合わされる。横位の貼付帯の間には短縄文がある。貼付帯と口唇外縁は短縄文と同じ縄により刻まれる。14は丸軸による幅  $4 \sim 5$  mmの絡条体圧痕文、幅  $4 \sim 5$  mmの断面形三角形の貼付文が組み合わされている。貼付は縄により刻まれている。 $15 \cdot 16$ は底部である。わずかに張り出した底部から緩やかな弧をなして立ち上がる。15は条の幅  $1 \sim 2$  mmの LR と RL の縄による整った羽状縄文、16は幅  $1 \sim 2$  mmの整った短縄文をもつ。いずれも胎土に黄白色火山灰を含み、13は黒色鉱物・細礫、14は細礫、15は白色粒を含む。16は黒色鉱物も含む。

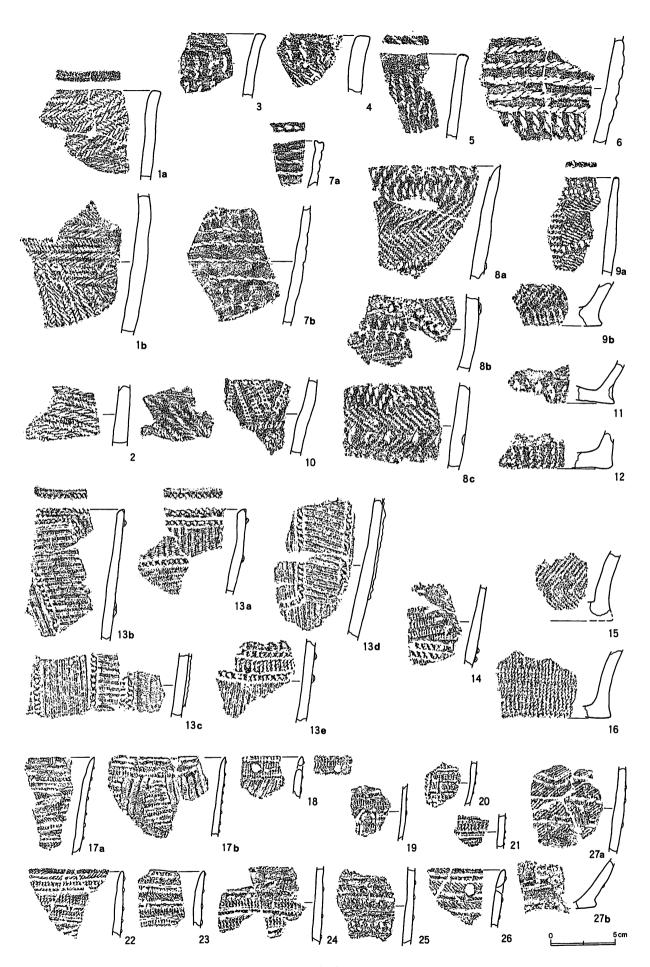


図 V-4-6 包含層出土の土器 (1)

#### I 群 b − 3 類 (17~27)

56.2%が V 層下位から出土した。平面分布では、J11、K11、L11、L15、O8 で 56.2% を占め、 $1 \, \mathrm{m}^2$  当  $50.92 \sim 3.64$  点の出土となる。いずれも口唇は尖り。内面は丹念になで調整され、胎土は緻密で黄白色火山灰・黒色鉱物・砂・細礫などを含む。施文の特徴により  $a \sim c$  に分けた。

### a 縦・斜位の貼付文や絡条体圧痕文をもつもの(17~21)

17は横位の貼付文と短縄文で文様が構成される面と、横・斜位貼付文と短縄文、絡条体圧痕文の組み合わせにより文様が構成される面がある。18は横・斜位の貼付文と短縄文、19は横・縦位貼付文と短縄文、21は横位貼付文と短縄文、絡条体圧痕文の組み合わせである。貼付文は幅1~2 mm、断面三角形の微隆起線状である。短縄文は幅1 mm未満、絡条体圧痕文は幅2~3 mmで、密に施される。18は口縁内面に短縄文が施されている。17・21は胎土に黄白色火山灰が目立ち、黒色鉱物を含む。18は黒色鉱物、19・20は砂・細礫を含む。

#### b 横位の貼付文と短縄文をもつもの (22~25)

 $22\sim25$ の貼付文は幅  $2\sim3$  mmで断面半円形をなす。間隔  $6\sim13$  mmの貼付文間に短縄文が施される。 短縄文は $22\sim24$ が幅 1 mm以下で密に、25 は幅 2 mmで疎に施される。22 は胎土に黄白色火山灰・黒色鉱物、23 は白色粒、24 は黒色鉱物、25 は黒色鉱物・細礫を含む。

#### c 横位貼付文と縄文をもつもの (26・27)

26・27の貼付文は幅3㎜で扁平な断面形である。条の幅1㎜以下のLR 斜行縄文が施される。27は底部が張り出す。いずれも胎土に黒色鉱物・砂を含む。26は黒色鉱物が目立つ。

#### I 群 b − 4 類 (28~33)

59.7%がV層下位、39.5%がV層上位から出土した。平面分布では、 $K11 \cdot 12$ 、Q12で96.2%を占め、特にQ12からは89.2%、 $1 \text{ m}^2$ 当044.7点が出土した。

 $28\sim33$ は器面に自縄自巻の原体による羽状縄文が施されている。 $28\sim31$ の口唇は尖り気味である。 $28\cdot30$ の器面には微隆起線状の貼付文が施されており、貼付文の幅は28が  $1\sim2$  mm、29は 1 mmである。いずれも内面はなで調整され、胎土には黄白色火山灰を含み、31黒色鉱物も含む。

## 縄文時代前期の土器

## II 群 a − 1 類 (34~40)

78.8%がV層下位から出土した。平面分布では、J8、P15、T17、V23、V27で53.4%を占め、 $1\,\mathrm{m}^2$ 当り0.48点以上の出土となる。特にP15からは31.4%、 $1\,\mathrm{m}^2$ 当り4.44点が出土した。39を除き横走気味のRLの縄文をもち、施文後になでられている。39は磨耗して不鮮明だがRLと思われる。条の幅は34~37・39が $5\sim6\,\mathrm{mm}$ 、40が $7\sim8\,\mathrm{mm}$ 、38が $10\sim\mathrm{mm}$ である。いずれも内面はなで調整され、胎土に繊維・黄白色火山灰を含み、さらに、 $34\cdot35\cdot40$ は黒色鉱物、39は細礫を含む。

#### Ⅱ群a-2類(41)

77.8%がV層下位から出土した。平面分布では、 $U23 \cdot 25$ 、 $V23 \sim 25$ で47.6%を占め、 $1 \text{ m}^2$ 当り0.2  $\sim$ 0.32点の出土となる。41は器面に幅  $6 \sim 7 \text{ mm}$ の LR の縄文が施されている。なで調整された内面にも縄文が認められる。胎土には繊維・細礫を含む。

## 縄文時代中期の土器

## Ⅲ群 b-2類 (42~45)

67.5%がV層下位から出土した。平面分布では、M10、P12、Q12、U22、U26、X25で32.5%を占め、1  $m^2$ 当90.16~0.2点の出土となる。42・43は刺突文をもつ。42は竹管もしくは半截竹管状工具、43は竹管状工具による刺突文である。口唇にも同様の施文をもつ。44~47は貼付文をもつ。44は

貼付に半截竹管状工具による刺突文をもつ。45は器面に半截竹管状工具による刺突文、貼付と口唇は丸棒状工具により刻まれる。体部に施文方向を変えた縄文をもつ。46は器面に半截竹管状工具による沈線文、貼付に刺突文をもつ。口唇に達した貼付は小突起をなす。地文は42が RL、43~46は LR 斜行縄文である。いずれも内面はなで調整され、胎土に砂・黒色鉱物・黄白色火山灰を含む。

なお、Ⅲ群 b-3類はⅣ層から1点、V層下位から2点出土している。Ⅳ群 a 類は余市式に相当するものがV層下位から8点出土している。いずれも磨耗した細片のため掲載していない。 (鎌田)

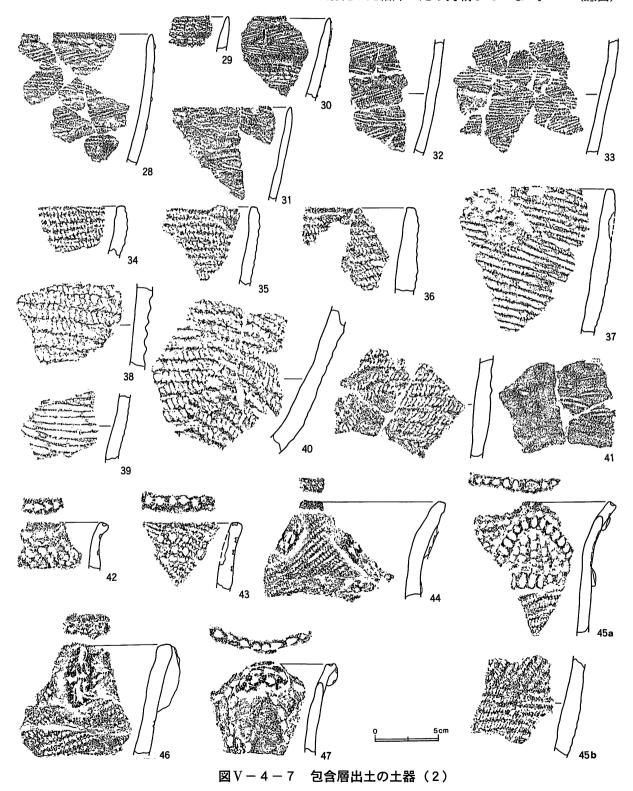


表 V-4-2 包含層掲載土器一覧(1)

4± B+		遺物		7	波 片								
掲載	発掘区		層位				分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした					
番号		番号		点数	掲載	総数							
1	V27c	5	V下	3	4	19	I b-1	(掲載) V27d3 V 下. (非掲載) U22d5 V 下, 同24d7同, 同26b2同, V22a8同2, 同24同5同1,同25同9風倒撹乱,同27b20 V 下,同 c5同5, Y24a5同1,同 d2同.					
2	V26a	8	V中	1	1	5	I b – 1	(非掲載) U24c11 V 下, 同25b4同, 同 c2同, V 同 a7同.					
3	V27a	16	V中	1	1	1	I b – 1						
4	V24d	5	V下	1	1	4	I b – 1	(非掲載) V23a6 V 下2, 同20d1同1.					
5	V27b	19	V下	2	2	2	I b – 1						
6	U21c	5	V下	3	3	19	I b – 1	(非掲載) U20d13 V 下, 同21c5同5, 同10同, 同22b3同, 同7同2, 同 c1同3, V22a4同, 同5同, Y24同3同.					
7	T16d	16	V下	1	4	15	I b – 1	(掲載) (a)T16d19V下. (b)同2. (非掲載) T16d16V下3,同19同4,同24W2,同17同12V下2.					
8	V24a	6	V下	1	8	27	I b – 1	(掲載) V26b5 V 下,同 c9同2,同27a同,Y24同3同3.(非掲載) U21d5 V 下,同22c1同,同23b9 W,同25同11 V 中,V 同 d5 V 下,同26b同2,同 c13 V 中,同14同,同27a9 V 下3,同15同2,同 b10同,W26d2同,同3同,同27c2同,Y24a3d同.					
9	V24a	13	V下	1	2	36	I b – 1	(掲載) Y24a2 V, 同3 V 下. (非掲載) U24a4 V 下15, 同 c 同, V 同 a 同, 同9同, 同13同,同 b6同10, Y 同 a1同,同3同2,同 d8同.					
10	V23a	6	٧Ŧ	1	1	20	I b-1	(非掲載) T21a1 V 下, U22b7同, 同 c1同, 同23a 同, V22同7同, 同 c1 V 中, 同 d2 W2, 同24a6 V 下4, 同 b 同, 同 d1同3, 同25a2同, 同27b9 V 中, 同28a6風倒撹乱.					
11	T16d	19	V下	1	1	22	I b – 1	(非掲載) L15a8 W4, Q16c 同, T16d16 V下, 同19同3, 同17a58同, 同 c6同4, 同 d12同3, 同21同, 同31 W, 同32 V下, U25同3同.					
12	U22c	1	V下	1	1	9	I b – 1	(非掲載) U22b7V下2,同 c1同2,同4同,V23同6同2,Y24同1同.					
13	U24a	8	٧Ŧ	1	11	31	I b – 2	(掲載) (a) V24d9 V下. (b) 同27同1 V中2. (c) 同 a9 V下, 同 d4同. (d) 同 a8同, 同 b10同2. (e) 同1, 同14同. (非掲載) U23c1同, 同24a8同, 同 c4同, 同 d2同, 同25同, 同27b1 Ⅵ, V23a6 V下, 同24同13同, 同26c13 V中, 同 d9 V下, 同27b12 V中, 同21同, 同 c4 V下, 同 d1 V中3, 同28b3 V下, W26a2同, Y24同1同, 同3同.					
14	X27a	1	V上	1	2	11	I b – 2	(掲載) X27a3 V 下. (非掲載) V27c1 V 下, W26d1同, 同27a2同, 同 c1 V 中2, 同2 V 下, 同 d 同, X 同 a1 V 上, 同2 V 中.					
15	W26d	3	V下	1	1	1	I b – 2						
16	V27d	1	V中	1	1	11	I b−2	(非掲載)U25c4V下,同 d3同,V26c1V上,同27b10V下,同 d1V中,同4V下,同28a2同2,W26d2同,同27a5同.					
17	L11d	30	V下	1	4	10	I b-3	(掲載) (a) P10c11 V 下. (b) M15d14 Ⅵ, P9同2 V 下. (非掲載)J11b5 V 下, L15同3同3, R14c1 Ⅵ, U21d4 V 下.					
18	S16a	1	V下	1	1	13	I b – 3	(非掲載)J11a2V下, L14d6同, 同15同9 W2, N7c1V下, O8同18同, 同12a8 W, P10a3 V下, Q13d4同, R15c 同, T17a21同, 同18同17同.					
19	O8c	6	V下	1	1	2	I b – 3	(非掲載) O8c12 Ⅵ.					
20	L11d	21	V下	1	1	3	I b - 3	(非掲載) L11d21V下2.					
21	U21c	13	V下	1	1	2	I b – 3	(非掲載) T20b6 V 下.					
22	Lllc	21	V下	1	3	15	I b – 3	(掲載)· L11c26 V 下2.(非掲載) I10c12 V 下, J11d2 V 中, 同4 V 下, K11c14 V 下, 同21同, L9同3同, 同11a5同, 同 d21同2, 同12c1 Ⅲ, 同14d6 Ⅵ, M 同1 V 中.					
	Llla	20	V下	1	1	7	I b - 3	(非掲載) J11a2V下, O12c4 Ⅵ, P同 b3V中, T20同6V下, U同 d14同2.					

表 V - 4 - 3 包含層掲載土器一覧 (2)

掲載	発掘区	遺物	層位	- 7	波片	<b>i</b>	分類	同一個体破片の情報 発掘区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同とした	
番号	<b>УСИЦЕ</b>	番号	ЛВЦ	点数	掲載	総数	7) RX	四、四本版月が情報、光域区、層位、点数(1点の場合は省略)前に同じ部分は同じした	
24	O8c	1	V下	1	5	17	I b – 3	(掲載)O8c12 Ⅵ4. (非掲載)L7b1 Ⅵ2,同10a3 V 下,同11d30同,O8c12 Ⅵ3,同18 V 下2,同9b7同2,P同 a4同.	
25	L9a	2	VI	1	1	3	I b – 3	(非掲載) N13c2V下, O14a 同.	
26	M15a	3	V中	1	2	2	I b – 3	(掲載) M15d14 W.	
27	K10a	4	V下	1	5	49	I b – 3	(掲載) K11a13V下4.(非掲載) I11b16V下, J10同2同,同 d11同3,同11a2同8,同14同,同 b11同,同 d9同3,K10a4同7,同11同5V中,同6V下2,同13同2,同15W,同 b5V下,同 c6同4,同13a4同,L10同3同,同11d21同,同12同2同,同14c5同,O12同4W,T17d35V下2.	
28	Q12b	7	V上	7	7	331	I b – 4	(非掲載)K13c2V下, N同5同, O14a3V上, 同5V下, P10b2 W2, 同 c1V下, Q12b7 V同34V下111, 同19同4.	
29	Q12b	34	V下	1	1	16	I b-4	(非掲載) Q12b7V上2,同34V下13.	
30	Lllc	36	V下	1	1	3	I b-4	(非掲載) K12b1V下, O9c 同.	
31	N13c	5	V下	3	3	9	I b-4	(非掲載) N13c5V下5, Q12b19同.	
32	K11c	15	٧Ŧ	1	4	42	I b – 4	(掲載)K12b2V下3. (非掲載)I11c6V下, K9同1同, 同11同7同10, 同9同12, 同15同10, O10a8V下, Q12同21撹乱, 同 b19V下, T16d21同.	
33	Q12b	7	V上	6	10	146	I b-4	(掲載)Q12b34V下4. (非掲載)N14a2V中2,Q12b7V上16,同19V下11,同34同107.	
34	I7c	1	V下	1	1	4	II a – 1	(非掲載) P11c3V下, T17a22V下, 同20b7同.	
35	Plld	13	V下	1	1	1	II a - 1		
36	P12a	2	V中	1	2	2	I a – 1	(掲載) P12b11V下.	
37	V27d	2	V中	3	3	3	I a - 1		
38	V27b	16	V下	1	1	5	II a − 1	(非掲載) T17d10V下,同18c9同,V27d2V中2.	
39	P15c	1	V下	1	1	67	II a − 1	(非掲載) O15a1V上,同16d1V下,P15b11同,同 c1同45,同14同,同15 Ⅵ,同19V下4,同22同3,同16b1V中4,Q15d同2,R同2同,U18b3V下,同20d4同.	
40	R16a	4	٧F	7	7	28	II a − 1	(非掲載) I9c2 V 下, M11d4 V 中3, N 同2 W, 同16c4 V 下, O10b7同, 同17a1 W, P12同2 V 中, Q15c8 V 下, 同16a4同, 同 b7同, 同17同, 同19a2同, R16b7同, J8c1 V 中, 同3同, T9a1 V 下, 同18同7同, V27b16同, W24c2同.	
41	V26a	4	٧Ŧ	1	3	43	II a - 2	(掲載) V27b15V下, Y24d2同. (非掲載) U23b6 Ⅵ3, 同8V下, 同24a5同, 同 d5同, U25a5同 同 b7同3, 同8V中, 同9同, 同26同3V下2, 同 c2同2, 同3同3, V22a8同2, 同 d5同, 同23a6同3, 同 c 同 Ⅵ, 同24a6 V 下, 同 b5同2, 同25a4同3, 同8同, 同 d2 V 中, 同11 V 下, 同26a2同, Y24同4 V 2, 同 c1 V 下, 同 d2 V 下.	
42	К9с	2	V下	1	1	1	<b>I</b> I b − 2		
43	U22b	1	V中	1	1	1	<b>I</b> I b − 2		
44	N16a	4	V中	1	1	1	<b>I</b> I b − 2		
45	U26a	1	٧Ŧ	1	3	21	<b>I</b> I b − 2	(掲載) a:V22d4V下, b:V24a10同. (非掲載) I24d2V下, U22b8同, 同 d 同, 同23b7同, 同 d6 Ⅵ, V22a9V下, 同 c2V中, 同 d3V下 同23a8同, 同 c7 Ⅵ3, 同24d2V下, 同25a4同, 同26b8同, Y24a4V2, 同 d3V下.	
46	R15c	2	V中	1	1	14	II b − 2	(非掲載)J10c5V下, K9b1Ⅲ, 同 c3V下, L 同 d 同 V中2, 同10c7V下, M7b2同, 同10a3同2, O8b11V中, Q12a15V下, 同 c17V下, T20b2V中.	
47	P12b	21	V下	1	2	2	<b>I</b> b − 2	(掲載) P12b10V下.	
47	P120	21	Vr	1	4		11 D - Z	(投票) P12D10 V P.	

#### (2) 石器等

## 概要

平成14年度、水田部分では遺物包含層より計4,724点の石器等が出土した。大分類ではフレイクが2,270点と最も多く、礫・礫片が1,704点で次ぐ。その他、剥片石器690点、磨製石器29点、礫石器29点が出土した。剥片石器はR・Uフレイクを除くと、石鏃が166点で最も多い。磨製石器は磨製石斧を主体とするが、大部分が剥片と未製品である。礫石器は各分類ともに出土点数が少ない。

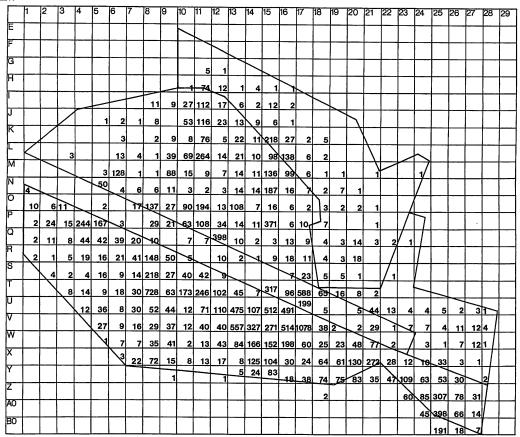
石器等全体の出土傾向を見ると、層位別では、V層下位より2,730点と過半数が出土している。同層位からは、縄文時代早期後半~前期前半の土器群が出土しており、石器も同様の時期に製作されたものが多いと推測される。しかしながら、水田部分ではイモッペ川の旧河道が検出され、ちょうど調査区全体が氾濫原であったと考えられる。このため遺物が流水などの自然営力の影響を受け、平面・層位をかなり移動しているようである。出土分布では、T17グリッド付近に集中が見られる。ここは旧河道の本流が蛇行して、斜面部分の微高地に挟まれた沢につながる部分であり、地形的に遺物が溜まりやすかったと考えられる。

平成13年度調査の斜面部分および水田部分の一部より出土した、黒曜石製の石鏃49点について原材産地分析を行った。これらの事実記載については、北埋調報168で報告済みである。その結果、FC-1と遺物包含層より出土した柳葉形・五角形の石鏃は赤井川産が大部分を占める。三角形の石鏃は十勝・あじさい滝・赤石山などが主な産地で、赤井川産は見られない。有茎鏃はこれらの産地が混合する様相を見せる。石鏃の形態がある程度時期的な流行を反映すると仮定すると、縄文時代にこの地域において石器石材の獲得ルートが変遷した可能性がある。詳細は第VI章第3節を参照されたい。

表 V - 4 - 4 層位別出土石器等点数一覧

	分	類	I層	Ⅲ層		V	層		VI層	撹乱	不明	計
	71 :	枳	1 宿	山 /省	上位	中位	下位	不明	11/首	風倒木	11.67	ΑI
	石	族	3	15	22	22	84		18	1	1	166
	石槍・ナイ	イフ			2	3	5		1			11
	石	錐		1	3	5	18		3			30
	つまみ付ナ	イフ			1	5	19		2			27
  剥 片 石 器	スクレイル	<i>''</i> –		2	4	10	20		10			46
<del>                                    </del>	ピエス・エスキ	ニーユ					1		2			3
	Rフレイ	ク	1	4	14	22	106		35	2		184
	ひ フ レ イ	ク		5	12	36	99		31	1		184
	両面調整石	5 器				2	2		1			5
	石 核 ・ 原	〔 石		1	3	4	22		4			34
剥片	フレイ	ク		27	85	192	1742		178	42	4	2270
磨製石器	石 第	斧		1		6	20		2			29
	たたき	石				1	2	,	2			5
  礫 石 器	す り	石				1	6					7
KAR 12 1007	扁平打製	5 器					1					1
	砥	百					9				7	16
礫・礫片	<b>礫</b> · 礫	片		24	224	747	573	4	92	40		1704
ют ют. Л	軽	百		1			1					2
合	計		4	81	370	1056	2730	4	381	86	12	4724

#### 石器等全体



#### 剥片石器類

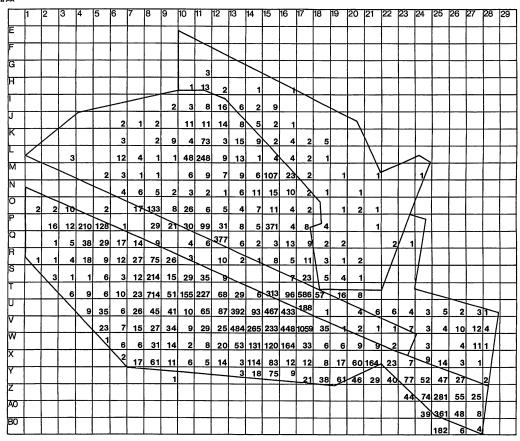
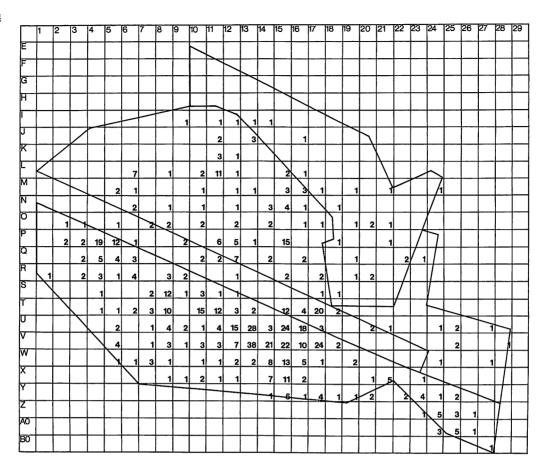


図 V - 4 - 8 包含層出土石器等分布図(1)

石鏃



石錐

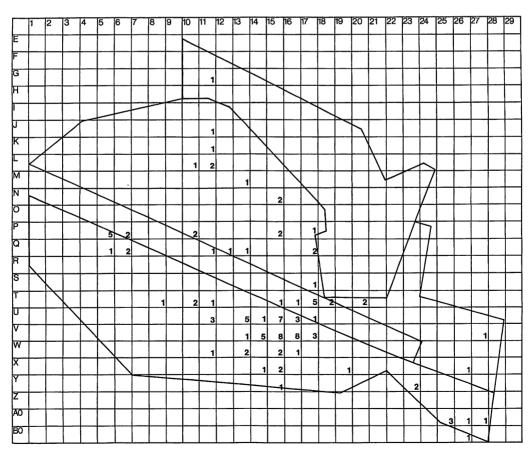
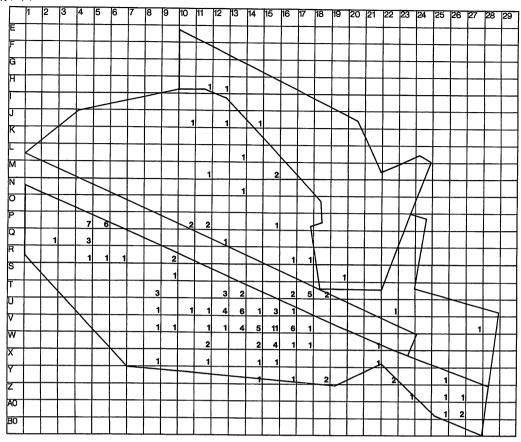


図 V-4-9 包含層出土石器等分布図(2)

#### つまみ付ナイフ



## スクレイパー

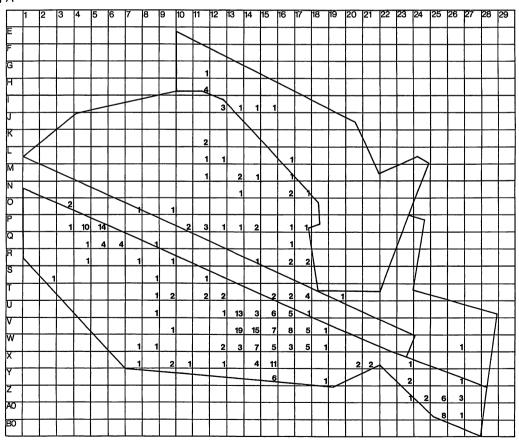
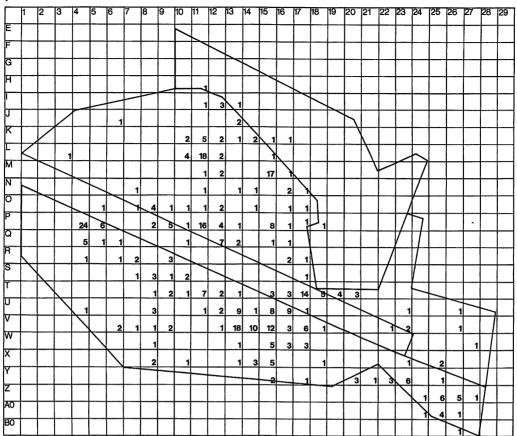


図 V-4-10 包含層出土石器等分布図 (3)

Rフレイク





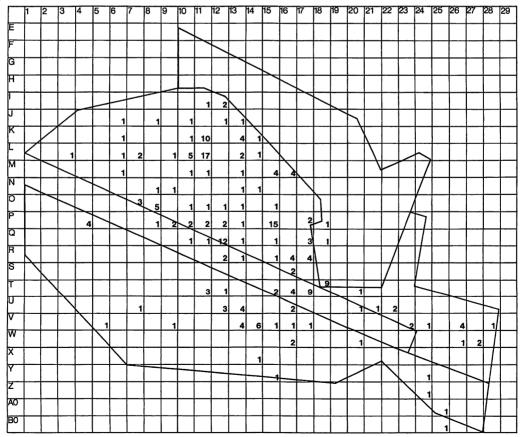
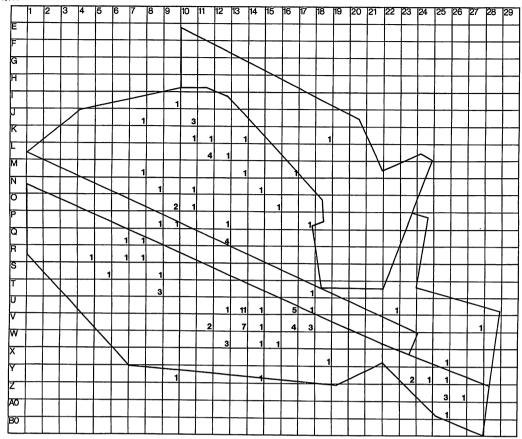


図 V-4-11 包含層出土石器等分布図(4)

石核・原石



フレイク

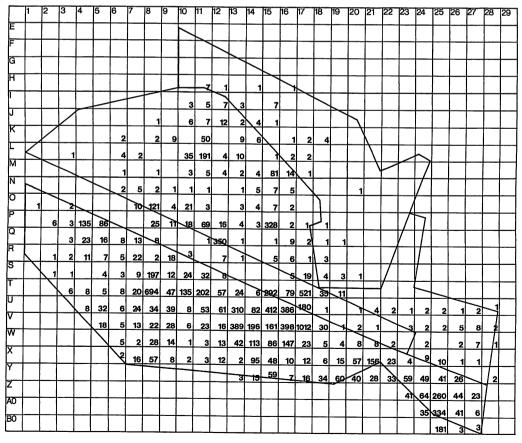
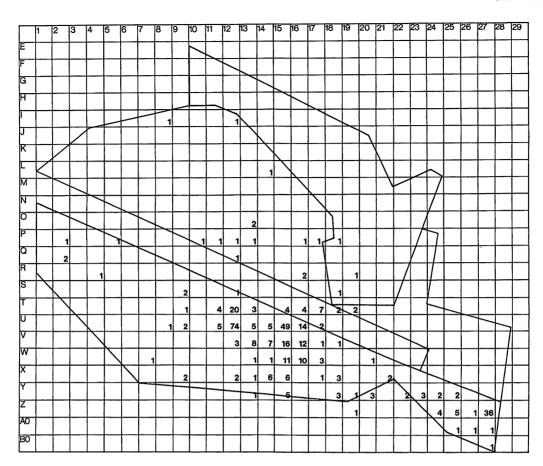


図 V - 4 - 12 包含層出土石器等分布図 (5)

石斧



礫・礫片

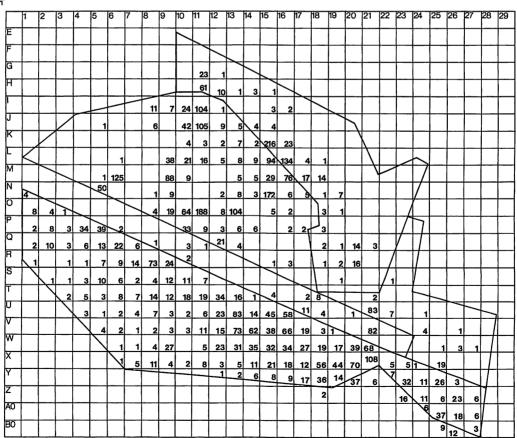


図 V-4-13 包含層出土石器等分布図 (6)

## **石 鏃**(図V-4-14-1~21/表V-4-5/図版45)

166点出土している。調査区全体より疎らに出土する。T17グリッド付近の、浅い沢地形の内部で 多い。出土層位はV層下位が84点と過半数を占める。形態別では、柳葉形18点、木葉形4点、五角形 10点、三角形46点、有茎21点、茎が明瞭に見られないもの3点、未製品27点、形態不明な破片37点と なっている。未製品・破片を除くと、三角形のものが最も多く、有茎がこれに次ぐ。石材別では、黒 曜石164点、メノウ質頁岩・チャートが各1点で、ほとんどが黒曜石である。ここでは21点図示した。  $1\sim6$  は薄身のもの。 $1\cdot5\cdot6$  は柳葉形。1 は短身で、幅が狭い。調整が粗雑で、裏面に主剥離面 を残す。5・6は長身で、幅広のもの。両面の調整が非常に丁寧で、5は基部、6は右側縁の下部に 浅い抉りが見られる。2・3は木葉形。2は先端部が全体の約1/3ほどである。4は五角形。側縁 が直線的に仕上げられている。 7~16は三角形の石鏃。形状から基部が直線的なもの(平基)と基部 が内湾するもの(凹基)に分けた。7~10は平基。脚部がやや突き出しているため、結果として基部 が湾曲しているように見えるものが多い。調整により意識的に抉りを作り出していないものは、平基 に含めた。8はメノウ質頁岩製。右側縁に剥落が見られる。10は断面に厚みがある。11~16は凹基。 11は先端部を欠損する。12は特に基部の抉りが深い。13~16は細身で縦長のもので、両面が細かに調 整されている。17~21は有茎。17のみ平基で、ほかは凸基である。側縁は直線状のものが多いが、19 は内湾し、20は鋸歯状になっている。21はチャート製。縦長で均整の取れた三角形の基部を有する。 表面は非常に丁寧に調整されているが、裏面に剥離面を残す。

#### 石槍・ナイフ (図 V - 4 - 14 - 22~25/表 V - 4 - 5/図版45)

11点出土している。石材は、すべて黒曜石である。4点図示した。22~24は茎をもつもの。10点出土している。すべて凸基である。24は側縁が外湾しており、裏面に主剥離面を残す。25は茎が明瞭に見られないもの。1点のみ出土している。基部と比較して先端部がやや細身であることから、再加工された可能性がある。

## **石 錐**(図V-5-14-26~30/表V-4-5/図版45)

30点出土している。V層下位で18点と最も多く出土した。石材は、大部分が黒曜石で、1点のみ頁岩である。形態により、以下の5種類に分類した。ここでは5点図示した。①棒状のもの。全部で6点出土した。②周縁のみを加工したもの。全部で8点出土した。26は両面に剥離面を残す。断面が若干湾曲する。③細身の刺突部を顕著に作り出したもの。全部で9点出土した。27は比較的大きめの基部を有する。28は両端に刺突が設けられており、上部の先端を欠損する。④剥片の形状を利用したもの。全部で6点出土した。29は両端に刺突部が見られる。加工は粗く、基部に自然面を残す。⑤つまみ付ナイフを転用したもの。1点のみ出土した。30は刃部を再加工して刺突部を作り出している。

#### **つまみ付ナイフ**(図 V - 4 - 14 - 31~36/表 V - 4 - 5/図版46)

27点出土している。このうち未製品が1点、破片が5点である。V層下位で19点と最も多く出土した。石材別では、黒曜石21点、頁岩6点である。形態別ではすべて縦型であり、横型は出土していない。刃部の加工により、以下の4種類に分類した。ここでは6点図示した。①両面加工のもの。全部で2点出土した。31は幅広で厚みがあり、両面に丁寧な調整が施される。刃部は菱形を呈し、左側縁に抉りが見られる。②片面全面加工で、裏面の一側縁に刃部をもつもの。全部で5点出土した。32は調整が粗雑で、表面に剥離面が残る。33は断面が湾曲する。側縁が使用により擦り潰れている。③片面全面加工で、裏面に刃部をもたないもの。全部で6点出土した。34はミニチュアで、両側縁の調整が細かい。35は2点が接合したもので、刃部を折損する。側縁が使用により擦り潰れている。④周縁部のみ加工されているもの。全部で8点出土した。36は両面に剥離面が残る。

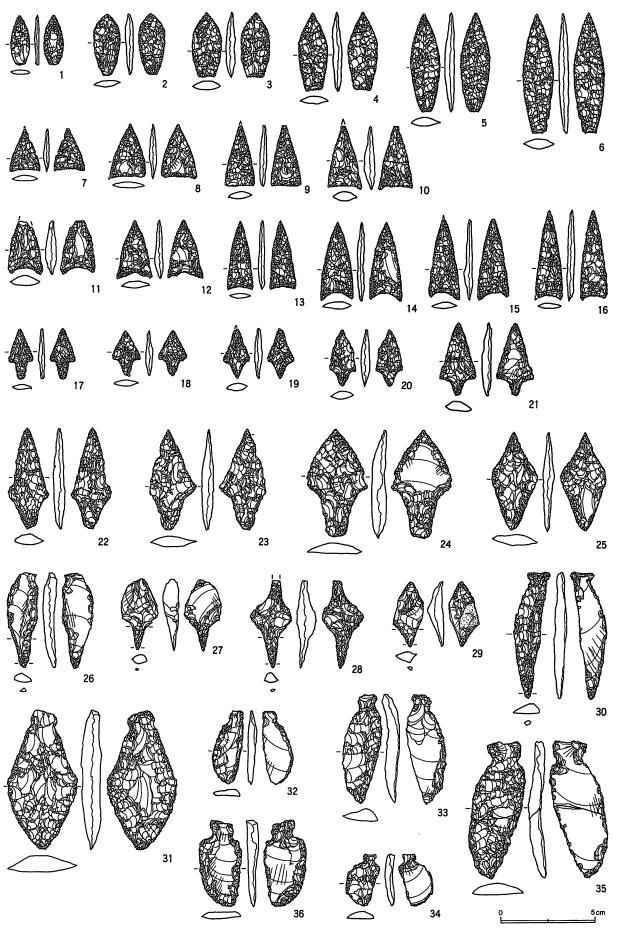


図 V - 4 - 14 包含層出土の石器 (1)

## スクレイパー (図 V - 4 - 15 - 37~44/表 V - 4 - 5/図版46)

46点出土している。このうち未製品が2点、形態が不明瞭な破片が6点である。石材は、すべて黒曜石である。形態により、以下の4種類に分類した。ここでは8点図示した。①ラウンド・スクレイパー。全部で14点出土した。いずれも円形で、裏面に刃部を持たない。37・38は上部に打面を残す。39は上下端に階段状の潰れが見られることから、ピエス・エスキーユとして使用された可能性がある。②サイド・スクレイパー。主に縦長の剥片を素材とし、一方の側縁に刃部を設けている。刃部の形状により以下の4種類に細分した。a)刃部が張り出すもの。6点出土している。40は上面に打面を残す。b)刃部が直線的なもの。5点出土している。41は使用による刃部の潰れが著しい。c)刃部が内湾するもの。3点出土している。42は素材の形状のため、断面が著しく湾曲している。40~42は剥片の表面のみ加工されている。41・42は左側縁にも使用根が認められる。d)刃部が尖頭状のもの。3点出土している。43は両側縁に刃部を有する。上部を欠損しており、つまみ付ナイフの刃部片の可能性がある。④ノッチド・スクレイパー。1点のみ出土した。44は幅の狭い短冊状の剥片を加工したもので、刃部に浅い抉りが設けられている。40・42・44は、自然面を残す。

## **石 核**(図V-4-15-45・46/表V-4-5/図版46)

34点出土した。大部分が黒曜石で、1点のみ頁岩である。2点図示した。45・46は上面に打面を設定して剥離作業を行ったもの。いずれも打面を転移しながら剥片を剥ぎ取っており、自然面を残す。46の左端には細かい剥離調整が見られ、直線状の刃部のようになっている。このことから、剥離作業の途中でスクレイパーへ転用された可能性がある。

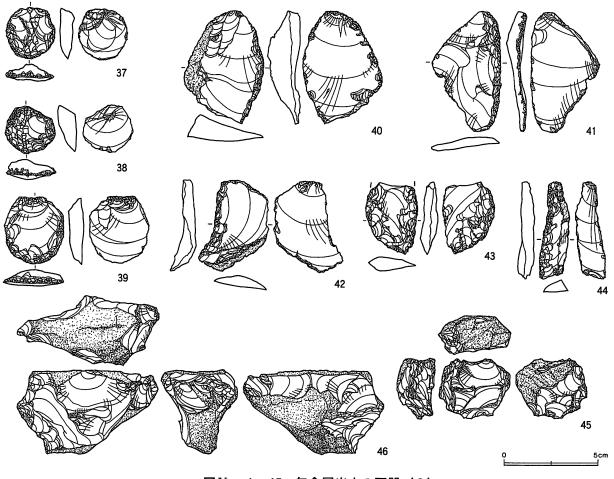


図 V - 4 - 15 包含層出土の石器 (2)

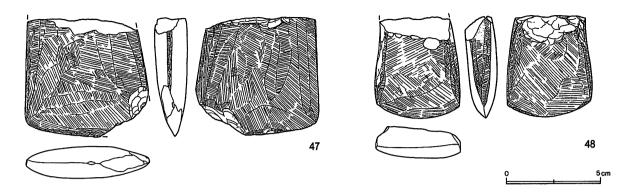


図 V-4-16 包含層出土の石器 (3)

## 石 斧 (図V-4-16-47·48/表V-4-5/図版46)

29点出土している。石斧・石斧片 2 点、未製品 7 点、剥片18点、石材 2 点となっており、刃部または基部を残すものは少ない。石材は泥岩が大部分で、蛇紋岩、片岩などは少ない。 2 点図示した。47 は擦切手法によって製作されたもの。ほぼ全面が研磨されているが、基部と刃部の一部を欠失する。 刃縁は弧状と推測され、使用による刃こぼれと磨滅が著しい。48は打ち欠きによる整形が見られるもので、部分的に研磨されている。特に鎬の周辺を強く研磨しているが、側縁に自然面を残す。刃縁は弧状である。基部の上半を折損する。

### たたき石 (図 V - 4 - 17 - 49~51/表 V - 4 - 5 ・ 6 / 図版46・47)

5点出土している。石材は緑色泥岩 2点、砂岩 3点である。 3点図示した。49・50は楕円礫の周縁にたたき痕が見られるもの。どちらも底面と右側面を強くたたいており、潰れによる白濁が著しい。49は被熱している。51は扁平礫の上下端に弱いたたき痕が見られるもの。腹面には擦り痕を有する。赤化した部分が見られるが、鉄分の付着によるもので被熱痕ではない。

## **すり石**(図V-4-17-52~54/表V-4-6/図版47)

7点出土している。石材は砂岩 4点、泥岩 3点である。3点図示した。52~54は断面が隅丸三角形の礫の稜を擦ったたもの。いずれも断面が鋭角をなす一辺が使用されている。52は下弦のすり面が腹背の両側から傾けて使用されているため、平坦ではない。擦りの程度は強く、よく使い込まれている。また、腹面にもすり痕が認められる。53は被熱による赤化が見られる。すり面に礫面が露出していることから、被熱後に使用されたと考えられる。54は破損品。上弦・下弦にすり面を有する。非常に強く擦られている。その両側の腹面も擦られており、すり面との間に稜が作り出されている。

## **扁平打製石器**(図 V - 4 - 17 - 55/表 V - 4 - 6/図版47)

1点のみ出土した。石材は緑色泥岩である。55は石斧を転用したもので、側縁を両側から粗く打ち欠いて弧状にし、もう一方の側縁をすり面として使用している。擦りの程度は強く、よく使い込まれている。研磨された石斧の刃部が残存している。

## **砥 石**(図V-4-17-56/表V-4-6/図版47)

16点出土している。大部分が破片である。石材は砂岩が9点、凝灰岩が7点である。1点図示した。55は大型の砂岩礫を手ごろな大きさに打ち欠き、上面を砥面として使用したもの。2点が接合したもので、裏面は剥落している。全体的に使用されているが、中央から下半部が特に平滑になっており、使用頻度が高かったと推測される。被熱により赤化した部分が見られる。 (芝田)

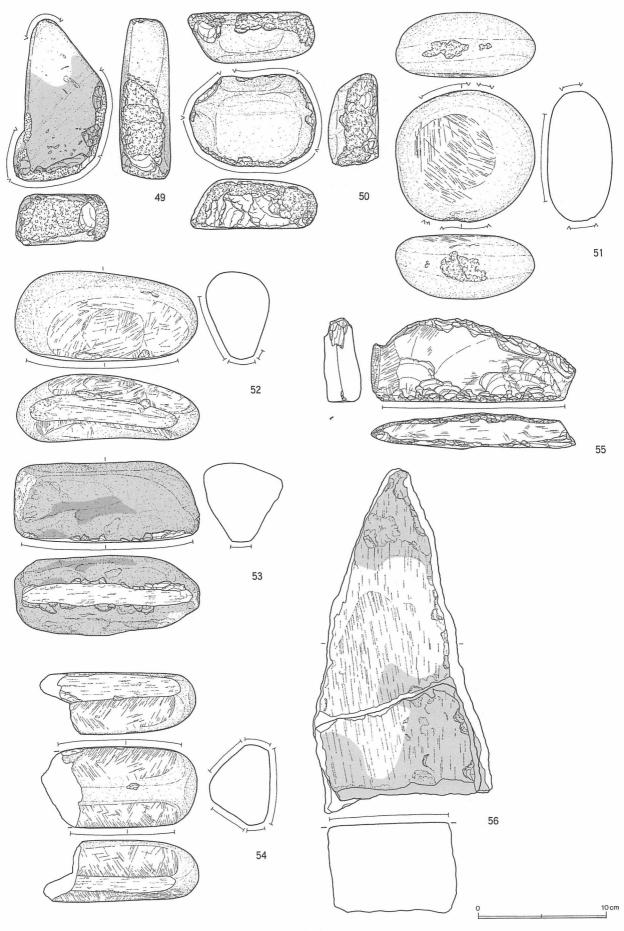


図 V-4-17 包含層出土の石器 (4)

表 V-4-5 包含層掲載石器一覧(1)

× v	- 4 – 5	C = /1	曹掲載石器-	見し	,						
番号		類	出土地点・番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)		5	質	備	考
1	石	鏃	O12a · 6	VI層	$2.60 \times 1.00 \times 0.19$	0.6	黒	曜	石		
2	石	鏃	K12d • 2	V層下	3. 21×1. 40×0. 38	1.6	黒	曜	石		
3		鏃	M5d • 1	V層下	$3.35 \times 1.55 \times 0.47$	2, 3	黒	曜	石		
4	石	鏃	R15d • 4	V層下	4. 10×1. 59×0. 44	2. 4	黒	曜	石		
5	石	鏃	V25d · 3	V層下	$5.19 \times 1.51 \times 0.51$	3. 2	黒	曜	石		
6	石	鏃	Q11d · 5	V層下	6. 30×1. 63×0. 54	4.6	黒	曜	石		
7	石	鏃	Q16b · 5	V層下	$2.19 \times 1.59 \times 0.30$	0.8	メノ	ウ質	頁岩		
8	石	鏃	N10c · 1	V層中	2.87×1.88×0.31	1. 3	黒	曜	石		
9	石	鏃	R15d • 6	V層下	3, 12×1, 59×0, 36	1.4	黒	曜	石		
10	石	鏃	N15a · 3	V層上	3, 30×1, 80×0, 50	2. 0	黒	曜	石		
11	石	鏃	P18c · 1	V層下	2, 80×1, 81×0, 51	2. 1	黒	曜	石		
12	石	鏃	N15b · 1	V層上	3. 05×1. 85×0. 39	1.6	黒	曜	石		
13	————— 石	鏃	T18d · 1	V層上	$3.60 \times 1.40 \times 0.28$	1. 3	黒	曜	石		
14	石	鏃	N16a · 2	Ⅲ層	4. 10×1. 70×0. 37	2. 3	黒	曜			
15	石	鏃	N6d·1	Ⅲ層	4, 21×1, 60×0, 41	2. 1	黒	曜			
16		鏃	P15d · 3	V層下	4, 70×1, 40×0, 34	2. 0	黒	曜			
17	— <u></u> 石	鏃	L6 d · 1	V層下	2. 69×1. 30×0. 32	0.6	黒	曜			
18	<del></del>	鏃	L6a·4	V層下	2. 33×1. 42×0. 36	0. 7	黒	曜			
19	<del></del>	<del></del> 鏃	Q23b · 1	V層中	2. 60×1. 39×0. 37	0, 8	黒	曜			
20	<del></del> 石	<del></del> 鏃	Q12c · 1	V層中	2. 95×1. 40×0. 44	1. 3	黒	曜			
21	石	<del></del> 鏃	M5a · 1	V層上	$3.80 \times 1.91 \times 0.45$	2.6	-		<u>ート</u>		
22	<u> </u>			V層上	$5.30\times2.20\times0.58$	4. 3	黒	曜			
23	石槍・ナ			V層下	$5.30\times2.49\times0.59$	4.8	黒	-唯			
24	石槍・ナ			V層中	5. 68×3. 20×0. 78	9. 2	黒	-唯			
25	石槍・ナ		O15c · 3	V層中	5, 61×2, 41×0, 55	4. 3	黒	曜			
26	<u>10 7/4 / / / </u> 石	錐	T17d · 18	V層下	5. 00×1. 61×0. 53	3. 9	黒	曜			
27	<del></del> 石	錐	Q12b · 11	V層下							
28		<u> </u>			3. 71×1. 90×0. 75	4.4	黒	曜		<i>h</i> r+8 □	
29	<u>石</u>	錐	T20b · 4	V層下	4. 58×2. 19×0. 97	4.5	黒	曜		欠損品	
			L11c · 28	V層下	3. 39×1. 61×0. 83	2.8	黒	曜			
30	- 石	錐	T17d · 17	V層下	$6.65 \times 1.72 \times 0.58$	5. 1	頁	n93	岩		
31	つまみ付け		J14b · 1	V層下	7. 30×3. 69×0. 99	22. 3	黒	曜			-
32	つまみ付け			V層下	3. 85×1. 60×0. 37	2. 3	頁		岩		
33	つまみ付け			V層下	5, 75×2, 07×0, 63	7.6	頁		岩		
34	つまみ付け		J10d · 9	V層下	2. 70×1. 78×0. 37	1.1	頁		岩一一	0 1-101-0	
35	つまみ付け			V層下	7. 20×3. 05×0. 66	13. 0	黒	曜		2点が接合	
36	つまみ付け			V層下	4. 50×2. 25×0. 58	5.6	黒	曜			
37	スクレイ		I12b · 3	V層中	2. 69×2. 59×0. 78	5. 1	黒	曜			
38	スクレイ		P11a · 6	V層下	2, 47×2, 62×0, 98	5. 5	黒	曜			
39	スクレイ		P13d • 4	V層下	3. 49×3. 11×0. 77	9. 7	黒	曜			
40	スクレイ		I13b · 2	V層上	5. 89×4. 18×1. 49	26. 9	黒	曜	石		
41	スクレイ		P17d • 1	VI層	6. 24×3. 62×0. 85	13. 7	黒	曜			
42	スクレイ		H11c · 2	V層中	4. 70×3. 68×0. 74	9.8	黒	曜			
43	スクレイ		T17d • 24	V層下	$3.75 \times 2.71 \times 0.71$	7. 5	黒	曜	石_	欠損品	
44	スクレイ		Q16b · 1	V層中	5. 09×1. 58×0. 83	5. 1	黒	曜	石		
45	石	核	T17d • 16	V層下	3. 11×3. 78×1. 81	21.8	黒	曜			
46	石	核	O9b · 6	V層下	4. 40×7. 40×2. 78	85. 6	黒	曜			
47	石	斧	O13a · 10	VI 層	$(6.24) \times 6.52 \times (1.73)$	(106. 5)			尼岩	欠損品	
48	石	斧	P10b • 12	V層下	$(5, 30) \times 4, 50 \times 1, 43$	(53. 2)	緑	色泡	尼岩	欠損品	
49	たたき	石	W26a · 7	V層下	12. $66 \times 7$ . $40 \times 4$ . $00$	612. 0	砂		岩	被熱	
50	たたき	石	P10d · 1	VI層	$9.94 \times 7.30 \times 4.00$	521.0	泥		岩		

表5-4-6 包含層掲載石器一覧(2)

番号	分	類	出土地点·番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石	質	備	考
51	たた	き 石	L14c · 4	VI層	10. 40×11. 0×5. 10	864. 0	泥	岩		
52	す	り石	W26 a · 6	V層下	6. 95×14. 40×5. 12	725. 0	砂	岩		
53	す	り石	Q12c · 16	V層下	6. 30×14. 60×6. 25	810. 0	砂	岩	被熱	
54	す	り石	V26 c • 7	V層下	$6.40 \times (12.18) \times 4.90$	(499. 5)	砂	岩		
55	扁平打	製石器	P11d • 11	V層下	4. 40×10. 80×1. 80	127. 2	緑色	泥岩		
56	砥	石	R16b • 5	V層下	$(27.20) \times (14.20) \times (7.20)$	(2660, 0)	砂	岩	被熱	2 点が接合

## (3) 土製品

## **再生土製円盤**(図V-4-18-1/表V-4-7/図版47)

1点のみ出土した。出土地点はイモッペ川旧河道にあたる Q-17-b、出土層位は V層下位である。全体が磨耗しており、周縁が内傾するように整形されている。器面には LR と推定される斜行縄文が認められる。内面は磨耗が激しく、内面調整の痕跡すら残っていない。胎土に砂を多く含む。器面の施文、胎土から縄文時代中期後半の土器片を再生利用したものと思われる。この周辺の同じ層位からは縄文時代早期後半、前期前半の遺物が数点出土している程度で、遺構もなく関連すると思われる遺物もない。川の氾濫等の自然営力により流動しているものと思われる。 (鎌田)

#### (4) 石製品

## **勾 玉**(図V-4-18-2/表V-4-8/図版47)

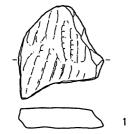
1点のみ出土した。玉類の出土はイモッペ川流域の遺跡群では初めてとなる。出土地点はイモッペ川旧河道にごく近い平坦面上で、当時の川原面と考えられる。出土層位がV層中位であることから、縄文時代中期ごろの所産と推測されるが、川の氾濫その他自然営力の影響を受けて流動している可能性が高い。包含層中より全く単体での出土で、周囲に遺構はなく、関連すると考えられる遺物も同じ層位より出土していない。形状は尾部がほぼ直角に折れ曲がったL字形を呈し、頭部の方がやや厚い。全面が研磨されており、緑色がかった光沢がある。両面から穿孔されている。孔には糸ずれの跡が見られるが、尾部に重みがあるため軸がやや傾いている。石材は蛇紋岩と考えられる。 (芝田)

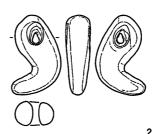
表 V - 4 - 7 土製品一覧

番号	分 類	発掘区	遺物 番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	備考
1	再生土製円盤	Q17b	5	V下	$(5, 3) \times (4, 3) \times (1, 1)$	23. 3	Ⅲ群b類土器片を再生利用

表 V - 4 - 8 石製品一覧

番号	分	類	調査区	遺物 番号	層位	長さ×幅×厚さ(cm)	重量(g)	石 質	備考
1	勾	玉	M16a	9	V層中	$4.20\times 2.62\times 1.30$	16. 1	蛇紋岩	





0 5cm

図 V-4-18 包含層出土の土製品・石製品

## <補遺> 宮戸3遺跡出土の土器について (図V-4-19)

平成13年10月、宮戸4遺跡樹林部分の試掘調査を行った。その際、平成12年度に調査を終了してい る宮戸3遺跡の調査範囲内に多数の土器片が散らばっているのを確認した。出土地点はE19グリッド で、TP-18のすぐ南側である。これらの破片は風倒木痕に取り込まれるように埋まっており、Tピ ット完掘後の包含層の掘り下げが十分でなかったため、調査時点では検出されなかったものと見られ る。ただちに周辺を精査したところ、土器片125点が得られた。この遺物の取り扱いについては、平 成14年度以降、宮戸3遺跡に隣接する「宮戸4遺跡樹林部分」の調査が行われた時点で併せて報告す ることとし、平成13年の冬季整理では接合・復元作業のみを行った。この結果、一個体が復元され(1)、 先に報告した北埋調報153の図V-6-4 (114頁) に掲載された 5a(2)および 5b(3)と同一個体であ ることが判明した。

今年度、「樹林部分」の調査が行われなかったことから、報告は次年度以降に繰り越すこととした が、実測・トレース図を作成してあったので、取り急ぎここで報告することとした。なお、この土器 は本報告書の口絵2に宮戸4遺跡の復元土器とともに載せてある。

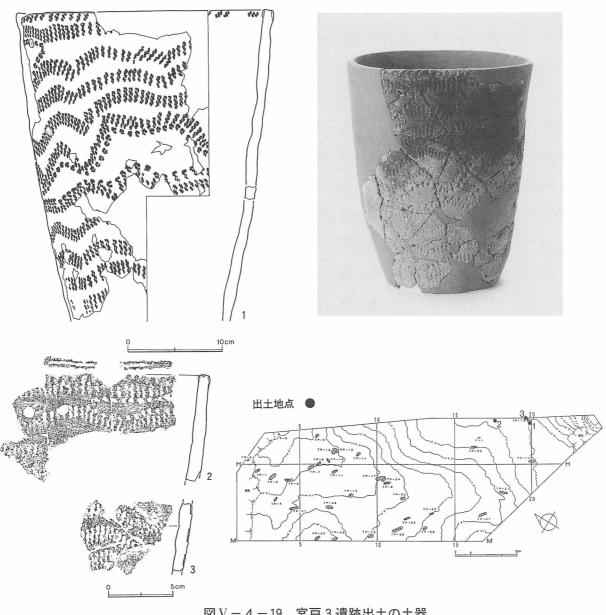


図 V - 4 - 19 宮戸 3 遺跡出土の土器

1は出土した125点のうち43点が接合したものである。口縁部から胴下半部までの2分の1ほどが残存する。胴上半部には炭化物が付着し、下半部は赤褐色を呈する。胎土には2~5 mmほどの白色の小砂利が混入する。内外面ともに指でナデ調整したとみられ凹凸が著しい。底部の様相は知られないが、胴部が張り出さない器形である。平縁かとみられ、口唇部をわずかに肥厚させ、平滑に調整しているがやや丸みを帯びるところもある。内外面角には縄の圧痕により斜めに刻みが加えられている。1の口唇上には施文はないが、沈線が部分的に引かれているようである(2)。器面には短縄文を密に施すことにより帯状に曲線的文様が施されている。全周するのであろう。口縁部直下のものは口縁に沿って巡るようである。また、底部付近では間隔が密である。帯状の文様間の無文部に縄端による刺突列を配する部分、短縄文の上下に同様の刺突文を加えている部分がある。 I 群 b - 2 類、コッタロ式に相当するものである。

# WI 自然科学的手法による分析

## 1 放射性炭素年代測定

(株)地球科学研究所

## 報告内容の説明

14C age (yBP) : 14C 年代 "measured radiocarbon age"

試料の 14C/12C 比から、単純に現在(1950年AD)から何年前(BP)かを計算した年代。

半減期はリビーの5568年を用いた。

補正14Cage (yBP) : 補正 14C 年代 "conventional radiocarbon age"

試料の炭素安定同位体比(13C/12C)を測定して試料の炭素の同位体分別を知り

14C/12Cの測定値に補正値を加えた上で、算出した年代。

試料の 13 C値を-25(‰)に標準化することによって得られる年代値である。

暦年代を得る際にはこの年代値をもちいる。

**δ13C (permil)** : 試料の測定 14C

: 試料の測定 14C/12C 比を補正するための 13C/12C 比。

この安定同位体比は、下式のように標準物質(PDB)の同位体比からの千分偏差(‰)

で表現する。

δ 13C(‰) = ( 13C/ 12C)[試料] - ( 13C/ 12C)[標準] × 1000

(13C/12C)[標準]

ここで、13C/12C[標準] = 0.0112372である。

#### 曆年代

 過去の宇宙線強度の変動による大気中14C 濃度の変動に対する補正により、暦年代を 算出する。 具体的には年代既知の樹木年輪の 14C の測定、サンゴのU-Th年代と 14 C年代の比較により、補正曲線を作成し、暦年代を算出する。 最新のデータベース( "INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration" Stuiver et al, 1998, Radiocarbon 40(3)) により約19000yBPまでの換算が可能となった。\*

\*但し、10000yBP以前のデータはまだ不完全であり今後も改善される可能性が高いので、補正前のデータの保管を推奨します。

"The calendar calibrations were calculated using the newest calibration data as published in Radiocarbon, Vol. 40, No. 3, 1998 using the cubic spline fit mathematics as published by Talma and Vogel, Radiocarbon, Vol. 35, No. 2, pg 317–322, 1993: A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates. Results are reported both as cal BC and cal BP. Note that calibration for samples beyond about 10,000 years is still very subjective. The calibration data beyond about 13,000 years is a "best fit" compilation of modeled data and, although an improvement on the accuracy of the radiocarbon date, should be considered illustrative. It is very likely that calibration data beyond 10,000 years will change in the future. Because of this, it is very important to quote the original BP dates and these references in your publications so that future refinements can be applied to your results."

#### 測定方法などに関するデータ

測定方法 AMS : 加速器質量分析

Radiometric : 液体シンチレーションカウンタによるβ-線計数法

処理・調製・その他: 試料の前処理、調製などの情報

前処理 acid-alkali-acid: 酸-アルカリー酸洗浄

acid washes: 酸洗浄

acid etch: 酸によるエッチング

none:未処理

調製、その他

Bulk-Low Carbon Material : 低濃度有機物処理 Bone Collagen Extraction : 骨、歯などのコラーゲン抽出

Cellulose Extraction: 木材のセルローズ抽出

Extended Counting: Radiometric による測定の際、測定時間を延長する

分析機関 BETA ANALYTIC INC.

4985 SW 74 Court, Miami, FI, U.S.A 33155

試料データ	C14年代(y BP) (Measured C14 age)	δ 13C(permil)	補正 C14年代(y BP) (Conventional C14 age)
Beta- 174515	$3580 \pm 40$	-28.8	$3520 \pm 40$
<b>試料名</b> ( 21721) YONE	1		
7 h de la desta de la desta de la de	Standard red material	acid/alkali/acid	
政科性、削処理など Cnar	red material	acid/aikaii/acid	
	3680 ± 40	-26.4	3660 ± 40
			3660 ± 40

年代値はRCYBP(1950 A.D.を0年とする)で表記。モダン リファレンス スタンダードは国際的な慣例としてNBS Oxalic Acidの C14濃度の95%を使用し、半減期はリビーの5568年を使用した。エラーは1シグマ(68%確率)である。

表 1 鵡川町 米原 4 遺跡・宮戸 4 遺跡 放射性炭素年代測定分析試料一覧

試料番号	測定 方法	種類	重量 (g)	遺構名	発掘区	層位	試料採取日	備考
YONE 4	AMS	炭化材	0.10	F-15 <b>%</b>	H ⋅ I −45	V層下	2002. 6.12	フローテーション後に回収
MIYA4	AMS	炭化材	1.14	H-2*	B 0 ⋅ C 0 −38	覆土1層	2002. 6.4	土器囲い炉内からのハンドピック

※F-15は焼土跡、H-2は住居跡

## CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-28.8:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-174515

Conventional radiocarbon age: 3520±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 1940 to 1740 (Cal BP 3900 to 3690)

(95% probability)

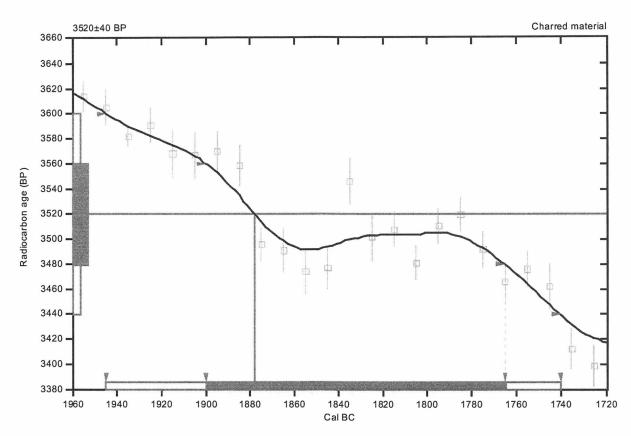
Intercept data

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve: Cal BC 1880 (Cal BP 3830)

1 Sigma calibrated result: Cal BC 1900 to 1760 (Cal BP 3850 to 3720)

(68% probability)



#### References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

# CALIBRATION OF RADIOCARBON AGE TO CALENDAR YEARS

(Variables: C13/C12=-26.4:lab. mult=1)

Laboratory number: Beta-174516

Conventional radiocarbon age: 3660±40 BP

2 Sigma calibrated result: Cal BC 2140 to 1920 (Cal BP 4090 to 3870)

(95% probability)

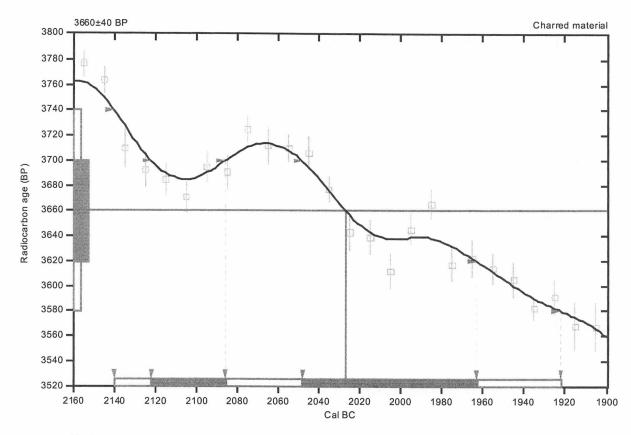
Intercept data

Intercept of radiocarbon age

with calibration curve: Cal BC 2030 (Cal BP 3980)

1 Sigma calibrated results: Cal BC 2120 to 2090 (Cal BP 4070 to 4040) and

(68% probability) Cal BC 2050 to 1960 (Cal BP 4000 to 3910)



## References:

Database used

Calibration Database

Editorial Comment

Stuiver, M., van der Plicht, H., 1998, Radiocarbon 40(3), pxii-xiii

INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration

Stuiver, M., et. al., 1998, Radiocarbon 40(3), p1041-1083

Mathematics

A Simplified Approach to Calibrating C14 Dates

Talma, A. S., Vogel, J. C., 1993, Radiocarbon 35(2), p317-322

## 2 宮戸4遺跡の古植生について

パリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

北海道勇払郡鵡川町宮戸4遺跡は、鵡川の支流イモッペ川左岸に分布する河岸段丘の、傾斜地から 氾濫原にかけて立地する。これまでの発掘調査により、主に縄文時代の遺構、遺物、河道跡が検出さ れている。このうち、Tピットは沢の斜面上に構築されている。

今回は、Tピット構築時の古植生に関する情報を得るために、花粉分析と植物珪酸体分析を行った。

#### 1. 試 料

調査区内の基本土層は、主に火山灰やそれを母材とする土壌により構成され、大きく I 層~ II 層 を 区分される。 Tピットは、縄文時代中期~後期にかけて堆積したとみられる V 層中~上位より掘り込まれている。そのため、対比試料として、C0-40調査区南壁の基本土層から土壌試料2点を採取した。一方、Tピットについては、構築から埋積開始までの情報が集積していると思われる底部の土壌を 調査対象とした。このうち、TP-19・TP-20・TP-21では埋積物の長軸方向の断面、TP-22は同じく短軸方向の断面より、それぞれ底部の土壌試料1点が採取された。また試料採取は、発掘担当者により現代の土壌などが混入しないように注意深く行われた。

分析試料は、基本土層 V 層試料および土坑底部試料の合計 6 点である (表 1)。

<u> </u>	刀们武作	t					
試料 番号	採取地点	層位	出土遺物から推定	備考	分析項目		
番号	JA 4X AB AN	/6 124	される時期	)HI 73	花粉	PO	
1	TP-19	覆土11層					
2	TP-20	覆土15層	縄文時代中期後半	Tピット			
3	TP-21	覆土18層	~後期初頭	底部			
4	TP-22	覆土9層					
5	C0-40	V層上部	縄文時代後期	対比		•	
6	南壁	V層中部	縄文時代中期	試料			

表 1 分析試料

PO:植物珪酸体分析

#### 2. 分析方法

## (1) 花粉分析

試料約10gについて、水酸化カリウムによる泥化、篩別、重液(臭化亜鉛:比重2.3)による有機物の分離、フッ化水素酸による鉱物質の除去、アセトリシス(無水酢酸9:濃硫酸1の混合液)処理による植物遺体中のセルロースの分解を行い、物理・化学的処理を施して花粉を濃集する。残渣をグリセリンで封入してプレパラートを作成し、光学顕微鏡下でプレパラート全面を走査し、出現する全ての種類について同定・計数する。

結果は同定・計数結果の一覧表、および主要花粉化石群集の層位分布図として表示する。図中の木本花粉は木本花粉総数を、草本花粉・シダ類胞子は総数から不明花粉を除いた数をそれぞれ基数として、百分率で出現率を算出し図示する。

## (2) 植物珪酸体分析

湿重5g前後の試料について過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W、250KHz、1分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステン酸ナトリウム、比重2.5)の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以

下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を、近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。

結果は、検出された種類とその個数の一覧表で示す。また、検出された植物珪酸体の出現傾向から 古植生について検討するために、植物珪酸体群集図を作成した。各種類の出現率は、短細胞珪酸体と 機動細胞珪酸体の珪酸体毎に、それぞれの総数を基数とする百分率で求めた。

#### 3. 結果

#### (1) 花粉分析

結果を表2、図1に示す。

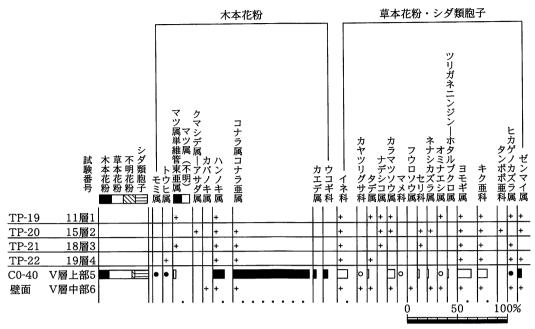
表 2 花粉分析結果

衣 4	化初分价档米						
		TP-19	TP-20	TP-21	TP-22	C0-4	0壁面
種	類	11層	15層	18層	9層	V層上	V層中
	試料番号	$\overline{1}$	2	3	4	5	6
木本	<b>花粉</b>						
モ	ミ属	_	_	_	_	1	_
ト	ウヒ属	_	_	_	1	1	_
マ	ツ属単維管束亜属	_	_	_	_	1	_
マ	ツ属(不明)	1		1	_	3	_
ク`	マシデ属-アサダ属	_	1	_	_	_	_
力	バノキ属	_	_	_	_	_	1
	ンノキ属	1	2	16	2	15	5
コ;	ナラ属コナラ亜属	_	1	2	2	100	11
	エデ属	_	_	_	_	4	_
ウ	コギ科	_	_	_		6	_
草本	<del>花粉</del>						
	ネ科	8	27	8	1	63	8
力	ヤツリグサ科	_	_	_	_	5	1
タ	デ属	1	_	_	1	9	1
ナ	デシコ科	1	1	1	_	-	_
力	ラマツソウ属	2	1	_	_	45	14
マ	メ科	_	_	_	_	3	_
	ウロソウ属	_	_	_	_	_	1
	り科	-	1	1	_	11	_
	ナシカズラ属	_	1	_	_	7	2
	ミナエシ属	1	_	_	_	1	1
	リガネニンジン属-ホタルブクロ属	_	_	_	_	7	_
	モギ属	5	3	1	3	82	23
	ク亜科	2	1	1	5	58	10
	ンポポ亜科		1				
	明花粉			4	4	36	8
	類胞子						
E:	カゲノカズラ属	3	_	2	4	3	1
	ンマイ属	5	1		5	24	5
	のシダ類胞子	41	12	29	52	148	52
	計 ·	_		, .	_		
	本花粉	2	4	19	5	131	17
	本花粉	20	36	12	10	291	61
	明花粉	0	0	4	4	36	8
	ダ類胞子	49	13	31	61	175	58
総	計(不明を除く)	71	53	62	76_	597	136

図表中で複数の種類をハイフォンで結んだものは、種類間の区別が困難なものを示す。なお、木本 花粉総数が100個体未満のものは、統計的に扱うと結果が歪曲する恐れがあるので、出現した種類を +で表示するにとどめておく。

試料番号5以外の5試料では、花粉化石の産出状況が悪い。木本花粉ではコナラ属コナラ亜属・ハンノキ属、草本花粉ではイネ科・ヨモギ属・キク亜科などがわずかに検出される。シダ類胞子ではヒカゲノカズラ属・ゼンマイ属などが認められる。

試料番号5では草本花粉の割合が高く、イネ科・カラマツソウ属・ヨモギ属・キク亜科が多く産出する。木本花粉ではコナラ亜属が最も多く産出し、ハンノキ属などを伴う。シダ類胞子ではゼンマイ属が多く認められる。



#### 図 1 花粉化石群集

出現率は、木本花粉は木本花粉化石総数、草本花粉・シダ類胞子は総数より不明花粉を除く数を基数として百分率で算出した。なお、●○は1%未満、+は木本花粉100個体未満の試料について検出した種類を示す。

#### (2) 植物珪酸体分析

結果を表3、図2に示す。各試料では植物珪酸体が検出されるものの、保存状態が悪く、表面に多数の小孔(溶食痕)が認められる。

基本土層 V 層の試料番号 5・6 では、いずれもクマザサ属を含む タケ亜科およびイチゴツナギ亜科 の産出が目立ち、ヨシ属、ススキ 属なども認められる。

一方、TP-20を除く土坑底部でも同様な産状が見られ、試料番号1・3・4でクマザサ属を含むタケ亜科およびイチゴツナギ亜科・

表 3 植物珪酸体分析結果

	12 10 2 200 10 10	10011					
		TP-19	TP-20	TP-21	TP-22	C0-4	0壁面
種	類	11層	15層	18層	9層	V層上	V層中
	試料番	号 1_	2	3	4	5	6
イネ	科葉部短細胞珪酸体						
タ	ケ亜科クマザサ属	25	8	4	17	15	10
タ	ケ亜科	103	21	94	101	168	158
3	シ属	46	2	16	7	11	29
ウ	シクサ族ススキ属	5	1	_	9	15	10
イ	チゴツナギ亜科	88	8	89	106	174	222
不	明キビ型	94	13	33	46	59	129
不	明ヒゲシバ型	6	1	4	5	3	14
不	明ダンチク型	13	3	3	7	2	17
イネ	科葉身機動細胞珪酸	体					
タ	ケ亜科クマザサ属	36	11	30	16	26	29
タ	ケ亜科	58	6	50	44	61	53
Ξ	シ属	3	1	6	14	2	3
ウ	シクサ族	3	1	_	3	_	_
	明	13	7	22	32	22	25
合	計						
イ	ネ科葉部短細胞珪酸体	380	57	243	298	447	589
1	ネ科葉身機動細胞珪酸の	体 113	26	108	109	111	110
総	計	493	83	351	407	558	699
					•		

の産出が目立ち、ヨシ属、ススキ属なども認められる。TP-20の試料番号2も検出個数が少ないものの、検出された種類の中ではタケ亜科およびイチゴツナギ亜科の検出個数が多い。

#### 4. 考 察

C0-40調査区でみられた基本土層 V 層のうち、中部では花粉化石の検出は少ないものの、上部からは多くの花粉化石が検出された。 V 層上部の花粉群集は草本類の占める割合が高く、イネ科・カラマツソウ属・ヨモギ属・キク亜科が多産する。また、植物珪酸体の産状からは、クマザサ属を含むタケ亜科およびイチゴツナギ亜科をはじめとしたイネ科植物の生育がうかがえる。これらは開けた明る

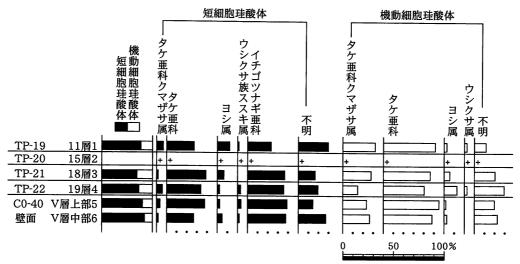


図2 植物珪酸体群集

出現率は、イネ科葉部短細胞珪酸体、イネ科葉身機動体の総数を基数として百分率で算出した。 なお、+は100個体未満の試料で検出された種類を示す。

い場所を好む種が多いことから、V層上部が堆積した縄文時代中期~後期の本遺跡周辺は、これらの草本類が多く生育する開けた環境であったと推測される。また、木本花粉の中で出現率が高かったハンノキ属やコナラ亜属は、河畔林や湿地林を形成する種を含む種群である。湿潤な場所に生育する種類であるヨシ属の珪酸体も認められることを考慮すれば、周辺の河畔や低湿地にヨシ属などの下草を伴った河畔林や湿地林が存在したと推測される。

一方、斜面上に分布する土坑の底部では、花粉化石がほとんど検出されなかった。一般的に、花粉・シダ類胞子の堆積した場所が常に酸化状態にあるような場合、花粉は酸化や土壌微生物によって分解・消失するとされている(中村、1967;徳永・山内、1971)。また、同一試料からは、酸化状態で分解されにくいとされる植物珪酸体が豊富に検出されている。したがって、花粉化石が検出されなかった要因としては、堆積時に取り込まれた花粉・シダ類胞子が、酸化状態の中での経年変化により分解・消失したためと考えられる。植物珪酸体の産状はV層と同様であり、土坑周辺の斜面上にも同様なイネ科植物が生育したと思われる。花粉化石の産状も考慮すれば、斜面上は酸化状態にある乾いた場所であったと思われる。ただし、斜面下方に構築されている TP-19や TP-22では、湿潤な場所に生育するヨシ属の産出が上位のTピットより目立った。これは、斜面下方にヨシ属が生育するような湿潤な場所が存在したことを示唆する。

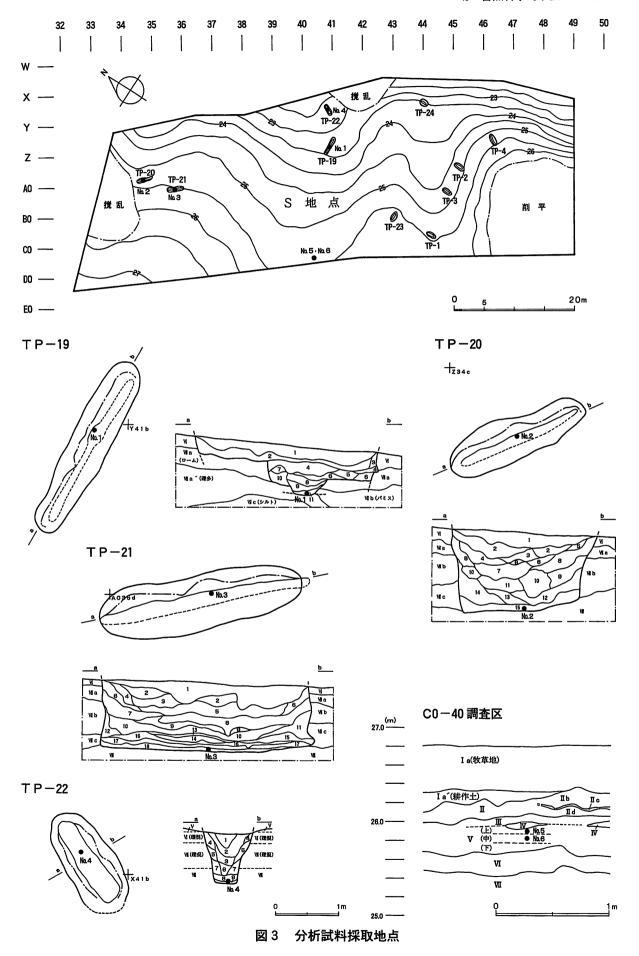
ところで、静岡県三島市の下原遺跡や加茂ノ洞B遺跡では、旧石器時代の陥穴状土坑がススキ属などの草本類が地面を覆う、土坑の存在の判りにくい場所に構築された可能性が指摘された(植木ほか、1996)。本遺跡で産出の目立ったイチゴツナギ亜科などのイネ科は、他の種類の草本類とともに群落を作って生育し、地表面を覆う。そのため、上記の調査例と同様に、本遺跡のTピットも草本類が地面を覆う、土坑の存在がわかりにくい場所を選んで構築された可能性がある。

#### 【引用文献】

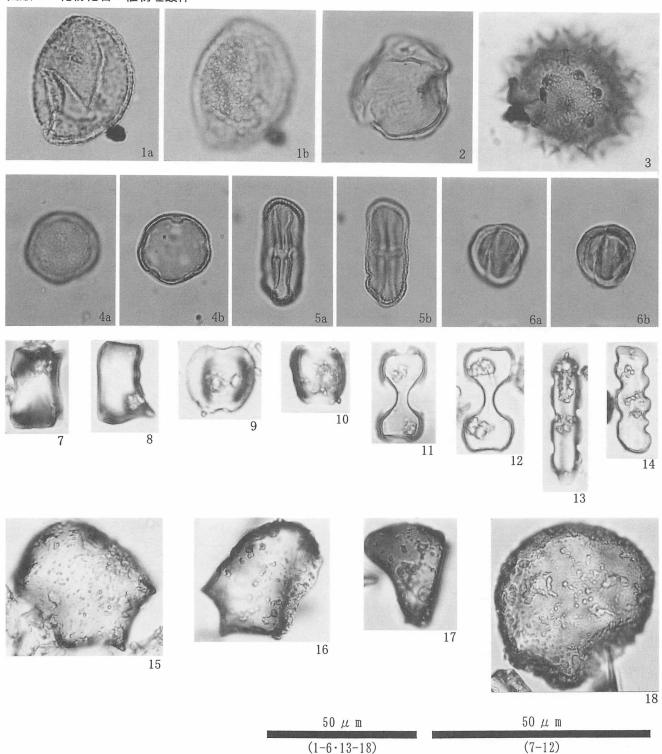
近藤錬三・佐瀬 隆 (1986) 植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25, p. 31-64. 中村 純 (1967) 花粉分析. 232p., 古今書院.

徳永重元・山内輝子 (1971) 花粉・胞子. 「化石の研究法」, p. 50-73, 共立出版株式会社.

植木真吾・馬場健司・中根秀二(1996)陥穴状土坑をとりまいた古環境. 静岡県埋蔵文化財調査研究 所調査報告第72集「下原遺跡 II」, p. 62-86, 静岡県埋蔵文化財調査研究所.



図版 1 花粉化石・植物珪酸体



- 1. コナラ属コナラ亜属(5; CO-40壁面 V 層上部)
- 3. キク亜科(5;C0-40壁面V層上部)
- 5. セリ科(5;C0-40壁面V層上部)
- 7. クマザサ属短細胞珪酸体(4;TP-22覆土9層)
- 9. ヨシ属短細胞珪酸体(1;TP-19覆土11層)
- 11.ススキ属短細胞珪酸体(4;TP-22覆土9層)
- 13. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(1;TP-19覆土11層)
- 15. クマザサ属機動細胞珪酸体(1;TP-19覆土11層)
- 17. ウシクサ族機動細胞珪酸体(4;TP-22覆土9層)

- 2. イネ科(5;C0-40壁面V層上部)
- 4. カラマツソウ属(5;C0-40壁面V層上部)
- 6. ヨモギ属(5;C0-40壁面V層上部)
- 8. クマザサ属短細胞珪酸体(6;C0-40壁面 V層中部)
- 10. ヨシ属短細胞珪酸体(6;C0-40壁面V層中部)
- 12. ススキ属短細胞珪酸体(6; C0-40壁面 V層中部)
- 14. イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(5;C0-40壁面V層上部)
- 16. クマザサ属機動細胞珪酸体(5;C0-40壁面V層上部)
- 18. ヨシ属機動細胞珪酸体(4;TP-22覆土9層)

## 3 宮戸4・米原4遺跡出土の黒曜石製石器の原材産地分析

藁科 哲男 (京都大学原子炉実験所)

#### はじめに

石器石材の産地を自然科学的な手法を用いて、客観的に、かつ定量的に推定し、古代の交流、交易および文化圏、交易圏を探るという目的で、蛍光X線分析法によりサヌカイトおよび黒曜石遺物の石材産地推定を行なっている<sup>1,2,3)</sup>。

石材移動を証明するには必要条件と十分条件を満たす必要がある。地質時代に自然の力で移動した 岩石の出発露頭を元素分析で求めるとき、移動原石と露頭原石の組成が一致すれば必要条件を満たす。 また、その露頭からの流れたルートを地形学などで証明できれば、他の露頭から原石が流れて来ない ことが証明されて、十分条件を満たす。よって、ただ1か所の一致する露頭産地の調査のみで移動原 石の産地が特定できる。遺物の産地分析では『遺物とある産地の原石組成が一致する必要はあるが、 他の産地の原石にも一致する可能性が残っているから、そこの産地のものと言い切れない。従って、 他の産地に一致しない証明も同時に必要である。一致しなかった産地との交流がなかったと証明され、 考古学資料として非常に有用と思われる』。

考古学では、人工品の様式が一致するという結果が非常に重要な意味をもち、見える様式としての 形態や文様、見えない様式として土器、青銅器、ガラスなどの人手が加わった調合素材がある。これ らが一致するということは古代人が意識して一致させた可能性があり、すなわち、古代人の思考が一 致すると考えてもよく、相互関係を調査する上で重要な意味をもつ結果である。石器の様式による分 類ではなく、自然の法則で決定した石材の元素組成を指標にした分類では、例えば石材産地が遺跡か ら近い、移動キャンプ地のルート上に位置する、産地地方との交流を示す土器が出土しているなどを 十分条件の代用にすると産地分析は中途半端な結果となり、遠距離伝播した石材を近くの産地と誤判 定する可能性がある。

人が移動させた石器の元素組成とA産地原石の組成が一致し、必要条件を満足しても、原材産地と出土遺跡の間に地質的関連性がないため、十分条件の移動ルートを自然の法則に従って地形学で証明できず、その石器原材がA産地の原石と決定することができない。従って、石器原材と産地原石が一致したことが、直ちに考古学の資料とならない、確かにA産地との交流で伝播した可能性は否定できなくなったが、B、C、Dの産地でないとの証拠がないために、A産地だと言い切れない。B産地と一致しなかった場合、結果は考古学の資料として非常に有用である。それは石器に関してはB産地と交流がなかったと言い切れる。ここで、十分条件として、可能なかぎり地球上の全ての原産地(A、B、C、D…)の原石群と比較して、A産地以外の産地とは一致しないことを十分条件として証明すれば、石器がA産地の原石と決定することができる。この十分条件を肉眼観察で求めることは分類基準が混乱し不可能であると思われる。また、自然科学的分析を用いても、全ての産地が区別できるかは、それぞれが使用している産地分析法によって、それぞれ異なり実際に行ってみなければ分からない。産地分析の結果の信頼性は何か所の原材産地の原石と客観的に比較して得られたかにより、比較した産地が少なければ、信頼性の低い結果と言える。

黒曜石、安山岩などの主成分組成は、原産地ごとに大きな差はみられないが、不純物として含有される微量成分組成には異同があると考えられる。このため、微量成分を中心に元素分析を行い、これを産地特定の指標とした。分類の指標とする元素組成を遺物について求め、あらかじめ、原産地ごとに数十個の原石を分析して求めておいた各原石群の元素組成の平均値、分散などと遺物のそれを対比

して、各平均値からの離れ具合(マハラノビスの距離)を求める。次に、古代人が採取した原石産出地点と現代人が分析のために採取した原石産出地と異なる地点の可能性は十分に考えられる。従って、分析した有限個の原石から産地全体の無限の個数の平均値と分散を推測して判定を行うホテリングのT2乗検定を行う。この検定を全ての産地について行い、ある原石遺物原材と同じ成分組成の原石はA産地では1個中に1個みられ、B産地では1万個中に1個、C産地では100万個中に1個、D産地では…1個と各産地毎に結果を得る。このような客観的な検定結果からA産地の原石を使用した可能性が高いと同定する。即ち多変量解析の手法を用いて、各産地に帰属される確率を求めて産地を同定する。今回分析した遺物は、北海道勇払郡鵡川町に位置する宮戸4遺跡出土の黒曜石製石鏃49個、米原4遺跡出土黒曜石製スクレイパー1個の合計50個である。これらの産地分析の結果が得られたので報告する。

## 黒曜石原石の分析

黒曜石原石の自然面を打ち欠き、新鮮面を出し、塊状の試料を作り、エネルギー分散型蛍光 X 分析 装置によって元素分析を行なう。Al、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素 をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、産 地を特定する指標とした。黒曜石は、Ca/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrの比量を産地を区別する指標としてそれぞれ用いる。

黒曜石の原産地は北海道、東北、北陸、東関東、中信高原、伊豆箱根、伊豆七島の神津島、山陰、 九州の各地に分布する。調査を終えた原産地を図1に示す。黒曜石原産地のほとんどすべてがつくさ れている。元素組成によってこれら原石を分類し、表1に示す。この原石群に原石産地は不明の遺物 で作った遺物群を加えると225個の原石群になる。以下、北海道地域および一部の東北地域の産地に ついて記述する。

白滝地域の原産地は、北海道紋別郡白滝村に位置し、鹿砦北方2kmの採石場の赤石山の露頭、鹿砦東方約2kmの幌加沢地点、また白土沢、八号沢などより転礫として黒曜石が採取できる。赤石山の大産地の黒曜石は色に関係無く赤石山群(旧白滝第一群)にまとまる。また、あじさいの滝の露頭からは赤石山と肉眼観察では区別できない原石が採取でき、あじさい群を作った(旧白滝第二群)。また、八号沢の黒曜石原石と白土沢の転礫は梨肌の黒曜石で、組成はあじさい滝群に似るが石肌で区別できる。幌加沢よりの転礫の中で70%は幌加沢群になりあじさい滝群と元素組成から両群を区別できず、残りの30%は赤石山群に一致する。

置戸地域産原石は、常呂郡置戸町の清水の沢林道より採取され、元素組成は置戸・所山群にまとまる。また、同町の秋田林道で採取される原石は置戸山群にまとまる。

留辺蘂町のケショマップ川一帯で採取される原石は、ケショマップ第一および第二群に分類される。また、白滝地域、ケショマップ、置戸地域産原石は、湧別川および常呂川に通じる流域にあり、両河川の流域で黒曜石の円礫が採取される。湧別川下流域から採取した黒曜石円礫247個の組成分類結果を表2に示した。中ノ島、北見大橋間の常呂川から採取した37個の円礫の中には、独特の組成の原石も見られ、新しい原石群を追加し分類結果を表3に示した。

十勝三股産原石は、河東郡上士幌町の十勝三股の十三ノ沢の谷筋および沢の中より採取される。この原石の元素組成は十勝三股群にまとまる。この十勝三股産原石は十三の沢から音更川さらに十勝川に流れた可能性があり、十勝川から採取される黒曜石円礫の組成は、十勝三股産の原石の組成と相互に近似している。また、上士幌町のサンケオルベ川より採取される黒曜石円礫の組成も十勝三股産原

石の組成と相互に近似している。これら組成の近似した原石の原産地は区別できず、遺物石材の産地分析で、この遺物の原石産地が十勝三股群に同定されたとしても、これら十勝三股、音更川、十勝川、サンケオルベ川の複数の地点を考えなければならない。しかし、この複数の産地をまとめて、十勝地域としても、古代の地域間の交流を考察する場合、問題はないと考えられる。

清水町、新得町、鹿追町にかけて広がる美蔓台地より産出する黒曜石から2つの美蔓原石群が作られた。この原石は産地近傍の遺跡で使用されている。

名寄市の智南地域、智恵文川および忠烈布貯水池から上名寄にかけて黒曜石の円礫が採集される。 これらを組成で分類すると88%は名寄第一群に、また12%は名寄第二群にそれぞれなる。

旭川市の近文台、台場、嵐山遺跡付近および雨文台北部などから採集される黒曜石の円礫は、20%が近文台第一群、69%が近文台第二群、11%が近文台第三群それぞれ分類された。台場の砂礫採取場からは近文台諸群に一致するもの以外に、黒、灰色系円礫も見られ、台場第一、二群を作った。また、滝川市江別乙で採集される親指大の黒曜石の礫は、組成で分類すると約79%が滝川群にまとまり、21%が近文台第二、三群に組成が一致する。滝川群に一致する組成の原石は、北竜町恵袋別川培本社からも採取される。秩父別町の雨竜川に開析された平野を見下す丘陵中腹の緩斜面から小円礫の黒曜石原石が採取される。産出状況や礫状は滝川産黒曜石と同じで、秩父別第一群は滝川第一群に組成が一致し、第二群も滝川第二群に一致しさらに近文台第二群にも一致する。

赤井川産原石は、余市郡赤井川村の土木沢上流域およびこの付近の山腹より採取できる。少球果の 列が何層にも重なり石器の原材として良質とはいえない原石で赤井川第一群を、また、球果の非常に 少ない握り拳半分大の良質な原石などで赤井川第二群を作った。これら第一、二群の元素組成は非常 に似ていて、遺物を分析したときしばしば、赤井川両群に同定される。

豊泉産原石は豊浦町から産出し、組成によって豊泉第一、二群に区別され、豊泉第二群の原石は斑晶が少なく良質である。豊泉産原石の使用圏は道南地方に広がり、一部は青森県に伝播している。

青森県教育庁の斉藤岳氏より提供された奥尻島幌内川産黒曜石により、原石群が確立されている。

出来島群は青森県西津軽郡木造町七里長浜の海岸部より採取された円礫の原石で作られた。この出来島群と相互に似た組成の原石は、岩木山の西側を流れ鯵ケ沢地区に流入する中村川の上流で1点採取され、また、青森市の鶴ケ坂および西津軽郡森田村鶴ばみ地区より採取されている。

青森県西津軽郡深浦町の海岸や同町の六角沢およびこの沢筋に位置する露頭より採取された原石で 六角沢群をまた、八森山産出の原石で八森山群をそれぞれ作った。深浦の両群と相互に似た群は青森 市戸門地区より産出する黒曜石で作られた戸門第二群である。戸門第一群、成田群、浪岡町県民の森 地区より産出の大釈迦群(旧浪岡群)は赤井川産原石の第一、二群と弁別は可能であるが、原石の組 成は比較的似ている。戸門、大釈迦産黒曜石の産出量は非常に少なく、希に石鏃が作れる大きさがみ られる程度である。

鷹森群は鷹森山麓の成田地区産出の黒曜石で、中には5cm大のものもみられる。また、考古学者の話題になる下湯川産黒曜石についても原石群を作った。

産地分析は、日本、近隣国を含めた産地の合計225個の原石群と比較し、必要条件と十分条件を求めて遺物の原石産地を同定する。

## 結果と考察

遺跡から出土した黒曜石製石器、石片は風化に対して安定で、表面に薄い水和層が形成されているにすぎないため、表面の泥を水洗するだけで完全な非破壊分析が可能であると考えられる。黒曜石製

石器で、水和層の影響を考慮するとすれば、軽い元素の分析ほど表面分析になるため、影響を受けやすいと考えられる。Ca/K、Ti/Kの両軽元素比量を除いて産地分析を行なった場合、また除かずに産地分析を行った場合、いずれの場合にも同定される産地は同じである。他の元素比量についても風化の影響を完全に否定することができないので、得られた確率の数値にはやや不確実さを伴うが、遺物の石材産地の判定を誤るようなことはない。また、安山岩製の遺物は、白っぽく表面が風化しているために、アルミナ粉末を風化面に吹き付け、新鮮面を出して分析している。

宮戸4・米原4遺跡より出土した黒曜石製遺物の分析結果を表4-1・2に示した。石器の分析結果から石材産地を同定するためには、数理統計の手法を用いて原石群との比較をする。説明を簡単にするため Rb/Zr の一変量だけを考える。

宮戸4遺跡より出土した、表4の試料番号88154番の遺物では Rb/Zr の値は1.015で、赤井川第一 群の[平均値] ± [標準偏差値] は、0.969±0.060である。遺物と原石群の差を標準偏差値(σ)を基 準にして考えると、遺物は原石群から0.8σ離れている。ところで、赤井川第一群原産地から100個の 原石を採ってきて分析すると、平均値から $\pm 0.8\sigma$ のずれより大きいものが42個ある。すなわち、こ の遺物が、赤井川第一群の原石から作られていたと仮定しても、0.8σ以上離れる確率は42%である と言える。だから、赤井川第一群の平均値から0.8σしか離れていないときには、この遺物が赤井川 第一群の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところが、この遺物を赤石山に比較 すると、赤石山の平均値からの隔たりは、約 $5\sigma$ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山の 原石を採ってきて分析したとき、平均値から5σ以上離れている確率は、10万分の1であると言える。 このように、10万個に1個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えら れないから、赤石山の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて 言うと、「この遺物は赤井川第一群に42%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることか ら赤井川第一群産原石が使用されていると同定され、さらに赤石山に0.001%の低い確率で帰属され、 信頼限界の0.1%に満たないことから赤石山の原石でないと同定される」。遺物が1か所の産地(赤井 川第一群産地)と一致したからと言って、例え赤井川第一群と赤石山の原石は成分が異なっていても、 分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であるこ とから、他の産地に一致しないとは言えない。同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致 する可能性は推測される。即ちある産地(赤井川第一群産地)に一致し必要条件を満足したと言って も、一致した産地の原石とは限らない。このため、帰属確率による判断を表1の225個すべての原石 群について行なって十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消 していくことにより、はじめて赤井川第一群産地の石材のみが使用されていると判定される。

米原4遺跡より出土した、表4の試料番号88203番の遺物では Rb/Zr の値は1.086で、十勝三股の [平均値] ± [標準偏差値] は、1.097±0.055である。遺物と原石群の差を標準偏差値( $\sigma$ )を基準に して考えると遺物は原石群から0.2 $\sigma$ 離れている。ところで十勝三股原産地から100個の原石を採って きて分析すると、平均値から±0.2 $\sigma$ のずれより大きいものが84個ある。すなわち、この遺物が、十勝三股の原石から作られていたと仮定しても、0.2 $\sigma$ 以上離れる確率は84%であると言える。だから、十勝三股の平均値から0.2 $\sigma$ しか離れていないときには、この遺物が十勝三股の原石から作られたものでないとは、到底言い切れない。ところがこの遺物を赤石山に比較すると、赤石山の平均値からの隔たりは、約4.31 $\sigma$ である。これを確率の言葉で表現すると、赤石山の原石を採ってきて分析したとき、平均値から4.31 $\sigma$ 以上離れている確率は、5万分の1であると言える。このように、5万個に1個しかないような原石をたまたま採取して、この遺物が作られたとは考えられないから、この遺物は、

赤石山の原石から作られたものではないと断定できる。これらのことを簡単にまとめて言うと、「この遺物は十勝三股に84%の確率で帰属され、信頼限界の0.1%を満たしていることから十勝三股産原石が使用されていると同定され、さらに赤石山に0.002%の低い確率で帰属され、信頼限界の0.1%に満たないことから赤石山の原石でないと同定される」。遺物が1か所の産地(十勝三股産地)と一致したからと言って、例え十勝三股と赤石山の原石は成分が異なっていても、分析している試料は原石でなく遺物で、さらに分析誤差が大きくなる不定形(非破壊分析)であることから、他の産地に一致しないとは言えない。同種岩石の中での分類である以上、他の産地にも一致する可能性は推測される。即ちある産地(十勝三股産地)に一致し必要条件を満足したと言っても、一致した産地の原石とは限らない。このため、帰属確率による判断を表1の225個すべての原石群について行なって十分条件を求め、低い確率で帰属された原石群の原石は使用していないとして消していくことにより、はじめて十勝三股産地の石材のみが使用されていると判定される。

実際は Rb/Zr といった唯1つの変量だけでなく、前述した8つの変量で取り扱うので変量間の相関を考慮しなければならない。例えば、A原産地のA群で Ca元素と Rb元素との間に相関があり、Caの量を計れば Rbの量は分析しなくても分かるようなときは、A群の石材で作られた遺物であれば、A群と比較したとき、Ca量が一致すれば当然 Rb量も一致するはずである。したがって、もしRb量だけが少しずれている場合には、この試料はA群に属していないと言わなければならない。

このことを数量的に導き出せるようにしたのが相関を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビ スの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定である。これによって、それぞれの群に帰属する確 率を求めて産地を同定する4.5)。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では225個の推定 確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属され た原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略しているが、本研究ではこれら産地の可能性が非常に 低いことを確認したという非常に重要な意味を含んでいる。すなわち赤井川第1群産原石と判定され た遺物に対して、カムチャッカ産原石とかロシア、北朝鮮の遺跡で使用されている原石および信州和 田峠産の原石の可能性を考える必要がないという結果で、ここでは高い確率で同定された産地のみの 結果を表5-1・2に記入した。原石群を作った原石試料は直径3cm以上であるが、多数の試料を処 理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり、短時間で測定を打ち 切る。このため、得られた遺物の測定値には、大きな誤差範囲が含まれ、ときには原石群の元素組成 のバラツキの範囲を越えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行なったときに、判定 の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が比較的多くみられる。この場合には、原石 産地(確率)の欄の確率値に替えて、マハラノビスの距離D2乗の値を記した。記入されたD2乗の 値が原石群の中で最も小さく、この値が小さい程、遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると 言えるため、推定確率は低いが、そこの原石産地と考えてほぼ間違いないと判断されたものである。

白滝地域産黒曜石の中で、赤石山産原石の割れ面はガラス光沢を持っている。元素組成が相互に似た、あじさい滝、八号沢、白土沢、幌加沢などの群の原石は、あじさい滝、幌加沢産はガラス光沢を示し、八号沢、白土沢産は梨肌を示すため、原石産地の判定に梨肌か、ガラス光沢かを指標に加えた。また、赤井川および十勝産原石を使用した遺物の判定は複雑である。これは青森市戸門、鷹森山地区、浪岡町大釈迦より産出する黒曜石で作られた戸門第一、鷹森山、大釈迦の各群の組成が赤井川第一、二群、十勝三股群に比較的似ているために、遺物の産地を同定したときに、戸門原産地と赤井川または十勝産地、またこれら3か所の原産地に同時に同定される場合がしばしば見られる。戸門産地の原石が使用されたか否かは、1遺跡で多数の遺物を分析し戸門第一群と第二群に同定される頻度を求め、

これを戸門産地における第一群(50%)と第二群(50%)の産出頻度と比較し、戸門産地の原石である可能性を推定する。今回分析した遺物のなかに全く戸門第二群に帰属される遺物が見られないことから、戸門産地からの原石は使用されなかったと推測できる。また浪岡町大釈迦産原石は非常に小さく、多く使用された可能性は低いと思われる。また、赤井川第一または二群に高確率で同定され、大釈迦、戸門と十勝産地に同定された確率は、赤井川に比べて10分の1~100分の1がほとんどで、宮戸4・米原4遺跡では赤井川、十勝産原石が使用されていたと判定した。

今回分析した宮戸 4 遺跡出土の黒曜石製石鏃49個の中で、信頼限界の0.1%に達した遺物は48個で、分析番号88181番は表1の225個の何処群にも同定されなかった。産地が特定できなかった理由は、(1) 遺物が異常に風化し元素組成の変化が非常に激しい場合、(2)遺物の厚さが非常に薄いとき、特に遺物の平均厚さが1.5mm以下の薄い試料では、Mn/Zr、Fe/Zr の比値が大きく分析され、1 mm厚で Fe/Zr 比は約15%程度大きく分析される。しかし、1 mm厚あれば Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr については分析誤差範囲で産地分析結果への影響は小さく、Mn/Zr、Fe/Zr の影響で推定確率は低くなるが原産地の同定は可能と思われる。(3)未発見の原石を使用している場合、などが考えられる。88181番の石鏃は1 mm以上の厚さがあり、厚さの影響はないと言える。この産地が同定出来なかった石鏃は、産地が同定された遺物より風化層が厚く、表4を見ると、88181番はK元素を分母にした元素比の値が、産地が同定された遺物より風化層が厚く、表4を見ると、88181番はK元素を分母にした元素比の値が、産地が同定された他の元素比とより小さくなっていて、風化の影響を強く受けていると推測される。これは推測であるが、風化層内のK元素が黒曜石表面に移動して濃縮し、マトリクス効果の自己吸収によるK元素蛍光X線の減衰が減少するために、K元素のピークが大きく観測される。従ってK元素が分母の Ca/K、Ti/Kの比値が小さくなる。将来的には風化層の厚さから補正が可能の様に思える。

現時点では軽元素比を抜いてマハラノビスの距離を求めて行なうホテリングのT2乗検定を表1の225群の全ての原石、遺物群について行った結果を推定確率の欄に【 】内に区別して記した。また、赤石山、八号沢群に一致する組成の原石は、白滝地域の赤石山、八号沢地区以外に湧別川下流域でも原石が採取される。宮戸4遺跡に、白滝地域産か、湧別川下流域産の何れかの産地から伝播したかを推測するには、多数の遺物を分析して、各産地群に同定される頻度を求め、湧別川採取黒曜石原石の頻度分布と比較して決定される。今回分析した石鏃の中に白滝地域産が少なく、推測の正確さに問題が残る。赤石山産が9個出現しているにもかかわらず、八号沢・白土沢産に同定された遺物が見られないことから、湧別川の表2では逆になっていることを考慮すると、湧別川の原石が使用された可能性は低いと推測される。よって、宮戸4遺跡には白滝地域の赤石山、あじさい滝から黒曜石が伝播したと判定した。また、所山産黒曜石は常呂川流域からも採取される。宮戸4遺跡の所山と常呂川第4群に同定された石鏃の数が少なく、統計的に推測できず、所山産地の角礫原石か、北見の常呂川流域産地で採取され円礫原石が伝播したか特定できない。

今回分析した宮戸4・米原4遺跡出土の黒曜石製遺物50個について各原産地別原石使用頻度を求めると、最も多く使用された原石は、赤井川産で40% (20個)、次いで十勝産で、28% (14個)で、赤石山産は20% (10個)、あじさい滝産が8% (4個)、また所山産と常呂川産がそれぞれ2% (1個)ずつである。遺跡で使用頻度高い原石産地と交流・交易がより活発であったと推測すると、今回の分析で、赤井川産地との交流が活発で、次いで十勝地域、白滝地域、また置戸・北見地域との交流も少ないが確認されたと推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

### 【参考文献】

- 1) 藁科哲男・東村武信 1975 「蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (Ⅱ)」 『考古学と自然科学』8:61-69 日本文化財化学会 同朋舎出版
- 2) 藁科哲男・東村武信・鎌木義昌 1977,1978 「蛍光X線分析法によるサヌカイト石器の原産地推定 (Ⅲ)」「同 (Ⅳ)」『考古学と自然科学』10:53-81,11:33-47
- 3) 藁科哲男・東村武信 1983 「石器原材の産地分析」『考古学と自然科学』16:59-89
- 4) 東村武信 1976 「産地推定における統計的手法」『考古学と自然科学』9:77-90
- 5) 東村武信 1980 『考古学と物理化学』 学生社

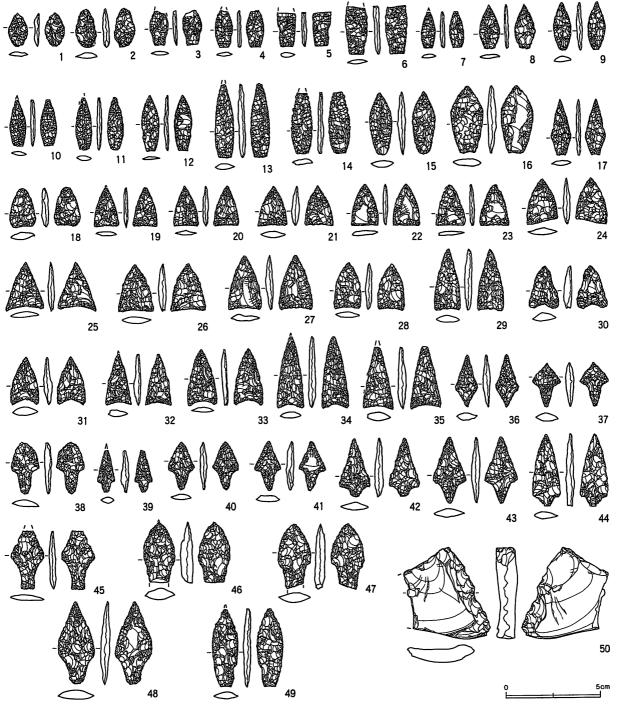


図 1 原材産地分析試料

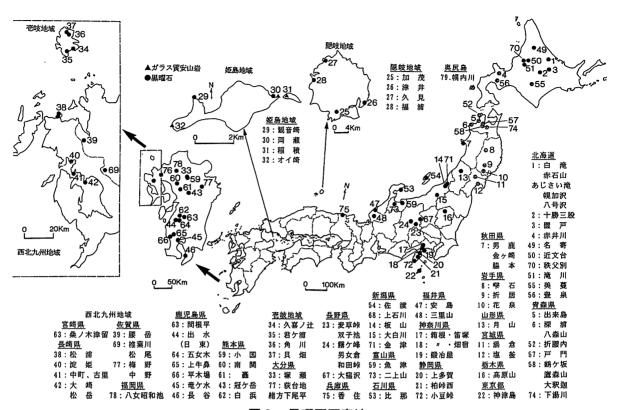


図 2 黒曜石原産地

原産地原石群名 白滝地区 北海道 2.631±0.126 0.606±0.030 脊森市 青森県 秋田県 山形県

各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(1) 表 1 - 1

		分析					元聚	ž.				
Į B	<b>聚產地原石群名</b>	個数	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr_	Nb/Zr	AI/K	SI/K
cm140173	冶品	21	2.174±0.068	0.349±0.017	0.057±0.005	2.544±0.149	0.116±0.009	0.658±0.024	0.138±0.015	0.020±0.013	0.073±0.003	0.956±0.040
宮城県	<u>場倉</u> 塩釜	37	4.828±0.395	1.630±0.104	0.178±0.017	11.362±1.150	0.168±0.018	1.298±0.063	0.155±0.016	0.037±0.018	0.077±0.002	0.720±0.032
栃木県	高原山	40	0.738±0.067	0.200±0.010	0.044±0.007	2.016±0.110	0.381±0.025	0.502±0.028	0.190±0.017	0.023±0.014	0.036±0.002	0.516±0.012
	神津島第一群	56	0.381±0.014	0.136±0.005	0.102±0.011	1.729±0.079	0.471±0.027	0.689±0.037	0.247±0.021	0.090±0.026	0.036±0.003	0.504±0.012
東京都	神津島第二群	23	0.317±0.016	0.120±0.008	0.114±0.014	1.833±0.069	0.615±0.039	0.656±0.050	0.303±0.034	0.107±0.026	0.033±0.002	0.471±0.009
	<b>具根</b>	40	0.318±0.020	0.120±0.005	0.118±0.014	1.805±0.096	0.614±0.036	0.664±0.045	0.291±0.029	0.093±0.039	0.034±0.006	0.476±0.012 1.528±0.046
	箱根·笛塚	30	6.765±0.254	2.219±0.057	0.228±0.019	9.282±0.622	0.048±0.017	1.757±0.061	0.252±0.017	0.025±0.019	0.140±0.008 0.080±0.005	1.126±0.031
神奈川県	箱根・畑宿	41	2.056±0.064	0.669±0.019	0.076±0.007	2.912±0.104	0.062±0.007	0.680±0.029	0.202±0.011	0.011±0.010 0.011±0.009	0.080±0.005	0.904±0.020
14-351113K	機治風	31	1.663±0.071	0.381±0.019	0.056±0.007	2.139±0.097	0.073±0.008	0.629±0.025	0.154±0.009 0.135±0.013	0.007±0.009	0.087±0.005	0.880±0.033
	熟海峠	52	2.225±0.149	0.506±0.015	0.042±0.009	2,228±0.164	0.085±0.008	0.737±0.039		0.007±0.007	0.059±0.004	0.856±0.018
	上多質	31	1.329±0.078	0.294±0.018	0.041±0.006	1.697±0.068	0.087±0.009	0.551±0.023	0.138±0.011	0.009±0.009	0.047±0.004	0.663±0.020
静岡県	柏蚌西	35	1.213±0.164	0.314±0.028	0.031±0.004	1,699±0,167	0.113±0,007	0.391±0.022	0.143±0.007	0.009±0.009 0.087±0.057	0.025±0.014	0.429±0.016
	小豆幹	40	0.110±0.008	0.052±0.004	0.297±0.038	3.211±0.319	0.829±0.089	0.154±0.030 0.599±0.039	0.547±0.054 0.190±0.029	0.077±0.037	0.025±0.014	0.353±0.012
	魚津	42	0.278±0.012	0.065±0.003	0.064±0.013	2.013±0.119	0.878±0.052		0.121±0.026	0.047±0.033	0.031±0.004 0.015±0.014	0.392±0.018
富山県	高 二上山第一群	36	0.319±0.017	0.113±0.006	0.040±0.008	1.720±0.080	0.740±0.052	0.665±0.029 0.840±0.050	0.121±0.026 0.118±0.025	0.047±0.031 0.051±0.031	0.015±0.014 0.020±0.020	0.599±0.024
- A	岡 二上山第二群	40	0.710±0.017	0.202±0.008	0.054±0.011	1.994±0.152	0.413±0.028	1.222±0.088	0.118±0.025 0.127±0.041	0.051±0.051	0.020±0.020 0.015±0.014	0.412±0.025
	市二上山第三群	45	0.441±0.052	0.108±0.014	0.079±0.021	2.251±0.138	0.794±0.155		0.127±0.041 0.275±0.039	0.090±0.035	0.029±0.003	0.346±0.011
	35万峰	168	0.156±0.010	0.068±0.003	0.101±0.018	1.331±0.070 1.324±0.084	1.052±0.051 1.055±0.057	0.360±0.030 0.368±0.033	0.275±0.039 0.279±0.032	0.086±0.033	0.030±0.003	0.345±0.010
	観音沢	72	0.159±0.010	0.069±0.002	0.100±0.019	1.324±0.084	1.853±0.057	0.368±0.033 0.112±0.056	0.409±0.032	0.139±0.026	0.035±0.003	0.355±0.016
ì	和田幹第一群	143	0.167±0.028	0.049±0.008	0.117±0.011			0.036±0.012	0.517±0.044	0.186±0.025	0.027±0.002	0.368±0.007
i .	和田幹第二群	17	0.146±0.003	0.032±0.003	0.151±0.010	1.461±0.039	2.449±0.135 1.673±0.140	0.036±0.012 0.274±0.104	0.374±0.048	0.122±0.024	0.025±0.003	0.348±0.017
1	和田岭第三群	62	0.248±0.048	0.064±0.012	0.114±0.011	1.520±0.182 1.373±0.085	1.311±0.037	0.274±0.104 0.206±0.030	0.263±0.038	0.090±0.022	0.023±0.003	0.331±0.019
1	和田砕第四群	37	0.144±0.017	0.063±0.004	0.094±0.009	1.282±0.086	1,053±0,196	0.275±0.058	0.184±0.042	0.066±0.023	0.021±0.002	0.306±0.013
1	和田岭第五群	47	0.176±0.019	0.075±0.010	0.073±0.011	1,333±0.064	1,523±0.093	0.134±0.031	0.279±0.039	0.010±0.017	0.021±0.002	0.313±0.012
	和田岭第六群	53	0.156±0.011	0.055±0.005	0.095±0.012 0.123±0.010	1.259±0.041	1.978±0.067	0.045±0.010	0.442±0.039	0.142±0.022	0.026±0.002	0.360±0.010
長野県	腐山・和田	53	0.138±0.004 0.223±0.026	0.042±0.002 0.102±0.010	0.123±0.010 0.059±0.008	1,169±0.081	0.701±0.109	0.409±0.052	0.128±0.024	0.053±0.017	0.026±0.002	0.354±0.008
l	男女倉	119 81	0.223±0.026 0.222±0.014	0.099±0.006	0.058±0.008	1.189±0.060	0.748±0.075	0.392±0.031	0.140±0.024	0.046±0.021	0.025±0.005	0.340±0.009
i	うつき沢			0.068±0.003	0.102±0.018	1.320±0.077	1.033±0.063	0.362±0.030	0.285±0.035	0.104±0.040	0.030±0.003	0.356±0.011
1	立科	49 97	0.155±0.007 0.274±0.017	0.136±0.010	0.051±0.012	1.397±0.099	0.542±0.058	0.736±0.044	0.110±0.024	0.043±0.017	0.031±0.003	0.383±0.013
i	麦草 <u>碎</u> 双子池	83	0.252±0.027	0.129±0.007	0.059±0.010	1,630±0.179	0.669±0.052	0.802±0.058	0.111±0.024	0.037±0.032	0.027±0.007	0.401±0.011
	<del>及丁</del> 孤	87	0.267±0.021	0.134±0.006	0.048±0.013	1.382±0.066	0.546±0.034	0.727±0.036	0.109±0.031	0.045±0.022	0.031±0.004	0.381±0.011
l	<del>父</del> 被浪	42	1.481±0.117	0.466±0.021	0.042±0.006	2,005±0.135	0.182±0.011	0.841±0.044	0.105±0.010	0.009±0.008	0.033±0.005	0.459±0.012
1	機川	41	3.047±0.066	1.071±0.026	0.115±0.015	7.380±0.366	0.158±0.016	0.833±0.040	0.186±0.015	0.023±0.012	0.045±0.005	0.513±0.021
	17.70 to 19.	34	0.228±0.013	0.078±0.006	0.020±0.005	1,492±0.079	0.821±0.047	0.288±0.018	0.142±0.018	0.049±0.017	0.024±0.004	0.338±0.013
1	佐波第一群 佐波第二群	12	0.263±0.032	0.097±0.018	0.020±0.006	1.501±0.053	0.717±0.106	0.326±0.029	0.091±0.022	0.046±0.015	0.026±0.002	0.338±0.009
1	15年 11	45	0.321±0.007	0.070±0.003	0.069±0.011	2.051±0.070	0.981±0.042	0.773±0.034	0.182±0.023	0.038±0.027	0.026±0.007	0.359±0.009
新潟県	上名川 板山	44	0.232±0.011	0.068±0.003	0.169±0.017	2.178±0.110	1.772±0.098	0.772±0.046	0.374±0.047	0.154±0.034	0.027±0.002	0.359±0.009
At the sale	<del>漢智加</del>	22	0.569±0.012	0.142±0.007	0.033±0.005	1.608±0.049	0.261±0.012	0.332±0.011	0.150±0.015	0.033±0.011	0.036±0.003	0.491±0.014
1	金津	46	0.331±0.011	0.097±0.037	0.030±0.007	1.711±0.066	0.618±0.027	0.283±0.012	0.181±0.016	0.035±0.018	0.027±0.009	0.402±0.012
1	<b>莉馥川</b>	55	0.163±0.019	0.053±0.005	0.099±0.011	1,354±0.058	1.615±0.063	0.084±0.012	0.309±0.036	0.100±0.028	0.023±0.007	0.340±0.030
石川県	比那	1 17	0.370±0.014	0.087±0.004	0.060±0.009	2,699±0.167	0.639±0.028	0.534±0.023	0.172±0.028	0.052±0.018	0.032±0.002	0.396±0.017
	安島	21	0.407±0.007	0.123±0.005	0.038±0.006	1.628±0.051	0.643±0.041	0.675±0.030	0.113±0.020	0.061±0.016	0.032±0.002	0.450±0.010
福井県	全里山	1 21	0.350±0.018	0.123±0.008	0.036±0.006	1.561±0.081	0.608±0.031	0.798±0.039	0.069±0.020	0.062±0.013	0.028±0.002	0.381±0.008
<b>—</b>	養住第一群	30	0.216±0.005	0.052±0.002	0.045±0.007	1.828±0.056	0.883±0.034	0.265±0.012	0.097±0.021	0.139±0.018	0.024±0.007	0.365±0.008
兵庫県	<b>基在第二群</b>	40	0.278±0.012	0.100±0.004	0.048±0.009	1.764±0.066	0.813±0.045	0.397±0.020	0.112±0.026	0.138±0.024	0.026±0.012	0.446±0.012
1	市流(微粒集)	48	0.123±0.004	0.056±0.002	0.083±0.012	1.967±0.061	1.171±0.040	0.157±0.013	0.183±0.044	0.221±0.021	0.026±0.025	0.316±0.006
<del></del>	加茂	20	0.166±0.006	0.093±0.008	0.014±0.003	0.899±0.031	0.278±0.017	0.009±0.003	0.061±0.015	0.154±0.018	0.020±0.001	0.249±0.016
島根県	<b>134</b>	30	0.161±0.008	0.132±0.182	0.015±0.003	0.940±0.041	0.301±0.014	0.015:±0.005	0.060±0.013	0.144±0.008	0.020±0.002	0.244±0.008
	海井 久見	31	0.145±0.006	0.061±0.003	0.021±0.004	0.980±0.023	0.386±0.011	0.007±0.003	0.109±0.013	0.238±0.011	0.023±0.002	0.315±0.006
岡山県	<u> </u>	48	0.268±0.009	0.078±0.003	0.077±0.018	1.927±0.150	1.721±0.113	0.808±0.060	0.244±0.051	0.083±0.036	0.031±0.004	0.367±0.009
Ind het six	.,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	+01	411.40.114.003									

表 1 - 2 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

表 1-3 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(3)

	原産地原石群名	分析					元粜					
		個数	Ca/K	TI/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	AI/K_	Sı/K
	<b>奥池第一群</b>	51	1.202±0.077	0.141±0.010	0.032±0.008	3.126±0.170	0.686±0.065	1.350±0.082	0.026±0.026	0.065±0.019	0.041±0.004	0.507±0.0
	奥池第二群	50	1.585±0.126	0.194±0.018	0.035±0.007	2.860±0.160	0.423±0.058	1.044±0.077	0.024±0.019	0.042±0.013	0.045±0.004	0.507±0.0
川県	雄山	50	1.224±0.081	0.144±0.011	0.035±0.012	3.138±0.163	0.669±0.078	1.335±0.091	0.023±0.027	0.061±0.020	0.041±0.003	0.500±0.0
ALL SAS	神谷・南山	51	1.186±0.057	0.143±0.008	0.038±0.012	3.202±0.163	0.707±0.061	1.386±0.088	0.029±0.025	0.073±0.021	0.041±0.005	0.500±0.0
	大麻山南第一群	39	1.467±0.120	0.203±0.023	0.042±0.009	3.125±0.179	0.494±0.080	1.010±0.073	0.038±0.023	0.047±0.013	0.041±0.003	0.487±0.0
	天麻山南第二群	34	1.018±0.043	0.116±0.012	0.043±0.014	3.305±0.199	0.895±0.048	1.256±0.050	0.029:1:0.030	0.072±0.018	0.038±0.004	0.476±0.0
岡県	八女昭和溜池	68	0.261±0.010	0.211±0.007	0.033±0.003	0.798±0.027	0.326±0.013	0.283±0.015	0.071±0.009	0.034±0.008	0.024±0.006	0.279±0.0
	中野第一群	39	0.267±0.007	0.087±0.003	0.027±0.005	1.619±0.083	0.628±0.028	0.348±0.015	0.103±0.018	0.075±0.018	0.023±0.007	0.321±0.0
	中野第二群	40	0.345±0.007	0.104±0.003	0.027±0.005	1.535±0.039	0.455±0.017	0.397±0.014	0.069±0.016	0.059±0.014	0.026±0.008	0.328±0.0
	梅野	39	0.657±0.014	0.202±0.006	0.071±0.013	4.239±0.205	1.046±0.065	1.269±0.058	0.104±0.032	0.380±0.047	0.028±0.005	0.345±0.0
賀県	展告	44	0.211±0.009	0.031±0.005	0.075±0.019	2.572±0.212	1.600±0.086	0.414±0.042	0.311±0.046	0.256±0.043	0.025±0.002	0.335±0.0
~~	推業川	59	0.414±0.009	0.071±0.003	0.101±0.017	2.947±0.142	1.253±0.081	2.015±0.099	0.147±0.035	0.255±0.040	0.030±0.007	0.388±0.0
	松尾第一群	40	0.600±0.067	0.153±0.029	0.125±0.018	4.692±0.369	1.170±0.114	2.023±0.122	0.171±0.032	0.255±0.037	0.032±0.003	0.376±0.0
	松尾第二群	40	0.953±0.027	0.307±0.010	0.126±0.013	6.666±0.342	0.856±0.070	1.907±0.119	0.147±0.029	0.194±0.028	0.033±0.008	0.383±0.0
	1 観音網	42	0.223±0.010	0.046±0.005	0.409±0.086	6.691±0.878	1.805±0.257	1.562±0.231	0.344±0.087	0.579±0.126	0.039±0.003	0.400±0.
	姫 西瀬第一群	51	0.226±0.011	0.045±0.003	0.411±0.066	6.743±0.900	1.845±0.286	1.553±0.230	0.318±0.087	0.560±0.144	0.038±0.004	0.401±0.
	島 * 南瀬第二群	50	0.649±0.044	0.141±0.010	0.186±0.046	4.355±0.683	0.610±0.095	3.017±0.459	0.142±0.050	0.188±0.056	0.041±0.004	0.427±0.
				0.141±0.010 0.211±0.024	0.110±0.027	3.367±0.617	0.311±0.058	3.756±0.668	0.142±0.030	0.094±0.037	0.041±0.004	0.442±0
	地 * 西瀬第三群	46	1.038±0.131		0.110±0.027 0.120±0.043	3.598±1.035	0.335±0.106	4.000±1.162	0.105±0.030 0.118±0.048	0.092±0.036	0.042±0.007	0.442±0
分梁	域 * 才イ崎	50	1.059±0.143	0.214±0.030								
	* 稲積	45	0.680±0.061	0.145±0.013	0.168±0.037	4.397±0.776	0.612±0.095	3.080±0.476	0.147±0.046	0.194±0.060	0.041±0.005	0.431±0
	塚瀬	30	0.313±0.023	0.127±0.009	0.065±0.010	1.489±0.124	0.600±0.051	0.686±0.082	0.175±0.018	0.102:1:0.020	0.028±0.002	0.371±0
	获台地	50	1.615±0.042	0.670±0.013	0.096±0.008	5.509±0.269	0.284±0.031	1.526±0.053	0.097±0.016	0.032±0.018	0.032±0.005	0.310±0
	緒方下尾平	64	0.482±0.036	0.286±0.015	0.051±0.008	1.361±0.095	0.303±0.019	0.712±0.043	0.089±0.018	0.055±0.021	0.012±0.010	0.288±0
	を 久喜/辻 敬 選ケ浦 角川	37	0.172±0.009	0.066±0.002	0.030±0.005	1.176±0.043	0.385±0.012	0.011:±0.004	0.135±0.018	0.354±0.014	0.023±0.002	0.276±0
	最慢が消	28	0.174±0.007	0.065±0.002	0.033±0.006	1.174±0.035	0.389±0.012	0.013±0.005	0.129±0.014	0.356±0.012	0.023±0.003	0.275±0
电转扇	6.角川	28	0.146±0.009	0.038±0.002	0.059±0.009	1.691±0.100	1.726±0.085	0.035±0.008	0.344±0.040	0.717±0.047	0.023±0.002	0.338±0
		49	0.135±0.010	0.037±0.002	0.056±0.009	1.746±0.073	1.834±0.064	0.022±0.013	0.334±0.046	0.714±0.040	0.021±0.009	0.339土0
	松浦第一群	23	0.215±0.018	0.032±0.008	0.072±0.016	2.554±0.181	1.538±0.176	0.429±0.026	0.271±0.064	0.254±0.046	0.025±0.002	0.340±0
	松浦第二群	17	0.183±0.011	0.031土0.005	0.071±0.024	2.288±0.319	1.523±0.193	0.309±0.083	0.244±0.074	0.204±0.049	0.024±0.002	0.337±0
	松浦第三群	16	0.249±0.023	0.062±0.006	0.051±0.016	1.936±0.231	0.856±0.112	0.405±0.093	0.148±0.052	0.139±0.031	0.025±0.002	0.333±0
奇県	松浦第四群	22	0.284±0.022	0.066±0.008	0.045±0.012	1.890±0.157	0.774±0.179	0.454±0.036	0.120±0.044	0.132±0.036	0.026±0.002	0.343±0
M MC	淀姫	44	0.334±0.014	0.080±0.004	0.044±0.009	1.744±0.069	0.533±0.030	0.485±0.039	0.094±0.022	0.119±0.017	0.027±0.002	0.353±0
	中町第一群	25	0.243±0.019	0.059±0.007	0.057±0.015	1.849±0.104	0.811±0.089	0.398±0.028	0.135±0.035	0.147±0.023	0.026±0.002	0.345±0
	中町第二群	17	0.322±0.034	0.081±0.015	0.045±0.011	1.788±0.108	0.654±0.085	0,485±0.042	0.118±0.025	0.099±0.016	0.026±0.002	0.338±0
	古里第一群	50	0.202±0.012	0.029±0.004	0.076±0.018	2.628±0.214	1.695±0.146	0.403±0.060	0.319±0.073	0.233±0.074	0.030±0.003	0.342±0
	古黒第二群	40	0.423±0.016	0.075±0,007	0.089±0.017	2.797±0.274	1.148±0.133	1.814±0.192	0.103±0.060	0.208±0.053	0.034±0.003	0.367±0
	古里第二群 古里第三群	41	0.265±0.032	0.064±0.009	0.046±0.010	1.931±0.143	0.799±0.110	0.433±0.049	0.122±0.041	0.119±0.044	0.031±0.003	0.347±0
	松岳	43	0.194±0.009	0.054±0.005	0.040±0.008	1.686±0.114	0.833±0.058	0.251±0.025	0.192±0.032	0.124±0.039	0.018±0.011	0.331±0
	大崎	74	0.176±0.012	0.053±0.002	0.041±0.012	1.710±0.081	0.912±0.036	0.181±0.022	0.202±0.029	0.133±0.024	0.023±0.002	0.319±0
	小国	30	0.317±0.023	0.127±0.005	0.063±0.007	1.441±0.070	0.611±0.032	0.703±0.044	0.175±0.233	0.097±0.017	0.023±0.002	0.320±0
	南與	30	0.261±0.016	0.214±0.007	0.034±0.003	0.788±0.033	0.326±0.012	0.278±0.015	0.069±0.012	0.031±0.009	0.021±0.002	0.243±0
	A	44	0.258±0.009	0.214±0.006	0.033±0.005	0.794±0.078	0.329±0.017	0.275±0.010	0.066±0.011	0.033±0.009	0.020±0.003	0.243±0
	天枯	53	1.534±0.139	0.665±0.035	0.075±0.008	4.494±0.460	0.247±0.014	1.236±0.092	0.090±0.018	0.041±0.012	0.030±0.003	0.292±0
	大柿 冠ケ岳	21	0.261±0.012	0.211±0.008	0.032±0.003	0.780±0.038	0.324±0.011	0.279±0.017	0.064±0.011	0.037±0.006	0.025±0.002	0.277±0
<b>大</b> 癌	海室坂	57	1.599±0.107	0.722±0.046	0.085±0.011	6,205±0,305	0.256±0.018	1.154±0.055	0.103±0.014	0.047±0.013	0.027±0.004	0.247±0
. ~~	報告辞	84	0.791±0.082	0.279±0.009	0.045±0.005	1.208±0.023	0.279±0.018	0.811±0.046	0.046±0.012	0.029±0.014	0.031±0.009	0.366±0
本県	長谷峰	53	1,668±0,165	0.694±0.036	0.080±0.010	4.977±0.587	0.253±0.015	1.335±0.104	0.098±0.016	0.040±0.008	0.031±0.003	0.295±0
	五ヶ瀬川	48	1.471±0.136	0.602±0.041	0.078±0.011	4.838±0.634	0.252±0.016	1.288±0.124	0.101±0.014	0.043±0.013	0.027±0.003	0.265±0
	御船	49	1.558±0.146	0.651±0.030	0.075±0.011	4.571±0.572	0.257±0.016	1.252±0.112	0.091±0.016	0.040±0.009	0.030±0.004	0.291±0
	百浜	78	0.208±0.021	0.101±0.009	0.024±0.006	1.382±0.086	1.021±0.099	0.351±0.037	0.162±0.027	0.027±0.022	0.022±0.007	0.317±0
	桑力木津留第一郡		0.207±0.015	0.094±0.006	0.070±0.009	1.521±0.075	1.080±0.048	0.418±0.020	0.266±0.034	0.063±0.024	0.020±0.003	0.314±0

表 1 - 4 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値(4)

គ្នា	産地原石群名	分析					元素	<u> </u>				
		個数	Ca/K	TI/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr		17.7			
3 時果	桑/木津留第二群	33	0.261±0.015	0.094±0.006	0.066±0.010	1.743±0.095			Y/Zr	Nb/Zr	AI/K	SI/K
	精島	36	35.158±1.118	5.001±0.175	0.041±0.002	0.038±0.002	1.242±0.060	0.753±0.039	0.205±0.029	0.047±0.036	0.022±0.002	0.323±0.0
	間根ケ平第一群	45	0.186±0.010	0.083±0.005	0.047±0.002		0.009±0.004	0.155±0.005	0.035±0.019	0.000±0.000	0.035±0.019	0.446±0.0
	間根ケ平第二群	45	0.247±0.018	0.106±0.006	0.047±0.008	1.611±0.079	0.948±0.055	0.340±0.032	$0.281 \pm 0.031$	0.041±0.032	0.022±0.008	0.358±0.0
	間根ケ平第三群	42	0.584±0.012	0.176±0.005		1.488±0.074	0.768±0.034	0.428±0.049	0.235±0.020	0.039±0.027	0.024±0.008	0.378±0.0
	日東	42	0.262±0.018		0.037±0.007	1.484±0.097	0.449±0.031	0.675±0.049	0.143±0.023	0.036±0.022	0.023±0.014	0.390±0.0
児島県	宝安木	37		0.143±0.006	0.022±0.004	1.178±0.040	0.712±0.028	0.408±0.025	0.100±0.018	0.029±0.013	0.019±0.001	0.275±0.0
2) CARINE	正年基		0.266±0.021	0.140±0.006	0.019±0.003	1.170±0.064	0.705±0.027	0.405±0.021	0.108±0.015	0.028±0.013	0.019±0.001	0.275±0.00
	<del>                                      </del>	41	1.629±0.098	0.804±0.037	0.053±0.006	3.342±0.215	0.188±0.013	1.105±0.056	0.087±0.009	0.022±0.009	0.036±0.002	0.391±0.0
		34	1.944士0.054	0.912±0.028	0.062±0.005	3.975±0.182	0.184±0.011	1.266±0.049	0.093±0.010	0.021±0.010	0.038±0.002	0.408±0.01
	電ケ水	48	0.533±0.029	0.167±0.006	0.061±0.013	1.494±0.093	0.611±0.039	0.688±0.052	0.127±0.023	0.069±0.022	0.033±0.003	0.494±0.01
-	長谷	30	0.553±0.032	0.137±0.006	0.065±0.010	1.815±0.062	0.644±0.028	0.553±0.029	0.146±0.021	0.066±0.020	0.037±0.003	0.524±0.01
<u> </u>	台東山脈	37	$0.510\pm0.010$	0.198±0.007	0.038±0.007	1.862±0.079	0.353±0.019	0.519±0.017	0.123±0.012	0.024±0.017	0.037±0.003	
シア	カムチャッカ	72	0.473±0.012	0.166±0.007	0.046±0.007	1.572±0.059	0.199±0.011	0.497±0.016	0.126±0.012			0.407±0.01
朝鮮	白頭山灰皿	50	0.154±0.009	0.067±0.003	0.018±0.005	1.081±0.028	0.530±0.013	0.081±0.008	0.151±0.015	0.009±0.014 0.338±0.012	0.039±0.010 0.027±0.003	0.460±0.03 0.306±0.00

表 1-5 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(1)

	原産地原石群名	分析					元紫	H				
			Ca/K	TI/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	AI/K	SI/K
	HS1遺物群	67	0.241±0.021	0.107±0.005	0.018±0.006	1.296±0.077	0.430±0.016	0.153±0.009	0.140±0.015	0.008±0.013	0.018±0.012	0.325±0.042
	HS2遺物群	60	0.453±0.011	0.135±0.008	0.041±0.008	1.765±0.075	0.448±0.021	0.419±0.019	0.130±0.015	0.015±0.019	0.034±0.010	0.500±0.015
	FR1遺物群	51	0.643±0.012	0.124±0.008	0.052±0.007	2.547±0.143	0.530±0.032	0.689±0.032	0.156±0.015	0.004±0.008	0.029±0.011	0.407±0.015
	FR2遺物群	59	0.535±0.061	0.106±0.012	0.053±0.009	2.545±0.138	0.557±0.051	0.685±0.029	0.165±0.021	0.016±0.022	0.025±0.011	
	FR3遺物群	37	$0.380\pm0.037$	0.084±0.007	0.052±0.009	2.548±0.145	0.586±0.056	0.681±0.033	0.164±0.021	0.017±0.023	0.027±0.009	0.373±0.043
	FR4遺物群	44	0.261±0.043	0.074±0.010	0.051±0.008	2.500±0.117	0.639±0.057	0.679±0.032	0.155±0.021	0.009±0.017	0.018±0.008	0.292±0.037
比海道	FH1遺物群	32	0.898±0.032	0.221±0.007	0.054±0.008	2.540±0.101	0.426±0.018	0.802±0.023	0.109±0.013	0.003±0.017 0.017±0.021	0.037±0.003	0.258±0.036
- MA	KTI 遺物群	56	1.103±0.050	0.146±0.007	0.081±0.008	2.942±0.133	0.314±0.053	0.775±0.082	0.103±0.015			0.447±0.011
	KT2遺物群	38	0.959±0.027	0.154±0.005	0.085±0.010	2.882±0.092	0.542±0.028	1.111±0.040	0.107±0.015	0.019±0.021 0.012±0.016	0.043±0.007	0.516±0.015
	KS1遺物群	32	0.275±0.007	0.107±0.005	0.047±0.010	1.751±0.051	0.836±0.038	0.468±0.021	0.180±0.019		0.042±0.008	0.519±0.010
	KS2遺物群	62	0.244±0.011	0.070±0.004	0.056±0.013	1.749±0.168	1.080±0.108	0.424±0.036	0.327±0.042	0.023±0.028	0.025±0.007	0.345±0.010
	KS3遺物群	48	0.164±0.008	0.041±0.002	0.080±0.013	2.565±0.126	1.460±0.057	0.162±0.019		0.037±0.031	0.023±0.011	0.379±0.011
	K19遺物群	48	0.185±0.007	0.049±0.003	0.081±0.013	2.162±0.122	1.031±0.041		0.389±0.042	0.069±0.028	0.024±0.002	0.337±0.015
	NI29遺物群	51	5.445±0.122	2.301±0.074	0.207±0.024	13.422±1.113		0.435±0.025	0.263±0.028	0.050±0.019	0.023±0.002	0.260±0.009
	HY遺物群	31	0.238±0.011	0.131±0.006	0.048±0.008	1.636±0.066	0.151±0.018	1.839±0.134	0.207±0.022	0.007±0.011	0.069±0.006	0.622±0.021
泉森伊	SN1遺物群	33	0.287±0.006	0.087±0.004	0.033±0.005		0.418±0.028	1.441±0.015	0.482±0.024	0.029±0.028	0.020±0.015	0.481±0.068
14000	SN2遺物群	29	0.209±0.006	0.116±0.006	0.033±0.005	1.597±0.037	0.244±0.011	0.258±0.011	0.281±0.012	0.009±0.012	0.021±0.006	0.329±0.006
	KN遺物群	107	0.351±0.011	0.121±0.006		1.571±0.082	0.716±0.035	0.292±0.017	0.264±0.029	0.028±0.030	0.023±0.009	0.383±0.015
火田県	TB遺物群	60	0.252±0.014	0.121±0.005 0.113±0.007	0.053±0.007	1.581±0.071	0.347±0.020	0.219±0.014	0.216±0.015	0.054±0.017	0.029±0.011	0.475±0.040
, m, ,,,	HR遺物群	48	0.259±0.008	0.093±0.007	0.124±0.015	1.805±0.088	0.875±0.056	0.663±0.038	0.272±0.029	0.083±0.037	0.026±0.008	0.378±0.021
	AII 遺物群	41	1.519±0.026		0.067±0.011	2.055±0.067	0.741±0.028	0.293±0.016	0.331±0.021	0.064±0.019	0.036±0.003	0.444±0.010
	AI2遺物群	61	3.141±0.074	0.277±0.010	0.078±0.006	2.849±0.073	0.167±0.010	0.526±0.017	0.251±0.013	0.009±0.012	0.058±0.017	0.929±0.024
	AI3選物群	61		0.552±0.021	0.080±0.008	2.752±0.062	0.094±0.009	0.716±0.019	0.242±0.011	0.008±0.014	0.083±0.029	1.353±0.049
手県	AI4週物群	122	0.950±0.013	0.215±0.004	0.117±0.009	4.306±0.100	0.114±0.008	0.909±0.028	0.248±0.012	0.014±0.016	0.028±0.006	0.360±0.009
37-26	A14 基物群		1.850±0.059	0.474±0.025	0.067±0.007	2.055±0.077	0.083±0.006	0.531±0.030	0.177±0.010	0.011±0.013	0.064±0.025	1.061±0.105
	AI5選物群	122	3.167±0.092	0.696±0.027	0.101±0.009	3.787±0.108	0.114±0.010	0.892±0.026	0.241±0.012	0.006±0.012	0.091±0.020	1.234±0.052
	FS遺物群	45	0.272±0.090	0.097±0.029	0.053±0.007	1.791±0.083	0.327±0.019	0.453±0.024	0.207±0.018	0.029±0.027	0.017±0.011	0.339±0.011
	SD遺物群	48	2.900±0.050	0.741±0.016	0.118±0.010	3.922±0.077	0.117±0.012	0.905±0.026	0.246±0.013	0.008±0.017	0.083±0.013	1.195±0.029
	AC1 遺物群	63	0.479±0.014	0.192±0.006	0.054±0.008	1.561±0.075	0.400±0.017	0.440±0.019	0.169±0.019	0.061±0.015	0.033±0.005	0.427±0.016
	AC2遺物群	48	0.251±0.007	0.081±0.003	0.112±0.013	2.081±0.076	0.904±0.035	0.406±0.020	0.409±0.024	0.108±0.023	0.036±0.003	0.419±0.007
听冯県	AC3選物群	36	0.657±0.016	0.144±0.005	0.083±0.010	1.891±0.051	0.202±0.010	0.381±0.017	0.286±0.018	0.041±0.012	0.049±0.005	0.616±0.013
	IN1遺物群	48	0.326±0.012	0.078±0.004	0.066±0.010	2.056±0.177	0.901±0.048	0.751±0.045	0.172±0.030	0.068±0.016	0.028±0.030	0.338±0.007
	IN2遺物群	48	0.745±0.013	0.110±0.004	0.140±0.015	3.176±0.212	0.728±0.039	1.582±0.080	0.104±0.030	0.038±0.013	0.036±0.003	0.396±0.010
臭型。	NK遺物群	57	0.566±0.019	0.163±0.007	0.086±0.011	1.822±0.084	0.467±0.031	1.691±0.064	0.102±0.021	0.041±0.028	0.038±0.003	0.500±0.014
	YM遺物群	56	0.381±0.016	0.138±0.005	0.038±0.012	1.611±0.102	0.721±0.039	0.497±0.026	0.128±0.022	0.047±0.016	0.023±0.003	0.331±0.013
山口県	NM遺物群	40	0.330±0.010	0.103±0.003	0.042±0.012	1.751±0.083	1.048±0.057	0.518±0.034 ·	0.196±0.037	0.058±0.018	0.022±0.003	0.326±0.011
шыж	MK-1遺物群	48	0.087±0.008	0.059±0.002	0.010±0.003	0.677±0.023	0.370±0.097	0.006±0.002	0.125±0.012	0.292±0.010	0.022±0.003	0.337±0.010
	MK-2遺物群	48	0.258±0.010	0.026±0.002	0.055±0.013	1.745±0.121	1.149±0.092	0.297±0.029	0.202±0.037	0.177±0.022	0.021±0.002	0.268±0.007
大分県	1遺物群	54	0.794±0.070	0.202±0.009	0.061±0.013	1.774±0.132	0.380±0.030	1.350±0.096	0.076±0.032	0.079±0.022	0.040±0.004	
	HB1遺物群	48	0.197±0.035	0.754±0.055	0.098±0.042	7.099±0.844	0.434±0.062	0.975±0.130	0.368±0.079	0.126±0.079	0.093±0.022	0.434±0.015
m Art of	HB2遺物群	48	0.414±0.100	1.557±0.674	0.110±0.044	9.900±1.595	0.176±0.088	1.209±0.459	0.327±0.052	0.178±0.069	0.178±0.044	6.312±0.525
3 崎県	UTI 遺物群	46	0.297±0.013	0.107±0.005	0.053±0.010	1.638±0.104	1.012±0.056	0.736±0.039	0.168±0.027			9.938±1.532
	KU4遺物群	48	1.871±0.365	1.018±0.094	3.790±0.705	14.990±4.008	0.673±0.081	2.043±0.233		0.034±0.028	0.024±0.011	0.390±0.014
	KII遺物群	45	0.383±0.012	0.101±0.005	0.061±0.024	1.913±0.158	0.985±0.057		0.752±0.079	0.056±0.045	0.090±0.017	4.302±0.246
	KI2遺物群	46	0.402±0.015	0.146±0.008	0.060±0.017			0.527±0.038	0.197±0.030	0.079±0.028	0.028±0.002	0.409±0.009
	SG遺物群	48	1.668±0.034	0.778±0.038	0.082±0.017	1,529±0,148 4,106±0,222	0.729±0.052	0.565±0.038	0.137±0.024	0.083±0.026	0.029±0.003	0.443±0.022
	OK遺物群	32	1.371±0.074	0.687±0.035	0.082±0.010 0.061±0.008		0.202±0.014	0.699±0.025	0.133±0.013	0.015±0.019	0.027±0.021	0.553±0.033
	KK1遺物群	48	0.347±0.010	0.080±0.003		3.109±0.161	0.202±0.012	0.579±0.027	0.122±0.014	0.009±0.014	0.027±0.018	0.518±0.021
E児島県	KK2遺物群	46			0.081±0.012	3.085±0.155	0.887±0.036	1.487±0.065	0.119±0.036	0.184±0.023	0.027±0.002	0.265±0.009
			0.521±0.012	0.122±0.004	0.076±0.013	3,125±0.222	0.877±0.048	1.500±0.074	0.109±0.034	0.187±0.023	0.035±0.004	0.359±0.010
	HMI遺物群	44	0.683±0.024	0.861±0.021	0.063±0.013	8.678±0.663	0.642±0.039	0.739±0.054	0.127±0.034	0.065±0.018	0.037±0.005	0.282±0.008
	HM2道物群	50	0.483±0.022	0.121±0.006	0.054±0.014	1.975±0.122	0.695±0.040	0.454±0.034	0.191±0.028	0.058±0.028	0.034±0.006	0.474±0.016
	ON1遺物群	54	0.303±0.012	0.167±0.006	0.038±0.007	1.157±0.044	0.447±0.020	0.435±0.016	0.126±0.025	0.039±0.016	0.032±0.004	0.376±0.012
	ON2遺物群	56	0.276±0.019	0.053±0.004	0.084±0.017	2.491±0.128	1,492±0,088	0.667±0.046	0.211±0.032	0.108±0.028	0.030±0.004	0.345±0.011

表 1 - 6 黒曜石製遺物群の元素比の平均値と標準偏差値(2)

	原産地原石群名	分析					元案	Ł				
		個数	Ca/K	∏/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	AI/K	SI/K
北朝鮮	会享城外遺跡遺物群	70	0.135±0.012	0.062±0.006	0.017±0.003	1.118±0.051	0.585±0.036	0.068±0.019	0.150±0.022	0.372±0.035	0.025±0.004	0.319±0.012
	イリスタヤ	26	18.888±2.100	6.088±0.868	0.293±0.032	27.963±2.608	0.055±0.017	2.716±0.162	0.163±0.019	0.036±0.030	0.173±0.029	1.674±0.240
	ハラウンカー1	56	0.706±0.048	0.225±0.011	0.048±0.010	1.851±0.180	0.246±0.014	0.752±0.070	0.075±0.016	0.015±0.008	0.041±0.004	0.482±0.022
	ハラトウンカー2	40	0.717±0.018	0.269±0.006	0.031±0.006	1.604±0.043	0.119±0.007	0.398±0.016	0.095±0.008	0.016±0.006	0.031±0.003	0.402±0.010
ロシア	ハラ・ウンカー3	48	0.384±0.008	0.097±0.004	0.043±0.007	1.642±0.053	0.262±0.011	0.753±0.026	0.066±0.026	0.013±0.062	0.017±0.003	0.176±0.009
	ハラナウンカー4	48	0.141±0.007	0.074±0.003	0.029±0.004	1.069±0.025	0.203±0.007	0.150±0.006	0.106±0.009	0.024±0.006	0.016±0.002	0.146±0.004
	ナチキ	48	0.220±0.008	0.104±0.004	0.099±0.016	1.261±0.062	0.608±0.028	0.500±0.026	0.122±0.030	0.064±0.023	0.024±0.003	0.340±0.008
	アハチャ	40	0.255±0.007	0.160±0.005	0.029±0.004	1.121±0.034	0.192±0.007	0.151±0.008	0.106±0.009	0.024±0.007	0.026±0.003	0.303±0.007
標本試材	JG 1 a)	127	0.755±0.010	0.202±0.005	0.076±0.011	3.759±0.111	0.993±0.036	1.331±0.046	0.251±0.027	0.105±0.017	0.028±0.002	0.342±0.004

表 2 湧別川河口域の河床から採取した247個 の黒曜石円礫の分類結果

Æ	<b>花群名</b>	個数	百分率	- 衛 考
八月あじ	i山群 対決・白土沢群 ごさい竜群、幌加沢 ショマップ第2群 遺物群	90個 120個 31個 5個 1個	36% 49% 13% 2% 0.04%	白滝産地赤石山群に一致 割れ面が梨肌の黒曜石 割れ面が梨肌でないもの

注:8号沢、白土沢、あじさい滝、幌加沢の一部は組成が酷似し、分類は割れ面の梨肌か否かで区別した。

表3 常呂川(中ノ島~北見大橋)から採取した37個の黒曜石円礫の分類結果

原石群名	個数	百分率	備考
所山群 置戸山群 ケショマップ第2群 八号沢群 常呂川第1群 常呂川第2群 常呂川第3群 常呂川第4群	2 1 個 8 個 1 個 1 個 2 個 1 個 2 個	57% 22% 3% 3% 3% 5% 3% 5%	HS2 遺物群に似る FR1,FR2 遺物群に似る 割れ面梨肌 KS1 遺物群、所山群に似る

注:常呂川第1~2群は分析場所を変えて複数回測定して作る。

表4-1 宮戸4遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

遺物 番号	Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	元 Fe/2r	秦 Rb/2r	Sr/Zr	比 Y/Zr	Nb/Zr	A1/ K	Si/ K
88154	0.259	0.067	0.091	2.380	1.015	0.427	0.265	0.057	0.026	0.349
88155	0.253	0.065	0.090	2.093	0.970	0.432	0.238	0.082	0.032	0.365
88156	0.143	0.024	0.104	3.294	1.814	0.154	0.384	0.076	0.029	0.358
88157	0.261	0.064	0.109	2.191	0.955	0.401	0.249	0.019	0.030	0.351
88158	0.267	0.066	0.093	2.366	1.027	0.435	0.236	0.070	0.029	0.352
88159	0.274	0.072	0.101	2.221	0.962	0.449	0.220	0.045	0.032	0.341
88160	0.214	0.067	0.083	2.084	0.909	0.385	0.238	0.039	0.032	0.373
88161	0.269	0.065	0.069	2.276	0.990	0.410	0.284	0.044	0.036	0.375
88162	0.255	0.065	0.074	2.137	0.942	0.408	0.241	0.024	0.026	0.353
88163	0.276	0.076	0.085	2.425	1.020	0.448	0.247	0.034	0.032	0.359
88164	0.210	0.079	0.087	2.482	1.141	0.437	0.327	0.048	0.035	0.377
88165	0.257	0.074	0.083	2.409	1.047	0.458	0.277	0.028	0.033	0.376
88166	0.251	0.070	0.110	2.242	0.949	0.401	0.241	0.047	0.029	0.357
88167	0.255	0.066	0.087	2.179	0.943	0.454	0.284	0.052	0.032	0.343
88168	0.269	0.068	0.088	2.353	1.002	0.471	0.245	0.030	0.027	0.343
88169	0.263	0.069	0.059	2.138	0.914	0.420	0.224	0.043	0.030	0.329
88170	0.267	0.072	0.073	2.505	1.140	0.483	0.369	0.039	0.028	0.391
88171	0.234	0.071	0.064	2.174	1.087	0.450	0.357	0.049	0.032	0.351
88172	0.155	0.022	0.100	2.900	1.660	0.141	0.459	0.115	0.026	0.348
88173	0.335	0.123	0.043	1.792	0.817	0.466	0.165	0.035	0.037	0.396
88174	0.258	0.074	0.046	2.322	1.037	0.414	0.315	0.066	0.034	0.374
88175	0.256	0.067	0.073	2.269	1.076	0.451	0.372	0.044	0.034	0.389
88176	0.137	0.023	0.098	2.817	1.686	0.123	0.494	0.125	0.033	0.332
88177	0.179	0.068	0.063	2.837	1.349	0.282	0.333	0.041	0.030	0.333
88178	0.182	0.061	0.053	2.747	1.286	0.279	0.340	0.095	0.036	0.351
88179	0.332	0.130	0.045	1.601	0.725	0.403	0.192	0.064	0.035	0.380
88180	0.258	0.074	0.070	2.227	1.051	0.414	0.360	0.030	0.036	0.395
88181	0.106	0.036	0.089	2.719	1.356	0.272	0.328	0.046	0.024	0.245
88182	0.178	0.055	0.089	2.893	1.347	0.310	0.349	0.081	0.029	0.348
88183	0.258	0.074	0.051	2.246	1.138		0.362	0.097	0.034	0.368
88184	0.174	0.059	0.085	2.817	1.363	0.289	0.359	0.000	0.035	0.365
88185	0.202	0.057	0.080	2.793	1.308	0.278	0.349	0.041	0.027	0.335
88186	0.196	0.063	0.074	3.092	1.450	0.298	0.385	0.070	0.029	0.358
88187	0.266	0.072	0.061	2.329	1.096	0.422	0.368	0.066	0.036	0.402
88188	0.182	0.061	0.062	2.600	1.280	0.275	0.351	0.078	0.033	0.340
88189	0.144	0.024	0.111	3.119	1.801	0.126	0.448	0.138	0.031	0.317
88190	0.268	0.068	0.085	2.336	1.122	0.434	0.352	0.041	0.028	0.408
88191	0.251	0.073	0.103	2.329	0.985	0.439	0.309	0.091	0.030	0.355
88192	0.196	0.062	0.121	2.946	1.335	0.273	0.358	0.072	0.027	0.353
88193	0.283	0.067	0.072	2.318	1.087	0.461	0.397	0.067	0.028	0.363
88194	0.253	0.073	0.079	2.266	0.971	0.424	0.184	0.084	0.032	0.347
88195	0.257	0.067	0.071	2.351	1.088	0.451	0.363	0.057	0.033	0.368
88196	0.192	0.065	0.070	3.016	1.354	0.301	0.384	0.066	0.030	0.368
88197	0.263	0.073	0.070	2.398	1.111	0.453	0.361	0.019	0.036	0.386
88198	0.268	0.066	0.095	2.296	0.995	0.434	0.274	0.000	0.036	0.355
88199	0.264	0.070	0.065	2.248	0.995	0.448	0.260	0.036	0.034	0.342
88200	0.263	0.070	0.077	2.190	0.949	0.423	0.216	0.067	0.029	0.359
88201	0.272	0.081	0.047	2.245	1.056	0.424	0.333	0.000	0.035	0.373
88202	0.277	0.074	0.085	2.289	0.966	0.443	0.263	0.028	0.029	0.357
L	L									

表4-2 米原4遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果

遺物番号	Ca/ K	Ti/ K	Mn/Zr	元 Fe/Zr	秦 Rb/Zr	Sr/Zr	比 Y/Zr	Nb/Zr	A1/ K	Si/ K
88203	0.267	0.076	0.054	2.320	1.086	0.422	0.328	0.000	0.028	0.381
J G - 1	0.788	0.215	0.065	3.435	0.855	1.152	0.250	0.085	0.028	0.319

JG-1: 標準試料-Ando,A.,Kurasawa,H.,Ohmori,T.& Takeda,E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol.8 175-192 (1974)

5-1 鵡川町宮戸4遺跡出土黒曜石製遺物の原材産地分析結果

分析	試料 器皂 比	出土位置	遺物 層位	遺物名	時期	原石産地(確率)	判定結果	塞	表面状態
88154	1 FC-1	Ţ	8 V 層下	石鏃	.,	赤井川第1群(63%)赤井川第2群(9%)大积迦(2%)戸門第1群(4%	赤井川	フレイクチップ集中	
88155	2 FC-1	天	14 V層下	石鏃	縄文時代	赤井川第1群(34名)大釈迦(3名)赤井川第2群(7名)慶森山(1名	赤井川	フレイクチップ級中	
38156	3 FC		<b>上殿 ∧ 6</b>	石鏃	粗文時代	あじさい滝(10約,8号沢(6約)	あじさい滝	フレイクチップ集中	ガラス光沢あり
38157	4 FC-1	Į	10 V 層下	石鏃	縄文時代	赤井川第1群(8知,赤井川第2群(3知	_	フレイクチップ集中	
38158	5 FC-1	Ţ	12  V 層下	石鏃		赤井川第1群(70%)大釈迦(0.9%)赤井川第2群(3%)	_	フレイクチップ集中	
38159	6 FC-1	天	<b>土圏 /  [81</b>	_	超文時代			フレイクチップ集中	
38160	717-	T-10-d	中圏AI	石鏃	-	赤井川第1群(73%)赤井川第2群(18%)松浦第2群(2%)	=	遊物包含圈	
38161	8 ×	X-15-d	子層 V 86下	石鏃	権文明代	赤井川第1群(15%,大釈迦(1%,十勝三股(1%,赤井川第2群(4%)	赤井川	遺物包含曆	
38162	-₩	W-16-b	12 V 層中	_	ね女邸代	赤井川第1群(72%)赤井川第2群(37%)大釈迦(2%	赤井川	遺物包含層	
38163	-T 01	T-8-c	32 V 層下	石鏃	4	赤井川第1群(20%)十勝三股(0.7%)戸門第1群(3%)赤井川第2群(1%	赤井川	選物包含曆	
38164	-11 IT-	T-11-b	1圏 Ⅵ ▼	石鏃	和文時代	十勝三股(27%)赤井川第1群(3%)戸門第1群(2%)	土	遺物包含層	
38165	12 V-	V-11-c			4	(50%)戸門	Ξ	退物包含曆	
38166	13 V-	V-14-c	28 V 路下	石鏃	£	赤井川第1群(29%,赤井川第2群(17%)	赤井川	遺物包含層	
38167	14 R-	R-4-b	8 (1)		縄文時代	赤井川第1群(54名)大釈迦(9名)魔森山(9名)赤井川第2群(9名)戸門第1群(3名)		遺物包含層	
38168	15 X-	X-11-a	1 V 層中	石鏃	بو	赤井川第1群(49名,赤井川第2群(55名)大釈迦(5名)十勝三股(0.2名	11	遺物包含層	
38169	16 T-	T-6-a		石鏃	縄文時代	赤井川第2群(58%)赤井川第1群(25%)魔森山(2%)	Ш	遺物包含層	
38170	17 Y-	Y-15-d	23 V 層下		4	十勝三股(27%) 戸門第1群(23%) 大釈迦(0.9%		選物包含層	
38171		V-14-b	7 / 超上		編文時代	十勝三股(34%)戸門第1群(18%,大釈迦(2%,隨森山(2%		遺物包含層	
38172		<u>17-b</u>	≥		£	よい路(112)報担当	無い		ガラス光沢あり
38173	5 2	U-13-d	16 V 商下	_	女郎代	所山(80%)常呂川第4群(31%,滝川第2群(11%)		遺物包含曆	
38174	21 R-	R-9-b	24  V 層下	石鏃	細文時代	SX		遺物包含層	
38175	22 V-	V-5-a	2 VI層	石鏃	縄文時代	十勝三股(68%)戸門第1群(26%,大釈迦(1%,鷹森山(1%)	十勝	還物包含曆	
38176	23 U-	U-15-4	9 V 層中	石鏃	縄文時代	白土沢(53%,あじさい滝(42%)機加沢(50%,8号沢(17%)	製		ガラス光沢あり
38177	24 T-	T-10-c	12 V 留中	石鏃	縄文時代	赤石山(30%)		遺物包含曆	
38178	25 R-	R-4-d	1 V 層下	石鉄	縄文時代		赤石山	遺物包含層	
38179		T-12-c	11   V 層中					遺物包含曆	
38180	-T   T-	1-5-b	5 N 層	石鏃		‡(0.4%)	盛	退物包含層	
18181	-5 S	P-6-0	14  VI 層		超文時代	【赤石山(93%),上白滝557139遺物群(85%)	5	道物包含曆	
38182	29 S−í	9-6-S	2 V 陸上		<b>粗文時代</b>	赤石山(31%)		遺物包含層	
38183	30 V-	V-15-c	28  V 層下		縄文時代	十勝三胺(36%)	١.	遺物包含曆	
8184	31 0-	Q22-a	1 V層下	石鏃	縄文時代	赤石山(34%)	赤石山	遺物包含層	
38185		W-15-a	4  V 層	石鏃	ą.	赤石山(32%)		遺物包含層	
38186	33 U-	U-12-c	趣				_	设物包含層	
38187	34 Y-17-d	-11-d	3 V 層中		4	<b>殳(82%)戸門第1群(3%</b>	#	遺物包含層	
38188	35 ₩-	H-19−c	1 / 極中	石鏃				设物包含曆	
38189	-X 96	4-01-X	1 V 磨上	石鏃	縄文時代	淹(90%)8号沢(66%)白土沢(15%)幌加沢(10%)	艘		ガラス光沢あり
38190		0-3-c	1 V 層中					遺物包含曆	
18181		V-17-a	10 V 周下	石鏃		赤井川第1群(7名,大釈迦(0.4名,十聯三股(0.4名,戸門第1群(3名		道物包含曆	
38192		V-17-a	3 V 層上	$\neg$			赤石山	运物包含曆	
8193	40 W	W-16-a	8 V 函中	_				選物包含曆	
38		3,5	1 / 超中		П		_	資物包含曆	
8195		R-20-d	1 × 極中	石鏃	┑	後(85%)戸門第1群(30%)大釈迦(3%)赤井川第1群(0.1%)	三路	資物包含曆	
38196	43 AO	A0-25-c	5   V 層中				_	设物包含曆	
38197	44 R-	R-6-d	4 V 層上	石鏃				退物包含曆	
38198		U-14-a	8 V 磨下	石鏃	縄文時代	赤井川第1群(48%)赤井川第2群(27%)大釈迦(0.6%)	_	遺物包含層	
8199		U-13-b	19 / 極中		¥	赤井川第2群(77名)赤井川第1群(37名)大釈迦(9名)十勝三股(9名)		遺物包含曆	
8200		V-16-a	27 V 層中	┪	2	1群(94%	=	遺物包含層	
1028		7-17-c	7 V 個 V	石鏃	数文部代		盤十	這物包含層	
2028	49 X-	X-23-a	3 / 強ト	石鏃	超文時代	赤井川第1群(64%)赤井川第2群(25%)十勝三股(1%)大釈迦(0.2%)	赤井川	直物包含圈	

# 表5-2 鵡川町米原4遺跡出土黒曜石製遺物の原産地分析結果

### 4 米原4遺跡、宮戸4遺跡のフローテーション資料

米原4遺跡の焼土( $F-14\sim16$ 、 $18\sim20$ 、 $22\cdot23$ )、宮戸4遺跡の土器片囲い炉の土壌について、炭化種子等の微細遺物を回収する目的でフローテーション作業を行った。回収作業にあたっては、浮遊物に2.00mmと0.425mmの篩を、沈殿物に1.40mmの篩をそれぞれ用いた。

当センターの整理作業所でこれらの資料の選別を行ったが、時間的な制約から今年度の報告書に掲載することができなかった。このため次年度以降発行の報告書(日高自動車道関連)に分析資料の報告を予定している。表1・2は回収資料の概要についてまとめたものである。 (山中)

### 表1 米原4遺跡フローテーション資料一覧

遺構名	調査区	検出 層位	時 期	水洗前乾 燥重量(g)	水洗前乾 燥体積(I)	浮 <b>遊物</b> (g)	沈殿物 (g)	土器片 (点)	黒曜石フレイク (点)
F-14	I 45 c	V層下	縄文時代後期初頭	3600	5	0. 97	51. 11	2	7
F-15	H45c, I 45 d	"	"	2050	3	10.80	36. 26	3	12
F-16	I 45 d . I 46 a	"	"	2300	3	4. 59	38. 56		
F-18	I 46 a	"	"	7050	10	34. 71	47. 73	3	63
F-19	H46b	"	"	11700	18	100. 82	61.60		20
F-20	I 45 c	"	"	5300	8	8. 56	77. 34		15
F-22	O55a	VI	縄文時代中期後半	8600	11	8. 77	46.89		
F-23	O55c	"	"	5300	7	11, 47	66. 52		
	合	計		45900	65	180.69	426.01	8	117

### 表2 宮戸4遺跡フローテーション資料一覧

遺構名	調査区	検出 層位	時 期	水洗前乾燥 重量(g)	水洗前乾燥 体積(I)	浮遊物 (g)	沈殿物 (g)	土器片 (点)	黒曜石フレイク (点)
H-2	B038C C038d	VI層 上面	縄文時代後期初頭	26800	36	48. 67	643. 97	211	5262

# Ⅲ 成果と問題点

### 1 米原4遺跡H-4の調査から

今年度、南西壁部分が調査されたH-4は、竪穴の規模は長径3mに満たないものの、中央付近で地床炉が検出されており、小型の住居跡と判断された。時期は、Ⅲ群b-2類土器が床面等で出土していることから、縄文時代中期後半、柏木川式期とみてよいであろう。この時期の小型の住居跡は、石狩低地帯の中央部で多く検出されている。ここでは、本遺跡の所在する胆振地方東部、および日高地方西部で調査された同種の遺構について、どのような特徴があるのか簡単にまとめ、あわせて本遺跡での問題点にふれておきたい。

### (1) 特 徵

この地域において柏木川式期とみられる小型の住居跡は、苫小牧市美沢11遺跡で 6 軒 (北埋調報44)、同市静川21遺跡で 5 軒 (苫東遺跡群 V)、厚真町厚真 8 遺跡で 2 軒 (苫東遺跡群 I)、門別町ペサウンコツ遺跡で 1 軒 (門別町教委1995)等が報告されている (表VII-1-1)。ここで「小型」とする規模は、各住居跡の計測値から、長径 3 m 前後以下、床面積 5 m 2 程度以下であり、地床炉(可能性があるものも含む)や柱穴の検出から住居跡と判断されるものである。

図 $\Pi-1-1$ は、上記の遺跡で検出された小型の住居跡14軒の平面図に本遺跡の2軒を加えたものである(図中の番号は表 $\Pi-1-1$ に対応)。美沢11遺跡では、(a)地床炉以外の付属構造がないもの2軒(4、1)、(b)床面からの立ち上がり部分に溝がめぐるもの3軒(3・6・2)、(c)床面より一段高い張り出しがあるもの1軒(5)が検出されている。静川21遺跡では、(a)が5軒(7~11)、厚真8遺跡では(c)が2軒(12・13)、本遺跡では(a)が1軒(15)検出されている。この他、土坑の検出されるものもあるが(3、14、16)、住居跡内での位置、規模、形態の差が大きく、今後類例を集めて検討する必要がある。

このように、上記の遺跡では(a)~(c)のように異なる特徴のものがみられた。(b)は恵庭市南島松 3 遺跡(恵庭市教委1992)51号住居址等、(c)は江別市高砂遺跡(江別市教委1989)H-42等のように、石狩低地帯でも検出されている。

### (2) 問題点

本遺跡では平成12年度の調査において、同時期の可能性がある住居跡が4軒検出されている(北埋調報153)。これらは相対的な規模の差によって、大型(H-1)、中型(H-6)、小型 $(H-2\cdot3)$  に分けられる。美沢11遺跡、静川21遺跡でも、小型の他に、大型・中型の住居跡が検出されており、住居跡の重複や掘り上げ土の分布、土器の接合関係等から、柏木川式期内でも構築時期に差のあることが推定されている。本遺跡では重複するものがなく、土器等の接合による情報も得られていないため、住居跡間にどのような時間的関係があるのかは不明である。

規模の違いを時間差として捉えることの他に、小型と大型の住居跡が存在することについて、それぞれの炉の土壌を分析する等、住居跡の性格を比較する上で基礎的な材料を増やしていくことも必要である。

最後に、縄文時代中期後半に大型、中型、小型の住居跡が近接して検出される例が、胆振地方の東端にある本遺跡でも確認されたことは特筆されてよいであろう。 (山中)

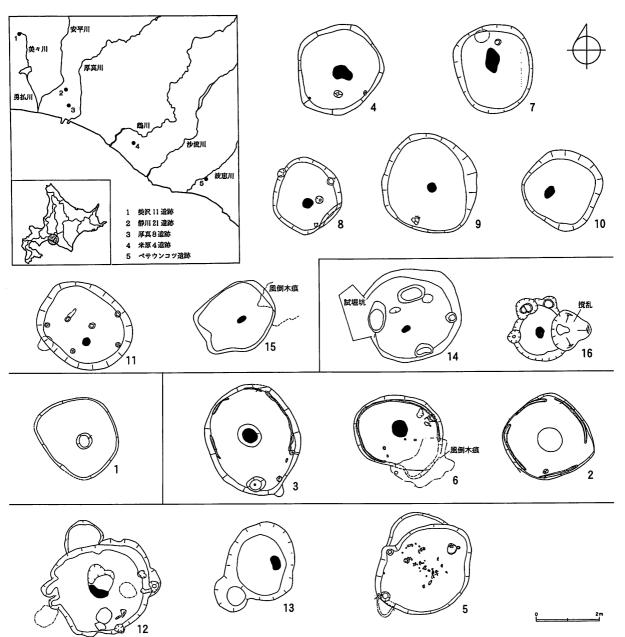


図 Ⅵ - 1 - 1 柏木川式期の小型の住居跡

表Ⅲ−1−1 柏木川式期の小型の住居跡(胆振地方東部・日高地方西部)

番号	50 子北	過吐々	:魯吐力	·鲁·捷·夕	平面形	確認	面(m)	床面	j (m)	深さ	床面積		炉(m)		集
号	所在地	遺跡名	遺構名	十山形	長径	短径	長径	短径	(m)	(m²)	長径	短径	厚さ	穴	
1	苫小牧市	美沢11	H – 9	隅丸方形	2. 71	2. 42	2. 52	2. 37	0. 91	4. 49	_	1	_		
2	"	"	H-15	隅丸方形	2.62	2.62	2. 46	2, 50	0.41	5. 21	_	-	_	7	
3	"	"	H - 16	楕円形	3. 59	2. 90	3. 28	2. 53	0.63	6. 49	0. 5	0. 4	0. 06	2	
4	"	"	H-19	隅丸方形	2. 97	2. 73	2.63	2. 46	(0.61)	4. 73	0. 6	0. 5	0. 10	3	
5	"	"	H - 24	楕円形	3. 17	2.86	2. 94	2, 60	0.38	5. 61		_		7	
6	"	"	H-26	楕円形	2.80	(2.32)	2.60	(2.09)	0.30	4. 41	0.6	0. 5		4	
7	"	静川21	1号住居跡	隅丸方形	2. 75	2. 40	_	_	0.40	4. 24	0. 78	0.40	0.05	1	
8	"	"	3号住居跡	隅丸五角形	2, 20	2. 20	-		0.40	3.00	0. 34	0.30	0.07	1	
9	"	n,	5 号住居跡	隅丸方形	3. 10	2. 95	_	_	0.50	5. 67	0.30	0. 27	0, 08	_	
10	"	"	6 号住居跡	隅丸方形	2. 35	2, 30	_	_	0.30	3, 35	0.40	0, 25	0.07		
11	"	"	8号住居跡	隅丸方形	3.00	2, 50	-		0.40	4. 39	0. 28	0. 24	0.05	6	
12	厚真町	厚真8	2号住居跡	隅丸方形	3. 20	2.80			0. 32	5. 65	0.66	0. 32	0.04	_	
13	"	"	3号住居跡	楕円形	2. 42	2. 10	I	1	0.35	2. 30	0.45	0. 27	0.04		
14	鵡川町	米原4	H-3	円形	3. 36	3. 18	2.80	2. 78	0.40	5. 32	0.30	0.20	0.04	_	
15	"	"	H-4	不整隅丸方形	2, 55	2. 10	2. 24	1. 94	0. 26	3. 44	0. 32	0.20	0.04		
16	門別町	ペサウンコツ	H – 5_	円形	1. 9		1, 5	_	0.12	(1. 34)	0. 24	0.16		-	

※数値等は各報告書記載のものであるが、太字は改めて計測したものである。

### 2 タプコプ式期の土器片囲い炉について

今年度、宮戸4遺跡S地点でタプコプ式の土器片囲い炉(H-2)が検出された。鵡川町では初めての調査例である。土器片囲い炉は、タプコプ式期に固有のものではなく、縄文時代中期末葉~後期前葉の、北筒式、入江Ⅲ類、手稲砂山式などの各形式にも見られる。分布は、西は登別市、南は門別町、北は芦別市までの広範囲にわたる。ここではタプコプ式の土器片囲い炉の分布、形態、使用されている土器、時期などを概観し、本遺跡のH-2がどのように位置付けられるのかについて考察する。

### (1) 分布

タプコプ式の土器片囲い炉は、石狩低地帯中南部~日高西部で検出されている(図M-2-1、表M-2-1)。特に千歳川・島松川流域( $1\sim13$ )と、苫小牧東部工業地帯の遺跡群( $16\sim21$ 、以下苫東遺跡群)の2つの地域で濃く分布している。中間に位置する美沢川流域の遺跡群では、当該期の土器片囲い炉は検出されていない。宮戸4遺跡H-2は、苫東遺跡群と、かなり離れた門別町のエサンヌップ2遺跡(23)の間を埋める検出例となる。

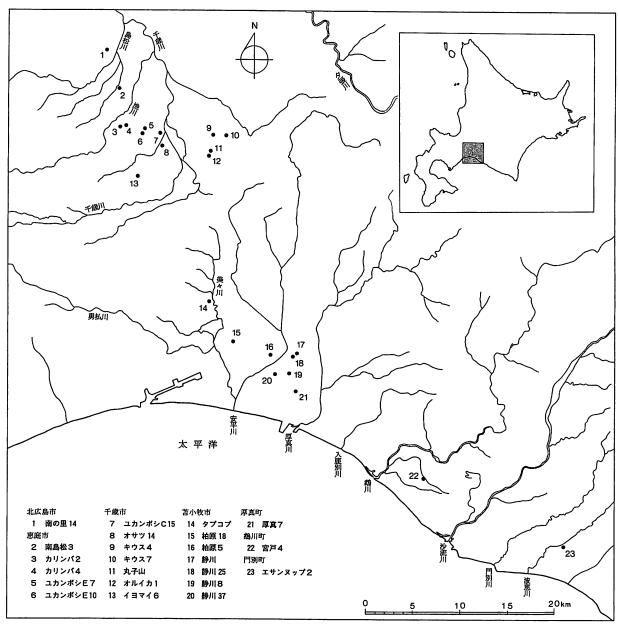


図 Ⅲ - 2 - 1 タプコプ式土器片囲い炉分布図

表Ⅲ-2-1 タプコプ式土器片囲い炉一覧表

所在地	遺跡名	遺 構 名	炉種類	形状	個体数	分類	挿図	特記事項	文献	
小中自士	南の里14	M14-H1	屋内炉	楕円形	1	С		石囲い炉に併用	遠藤2000	
北広島市	用の里14	土器敷き炉	屋外炉	楕円形	1	а		安山岩礫が付属	2000	
	南島松3	2号炉址	屋外炉	楕円形	4	e?	28	手稲砂山式・大津式共伴	松谷1992	
	カリンバ2	炉5	屋外炉	不整形	1	不明		胴部片	上屋・佐藤1998	
Ì		H-3·HF-1	屋内炉	円形	1	b			森1997	
	カリンバ4	H-3·HF-1	屋内炉?	楕円形	1	е	26		- 森1999	
恵庭市		H-4 · HF-1	屋内炉?	楕円形	4	d+e			*** 1 3 3 3	
		2 HF – 4	屋内炉	楕円形	1	а	1		北埋調報132	
	ユカンボシE7	3 HF - 4	屋内炉	楕円形	1	а	2		1. 地域 102	
		8 HF - 3	屋内炉	不整形	1	不明		胴部片	北埋調報129	
	ユカンボシ E10	土器片囲炉	屋外炉	楕円形	1	不明		胴部片	渡辺1997	
	ユカンポシ C15	H-28 · HF-1	屋内炉	楕円形	1	а	3		北埋調報133	
	オサツ14	H-28 · HF-1	屋内炉	楕円形	4	а	4		北埋調報96	
ŀ		P-85	屋内炉?	不整形	4	d	20	土坑内・入江式と共伴	北埋調報152	
	キウス 4	P-140 · F-2228	屋内炉?	楕円形	1	a	5	竪穴遺構内	北埋調報157	
•		LF-15	屋外炉	楕円形	2	a+b	6,7		北埋調報90	
千歳市	キウス 7	H-8·HF-1	屋内炉?	楕円形	3	e+?		胴~底部、平地住居	北埋調報105	
	, , , , , ,	LH-43 · HF- 4	屋内炉	楕円形	1	b	9		北埋調報127	
}		土器囲炉1	屋外炉	楕円形	2	b	10			
	丸子山	土器囲炉3	屋外炉	楕円形	2	e	27		→田村・髙橋1994	
ŀ	イヨマイ 6	II F−50	屋外炉	楕円形	2	b+c			高橋・田村1990	
		15号住居址・炉	屋内炉	楕円形	<b>├</b> ─	e		不規則な配置		
		土器片囲炉1	屋外炉	楕円形		b	11		†	
	タプコプ	土器片囲炉 2	屋外炉	円形	1	d	21		佐藤・宮夫ほか1995	
		土器片囲炉3	屋外炉	楕円形	7	c+d+e	14, 22	2ヵ所が切り合う	1	
	柏原18	11号焼土跡	屋外炉	不整形	<del></del>	d	23	- 77/111	-	
		39号焼土跡	屋外炉	円形	2	d+e	24, 30		-     佐藤・宮夫ほか1984	
		50号焼土跡	屋外炉	楕円形	1	d	'			
	_	73号焼土跡	屋外炉	楕円形	3	b+e				
	柏原 5	84号焼土跡	屋外炉	円形	5	a+b	8		佐藤・工藤ほか1997	
		3号住居跡・炉	屋内炉	楕円形	1	b	12		-	
苫小牧市	静川	F-15	屋外炉	円形	2	不明		胴部片・礫と併用	赤石2002	
	静川25	24号住居跡・炉	屋内炉	楕円形	1	e	31	一部欠落(再利用?)	宮夫・工藤ほか2002a	
	静川8	30号焼土跡	屋外炉	不整形	-	c		一部のみ残存	佐藤・工藤ほか1990	
	1117113	3号住居跡・炉	屋内炉	円形	2	c+e	29	一部欠落		
		4号住居跡・炉1	屋内炉	円形	3	С	"	一部のみ残存	-	
		4号住居跡・炉2	屋内炉	方形	2	С		HP-7-7/2(1)	-	
	<b>静川37</b>	6号住居跡・炉1	屋内炉	楕円形		c+e	15, 16	一部欠落	_   渡辺・工藤ほか1992	
	877101	8号住居跡・炉1	屋内炉	円形	2	c+e	10, 10	一部欠落		
		8号住居跡・炉2	屋内炉	円形	1	е	<b> </b>	一部のみ残存	1	
		9号住居跡・炉1	屋内炉	楕円形		c	17	炉の内側に焼土なし	1	
		6号住居跡・炉	屋内炉	楕円形	-	c+e		77 -> F 3 POLIC NELL / & U	<b> </b>	
厚真町	厚真 7	7号住居跡・炉	屋内炉	楕円形		d+e	25		│佐藤・工藤ほか1987 │ │	
		7 亏任店跡・炉   H - 2 土器片囲い炉	屋外炉	精円形 精円形		c+e	18, 19	一部が二重になる	本報告	
鵡川町	宮戸 4	1日二リナ郷田田八畑								

<sup>※</sup> 千歳市オルイカ1遺跡は平成14年度報告予定(北埋調報188)

### (2) 形態・構造

形態は、土器片が部分的にしか残存しておらず、全体の構造を把握できないものが多いが、概ね精円形・円形である。タプコプ式の土器片囲い炉は、厚真 7 遺跡の分類ではBタイプに属する(佐藤・工藤ほか 1987)。土器の外面を内側へ向けて、浅い掘り込みの周囲に並べる、または壁面に貼り付けるもので、他に手稲砂山式が用いられる。ちなみにAタイプは、土器の内面を内側へ向けて、破片を垂直に差し込み、方形に並べるもので、北筒式(トコロ6 類)・入江Ⅲ類が用いられる。

土器片囲い炉は屋内炉と屋外炉の両方が見られる。遺跡により様相は異なっており、屋内炉が主体となる遺跡は、カリンバ4・ユカンボシE7・静川37・厚真7など、屋外炉が主体となる遺跡は、丸子山・柏原18・柏原5などである。また、キウス7・タプコプ・静川など、両方が存在する遺跡も見られる。これらが地域差あるいは時期差を示すものか、用途によって場所を変えたのか判然としない。使用されている土器は1個体が多いが、2個体以上用いるものもある。接合関係がわかる出土状況図が掲載されていないものが多く、土器の各部位がどのように配置されているか把握できなかった。

宮戸4遺跡H-2は、Bタイプに属する屋外炉である。使用されている土器が5個体と比較的多く、隙間無くほぼ全周しており、残存状況は良好である。一部で破片を二重にするなど独自の要素も見られる。出土位置と接合の結果から、個体ごとに破片を順番に並べるのではなく、ある程度同じ大きさの破片を、部位に関係なく前後で高さが揃うように配置している。規則性というよりは、全体の均衡や強度を重視したのではなかろうか。

### (3) 使用されているタプコプ式土器について

宮夫靖夫氏による型式設定(佐藤・宮夫ほか 1984)以来、主に苫東遺跡群の一連の報告書において、タプコプ式土器は細分が試みられてきた。ここでは出土量が多く、様々な類型が見られるという観点から、柏原18遺跡での赤石慎三氏による細分類(佐藤・宮夫ほか 1995)を参考にして、施文により次の5種類に分類した。

a類:竹管または棒状工具による下方からの円形刺突文を施すもの

b類:縄端による刺突文・圧痕文を巡らすもの

c 類:縄線文を施すもの

d類:山形突起の下に貼付帯や縄圧痕文を施すもの

e 類:縄文のみのもの

図 $\Pi-2-2$ に土器片囲い炉に用いられたタプコプ式土器を分類別に示した。 a 類は胴部に箍状の貼付帯を巡らす、小野幌式・伊達山式との共通点を有するものである。大沼忠春氏は下方からの刺突を余市式でも新しい要素と捉えており(大沼 1981)、高橋理氏もこの一群をタプコプ式と見なしている(高橋 1996)。 b 類は胴部の貼付帯が少なく、かつ大振りになる。また、輪積みの下端を残して、器面が段状になるものがある。まれに縄端以外の工具による縦方向の圧痕文も見られる。 c 類は口縁部付近に数条の横走する縄線文を巡らすもので、平縁が多い。縄線文は 2 条が最も一般的で、まれに 3 条、 4 条も見られる。 縄線文は全周しないものが大半で、山形突起や貼付帯などを単位の区切りとする例がある。 d 類は口縁の頂部または山形突起に、縦方向の貼付帯または垂下する縄圧痕文や縄線文が施されるもので、口縁がやや開きぎみになる傾向がある。 e 類は口縁が平縁と d 類よりも小振りな小突起部を有するものがある。

地域により主体的に使用される土器に違いが見られる。恵庭および千歳西部では、 a 類および b 類が比較的多い。千歳東部では、 a ・b 類よりも d ・e 類が目立つようになる。以上の石狩低地帯中部では、 c 類は非常に少ない。苫小牧を中心とする石狩低地帯南部では、 a 類を除く b ~ e 類各種が見

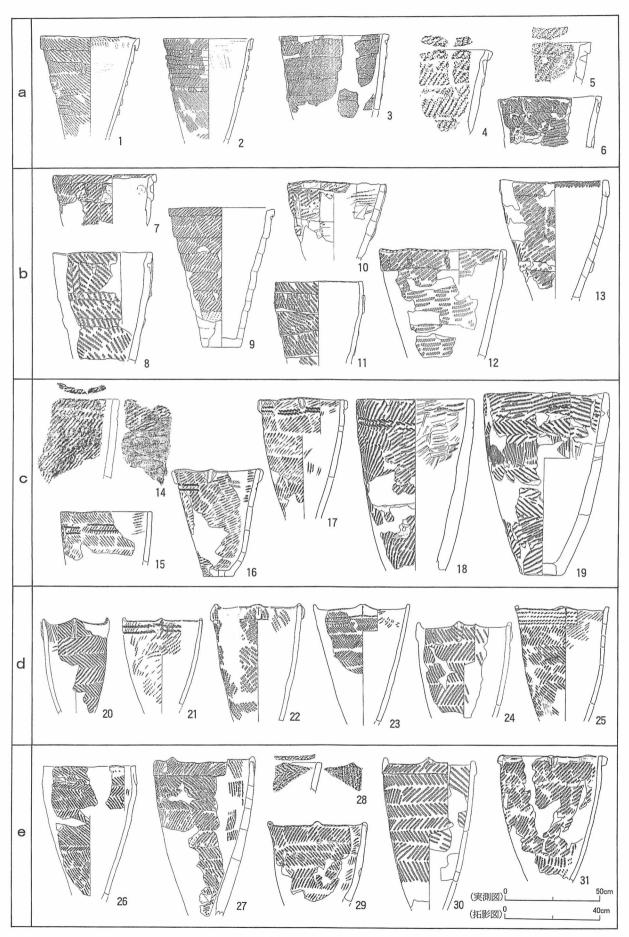


図 Ⅵ - 2 - 2 炉材として使用されたタプコプ式土器

られる。遺跡によって主体は異なるが、c類とe類が多く、d類がこれに次ぐようである。また、日 高西部のエサンヌップ2遺跡ではb類が用いられている。

### (4) 時期

次に、この分類が時期を反映するものか検討する。 2つの炉が切り合う、タプコプ遺跡・土器片囲い炉3の例でも、新旧の両方でほぼ同じ分類のもの(b・c・e類)が使用されていることから、時期が近接している可能性がある。赤石氏は、各遺跡における土器の在り方と土器片囲い炉に使われる土器のセット関係から、タプコプ式を、b類を主体とする時期(古)と、cないしe類を主体とし、d類を伴う時期(新)、という時間差を想定している(佐藤・宮夫ほか 1995)。また、これを大沼氏が設定したタプコプ式の、北筒Ⅲ式(新)に対応する古段階および北筒Ⅳ式に対応する新段階(大沼1989)に対比させている。エサンヌップ2遺跡H−27では、b類が北筒Ⅲ式と共伴している(長谷山・阿部 1989)。一方、南島松3遺跡B地点2号炉址では、e類が手稲砂山式・入江式と(松谷 1992)、キウス4遺跡Q地区P−85では、d類が入江式と共伴している(北埋調報152 2000)。これらの土器型式の編年的位置は、論者によって微妙に異なるが、概ね縄文時代後期前葉の範疇に含まれる。以上の点から、タプコプ式土器はa類が最も古く、続いてb類→c・d・e類が新しいという変遷が想定される。今後は、ほぼ同時期と考えられる道東の北筒Ⅲ式・同Ⅳ式を比較検討する必要があると考える。

宮戸4遺跡H-2では、 $c \cdot e$  類に属するものが使用されている。同じ組み合わせによる使用例は、静川37遺跡で多く見られる(渡辺・工藤ほか 1992)。H-2 より採取した炭化物を用いて、放射性炭素年代測定(AMS 法)を行ったところ、補正C14年代で $3660\pm40$ (yBP)という数値が得られた(第V1章第V1節参照)。これは従来言われてきた、余市式土器群の「縄文時代後期初頭」という時期的な位置付けより若干新しい。自然科学的分析によりすべてが決定されるとは言い切れないが、ある程度判断材料として考慮するならば、V1V1V1V1V2 はタプコプ式の後半期に相当する時期の所産と推測される。

### (5) まとめ

炉は人間の日常生活の中で、衣食住や団欒の中心的な「場」としての役割を果たしてきた。炉の用途は、屋内炉の場合、①食物の加工、②冬季の暖房、③照明、④火に対する信仰施設、⑤火気保有による獣からの護身、⑥用具類製作のための熱加工、などが挙げられる(目黒 1995)。屋外炉も同様の機能を有するが、屋外に選定する何らかの特別な理由があったと考えられる。H-2の場合、焼土中より黒曜石製の石槍・ナイフ、大量のフレイク・チップが出土しており、石器製作に関係する作業が行われたと推測される。鋭利な剥片が周辺に飛び散る作業は、居住空間でもある屋内では困難であったのであろう。また、焼土のフローテーションにより得られた炭化種子などの微細遺物を分析する予定であり、その結果によってさらに別の用途が明らかになる可能性がある(第 VI 章第4節参照)。

炉材として土器を使用する意図は何であろうか。付近に礫を採取できるような河川がない場合、選択の余地が無く、他の材料を用いざるを得ない。しかしながら、本遺跡ではすぐ近くのイモッペ川で容易に手ごろな礫が採取でき、実際に米原4遺跡A地区では礫を用いた屋外炉(S-1)が検出されていることから、ことさら土器にこだわる理由がない。当該期の土器片囲い炉が様々な地域で広範囲に見られることを考慮すると、生活様式の一部として普遍的に存在していたと考えられる。

イモッペ川流域では、縄文時代中期後半〜後期前葉に集落が営まれている。一般的な土器編年に従えば、炉の形態は以下のように変遷する。①柏木川式期:地床炉(米原4遺跡・H-4)、②北筒式(トコロ6類)期:石囲い炉(米原3遺跡・H-1)、③余市式(伊達山式)期:石囲い炉(米原3遺跡・H-2)、④タプコプ式期:土器片囲い炉(宮戸4遺跡・H-2)。各時期の炉の形態については、来年度に、この地域の集落構造を検討する中で考察したいと考えている。 (芝田)

### 3 宮戸4遺跡のTピットについて(続)

宮戸4遺跡では、3か年の調査で、25基のTピットが検出された。地区別では、S地点10基(TP $-1\sim4$ 、 $19\sim24$ )、斜面部分14基(TP $-5\sim18$ )、水田部分1基(TP-25)である。昨年度の斜面部分に引き続き、今年度は主にS地点のTピットについて考察する。

Tピットの立地を見ると、標高25.0mより高い部分に7基、標高23.5mより低い部分に3基検出されている。調査区中央の東西方向に走る沢地形の高位部分では検出されなかった。南側の沢沿いの斜面に設けられた $TP-1\sim4$ 、北東側へ突き出した尾根上に設けられた $TP-20\cdot21$ という立地の異なる2つの配列が見られる。いずれも長軸方向は沢の低位部分へ向かっており、台地上よりイモッペ川へ降りるエゾシカの動きを想定して構築されたと推測される。

昨年度同様に、底面の長軸長/短軸長の比による形態分類を試みた。長短比15より大きいものをA型として、以下5毎にB型、C型、D型に分類した。D型については、杭穴の有無によりD1型、D2型に細分した(北埋調報168)。斜面部分がD1型またはA型が主体であるのに対して、S地点はB型とC型が多い。ただし、長短比によっては、形態の異なるTピットが同じ分類になるという結果も見られる(TP-22とTP-24など)。例えば、底面が平坦なものと傾斜するものでは、実際の長さがほぼ同じでも平面図上の計測値に差が出てくる。オーバーハングについても、これを最初の掘り込み時のものか、あるいは再利用の結果(掘り直し)と捉えるかにより計測値は変わってくる。以上の点から、長短比による分類は、機械的に数値で分けてしまう危険性を含むことから、これを採用する際は1基それぞれの形状について注意し、副次的な基準を加える必要があると考える。

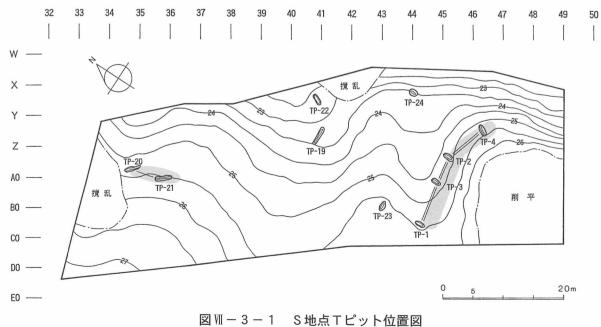
時期を推定する手がかりとなる、他遺構との切り合いや、底部よりの遺物の出土などは見られなかった。そこで昨年度と同じく、人間の居住域の選地とエゾシカの行動圏という観点から、構築時期を考える。これまで主流となってきた縄文時代中期後半~後期初頭(森田・遠藤 1984ほか)という見解に立脚するならば、イモッペ川流域においては、対岸の米原4遺跡B地区で柏木川式期の集落が営まれる頃から、宮戸4遺跡S地点でタプコプ式期の土器片囲い炉が作られるまでの期間が相当する。また、TP−19~22の底部およびV層より採取した土壌を用いて花粉分析と植物珪酸体分析を行い、Tピット構築時の古植生を復元した。①遺跡周辺はイネ科植物を主体とする草本類が多く生育する、開けた明るい環境であった、②斜面上はやや乾いた、斜面下方はヨシ属が生育するような湿潤な場所であった、という結果が得られた。このことから、Tピットが草本類で地面を覆われた、足元の見通しが悪い場所を選んで構築された可能性が指摘されている(第Ⅵ章第2節参照)。

発掘調査で得られた知見と自然科学的分析結果を併せて考察すると、S地点でも中期後半の柏木川式に相当する土器は出土しており、米原4遺跡B地区の集落の人々が対岸においても活動していた可能性は高い。この時期、イモッペ川の両岸は人間の手による自然環境への働きかけ(樹木の伐採、住居の構築など)によって、見通しの良い開けた場所になっていたと思われる。この段階でエゾシカが近づくことがあったかもしれないが、人間を警戒する本能が強く、稀であったろう。柏木川式期の集落が廃絶して荒開地となり、人間の痕跡が消えた頃に、エゾシカが頻繁に現れるようになったと考えられる。あくまで推測の域を出ないが、北筒式(トコロ6類)〜余市式(伊達山式)期に、やや離れた米原3遺跡で集落を営んでいた人々が、Tピット構築の主たる担い手であったと考えている。本遺跡の調査は平成15年度以降も継続の予定であり、次年度の報告では、宮戸3遺跡・米原4遺跡も併せてイモッペ川流域の遺跡群全体のTピットについて考察したい。

表 WI - 3 - 1 Tピット属性一覧表

遺構名	平面形状	上端	規模	下端	規模	272 × (ms)	E /G U-	横断面	44 K T T 1 L	Ġ∓W.Ib	44,04	/\ \#T
退佣石	十山形仏	長軸(m)	短軸(m)	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	長短比	形状	縦断面形状	底面形状	杭穴	分類
TP-1	楕円形	1. 95	0.82	1. 93	0.19	1.11	10. 16	Y字型	オーバーハング	傾斜する	無し	B型
T P - 2	楕円形	1. 86	0. 95	1. 97	0. 33	1. 70	5. 97	U字型	オーバーハング	中央が窪む	無し	C型
TP-3	楕円形	1. 71	0.72	1. 99	0. 23	1. 72	8.65	Y字型	オーバーハング	傾斜する	無し	C型
TP-4	楕円形	1, 73	0.85	1.80	0.14	1.60	12. 86	Y字型	オーバーハング	傾斜する	無し	B型
TP-5	楕円形	1. 57	0.83	1.07	0. 21	1. 50	5. 10	V字型	袋 状	中央が窪む	無し	D 1 型
TP-6	楕円形	1. 81	1. 12	1.65	0.40	1. 17	4. 13	U字型	オーバーハング	ほぼ平坦	2ヶ戸	f D 2 型
TP-7	楕円形	1. 49	0.86	1. 12	0. 25	1. 33	4. 48	Y字型	袋 状	傾斜する	無し	D 1 型
TP-8	楕円形	1. 54	0.85	1. 22	0. 24	1. 30	5. 08	Y字型	袋 状	傾斜する	無し	D1型
TP-9	楕円形	(1.39)	0. 91	1. 17	0. 26	1. 40	4. 50	Y字型	袋 状	傾斜する	無し	D 1 型
T P - 10	楕円形	1.56	0. 93	1. 10	0. 25	1.40	4. 40	V字型	袋 状	中央が窪む	無し	D1型
T P -11	長楕円形	3, 57	0.70	4. 36	0. 28	1, 13	15, 57	Y字型	著しく オーバーハング	傾斜する	無し	A型
T P - 12	長楕円形	(2. 95)	0.68	2. 45	0. 14	1, 20	17. 50	Y字型	中端で オーバーハング	2段に 傾斜する	無し	A型
T P - 13	長楕円形	2.60	0. 93	2. 17	0.19	1. 14	11. 42	V字型	船底状	ほぼ平坦	無し	B型
T P - 14	長楕円形	2.65	0.72	2. 31	0.10	1, 12	23. 10	Y字型	オーバーハング	ほぼ平坦	無し	A型
T P - 15	長楕円形	2.07	0.75	1. 93	0.17	0.83	11. 35	V字型	オーバーハング	傾斜する	無し	B型
TP-16	溝 状	3.40	0.47	3. 04	0.18	0. 91	16.89	I 字型	船底状	ほぼ平坦	無し	A型
T P - 17	長楕円形	2, 54	(0.73)	2.75	0.23	1. 13	11. 96	V字型	オーバーハング	傾斜する	無し	B型
TP-19	長楕円形	3.00	0.66	_	_	0. 92	-	Y字型	不 明	不 明	不明	A型?
TP-20	長楕円形	2, 33	0.72	2.05	(0.18)	1. 32	11. 39	Y字型	袋 状	傾斜する	無し	B型
T P -21	長楕円形	3, 27	0. 90	3, 38	(0.22)	1. 12	15, 36	Y字型	オーバーハング	ほぼ平坦	無し	A型
T P -22	楕円形	(1, 80)	0.70	1. 47	0.35	0.79	4. 20	U字型	袋 状	ほぼ平坦	無し	D1型
TP-23	楕円形	1.40	0.65	1.09	0.19	0.68	5. 74	Y字型	袋 状	傾斜する	無し	C型
T P -24	円形	1, 25	0. 98	0. 73	0. 24	1.06	3. 04	Y字型	袋 状	ほぼ平坦	無し	D 1 型
T P -25	楕円形	1.80	0.60	1.66	0.51	0. 99	3, 25	U字型	中端で オーバーハング	傾斜する	無し	D 1 型

<sup>※</sup> TP-18は町道米原2線下で検出され、未完掘。平成15年度以降報告予定。



### 4 米原4遺跡の黒曜石について

「 $\Pi$  – 3 –(4)黒曜石」(32頁)で述べたように、米原 4 遺跡の黒曜石製遺物828点について、肉眼で観察できる特徴から、A~D・G・I・Z の 7 つに分類し、さらに原石面の形状で細分した。過年度に原材産地分析された試料の肉眼観察等から、A・B には白滝産または十勝産、C・G には白滝産、D には赤井川産が多く含まれていると推測される。I は A~D・G に当てはまらず、Z は被熱のため観察できないものである。以下ではその結果について述べる。

### (1) 各黒曜石の比率の変化

分類の目的の1つめは、どのような特徴をもつ黒曜石が本遺跡では多いのか、また包含層の上下で 分類したそれぞれの黒曜石の点数・比率に変化がみられるのかを確かめることである。

表 $\Pi-4-1\cdot 2$  は分類ごとの点数と比率(%)を示したものである。比較的点数の多い V 層下位と中位の  $A\cdot D$  を比べると、A は下位で50%(226点)、中位で40%弱(84点)、D は下位で40%弱(172点)、中位で60%弱(131点)を占め、両者の比率に変化がみられる。点数が少ないため実態を反映しているとは言えないが、「V 層の下位と中位では A と D の黒曜石が主に用いられている」ととらえることは可能である。 V 層の中・下位では、縄文時代早期後半~後期初頭の土器等が出土しており、それらの時期における黒曜石の使用傾向とみてよいであろう。

 $B \cdot C \cdot G$  は点数が少なくあまり変化がない。但し、B の赤みがからない部分は A に分類された可能性が高い。

### (2) 原材産地分析

分類の目的の2つめは、大部分の黒曜石(A や D 等)とは異なる特徴があるものについて、原材産地分析を依頼することである。その結果、従来知られていなかった黒曜石が見つかることも有り得る。

Iとした黒曜石(暗い灰色地に黒色の流紋がみられるもの)は  $A \sim D \cdot G$  の分類に当てはまらず、なおかつ 1 点のみであったため、小規模産地の可能性もあると考え原材産地分析を依頼した(VI - 3参照)。判定は小規模産地ではなく十勝産であったが、I のような十勝産もあるとされたことは、今後遺物の観察を行う上で注意されよう。

なお、千歳市キウス4遺跡(北埋調報180)の黒曜石原材産地分析では、「きめ細かい梨肌」(本遺跡ではCに分類される)が十勝産と判定されており、本遺跡での分析例も含め、十勝産には多種多様な特徴が観察されるようである。

### (3) 原石面の形状

分類の目的の3つめは、角礫や円礫といった原石面の形状から、黒曜石原石がどのような地点で採取されたのか(露頭付近なのか、或いは沢や河川中からなのか等)検討する材料を得ることである。

例えば平成12年度の米原 3 遺跡、米原 4 遺跡、宮戸 3 遺跡(北埋調報153)では、赤井川産と判定された黒曜石のうち、角礫の面がみられるものは14点(角礫? 2 点も含む)、円礫の面がみられるものは1 点ある(表 $\Pi-4-3$ )。両者は原石面の形状の違いから異なる地点で採取されたと考えられる。また、円礫の赤井川産は出土例が少ないことから、この黒曜石の分布を把握していくことで、黒曜石流通経路の一端を知り得る可能性もあるとされている(藁科2000)。但し、今年度分類した中では、赤井川産主体の可能性がある D の中に、円礫の原石面をもつ Da はみられなかった(表 $\Pi-4-1$ )。

(山中)

表 〒 - 4 - 1 黒曜石分類集計(点数)

黒曜石分類		Ⅲ層		V層		W E	Z 0 44	計	
<b>赤唯仁</b>	刀块	<b>业</b> /	上位	中位	下位	VI層	その他	βľ	
	A a				2		1	3	
•	A b		1	5	13	1	1	21	
Α	A c	1		2	3			6	
1	A d	8	18	77	208	19	7	337	
	A計	9	19	84	226	20	9	367	
	Ва				1			1	
	Вb				1			1	
В	Вс			1				1	
	Вd	1	-	13	30		3	47	
	B計	1		14	32		3	50	
С	Cd			1	1			2	
	DЬ	1	11	40	39	4	1	96	
D	Dc				4			4	
	Dd	3	25	91	129	16	19	283	
	D計	4	36	131	172	20	20	383	
G	Gd			1	3			4	
I	Ιd				1		-	1	
Z	Ζd		2	5	13	1		21	
合	計	14	57	236	448	41	32	828	

表Ⅲ-4-2 黒曜石分類集計(各層中での%)

黒曜石分類	Ⅲ層		V層	VID	その他		
二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	皿/宿	上位	中位	下位	VI層	ての他	
Α	64. 2	33. 4	35. 5	50. 4	48.7	28. 1	
В	7. 1		5. 9	7. 1		9. 4	
С			0.4	0. 2			
D	28. 5	63. 2	55. 5	38. 4	48.8	62.5	
G			0.4	0. 7			
l				0. 2			
Z		3. 5	2. 1	2. 9	2.4		

表 WI - 4 - 3 米原 3・宮戸 3・米原 4 遺跡の黒曜石原材産地分析結果 (H12年度)

遺跡名	時期	十 勝			赤井川			赤石山	K 19遺物群	
退邺石	<b>叶</b> 积	円礫	角礫	なし	円礫	角礫	なし	なし	なし	合 計
米原 3	縄文早期					1				1
"	縄文前期					1	1			2
"	縄文中期	1				1	1			3
"	縄文後期			1		1				2
"	縄文晩期?						1			1
"	縄文				1			1		2
宮戸 3	縄文早期		1	1						2
"	縄文前期	1		1						2
"	縄文中期?					1		1		2
米原4	縄文早期	1						1		2
"	縄文前期					1	1			2
"	縄文中期	2		1		7		1	1	12
II .	縄文後期					1				1
合	計	5	1	4	1	14	4	4	1	34

<sup>\*</sup>円礫?は円礫に、角礫?は角礫に加えた。 \*\*「なし」は原石面なしを表す。

# 写 真 図 版

米原 4 遺跡 図版 1 ~11

宮戸4遺跡 S地点 図版12~38

宮戸4遺跡 水田部分 図版39~47



1 遺跡遠景(南から)



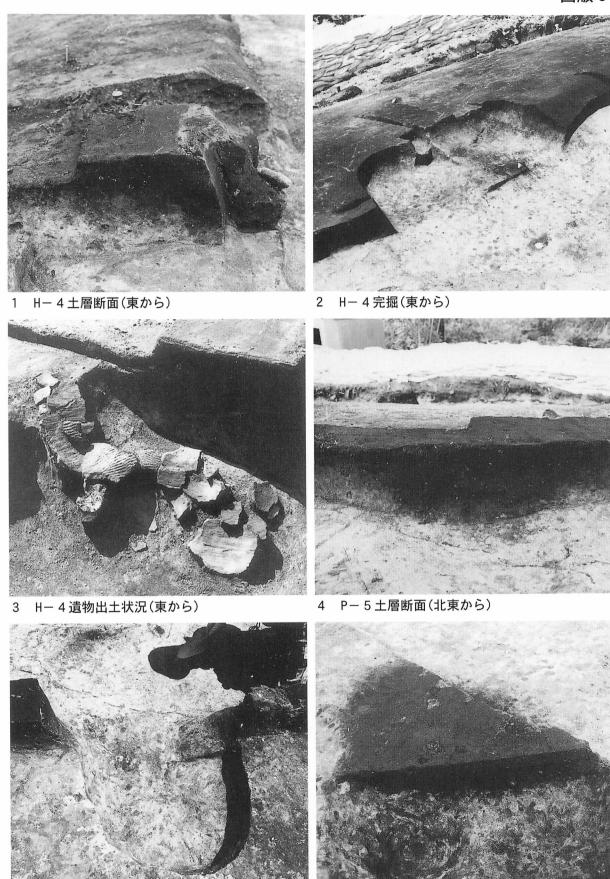
2 B地区町道米原11線北東側調査区(東から)



1 B地区周縁部(南から)

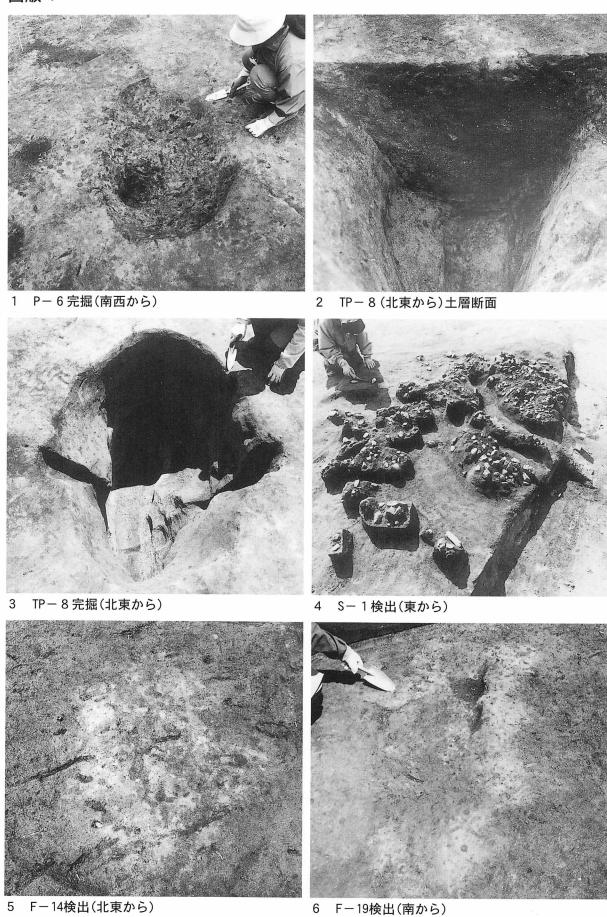


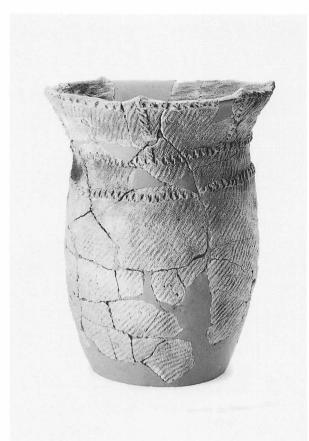
2 B地区周縁部(南から)

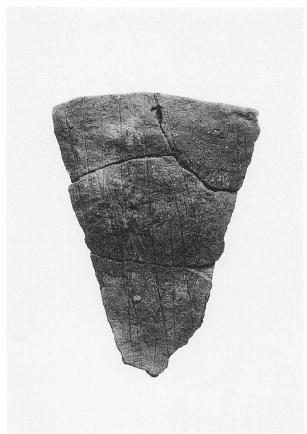


5 P-5完掘(南から)

6 P-6土層断面(南西から)







1 H-4出土の復元土器(図Ⅳ-1-2-1) 2 H-4出土の土器

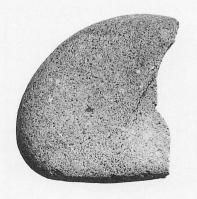


3 H-4出土の石器



4 S-2出土の土器

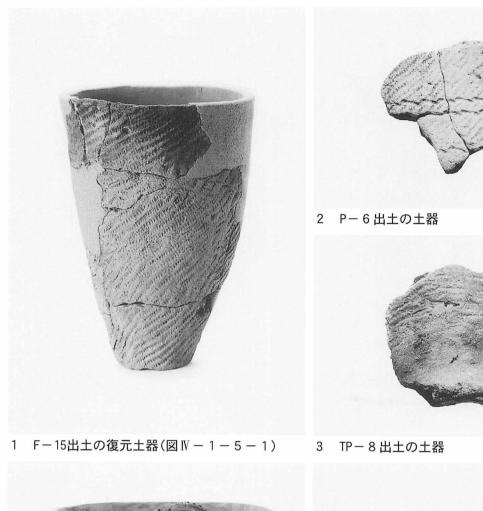






5 S-2出土の石器

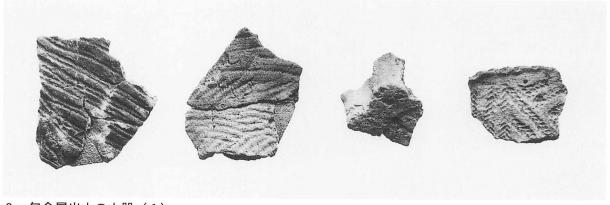
6 F-20出土の土器



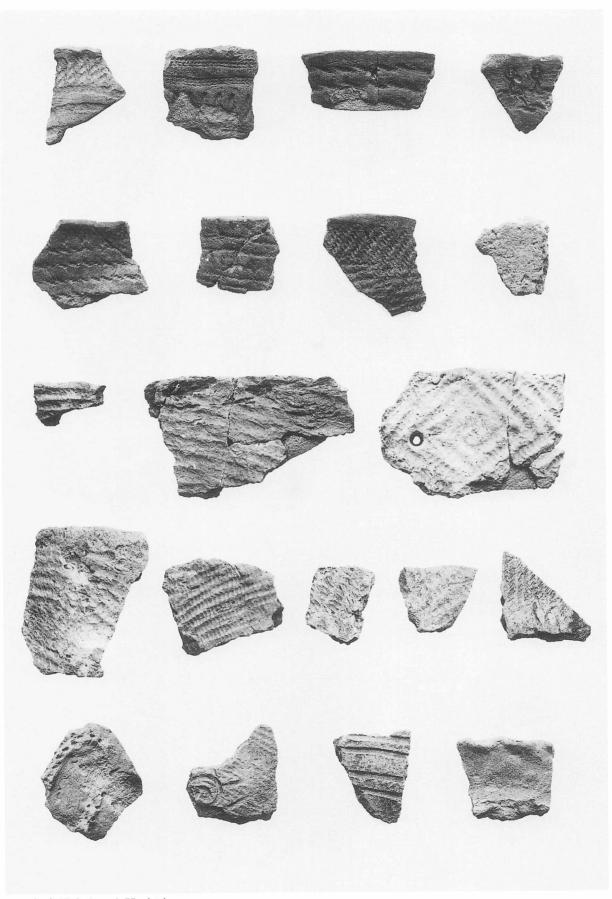


4 包含層出土の復元土器(図 № - 2 - 4 - 1) 5 包含層出土の復元土器(図 № - 2 - 4 - 2)

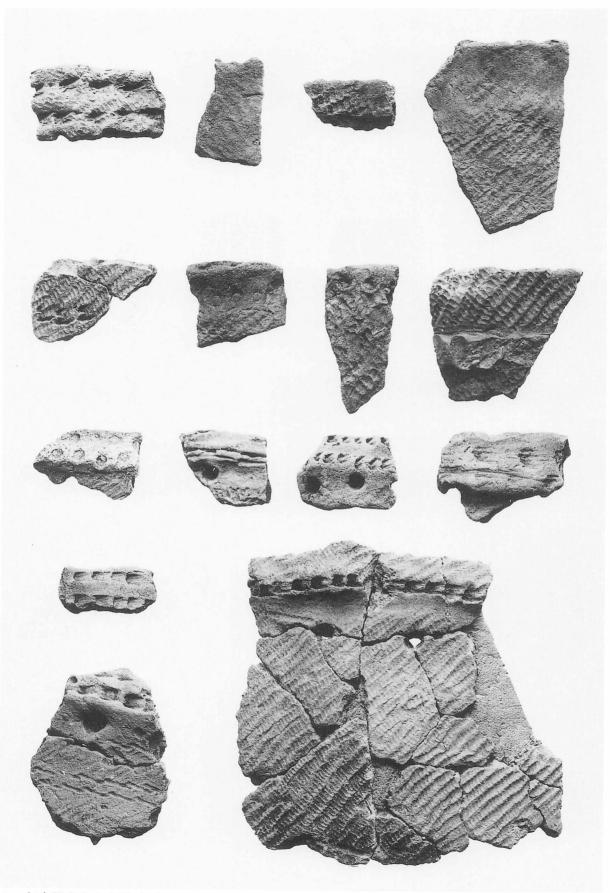




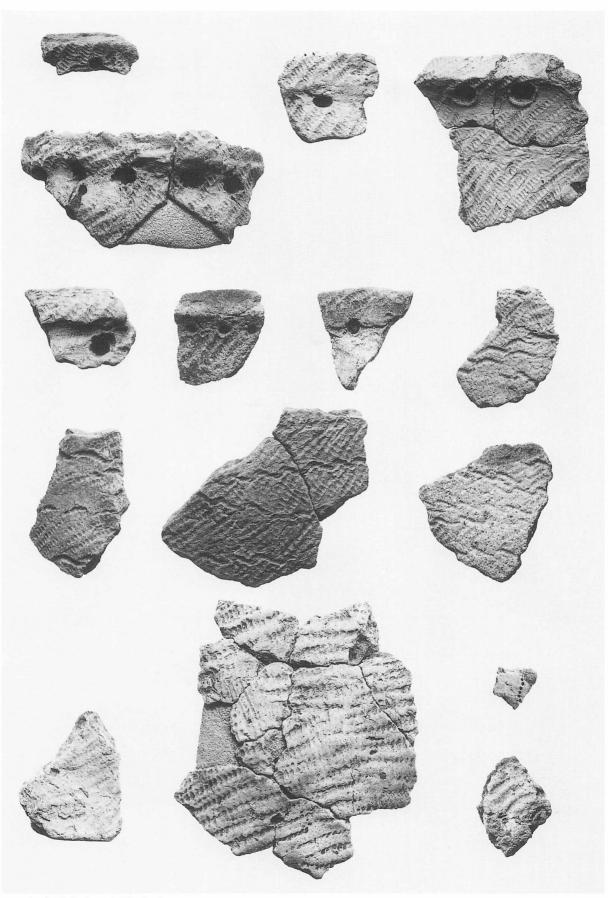
6 包含層出土の土器 (1)



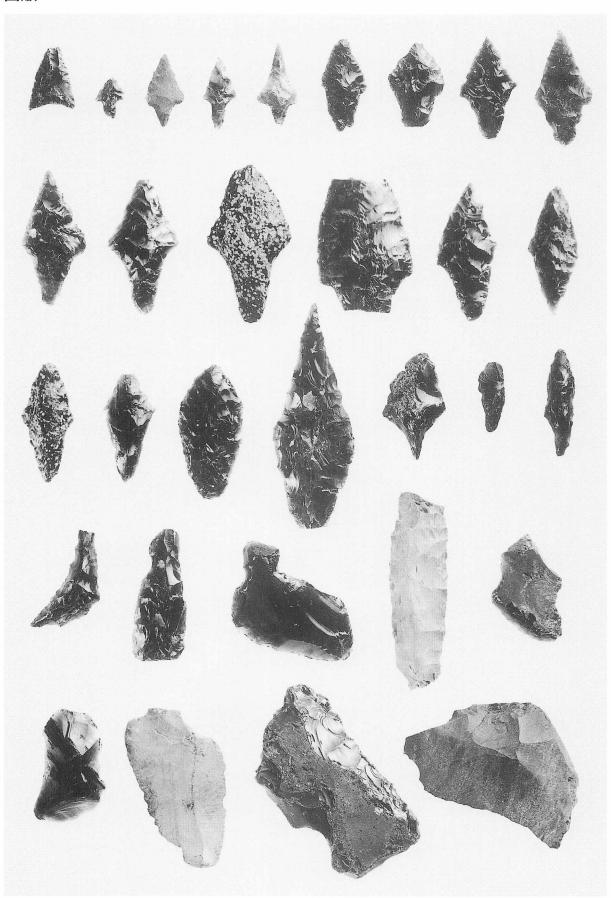
包含層出土の土器 (2)

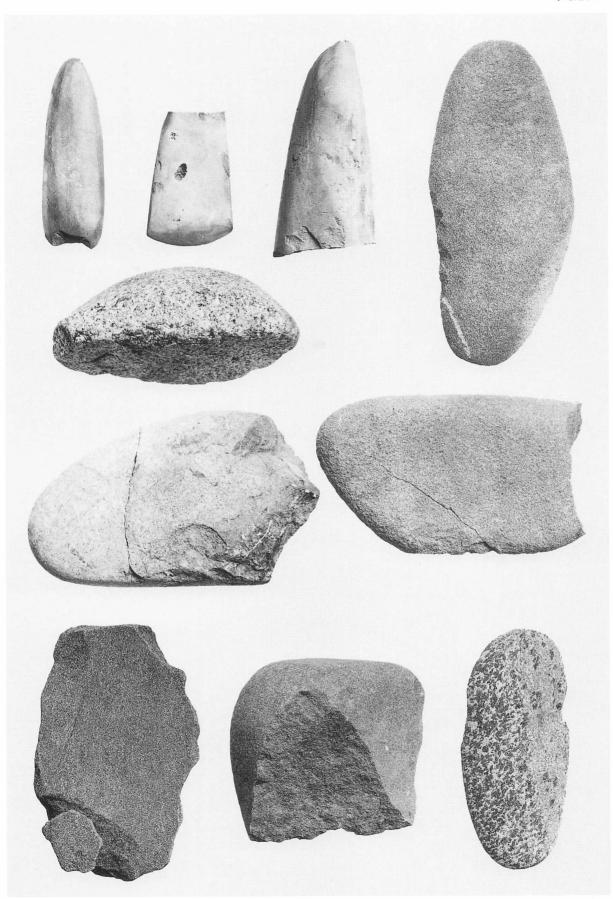


1 包含層出土の土器(3)



包含層出土の土器 (4)

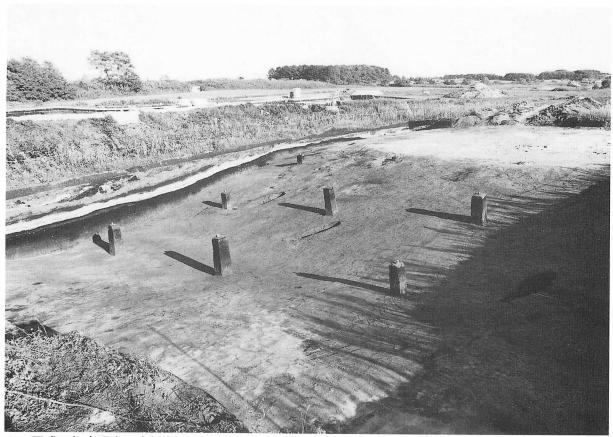




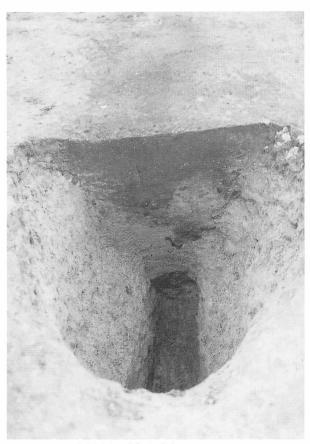
包含層出土の石器 (2)



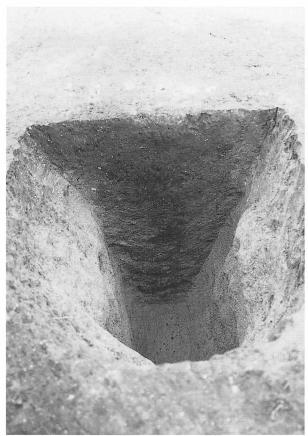
1 平成12年度調査風景(南西から)



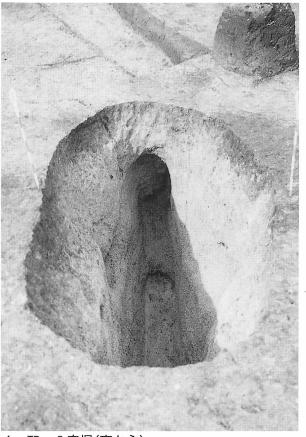
2 平成12年度調査区完掘(南西から)



1 TP-1土層断面(南から)

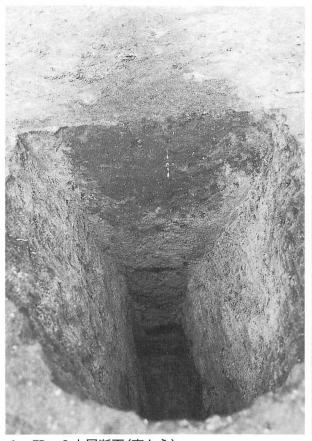


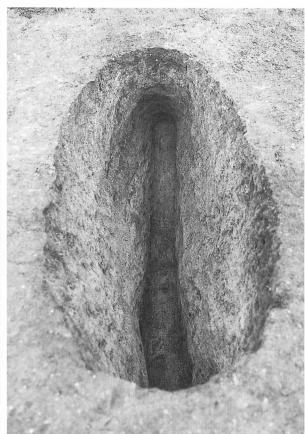
2 TP-1完掘(南から)



3 TP-2土層断面(南から)

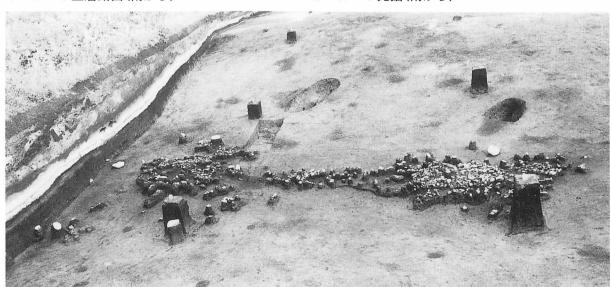
4 TP-2完掘(南から)





1 TP-3土層断面(南から)

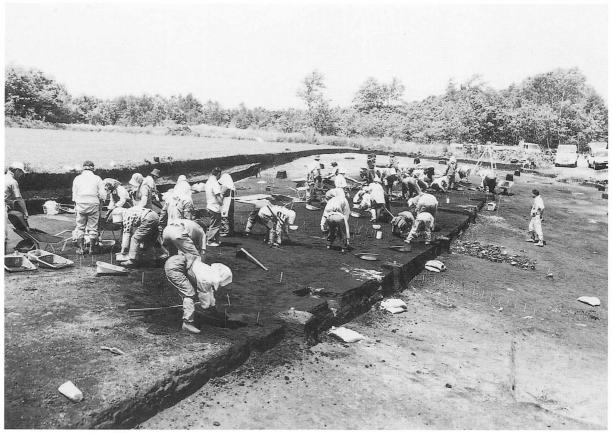
2 TP-3 完掘(南から)



3 S-1検出(西から)



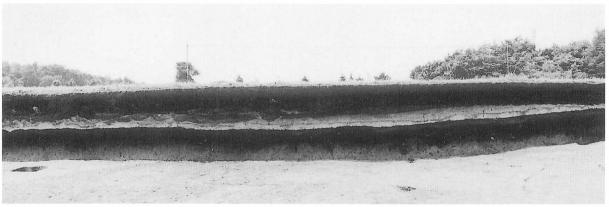
1 全景(南から)



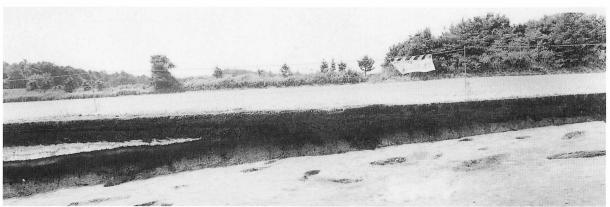
2 調査風景(東から)



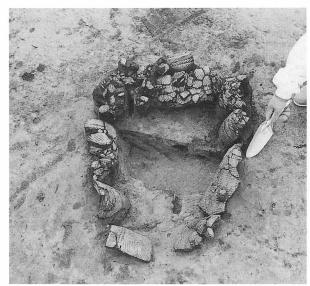
1 全景(南東から)



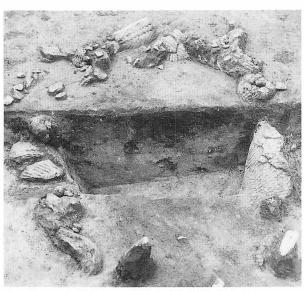
2 南西側土層断面(1)(北東から)



3 南西側土層断面(2)(北東から)



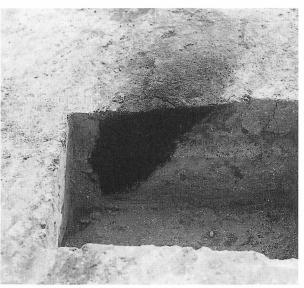
1 H-2土器片囲い炉(南から)



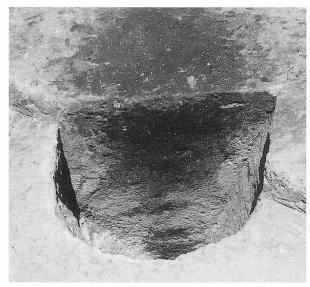
2 H-2土器片囲い炉土層断面(南東から)



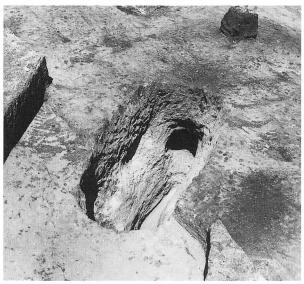
3 H-2HP-1土層断面(北東から)



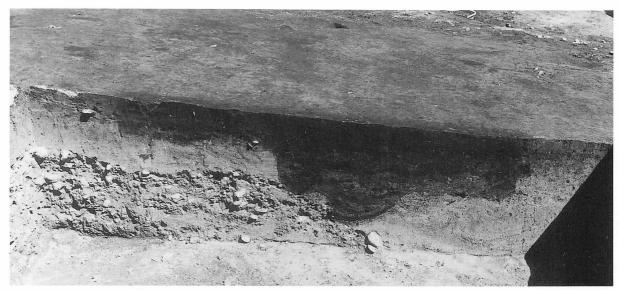
4 H-2HP-3土層断面(北東から)



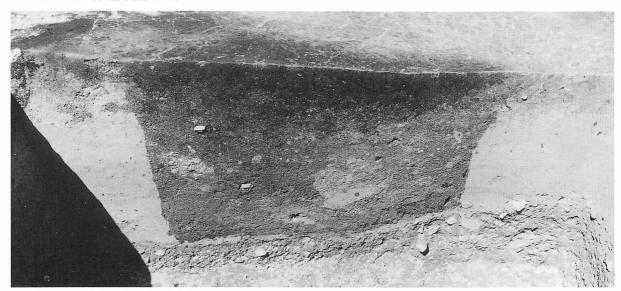
5 TP-4土層断面(南西から)



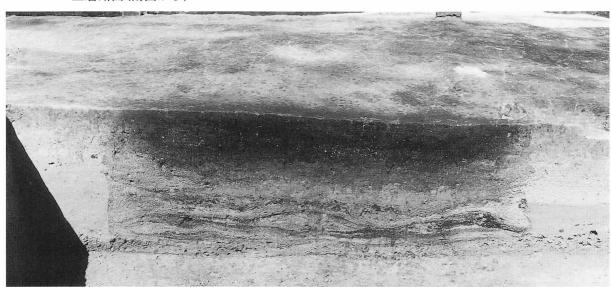
6 TP-4完掘(南から)



1 TP-19土層断面(南から)



2 TP-20土層断面(南西から)



3 TP-21土層断面(南西から)



1 TP-19完掘(西から)



TP-21完掘(北西から)

2 TP-20完掘(北西から)

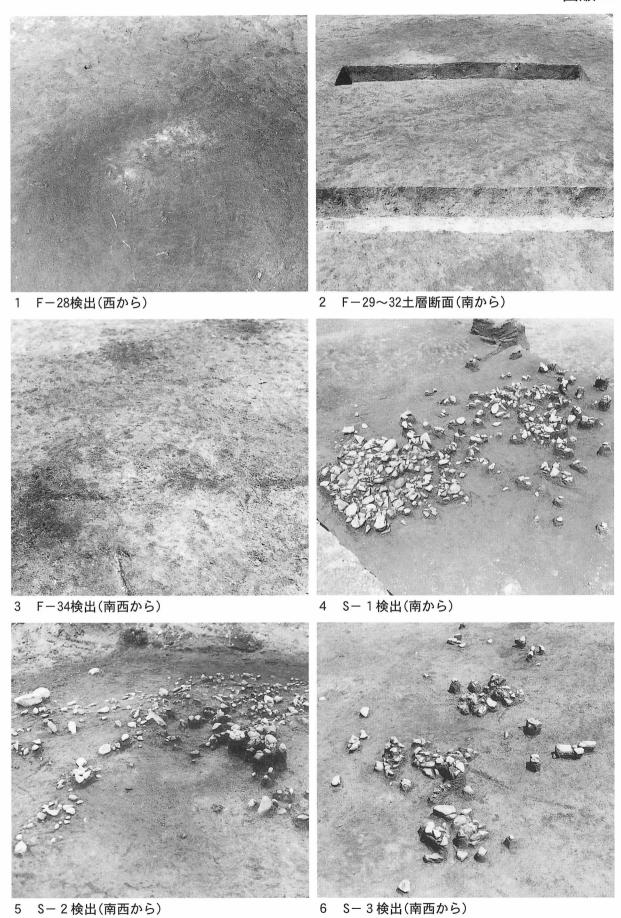


4 TP-21検出(北西から)



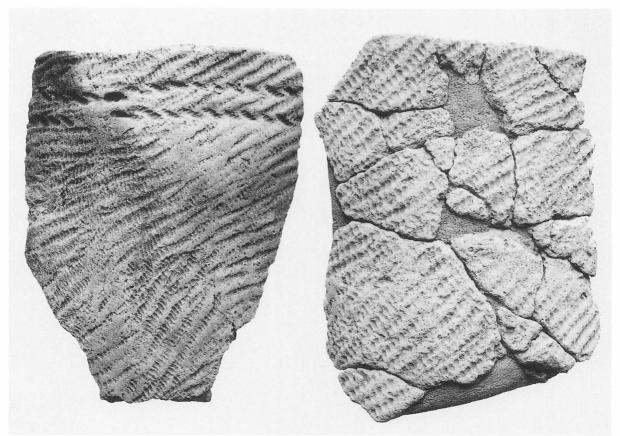
5 TP-24土層断面(西から)

6 TP-24完掘(南から)

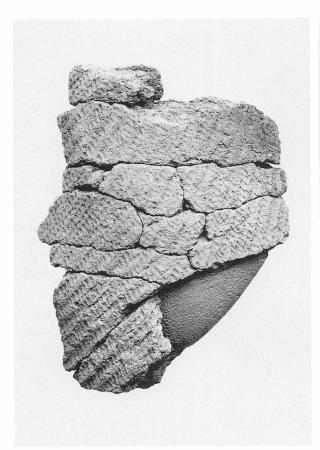


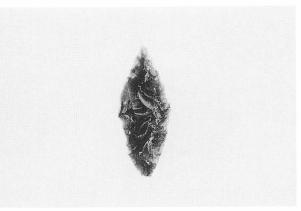






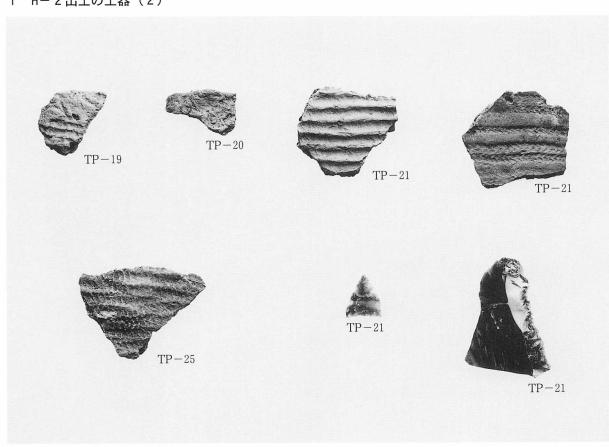
3 H-2出土の土器 (1)



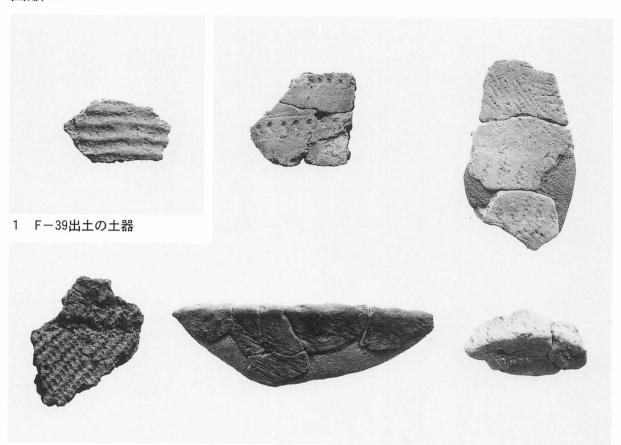


2 H-2出土の石器

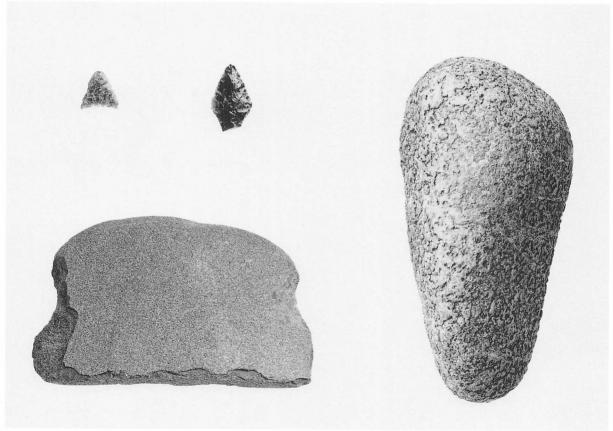
1 H-2出土の土器(2)



3 Tピット出土の遺物



2 S-1出土の土器



3 S-1出土の石器



包含層出土の復元土器(図 V - 2 - 3 - 1)



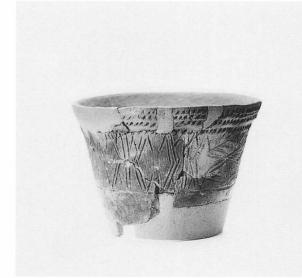
2 包含層出土の復元土器(図 V - 2 - 3 - 2)



3 包含層出土の復元土器(図 V - 2 - 3 - 3)

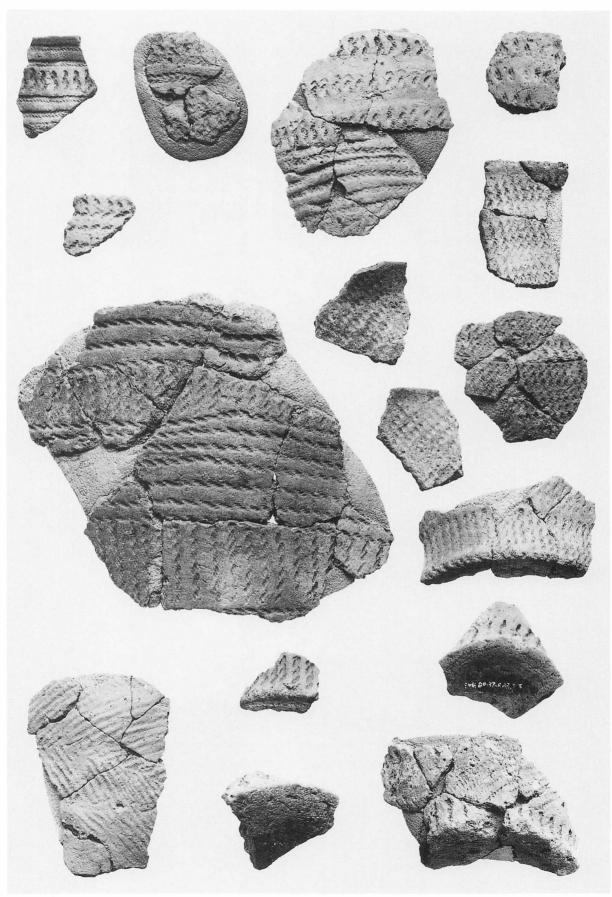


4 包含層出土の復元土器(図V-2-3-4)

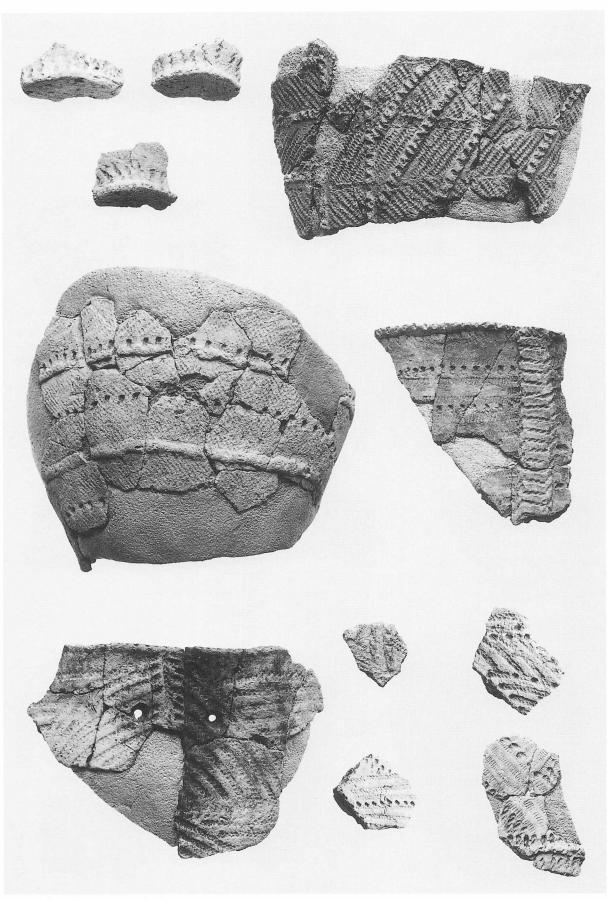


5 包含層出土の復元土器(図 V - 2 - 3 - 5) 6 包含層出土の復元土器(図 V - 2 - 3 - 6)

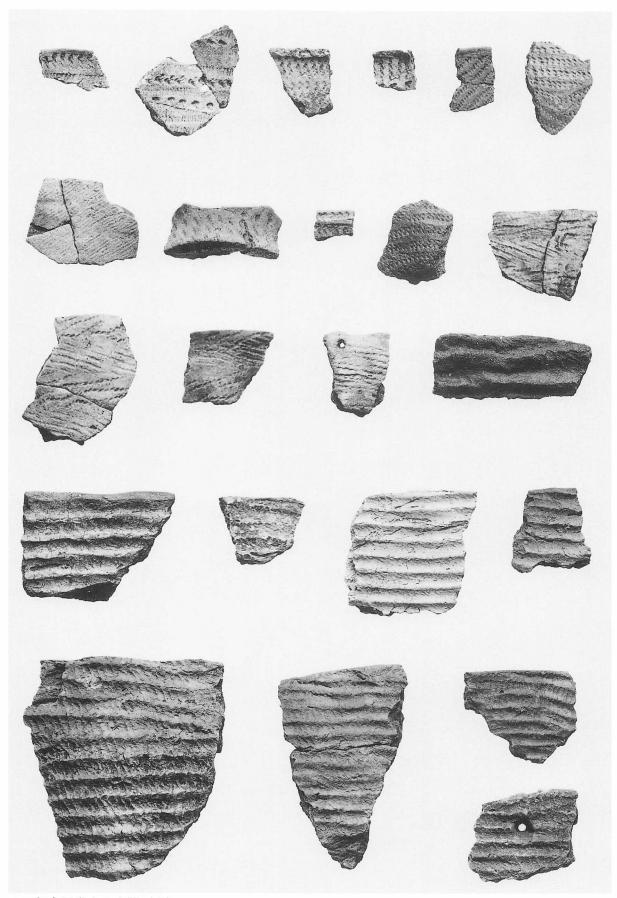




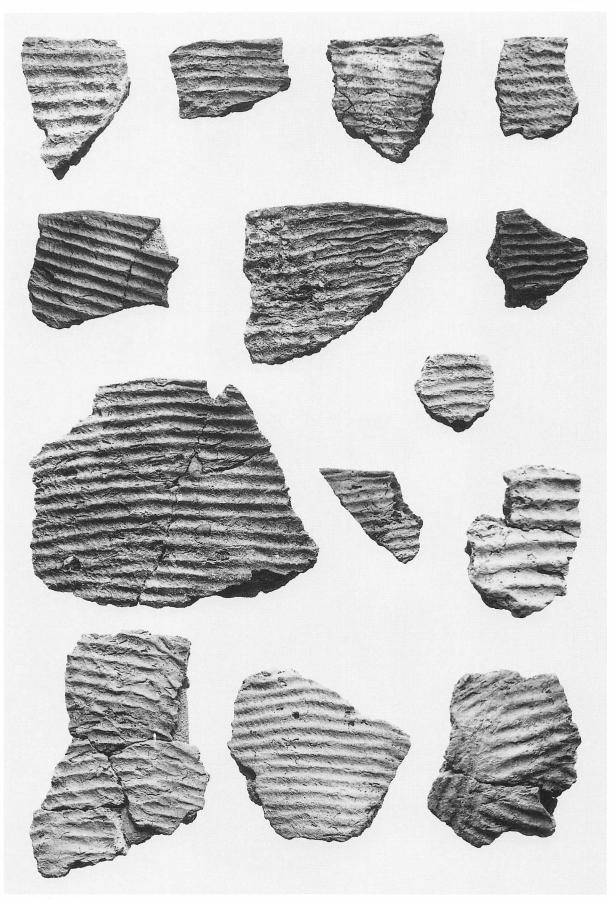
1 包含層出土の土器 (1)



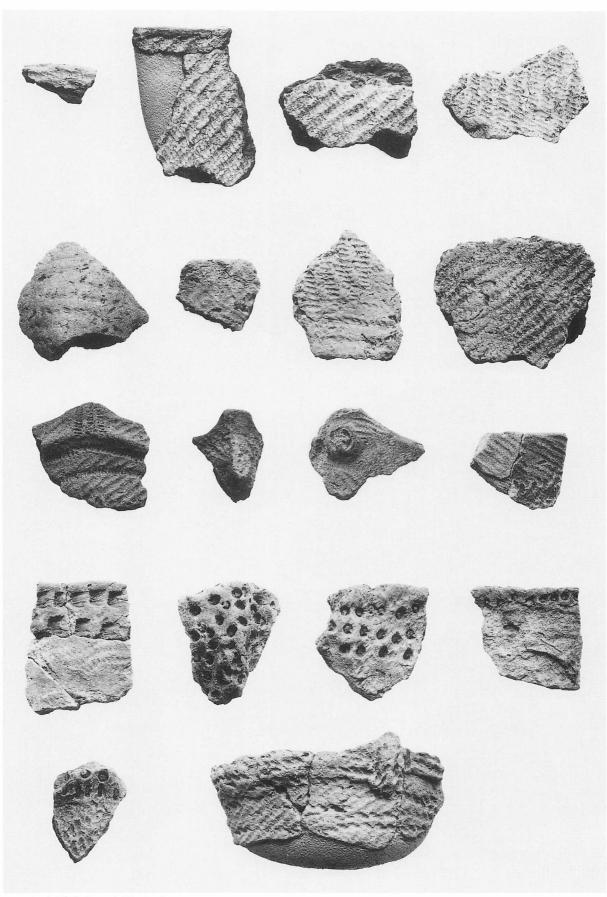
1 包含層出土の土器(2)



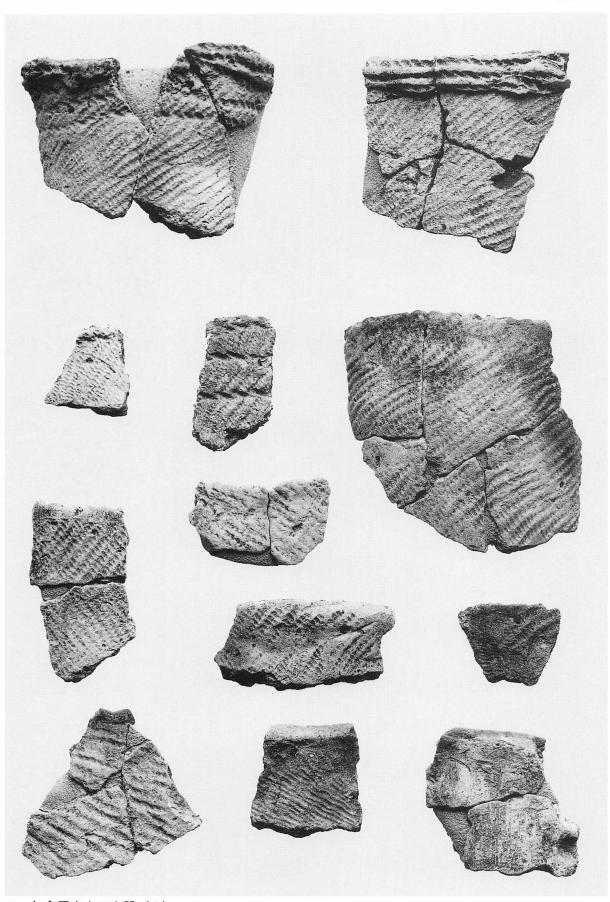
包含層出土の土器 (3)



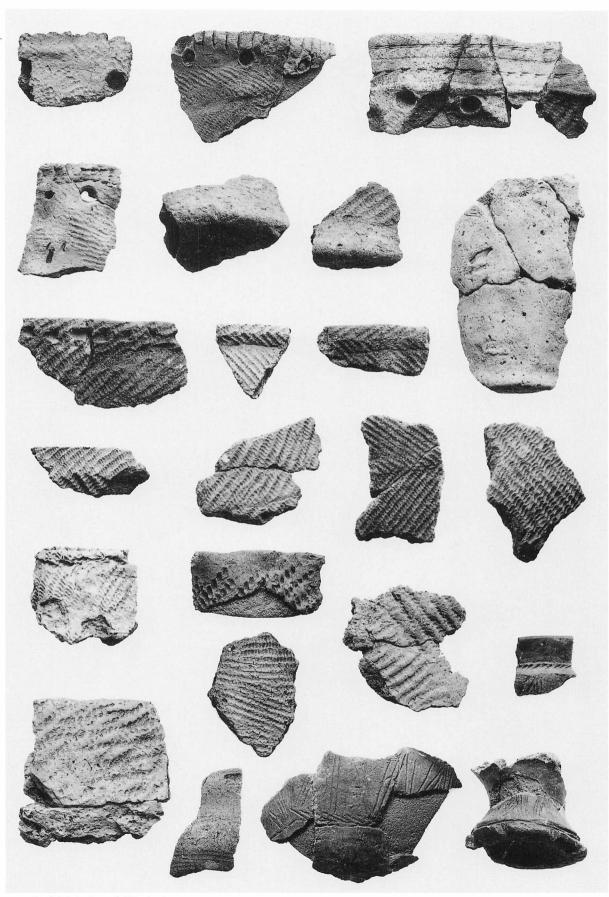
包含層出土の土器 (4)



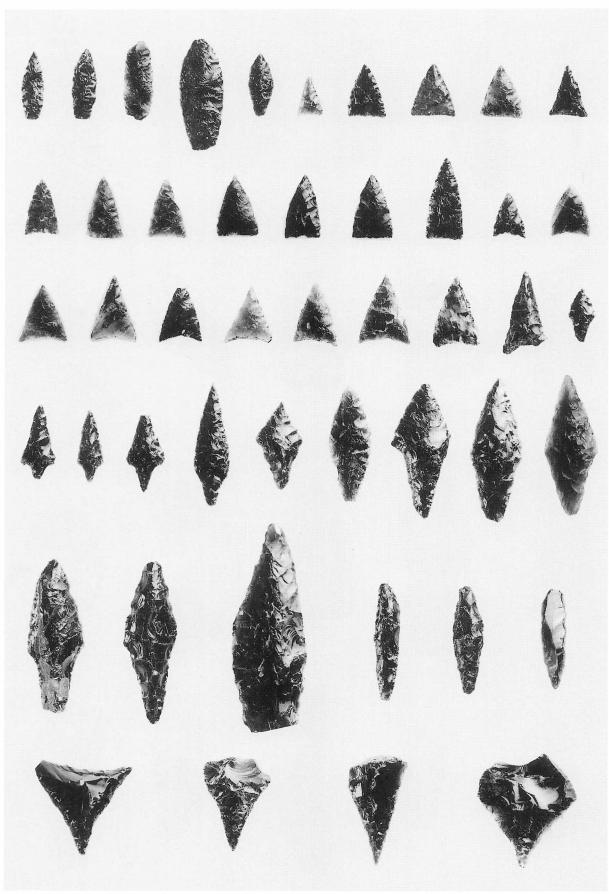
1 包含層出土の土器(5)



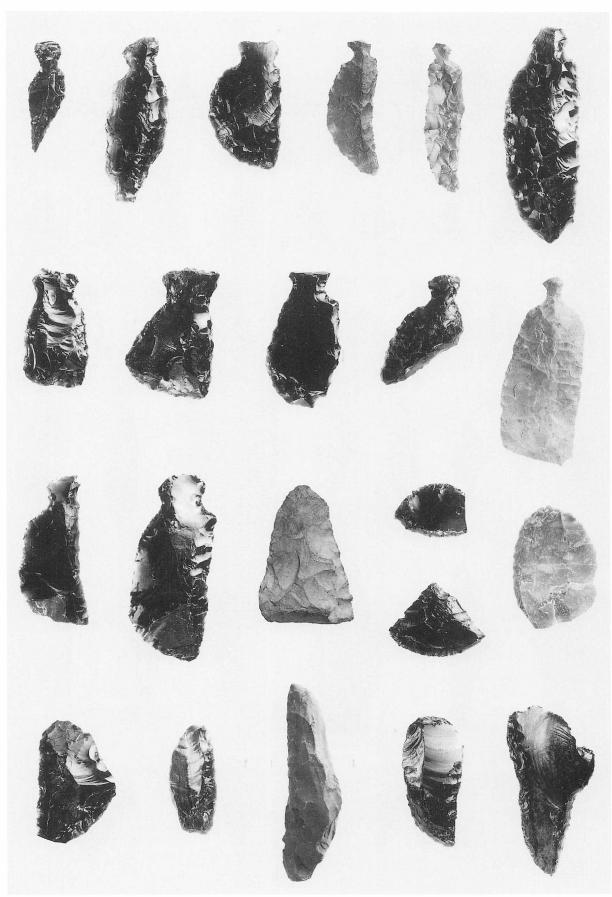
包含層出土の土器 (6)



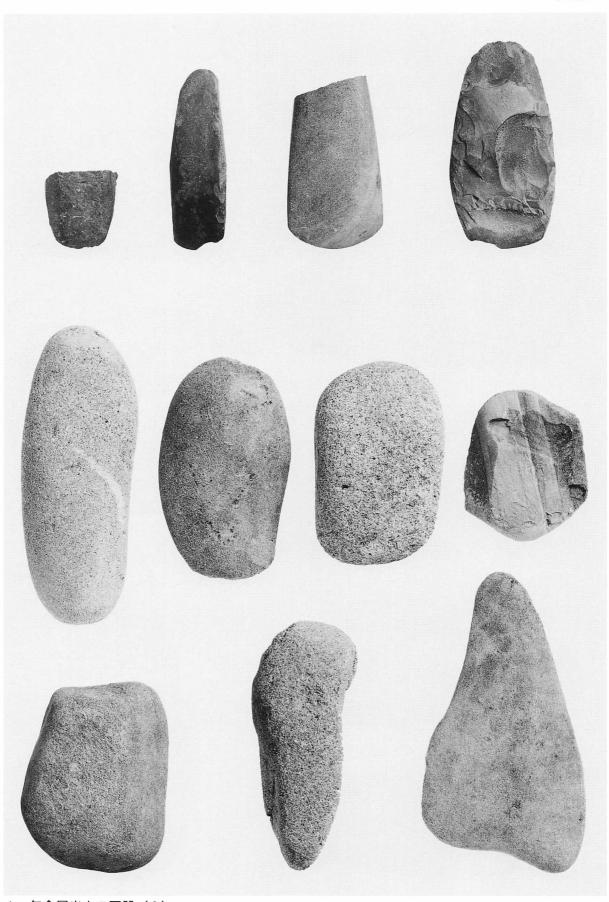
包含層出土の土器 (7)



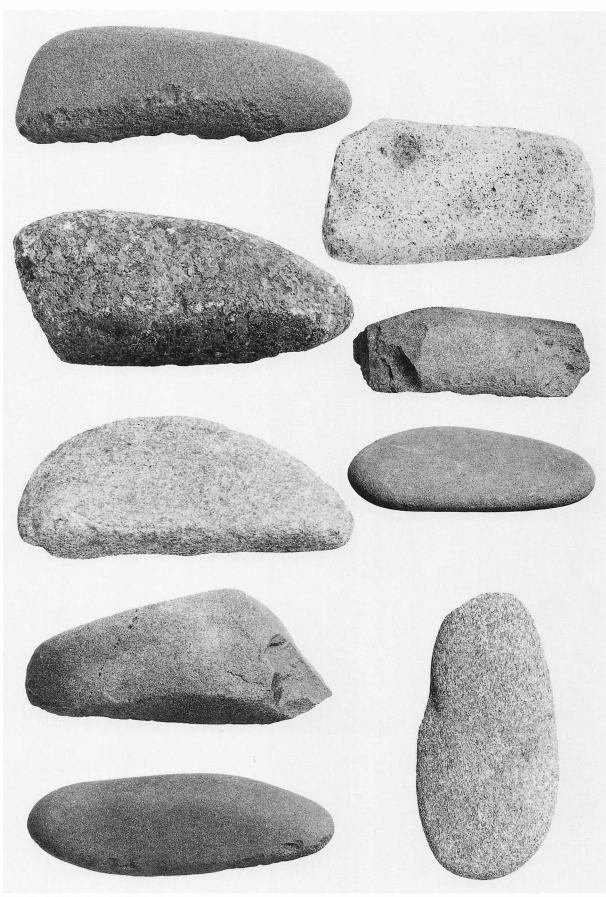
1 包含層出土の石器(1)



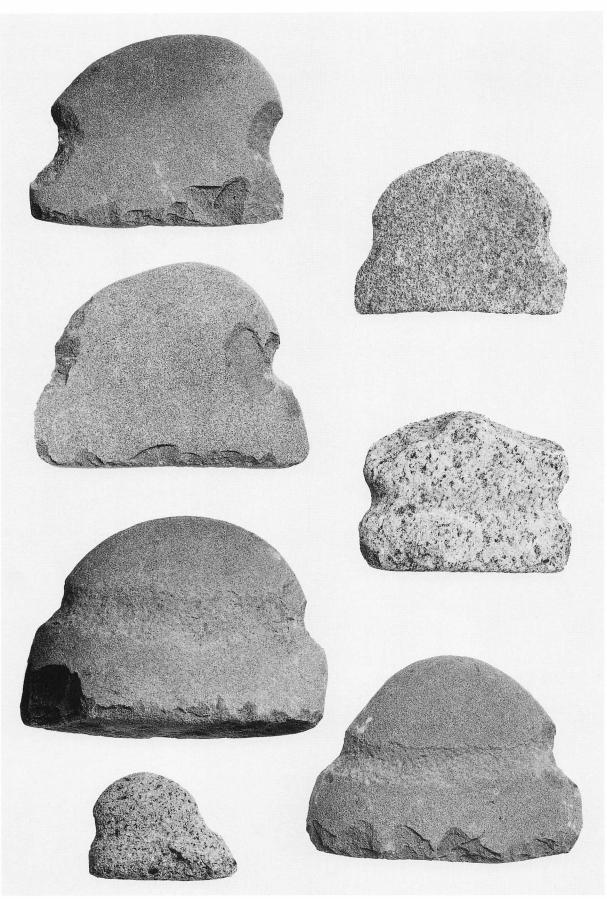
包含層出土の石器(2)



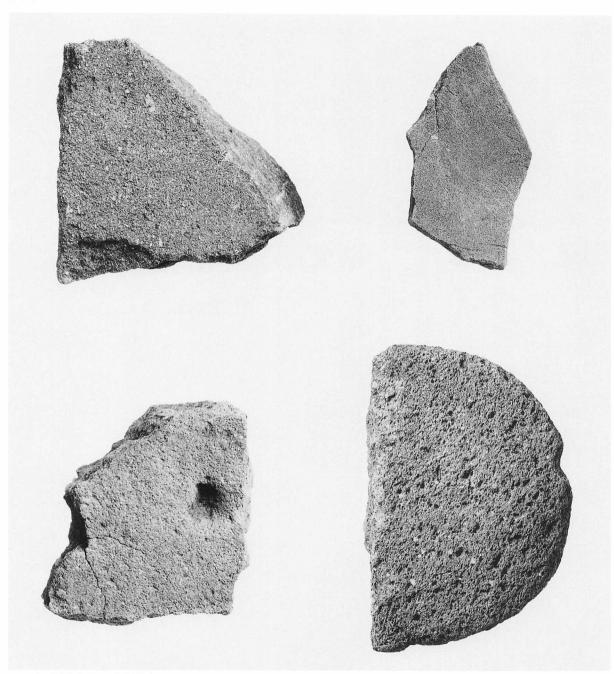
包含層出土の石器 (3)



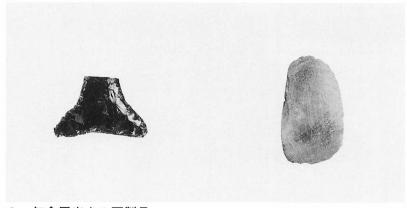
包含層出土の石器 (4)



1 包含層出土の石器(5)



1 包含層出土の石器(6)



2 包含層出土の石製品



1 調査風景(西から)



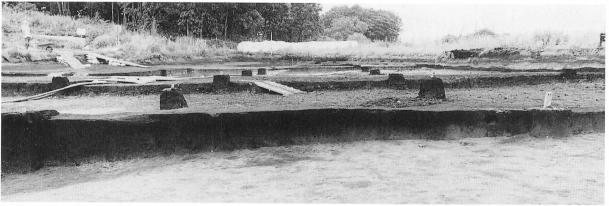
2 調査風景(南東から)



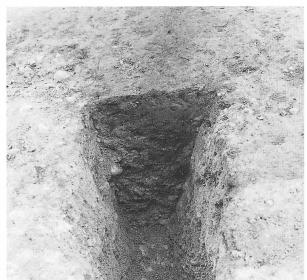
1 調査風景(南西から)

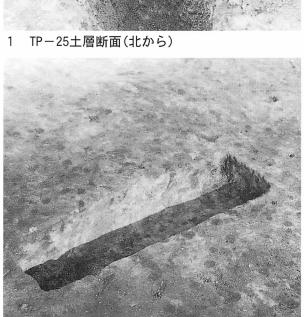


2 9 ライン土層断面(1)(南から)



3 9 ライン土層断面(2)(南から)

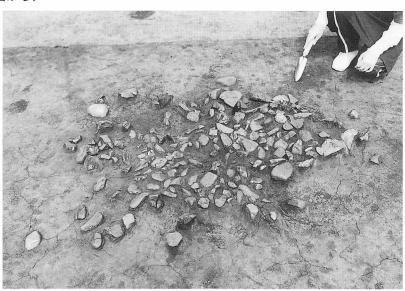




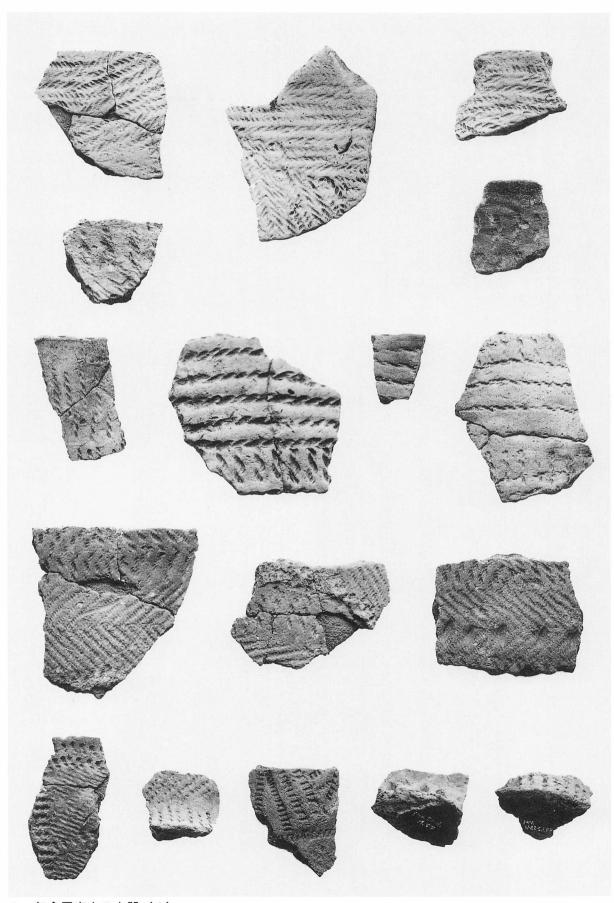
3 F-44検出(西から)



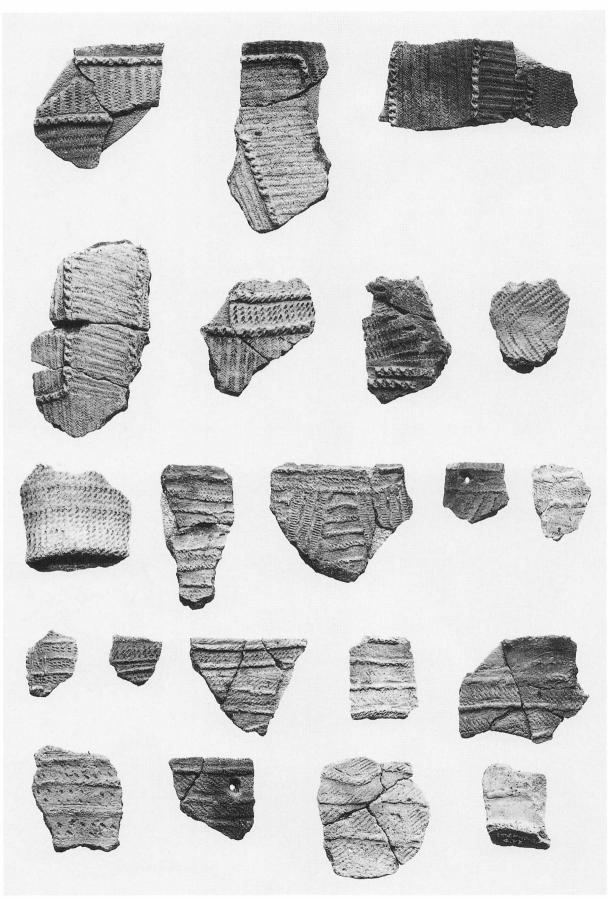
2 TP-25完掘(北から)



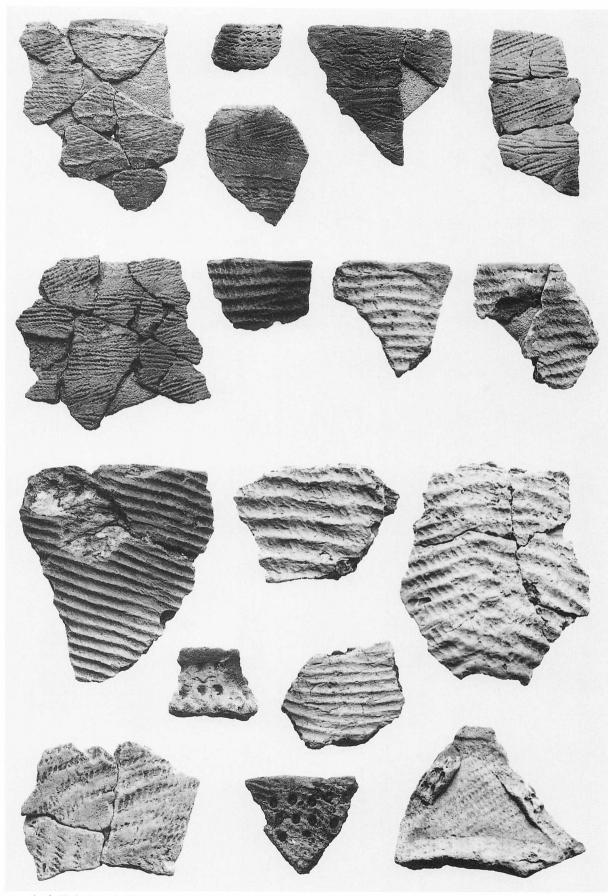
4 S-4検出(東から)



包含層出土の土器 (1)



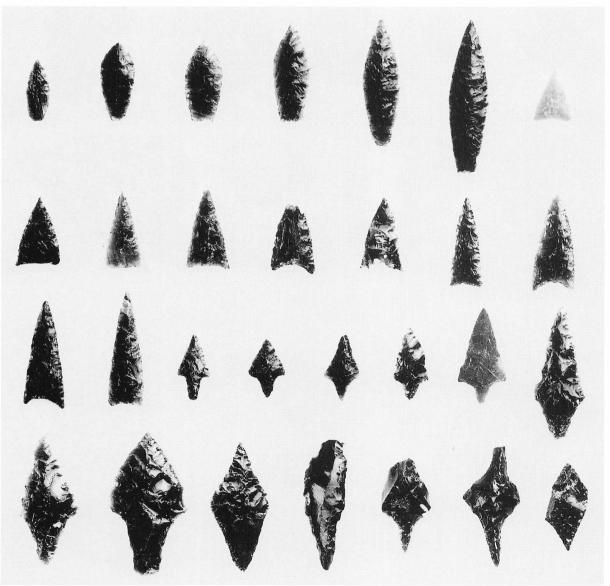
包含層出土の土器 (2)



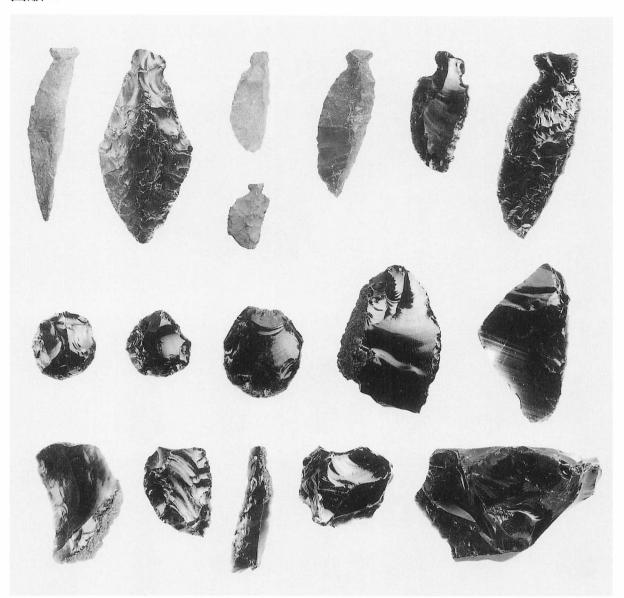
包含層出土の土器 (3)



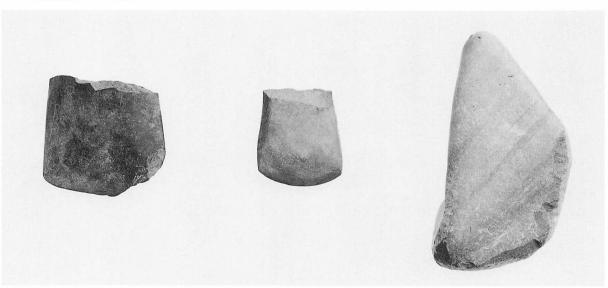
1 包含層出土の土器(4)



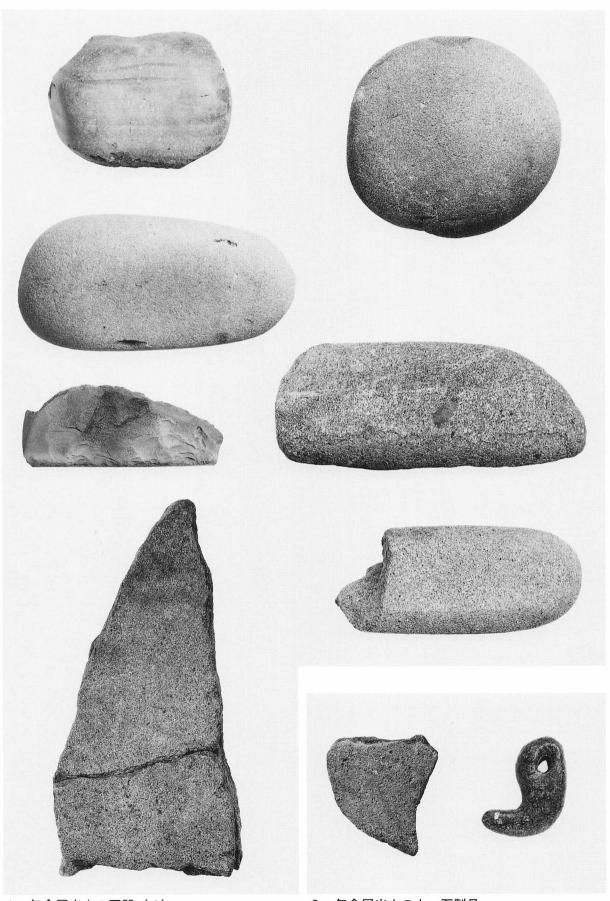
2 包含層出土の石器(1)



1 包含層出土の石器(2)



2 包含層出土の石器 (3)



包含層出土の石器 (4)

2 包含層出土の土・石製品

### 引用・参考文献

2002 『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群 W』 苫小牧市教育委員会 赤石慎三 赤石慎三・中岡利泰 2000 『油駒遺跡』えりも町教育委員会 1961 「鵡川流域の遺跡遺物について」『北海道地方史研究』43号 稲葉勝男 上屋純一・佐藤幾子 1998 『カリンバ2遺跡第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ地点』 2000 『南の里2遺跡・南の里14遺跡・南の里15遺跡』北広島市教育 遠藤龍畝 委員会 1952 「北海道の鹿とその興亡」『北方文化研究報告』 7 犬養哲夫 1983 「陥穴 (おとし穴)」『縄文文化の研究 2 生業』雄山閣 今村啓爾 宇田川洋 1988 『アイヌ文化成立史』北海道出版企画センター 1987 「第2節 遺構の分類 落し穴」 『苫小牧東部工業地帯の遺跡群 大泉博嗣 Ⅱ』苫小牧市教育委員会 扇谷昌康 1977 『鵡川町遺跡分布調査報告書』鵡川町教育委員会 扇谷昌康 1979 『日高門別の先史遺跡』門別町教育委員会 扇谷昌康・島田健一 1988 『沙流郡のアイヌ語地名 I』 門別町郷土史研究会 1982 『札内台地の縄文時代集落址』登別市教育委員会 大島直行・瀬川拓郎 2002 「切り合うTピット」『北海道考古学』38 大泰司統 大沼忠春 1981 「北海道中央部における縄文時代中期から後期初頭の編年につ いて」『考古学雑誌』66-4 1989 「北筒式土器様式」『縄文土器大観』 1 小学館 大沼忠春 大場利夫・扇谷昌康 1964 「勇払郡鵡川遺跡」『北方文化研究報告』19 大橋 毅・西澤千鶴ほか 2000 『芽室町 小林遺跡-第5次発掘調査報告書-』芽室町教育委員会 川内 基 1995 『西舎6遺跡発掘調査概要報告書』浦河町教育委員会 1995 『ペサウンコツ遺跡Ⅱ』門別町教育委員会 川内谷修 川内谷修 1998 『シノタイⅡ遺跡』門別町教育委員会 工藤肇・兵藤千秋ほか 2002 『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群 IX』 苫小牧市教育委員会 1999 「北海道式石冠の分布とその意義」『北海道考古学』35 小島朋夏 小山正忠・竹原秀雄 1997 『新版標準土色帖1997年度版』 関北海道埋蔵文化財センター 1985 『ユオイチャシ遺跡・ポロモイチャシ遺跡・二風谷遺跡』北埋調報26 関北海道埋蔵文化財センター 1987 『千歳市 ママチ遺跡Ⅲ』北埋調報36 と関北海道埋蔵文化財センター 1988 『ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅱ』北埋調報44 関北海道埋蔵文化財センター 1990 『余市町 栄町5遺跡』北埋調報66 関北海道埋蔵文化財センター 1994 『千歳市 オサツトー1遺跡・キウス7遺跡』北埋調報90 関北海道埋蔵文化財センター 1995a『ペンケナイ川流域の遺跡群Ⅲ』北埋調報95 関北海道埋蔵文化財センター 1995b『千歳市 オサツ2遺跡(1)・オサツ14遺跡』北埋調報96 関北海道埋蔵文化財センター 1996 『千歳市 キウス7遺跡(3)』北埋調報105 (財)北海道埋蔵文化財センター 1998a『千歳市 キウス5遺跡(6)B地区・C地区』北埋調報126 関)北海道埋蔵文化財センター 1998b『千歳市 キウス7遺跡(5)』北埋調報127

関北海道埋蔵文化財センター 1998c『恵庭市 ユカンボシ E10遺跡』北埋調報129

(財)北海道埋蔵文化財センター	1999a	『千歳市 ユカンボシE7遺跡』北埋調報132
(財)北海道埋蔵文化財センター	1999b	『千歳市 ユカンボシ C15遺跡(2)』北埋調報133
(財)北海道埋蔵文化財センター	2001a	『千歳市 キウス4遺跡(7)Q 地区』北埋調報152
(財)北海道埋蔵文化財センター	2001b	『鵡川町 米原3遺跡・宮戸3遺跡・米原4遺跡』北埋調報153
(財)北海道埋蔵文化財センター	2001c	『千歳市 キウス4遺跡(8)F 地区・G 地区』北埋調報157
(財)北海道埋蔵文化財センター	2002a	『鵡川町 宮戸4遺跡』北埋調報168
(財)北海道埋蔵文化財センター	2002b	『白老町 虎杖浜2遺跡(2)』北埋調報172
側北海道埋蔵文化財センター	2002c	『千歳市 チプニー1遺跡・チプニー2遺跡』北埋調報173
(財)北海道埋蔵文化財センター	2003a	『千歳市 キウス4遺跡(9)』北埋調報180
(財)北海道埋蔵文化財センター	2003b	『厚真町 浜厚真3遺跡』北埋調報186
佐々木利和編・山田秀三監修	2000	『北海道の地名-アイヌ語地名の研究- 別巻』草風館
佐藤一夫・宮夫靖夫ほか	1984	『タプコプ』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・宮夫靖夫ほか	1988	『ショップ遺跡』三石町教育委員会
佐藤一夫・宮夫靖夫ほか	1995	『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群V』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・宮夫靖夫ほか	1998	『柏原27・ニナルカ・静川5・6遺跡』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・工藤肇ほか	1986	『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅰ』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・工藤肇ほか	1987	『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅱ』 苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・工藤肇ほか	1990	『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅲ』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・工藤肇ほか	1992	『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群Ⅳ』苫小牧市教育委員会
佐藤一夫・工藤肇ほか	1997	『柏原 5 遺跡』 苫小牧市教育委員会
佐藤孝則	1983	「北海道における溝状ピットの自然科学的検討」『十勝考古』 6
佐藤孝則	1986	「動物生態学からみた溝状ピットの機能」『北海道考古学』22
佐藤宏之	2000	『北方狩猟民の民族考古学』北海道出版企画センター
更科源蔵	1966	『アイヌ語地名解-北海道地名の起源-』北書房
鈴木道之助	1991	『石器入門事典-縄文-』柏書房
高橋理・田村俊之	1990	『イヨマイ6遺跡における考古学的調査(2)』千歳市教育委員会
高橋 理	1996	「余市式土器再考」『北海道考古学』32
高橋正勝・直井孝一ほか	1982	『萩ヶ岡遺跡』江別市教育委員会
高橋正勝	1989	『高砂遺跡(5)』江別市教育委員会
竹田輝夫・大島秀俊ほか	1997	『大谷地貝塚と五十嵐鐡-余市式土器をめぐって-』小樽先史
		懇話会
田才雅彦	2001	『豊川1遺跡』厚真町教育委員会
田才雅彦・宗像公司ほか	2002	『米原 5 遺跡』鵡川町教育委員会
谷岡康孝・小柳リラコ	1996	『夕張市 十三哩遺跡・滝の上4遺跡』北海道文化財保護協会
田村俊之・高橋 理ほか	1994	『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市教育委員会
鶴丸俊明・豊原熙司	1989	『北海道平取町 イルエカシ遺跡』平取町教育委員会
鶴丸俊明・川内 基	1990	『北海道平取町 額平川2遺跡』平取町教育員会
戸刈賢二・土屋 篁	2000	『北海道の石』北海道大学図書刊行会
土肥研晶	1996	『川端遺跡・川端2遺跡』由仁町教育委員会
永田方正	1984	『初版 北海道蝦夷語地名解』復刻版 草風館

1996 「東釧路Ⅲ式」『日本土器事典』雄山閣 西 幸隆 1993 「ふたたび東釧路Ⅱ式土器について」『考古論集』潮見 浩先生 西田 茂 退官記念論文集 西田 茂 1995 「東釧路Ⅱ式土器について」『北海道考古学』31 西脇対名夫・宗像公司 2001 『鯉沼2遺跡』厚真町教育委員会 2001 『新北海道の古代1 旧石器・縄文文化』北海道新聞社 野村崇・宇田川洋編 1987 『エサンヌップ4遺跡』門別町教育委員会 長谷川徹 長谷山隆博·阿部千春 1989 『エサンヌップ2遺跡・エサンヌップ3遺跡』門別町教育委員会 2001 『北海道勇払郡鵡川町 米原3遺跡』鵡川町教育委員会 兵藤千秋 1984 『土壌調査ハンドブック改訂版』 ペドロジスト懇談会編 1991 『ショップ遺跡』三石町教育委員会 前田正憲 松浦武四郎著・高倉新一郎校訂・秋葉實解読 1985 「武加和誌 上・中・下」 『戊午東西蝦夷山川地理取調日誌 中』北海道 出版企画センター 松浦武四郎著·秋葉實解読 1988 「附録 東西蝦夷山川地理取調図編輯 川筋取 調図」 『武四郎蝦夷地紀行』北海道出版企画センター 松谷純一 1992『中島松1遺跡・南島松4遺跡・南島松3遺跡・南島松2遺跡』 恵庭市教育委員会 宮夫靖夫 1999 「東釧路式土器の分類と編年について」『苫小牧市埋蔵文化財セ ンター所報』1 2000 「苫東遺跡群における集落の様相」『苫小牧市埋蔵文化財センタ 宮夫靖夫 一所報』2 宮夫靖夫 2002 『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群 W』 苫小牧市教育委員会 宮夫靖夫・工藤肇ほか 2002a 『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群 W』 苫小牧市教育委員会 宮夫靖夫・工藤肇ほか 2002b 『苫小牧市東部工業地帯の遺跡群 X 』 苫小牧市教育委員会 鵡川町史編纂委員会 1987 『鵡川町史』鵡川町 目黒吉明 1995 「住居の炉」『縄文文化の研究8 社会・文化』雄山閣 森岡健治・長田佳宏 1999 『平取桜井遺跡』平取町教育委員会 森岡健治・長田佳宏 2002 『シリ3遺跡』平取町教育委員会 1984 「Tピット論」『北海道の研究1 考古篇 I』清文堂 森田知忠・遠藤香澄

1997 『カリンバ4遺跡』恵庭市教育委員会

1999 『カリンバ4遺跡』恵庭市教育委員会

1983 『アイヌ語地名の研究2』草風館

1992 『静川37遺跡』苫小牧市教育委員会

1972 『北海道の川の名』増補版 モレウ・ライブラリー

1999 『西舎 5 遺跡発掘調査概要報告書』浦河町教育委員会

1997 『恵庭市 ユカンボシ E10遺跡』恵庭市教育委員会

森 秀之

森 秀之

山田秀三

山田秀三

吉田正明

渡辺俊一

渡辺俊一・工藤肇ほか

# 報告書抄録

ふりがな	むかわちょう よねはらよんいせきに みやとよんいせきに												
書名	鵡川町 米原4遺跡(2)・宮戸4遺跡(2)												
副書名	日高自動車道厚真門別道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書												
巻次													
シリーズ名	シリーズ名 関北海道埋蔵文化財センター調査報告書												
シリーズ番号	号 第185集												
編著者名	皆名 遠藤香澄・鎌田 望・笠原 興・芝田直人・山中文雄												
編集機関	(財 北海道埋蔵文化財センター												
所 在 地	<b>=</b> 069−083	2 北海道江別市西野幌685-1 TEL011-386-3231											
発行年月日	西暦2003年3月26日												
ふりがな	ふ	りがな	Ξ	コード	北緯	東経	## <del>** U</del> UPP	調査面積	細木匠口				
所収遺跡名	所在地		市町村	遺跡番号	0,,,	0 / //	調査期間	$(m^2)$	調査原因				
*************************************	原4遺跡 はき 原400-5ほか おかりまっくんもかわりまた 北海道勇払郡鵡川田		01582	J-14-42	42° 33′ 43″	141° 59′ 3″	20020507~ 20020726	975	高規格道路建設				
アイ遺跡 宮戸4遺跡			01582	J-14-40	42° 33′ 56″	141° 59′ 3″	20000731~ 20000926 20020507~ 20020828	600 4, 550	に伴う事前調査				
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物			特記事項				
### 北京 4 遺跡 遺物包含地 ・前期・早期			住居跡 1 土坑 2 Tピット 1 焼土10 集石 1			縄文土器 3068点 (東釧路 II 式、東釧路 III 式、網文 式、静内中野式、円筒上層式、柏 木川式、天神式、北筒式、余市式、 タプコプ式) 石器等 4405点 (石鏃、石槍・ナイフ、石錐、つ まみ付きナイフ、スクレイパー、 石斧、たたき石、すり石、砥石、 土製品)							
所収遺跡名	所収遺跡名 種 別 主		主な遺構				主な遺物	特記事項					
から 宮戸4遺跡	遺物包含地	縄文時代早期 ・前期・後期	土器片!			縄文土器 15154点 (東釧路Ⅱ式、東釧路Ⅲ式、コッ タロ式、中茶路式、東釧路Ⅳ式、 網文式、静内中野式、円筒上層プ コプ式) 擦文土器 61点 石器等 26467点 (石鉄、石錐・ナイフ、一 電子が、石が、たたき石、 によって、北海道式石冠、低 石、乗) 土製品・石製品 6点			縄文後期前葉の 土器片囲い炉。 蛇紋岩製の勾玉。				

#### (財)北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第185集

#### 鵡川町 米原 4 遺跡(2)・宮戸 4 遺跡(2)

―日高自動車厚真門別道路工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―

平成15年3月26日発行

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター 〒069 - 0832 江別市西野幌685番地- 1 TEL(011)386 - 3231 FAX(011)386 - 3238 [E-mail]mail@domaibun. or. jp [URL]http://www.domaibun. or. jp

印 刷 株式会社北海道機関紙印刷所 〒060 - 0806 札幌市北区北6条西7丁目☎(011)716 - 6141 FAX(011)717 - 5431